

- 一、任那の日本府の起りとその滅亡につき記せ。
- 二、徳川時代に蘭學の興起とその國論に及ぼしたる影響とを記せ。
- 三、左の各項につき知る所を記せ。

- 1. 王仁
- 2. 藤原定家
- 3. 菱川師宣
- 4. 竹内式部
- 5. 聖堂

地理科

- 一、左圖(略)の鐵道名及び起點終點の地名を記入せよ。
- 二、風の發生せる原理を説き、而して海風、陸風を説明せよ。
- 三、左の事項につき記せ。

- 1. 委任統治地
- 2. 大陸性氣候
- 3. 沙州
- 4. 間歇溫泉
- 5. 子午線

算術科

- (1) $56.3 \times 47 - (14703 + 253 \times 190.8 + (95 - 83)) \div 37$ を計算せよ。
- (2) 次の方程式を解け $\sqrt{33-x} = x-3$

で除しても、7残るその数を求め且その数は100よりも小さい。

- (7) 斜邊13cm、一辺12cmなる直角三角形の面積と、一辺6cmなる正方形の面積との差を求めよ。
- (8) 底面の一辺の長さ10cm、高さ13cmなる正三角錐の體積を計算せよ。

國語科

- (一) 次の文章を解釋せよ
- しくものぞなきと昔のなにかしがいたくめてしも此の頃の月ならんとそとるに心うかれてくるよりはしちかくるてながめつゝまづに霧深くたちおほひていとくちういぶせきに山きはのやうくあかくなるは出づるなりけり霧も少しは晴れて照りもせず曇りも果てぬ眺めはさやかなる秋よりもまさりて心しれらん人に見せばやとこの月ばかりにもいはまほしうなん。
- (二) イ、次の歌の中の動詞、助動詞の活用表及び助動詞の

種類を示せ。
○夢ならばさめても見まし萩の花けふの一日は散らずやあらなむ。
ロ、次の文について文の各成分を説明せよ。
○冬枯の野に新しい芽が萌えてる。

- (一) 次の文に反點送假名を施せ
- (イ) 不必千福、以無禍爲福。不必希榮、以無辱爲榮。不必求富、以不饒爲富。(ロ) 日月者、天下之日月也。非一國所私有也。道亦然。父子君臣夫婦、無國無之而慈孝忠義、有別不雜、皆存於自然。非有待於人作也。
- (二) 次の文の傍線を引ける個所を解釋せよ。

所以謂人皆有1不忍人之心者、今人乍見孺子將入於井、皆有怵惕惻隱之心。2非所以內交於孺子之父母也。非所以要譽於鄉黨朋友也。3非惡其聲而然也。由是觀之、無惻隱之心、非人也。4無羞惡之心非人也。

(3) 次の表の空所に適當なる数を入れて各列の和各行の和も偶から偶へ斜の和も相等しくなるやうにせよ。

8		24	17	15
5	23	16		
22	20			
19	12	10		
			25	18
11				

(行) (列) (斜)

- (4) 五錢と十錢の白銅貨と五十錢銀貨とを取まぜて7圓10錢を受取りたるに五錢白銅貨と十錢白銅貨との枚数の比は3:4、十錢白銅貨と五十錢銀貨との枚数の比は2:3なりと各幾枚づつあるか。
- (5) $0.425 \div 3\frac{2}{5} + 4\frac{7}{12} \times 2\frac{3}{11} - 10\frac{5}{24}$ を計算せよ。
- (6) 或整数を13で除しても、12

の平面に乘線を引く方法を述べ且證明せよ。

女語一節

國語科(一時間半)

- (1) 左の文中に傍線を施したる語を抜き出し読み方及び意義を記せ。
- 凡そ國語の守舊思想や保守退廢の烏國根性や、若しくは亂暴狂妄の危險思想や、浮華輕薄の模倣精神や、何れも我が國史を阻却したるたゞに生じたるものとしてせざるべからず。

- (2) 左の文を解釋せよ。
- 重なる岩根を踏みしめて生むる松、其の間を點綴して咲ける花、嵐山の春こそは今たけなはなれ。小舟に乗りて漕行く人あり、岸の此方にて眺むる人あり。一筋の波月橋は花の如し人を載せて虹の如く、散る花は風に舞ひて主なき枝に落ち。
- (3) 左の文の片假名を漢字とカタシロのゲウマン、シカウトナウジにてキタウナシモモンを

4中には必ず何等かのシマキヤをシマキといはくかのリヒキを受けらるゝのである。

- (4) 左の文中傍線を施せるところを適當なる語に改めよ。
- 羨望して我が帝國の領土を知らず、國を休むものはいふな。衆の語はインリン方面から飛んで来てゐるかなしな聲を朝霧の空に響かし、聲は蘇州地方まで響いて来て、一帯一面の幸田じつぞ知れぬ。

- 算術科(第一日) 注意 1. 一問毎に別紙に認めよ。
- 2. 式と説明と答とを書け。
- 1. 東京で最多量に雨が降つたときは1晝夜に194mmであつた長さ200m幅100mの矩形の運動場には幾立方メートル降つたか。
- 2. 金195圓を三つに分けてその連比が1:3:2になるやうにせよ。
- 3. 或仕事を職工7人が8日かかつて丁度半分だけしたとき働

- 5. 元の職工の5分の新しい職工10人が代つて仕事をする事になつた残り仕事の仕事を上上げるには幾日かかるか。
- 4. 或株券額面50圓のものを80圓で買入れた年1割2分の配當を受けると利廻りは年何厘か。
- 5. 小賣商人が仕入品に3割5分の利益を見積つて定價を附けたが買手がないので定價の7割で賣つて15圓12錢を得た幾らの利益があつたか又損があつたか。
- 6. 或人所持金の1/4で帽子を買ひ次に殘金の3/4で靴を買つたら残り金が2圓91錢あつた帽子の價は何程か。
- 7. 12で割つても15で割つても21で割つても5が餘るやうな数の中で最小のものは何か。
- 8. 甲と乙が同額の金を出して土地を買つた分けるとき甲は乙よりも300平方メートル取つたから甲は乙に300圓拂つた此の土地の1平方メートルの價は幾らか。

- (1) 日曜日の正午正時に合せ置きたる時計が翌日の正午11時57分を示せり、この時計が其週の水曜日の正午を示すとき正しき時刻は如何を定めよ。
- (2) $x^2 + (4m-2)x + m + 1$ が完全平方式なるやうにmの値を定めよ。
- (3) ある商人甲乙二箇の物品を250圓にて買ひ、甲を182圓に、乙を72圓に賣りしに甲の利益の歩合は乙の損失の歩合に等しいといふ、各の原價何程なるか。
- (4) 「圓に内接する四邊形の對角は補角をなす」といふ定理の逆定理を述べ且之を證明せよ。
- (5) 三角形の三邊をabc三中線を1m, nとすれば $3(a^2 + b^2 + c^2) = 4(n^2 + m^2 + n^2)$ なり
- (6) 一平面外の一線Aより、そ

算術 (第二日)

注意 一問毎に別紙に認めよ

1. 次の方程式を解け。

$\sqrt{x+10} = x-2$

次の聯立方程式を解け。

$\begin{cases} ax+by=2ab \\ x+y=a+b \end{cases}$

3. 今年父は43歳母は37歳子は10歳である今から何年後に両親の年齢の和が子の6倍に等しくなるか。

4. 相連続する三つの正の整数の平方の和が1730である是等の数は何何であるか。

5. 長さ3.6mの梯子を家の外壁にかけたら丁度窓の處に届いた梯子の基底は外壁から8dm距つてゐた窓の高さは幾らか。

地理科

1. 我が國の火山について書きなさい。

2. 氣候が人間生活に及ぼしてゐる影響について書きなさい。

3. 社會發達の原因を書きなさい。

國史

1. イ、平安時代とは何時なるか。

ロ、此時代に於ける政治の實權を握りし者を挙げよ。

ハ、此の時代に於ける女流文學者を述べよ。

ニ、元寇は何時ありしや。

ロ、如何なることなるか。

三、イ、徳川時代に於ける尊王思想勃興の由來を述べよ。

ロ、此の時代に於ける勤王家を述べよ。

四、明治時代に於ける日本と遼東半島との關係を述べよ。

五、左の事項について記せ。

イ、吉野朝廷

ロ、版籍奉還

理科

注意 一問題毎に別紙に書くこと。

(一) 次の事項を記せ。

イ、酸性反應を呈する物二つ

ロ、アルカリ性反應を呈する物二つ。

(二) 「ユーカー」と「フラスコ」の圖をかけ。

(三) 植物に於て花を生ずること

ぞ思ふ。

國語科 (一時間半)

(一) 讀方解釋

歴卷 逐鹿戰 張本 時代錯誤 先驅者

(二) 解釋

世の中にそのころ人のもてあつかひぐさにいひあへること、いろふべきにはあらぬ人の、能く案内知りて、人にもかたりきかせ問ひききたること、それらに於て、ことにかたはとりなるひじり法師などぞ、世の人のうへはわが如く尋れききいかでかばかりは知りけんと、おぼゆるまでいひちらすめる。

(三) 書取 (次の片假名の所に漢字を宛てよ)

彼はガウキにしてラウセイ、ケンジツにして、ダイダン殆どイシのクワセキしたるが如く平和に於ても一等、セントウに於ても一等なる人物にして、正しく秀吉が智力に任せセイコウに乗じて大業をクワクジュウしたるをシウシフす

なく即ち種子を生じないで繁殖する方法を例を挙げて説明せよ。

(四) 左の鑽石より取り得る金屬名を記せ。

(イ) 磁鐵鏡 (ロ) ポーキサイト (ハ) 輝安鏡 (ニ) 辰砂

(五) 物の坐りがよい爲めにはどんな事が必要であるか。

女師第二部

文科科 (作文と合せて一時間半)

(一) 左の各々の語に適當なる接頭語を添へよ。

迷ふ、山、暗し、見る。

(二) 次の各々の文のなりを説明せよ。

月明なり 年は暮るなり 父は官吏なり

(三) 次の文の〇〇の處に適當なる助詞を補へ念力岩をも透す

〇いふ諺〇如く勉強〇〇すればどんな事〇〇出来ぬ〇いふ事〇ない。

(四) 左の文を各品詞に解剖せよ

春きぬと人はいへどもうぐひすのなかぬかきりはあらじと

てか天の空をよみぬか。

幾何

1. 二等邊三角形の兩底角は相等し。

2. 平行四邊形 ABCD の對邊 BC, AD の中點をそれぞれ E, F, とせば BF, DE は AC を三等分す。

3. 圓 O と圓 O' とは A に於て外切する今一直線 L, Q が各圓と L, M, P, Q に於て交れば (この順に) $\angle MAP + \angle AQP = 2RL$ なり。

4. $\triangle ABC$ の重心を G とすれば $\triangle GAB = \triangle GBC = \triangle GCA$ なることを證明せよ

算術科

注意、式と説明と答とを書け

1. 或職工11日の賃錢120錢なれども夜業をなすときは更に30錢づつ増給せらるといふ、今此の職工が10日間に賃錢14圓10錢を得たりとせば幾回夜業をなしたるか。

2. 1000より5000までの整数に13の倍数は幾つあるか。

3. 當町森市に於ける本年の最低

温度は攝氏の零下19.1度なりと、これを華氏の温度に直せ。

4. 或金高を甲乙丙の3人に分つに

全額の一部は3人に等分し

残りの部分は1:3:3の比に分つこととし甲は200圓を得て乙より45圓多かりしと云ふ

乙丙の取高各如何。

5. 或数を12にて割りたる商と18にて割りたる商との和が45なりといふ其數如何。

代數

1. 次の式を因數に分解せよ。

$2a^2 - a^2 - b^2 + c^2$

2. 次の式を通分せよ。

$\frac{x-1}{x^2-3c+2} \quad \frac{x-2}{x^2-7x+10}$

$\frac{x-5}{x^2-6x+5}$

3. 次の聯立方程式を解け。

$\begin{cases} \frac{1}{5} \left(\frac{1}{y} + \frac{1}{z} \right) = \frac{1}{4} \left(\frac{1}{z} + \frac{1}{x} \right) \\ \frac{1}{3} \left(\frac{1}{x} + \frac{1}{y} \right) = 1 \end{cases}$

4. 次の式を簡單にせよ。

$\frac{1}{a+d} + \frac{1}{a-d}$

$\frac{1}{a-b} - \frac{1}{a-b}$

5. $ax^2 + bx + c = 0$ なる方程式の二根を α, β とするときの $(\alpha+1)(\beta+1)$ の値を a, b, c で表せ。

算術科 (第一日)

1. 次の文の中に『何物をも』といふ語がありますが、その『何物』といふのはどんなことですか

昔は個人の利益を營むのが商業であると思はれてゐた。それ故大多數の商人は己の利益を除いては殆んど何物をも眼中に置かず忍耐も努力も要するに皆自己の爲であつた

2. 人が吸ひこんだ空氣は『は』と『う』でどういふやうにかはりますか

3. 日本人の多く移住して居る地方はどこですか

4. 戦國時代のをはりに誰が出て天下を統一したのですか

1. 次の圖の高さを線で書き入れなさい。(圖略)

2. 次の數の中一番大きなものから一番小さなものを引きなさい

$\frac{108}{36} \quad \frac{3}{18} \quad \frac{12}{3} \quad \frac{3.75}{6}$

3. 鉛筆の『しん』は何びつくりですか

(第二日)

1. 後醍醐天皇をおたすけた南朝の忠臣は誰々ですか。

2. 我が國の主要輸入品を三つ記しなさい。

3. 次の式を計算しなさい。

(1) $12.3 + 9 \times 0.7$

(2) $(3+4) \times 8 - 6 \div 1.5$

3. ある證書の中に大正十九年と書いてある。これは昭和何年のことですか。

4. 次の考へ方は誤つてをと思ひますが正しく直してごらんなさい。

(イ) 品物が少くして之を望む者多ければ其の物の價安く

なり品物多くして之を望む

- 者少ければ其の物の價高くなる。
- (ロ)はふ(ハウ)前にまじり歩むことを學ぶ。
- 地球の内部が熱いと云ふこと三どうしてわかりますか。
 - 車が急に止つた時乗つてゐる人が倒れようとするのはどういふわけですか。
- ◇口試 (三日目)
- あなたの決して忘れてならない思は何ですか。
 - あなたはどんな運動がお好きですか。
 - あなたはふだん節約するためにどんなことをして居りますか。
 - あなたの學校の校長先生のお名前を言つてごらんなきや受持の先生のお名前は
- 弘前中學
- ◇算術
- $3\frac{2}{9} \div 1\frac{5}{6}$ (2) $\frac{1}{6} \div 3$
 - $\frac{5}{7} \div 2\frac{1}{7}$ (4) $10 \div 2 \times 5$
 - $1\frac{1}{2} \times \frac{2}{3}$ (6) 2直角は何度か

- 次の比の値を求めよ
1, 2m: 15cm 2, 16時: 1日
- 次の反比を書き其の値を求めよ
(1) 13と5との積は幾らか
3: 9 = x: 24をとけ
- 高さ8米底邊6米の三角形の面積は幾らか
- 甲と乙との比は2: 3乙と丙との比は3: 1である甲乙丙の連比を求めよ
- 次の連比を簡単にせよ
0.9: 1.8: 3
- 太郎が或る日曜日の午前6時に起き午後9時にれた此の間の時間の $\frac{1}{5}$ は學業を復習し $\frac{3}{8}$ は運動をなし $\frac{4}{15}$ は食事と休息に費し残りの時間を雑事に使つたこの問題で次の問ひに答へよ
1 復習した時間は幾らか
2 運動した時間は幾らか
3 食事と休息とに費したる時間は幾らか

- ◇國語科
- 次の文を解釋しなさい
雪白の地に紅の日の丸を我がける我が國旗は最もよく我が國號にかなひ皇威の發揚國運の隆昌ながら旭日昇天の勢あるを思はしむ。
 - 次の語に讀假名をつけなさい。
望遠鏡、附添人、一筋路、經管、薄黒色、燃料、小春日和徽章、波打際、準備
 - 次の文の片假名を漢字に書きかへなさい。
春の鳥山カスミに包まれてネムるが如く夏は山海皆ミドリにしてメザムるばかりアザヤかなり此の上はセイケンを下うてヲシへをウける外はない
 - 次の文の空所に適當な言葉を入れなさい。
山畑には()の木が()よく()んでゐるとれを見てもも()に色づいた實が()なりになつてゐる。
 - 五十音の片假名を並べ書き

- ◇口頭試問
- 世界の五大國と首府とを擧げなさい。
 - 我國の川は主に何ういふことに利用されて居ますか。
 - 我國に於て水産業の盛に行はれる譯は。
 - 我邦の主なる開港場(貿易港)を四ヶ所述べなさい。
- 八戸中學(第一日目)
- 一、左の文から次の問に答へなさい。
- 孔子は他人を正す前に先づおのれを正し、近きより遠きに及ぼすを以て其の主義としたり。おのれを修めて人を安んず。とは、彼が簡明に此の意をあらはせる語なり。
- かつて自らはいく、發憤しては食を忘れ、樂しんではうれひを忘れ、老の將に至らんとするを知らず。と。其の身を忘れ、よはひを忘れて、人生の爲に盡くしたる大聖の面目、よく此の語にあらはれたるといふべし。

- 「彼」とは、誰を指しますか。
 - 「此意をあらはせる語なり」の「此の意」とは前の文の何處を指しますか。
 - 「よく此の語に」の「此語」とは前の文の何處を指しますか。
- 左の文の傍線のある言葉に片假名で讀がなを附けなさい
造船部長の指揮につれて吹く進水主任の號笛を合圖に着々と進水作業が進み行く。
 - 左の三つの文の中に漢字の誤りがあつたら正しなさい。
1 瀛車は蜜林の間をあへぎあへぎ走る。
2 朝飲をすまずと縁がはへ出て本を讀んだ。
3 よい結果をうることは倒底望まれまい。
 - 沙漠とはどんなものであるかを説明し、且つ三つの例を擧げなさい。
 - 太平洋の周圍に沿ふてゐる主な國家は我國の外にどこどこですか。
 - ワシントン會議に集つた主な國はどこどこですか。

- 次の人達を古い人から順序に括弧の中へ一、二、三、四、五の番號を書き入れなさい。
乃木大將() 楠木正行()
藤原鎌足() 源頼朝()
徳川家康()
 - よい事をする、人にほめられないでも自分で心嬉しく感じ、また何か悪い事をする、人に知れないでも自分で氣がとがめるのは、どういふわけか。
 - 第六潜水艇を沈めた艇長佐久間勉を人がほめるのは何故か。
- ◇
- 1234
567
+ 89
 - $200 \times 1.5 \div 32 =$
 - $\frac{5}{7} - \frac{3}{5} =$
 - 2間に2回半の座敷に幾何畳しかれるか。
 - 次の文の線のある所に適當なことを入れなさい。
物はどれでも地球の爲に――

- の方に引かれる。この引く力を――と言ふ。物に重さのあるのはこの――の爲であつて物の重さの大小はこの――の大小による。そして、その働く向は正しく――の向をしめす。
- (八) 次の動物の運動のしかた(進み方)を説明しなさい。
イ馬 ロ、(び)蛇 ハ、ふな(鮒) ニ、か(蚊) ホ、みよず
- 野邊地中學
- 口答試問 第一日
- 6の答は何々、何々あるか
14の答は何々であるか
6と14の公約数は何か
 - 寒暖計を示し
イ、これは何ですか
ロ、何を測るに用ふるものか
ハ、此室の今の温度は攝氏の何度ですか
ニ、華氏では何度ですか
(3)かへらじとかれて思へば梓弓なき數に入る名をぞとどむる。
 - この歌を讀みなさい。ロ、これは誰がよんだ歌か何處で

- よんだか ハ、正行は誰の子か ニ、何處で戦死したか
ホ、正行は何天皇につかへたるか
- ◇筆記(三十分)
- 次の式を計算せよ
 $4235 \div 103$ $315 \div 4$
 1.02×103 $315 \div 4 =$
 - 昨日の正午に正しく合せた時計が、今日の午前八時には二十秒おくれ居た、此時計は一時間毎に幾秒おくれるか
 - 漢字二字で次の語の反對の意味をあらはす語を()の中に入れなさい(漢字が出来なかつたら假名で書きなさい)
- イ、増加() ロ、失敗()
ハ、健康() ニ、容易()
- (四) 次の語句の解釋をなせ(豫想以上の好結果)
- (五) 東北六縣の中、青森縣を除いた五縣の名及び其の縣廳所在地の名を書き入れなさい。

縣	縣	縣	縣	縣
市	市	市	市	市

木造中畢 (一日目)

第一問 次の文を読んで『』の中の言葉はそれ／＼誰が言ったのか』の頭にそれを書きなさい。

『栗飯ならいぢますが』主人はうちうなづきて出来り倍に向ひて『お宿は致しても、さて何も差上げる物はございません、ちやうど有合はせの粟の飯、召上るならと妻が申してをりますが、いかゞてございませう』

な體色をしてゐる。3 得がたき物にても、有用なるものは價なし、4 勉強も大切なれど體にも精々御注意なさるべく候。

5 國內で出来たものを外國へ輸入することもなか／＼多。第三問 次の(一)の言葉のどれが(二)の人名のどれと合つか()の中に書きなさい。(一)忠臣、音楽家、學者、發明家、探險家

- (一) 本居宣長 (二) トマス、エジソン (三) 間宮林蔵 (四) ハイネン (五) 和氣清麿

第四問 次の文のあやまつてゐる字を直しなさい(右側にか)公史、儀員等、公共の事務に當る者が、如何に其の職務に中實であつても一般の人氏の後援がなければならぬ。第五問 次の(イ)(ロ)と、二つの言葉を用ひて一つの短文を作りなさい。(イ)製造、利用 (ロ)あつたれば、今更のやうに

の比は5:7で横の比は9:8である、面積の比は何程か

- (1) 120を約分せよ。 (2) 90 ÷ 18 + 5 × 3 (3) 6 × (9 - 3) ÷ 3 (4) 大小二つの数がある其の差は6で、小さい方は15である大きい方はいくらか。 (5) 次の比例式を解け 14圓 : X圓 = 7日 : 9日 (6) 100圓を2と3の割合に分けてよ。 (7) 7人の子供に鉛筆を5本づつ分けると1本餘る、鉛筆は何本あつたか。 (8) 5mが8錢の鐵の針金と6mが9錢の銅の針金と、どちらが高いか。 (9) 或品を定價の8掛で買つて12圓40錢拂つた、定價はいくらか。 (10) 下の圖は大正十年の『ラソットン』會議で日、英、米三國の海軍力を制限した當時の三國の軍艦總噸數である。三國の軍艦總噸數は各いくらか。

(圖略)

を始め主なる諸外國の國旗に就いて述べん。

- (1) (2/3 + 1/6) + 1/2を計算せよ。 (2) 上茶1袋の代價は下茶1袋の代價より40錢高い、上茶3袋下茶5袋10圓80錢であると上茶下茶各1袋の價は何程か。 (3) 左の圖(略す)の箱に何リットル入るか。(長さは箱の内法である) (4) 或子供が本を讀むに初日にはその1/10、二日目には1/10を讀んだ残りの頁を三日目に讀んでも尙25頁餘つた、この本は幾頁あるか。 (5) 正比例と反比例の問題を各一つづつ作りなさい。

第一問 右の文を音讀しなさい 第二問 傍線の部の意味をいふて御覽なさい。 第三問 一國旗の制定せられた理由を簡単に話してみなさい。日本の國旗は如何なる意義を表はして居ますか

(一) 次の文を解釋なさい

今日一國家を形成する國々にして國旗の制定せられざる所なし。國旗は實に國家を代表する標識にして其の徽章色彩にはそれ／＼深き意義あり。今我が國

ロ、賣のちひなれ

(三) 次の三字(一)字(二)加(三)熟語を作りなさい(上(四)加(下(五)加(六)加(七)加(八)加(九)加(十)加(十一)加(十二)加(十三)加(十四)加(十五)加(十六)加(十七)加(十八)加(十九)加(二十)加(二十一)加(二十二)加(二十三)加(二十四)加(二十五)加(二十六)加(二十七)加(二十八)加(二十九)加(三十)加(三十一)加(三十二)加(三十三)加(三十四)加(三十五)加(三十六)加(三十七)加(三十八)加(三十九)加(四十)加(四十一)加(四十二)加(四十三)加(四十四)加(四十五)加(四十六)加(四十七)加(四十八)加(四十九)加(五十)加(五十一)加(五十二)加(五十三)加(五十四)加(五十五)加(五十六)加(五十七)加(五十八)加(五十九)加(六十)加(六十一)加(六十二)加(六十三)加(六十四)加(六十五)加(六十六)加(六十七)加(六十八)加(六十九)加(七十)加(七十一)加(七十二)加(七十三)加(七十四)加(七十五)加(七十六)加(七十七)加(七十八)加(七十九)加(八十)加(八十一)加(八十二)加(八十三)加(八十四)加(八十五)加(八十六)加(八十七)加(八十八)加(八十九)加(九十)加(九十一)加(九十二)加(九十三)加(九十四)加(九十五)加(九十六)加(九十七)加(九十八)加(九十九)加(一百)加(一百一)加(一百二)加(一百三)加(一百四)加(一百五)加(一百六)加(一百七)加(一百八)加(一百九)加(二百)加(二百一)加(二百二)加(二百三)加(二百四)加(二百五)加(二百六)加(二百七)加(二百八)加(二百九)加(三百)加(三百一)加(三百二)加(三百三)加(三百四)加(三百五)加(三百六)加(三百七)加(三百八)加(三百九)加(四百)加(四百一)加(四百二)加(四百三)加(四百四)加(四百五)加(四百六)加(四百七)加(四百八)加(四百九)加(五百)加(五百一)加(五百二)加(五百三)加(五百四)加(五百五)加(五百六)加(五百七)加(五百八)加(五百九)加(六百)加(六百一)加(六百二)加(六百三)加(六百四)加(六百五)加(六百六)加(六百七)加(六百八)加(六百九)加(七百)加(七百一)加(七百二)加(七百三)加(七百四)加(七百五)加(七百六)加(七百七)加(七百八)加(七百九)加(八百)加(八百一)加(八百二)加(八百三)加(八百四)加(八百五)加(八百六)加(八百七)加(八百八)加(八百九)加(九百)加(九百一)加(九百二)加(九百三)加(九百四)加(九百五)加(九百六)加(九百七)加(九百八)加(九百九)加(一千)加(一千一)加(一千二)加(一千三)加(一千四)加(一千五)加(一千六)加(一千七)加(一千八)加(一千九)加(二千)加(二千一)加(二千二)加(二千三)加(二千四)加(二千五)加(二千六)加(二千七)加(二千八)加(二千九)加(三千)加(三千一)加(三千二)加(三千三)加(三千四)加(三千五)加(三千六)加(三千七)加(三千八)加(三千九)加(四千)加(四千一)加(四千二)加(四千三)加(四千四)加(四千五)加(四千六)加(四千七)加(四千八)加(四千九)加(五千)加(五千一)加(五千二)加(五千三)加(五千四)加(五千五)加(五千六)加(五千七)加(五千八)加(五千九)加(六千)加(六千一)加(六千二)加(六千三)加(六千四)加(六千五)加(六千六)加(六千七)加(六千八)加(六千九)加(七千)加(七千一)加(七千二)加(七千三)加(七千四)加(七千五)加(七千六)加(七千七)加(七千八)加(七千九)加(八千)加(八千一)加(八千二)加(八千三)加(八千四)加(八千五)加(八千六)加(八千七)加(八千八)加(八千九)加(九千)加(九千一)加(九千二)加(九千三)加(九千四)加(九千五)加(九千六)加(九千七)加(九千八)加(九千九)加(一万)加(一万一)加(一万二)加(一万三)加(一万四)加(一万五)加(一万六)加(一万七)加(一万八)加(一万九)加(二万)加(二万一)加(二万二)加(二万三)加(二万四)加(二万五)加(二万六)加(二万七)加(二万八)加(二万九)加(三万)加(三万一)加(三万二)加(三万三)加(三万四)加(三万五)加(三万六)加(三万七)加(三万八)加(三万九)加(四万)加(四万一)加(四万二)加(四万三)加(四万四)加(四万五)加(四万六)加(四万七)加(四万八)加(四万九)加(五万)加(五万一)加(五万二)加(五万三)加(五万四)加(五万五)加(五万六)加(五万七)加(五万八)加(五万九)加(六万)加(六万一)加(六万二)加(六万三)加(六万四)加(六万五)加(六万六)加(六万七)加(六万八)加(六万九)加(七万)加(七万一)加(七万二)加(七万三)加(七万四)加(七万五)加(七万六)加(七万七)加(七万八)加(七万九)加(八万)加(八万一)加(八万二)加(八万三)加(八万四)加(八万五)加(八万六)加(八万七)加(八万八)加(八万九)加(九万)加(九万一)加(九万二)加(九万三)加(九万四)加(九万五)加(九万六)加(九万七)加(九万八)加(九万九)加(十万)加(十万一)加(十万二)加(十万三)加(十万四)加(十万五)加(十万六)加(十万七)加(十万八)加(十万九)加(十一万)加(十一万一)加(十一万二)加(十一万三)加(十一万四)加(十一万五)加(十一万六)加(十一万七)加(十一万八)加(十一万九)加(十二万)加(十二万一)加(十二万二)加(十二万三)加(十二万四)加(十二万五)加(十二万六)加(十二万七)加(十二万八)加(十二万九)加(十三万)加(十三万一)加(十三万二)加(十三万三)加(十三万四)加(十三万五)加(十三万六)加(十三万七)加(十三万八)加(十三万九)加(十四万)加(十四万一)加(十四万二)加(十四万三)加(十四万四)加(十四万五)加(十四万六)加(十四万七)加(十四万八)加(十四万九)加(十五万)加(十五万一)加(十五万二)加(十五万三)加(十五万四)加(十五万五)加(十五万六)加(十五万七)加(十五万八)加(十五万九)加(十六万)加(十六万一)加(十六万二)加(十六万三)加(十六万四)加(十六万五)加(十六万六)加(十六万七)加(十六万八)加(十六万九)加(十七万)加(十七万一)加(十七万二)加(十七万三)加(十七万四)加(十七万五)加(十七万六)加(十七万七)加(十七万八)加(十七万九)加(十八万)加(十八万一)加(十八万二)加(十八万三)加(十八万四)加(十八万五)加(十八万六)加(十八万七)加(十八万八)加(十八万九)加(十九万)加(十九万一)加(十九万二)加(十九万三)加(十九万四)加(十九万五)加(十九万六)加(十九万七)加(十九万八)加(十九万九)加(二十万)加(二十万一)加(二十万二)加(二十万三)加(二十万四)加(二十万五)加(二十万六)加(二十万七)加(二十万八)加(二十万九)加(二十一万)加(二十万一)加(二十一万二)加(二十一万三)加(二十一万四)加(二十一万五)加(二十一万六)加(二十一万七)加(二十一万八)加(二十一万九)加(二十二万)加(二十二万一)加(二十二万二)加(二十二万三)加(二十二万四)加(二十二万五)加(二十二万六)加(二十二万七)加(二十二万八)加(二十二万九)加(二十三万)加(二十三万一)加(二十三万二)加(二十三万三)加(二十三万四)加(二十三万五)加(二十三万六)加(二十三万七)加(二十三万八)加(二十三万九)加(二十四万)加(二十四万一)加(二十四万二)加(二十四万三)加(二十四万四)加(二十四万五)加(二十四万六)加(二十四万七)加(二十四万八)加(二十四万九)加(二十五万)加(二十五万一)加(二十五万二)加(二十五万三)加(二十五万四)加(二十五万五)加(二十五万六)加(二十五万七)加(二十五万八)加(二十五万九)加(二十六万)加(二十六万一)加(二十六万二)加(二十六万三)加(二十六万四)加(二十六万五)加(二十六万六)加(二十六万七)加(二十六万八)加(二十六万九)加(二十七万)加(二十七万一)加(二十七万二)加(二十七万三)加(二十七万四)加(二十七万五)加(二十七万六)加(二十七万七)加(二十七万八)加(二十七万九)加(二十八万)加(二十八万一)加(二十八万二)加(二十八万三)加(二十八万四)加(二十八万五)加(二十八万六)加(二十八万七)加(二十八万八)加(二十八万九)加(二十九万)加(二十九万一)加(二十九万二)加(二十九万三)加(二十九万四)加(二十九万五)加(二十九万六)加(二十九万七)加(二十九万八)加(二十九万九)加(三十万)加(三十万一)加(三十万二)加(三十万三)加(三十万四)加(三十万五)加(三十万六)加(三十万七)加(三十万八)加(三十万九)加(三十一万)加(三十一万一)加(三十一万二)加(三十一万三)加(三十一万四)加(三十一万五)加(三十一万六)加(三十一万七)加(三十一万八)加(三十一万九)加(三十二万)加(三十二万一)加(三十二万二)加(三十二万三)加(三十二万四)加(三十二万五)加(三十二万六)加(三十二万七)加(三十二万八)加(三十二万九)加(三十三万)加(三十三万一)加(三十三万二)加(三十三万三)加(三十三万四)加(三十三万五)加(三十三万六)加(三十三万七)加(三十三万八)加(三十三万九)加(三十四万)加(三十四万一)加(三十四万二)加(三十四万三)加(三十四万四)加(三十四万五)加(三十四万六)加(三十四万七)加(三十四万八)加(三十四万九)加(三十五万)加(三十五万一)加(三十五万二)加(三十五万三)加(三十五万四)加(三十五万五)加(三十五万六)加(三十五万七)加(三十五万八)加(三十五万九)加(三十六万)加(三十六万一)加(三十六万二)加(三十六万三)加(三十六万四)加(三十六万五)加(三十六万六)加(三十六万七)加(三十六万八)加(三十六万九)加(三十七万)加(三十七万一)加(三十七万二)加(三十七万三)加(三十七万四)加(三十七万五)加(三十七万六)加(三十七万七)加(三十七万八)加(三十七万九)加(三十八万)加(三十八万一)加(三十八万二)加(三十八万三)加(三十八万四)加(三十八万五)加(三十八万六)加(三十八万七)加(三十八万八)加(三十八万九)加(三十九万)加(三十九万一)加(三十九万二)加(三十九万三)加(三十九万四)加(三十九万五)加(三十九万六)加(三十九万七)加(三十九万八)加(三十九万九)加(四十万)加(四十万一)加(四十万二)加(四十万三)加(四十万四)加(四十万五)加(四十万六)加(四十万七)加(四十万八)加(四十万九)加(四十一万)加(四十一万一)加(四十一万二)加(四十一万三)加(四十一万四)加(四十一万五)加(四十一万六)加(四十一万七)加(四十一万八)加(四十一万九)加(四十二万)加(四十二万一)加(四十二万二)加(四十二万三)加(四十二万四)加(四十二万五)加(四十二万六)加(四十二万七)加(四十二万八)加(四十二万九)加(四十三万)加(四十三万一)加(四十三万二)加(四十三万三)加(四十三万四)加(四十三万五)加(四十三万六)加(四十三万七)加(四十三万八)加(四十三万九)加(四十四万)加(四十四万一)加(四十四万二)加(四十四万三)加(四十四万四)加(四十四万五)加(四十四万六)加(四十四万七)加(四十四万八)加(四十四万九)加(四十五万)加(四十五万一)加(四十五万二)加(四十五万三)加(四十五万四)加(四十五万五)加(四十五万六)加(四十五万七)加(四十五万八)加(四十五万九)加(四十六万)加(四十六万一)加(四十六万二)加(四十六万三)加(四十六万四)加(四十六万五)加(四十六万六)加(四十六万七)加(四十六万八)加(四十六万九)加(四十七万)加(四十七万一)加(四十七万二)加(四十七万三)加(四十七万四)加(四十七万五)加(四十七万六)加(四十七万七)加(四十七万八)加(四十七万九)加(四十八万)加(四十八万一)加(四十八万二)加(四十八万三)加(四十八万四)加(四十八万五)加(四十八万六)加(四十八万七)加(四十八万八)加(四十八万九)加(四十九万)加(四十九万一)加(四十九万二)加(四十九万三)加(四十九万四)加(四十九万五)加(四十九万六)加(四十九万七)加(四十九万八)加(四十九万九)加(五十万)加(五十万一)加(五十万二)加(五十万三)加(五十万四)加(五十万五)加(五十万六)加(五十万七)加(五十万八)加(五十万九)加(五十一万)加(五十一万一)加(五十一万二)加(五十一万三)加(五十一万四)加(五十一万五)加(五十一万六)加(五十一万七)加(五十一万八)加(五十一万九)加(五十二万)加(五十二万一)加(五十二万二)加(五十二万三)加(五十二万四)加(五十二万五)加(五十二万六)加(五十二万七)加(五十二万八)加(五十二万九)加(五十三万)加(五十三万一)加(五十三万二)加(五十三万三)加(五十三万四)加(五十三万五)加(五十三万六)加(五十三万七)加(五十三万八)加(五十三万九)加(五十四万)加(五十四万一)加(五十四万二)加(五十四万三)加(五十四万四)加(五十四万五)加(五十四万六)加(五十四万七)加(五十四万八)加(五十四万九)加(五十五万)加(五十五万一)加(五十五万二)加(五十五万三)加(五十五万四)加(五十五万五)加(五十五万六)加(五十五万七)加(五十五万八)加(五十五万九)加(五十六万)加(五十六万一)加(五十六万二)加(五十六万三)加(五十六万四)加(五十六万五)加(五十六万六)加(五十六万七)加(五十六万八)加(五十六万九)加(五十七万)加(五十七万一)加(五十七万二)加(五十七万三)加(五十七万四)加(五十七万五)加(五十七万六)加(五十七万七)加(五十七万八)加(五十七万九)加(五十八万)加(五十八万一)加(五十八万二)加(五十八万三)加(五十八万四)加(五十八万五)加(五十八万六)加(五十八万七)加(五十八万八)加(五十八万九)加(五十九万)加(五十九万一)加(五十九万二)加(五十九万三)加(五十九万四)加(五十九万五)加(五十九万六)加(五十九万七)加(五十九万八)加(五十九万九)加(六十万)加(六十万一)加(六十万二)加(六十万三)加(六十万四)加(六十万五)加(六十万六)加(六十万七)加(六十万八)加(六十万九)加(六十一万)加(六十一万一)加(六十一万二)加(六十一万三)加(六十一万四)加(六十一万五)加(六十一万六)加(六十一万七)加(六十一万八)加(六十一万九)加(六十二万)加(六十二万一)加(六十二万二)加(六十二万三)加(六十二万四)加(六十二万五)加(六十二万六)加(六十二万七)加(六十二万八)加(六十二万九)加(六十三万)加(六十三万一)加(六十三万二)加(六十三万三)加(六十三万四)加(六十三万五)加(六十三万六)加(六十三万七)加(六十三万八)加(六十三万九)加(六十四万)加(六十四万一)加(六十四万二)加(六十四万三)加(六十四万四)加(六十四万五)加(六十四万六)加(六十四万七)加(六十四万八)加(六十四万九)加(六十五万)加(六十五万一)加(六十五万二)加(六十五万三)加(六十五万四)加(六十五万五)加(六十五万六)加(六十五万七)加(六十五万八)加(六十五万九)加(六十六万)加(六十六万一)加(六十六万二)加(六十六万三)加(六十六万四)加(六十六万五)加(六十六万六)加(六十六万七)加(六十六万八)加(六十六万九)加(六十七万)加(六十七万一)加(六十七万二)加(六十七万三)加(六十七万四)加(六十七万五)加(六十七万六)加(六十七万七)加(六十七万八)加(六十七万九)加(六十八万)加(六十八万一)加(六十八万二)加(六十八万三)加(六十八万四)加(六十八万五)加(六十八万六)加(六十八万七)加(六十八万八)加(六十八万九)加(六十九万)加(六十九万一)加(六十九万二)加(六十九万三)加(六十九万四)加(六十九万五)加(六十九万六)加(六十九万七)加(六十九万八)加(六十九万九)加(七十万)加(七十万一)加(七十万二)加(七十万三)加(七十万四)加(七十万五)加(七十万六)加(七十万七)加(七十万八)加(七十万九)加(七十一万)加(七十一万一)加(七十一万二)加(七十一万三)加(七十一万四)加(七十一万五)加(七十一万六)加(七十一万七)加(七十一万八)加(七十一万九)加(七十二万)加(七十二万一)加(七十二万二)加(七十二万三)加(七十二万四)加(七十二万五)加(七十二万六)加(七十二万七)加(七十二万八)加(七十二万九)加(七十三万)加(七十三万一)加(七十三万二)加(七十三万三)加(七十三万四)加(七十三万五)加(七十三万六)加(七十三万七)加(七十三万八)加(七十三万九)加(七十四万)加(七十四万一)加(七十四万二)加(七十四万三)加(七十四万四)加(七十四万五)加(七十四万六)加(七十四万七)加(七十四万八)加(七十四万九)加(七十五万)加(七十五万一)加(七十五万二)加(七十五万三)加(七十五万四)加(七十五万五)加(七十五万六)加(七十五万七)加(七十五万八)加(七十五万九)加(七十六万)加(七十六万一)加(七十六万二)加(七十六万三)加(七十六万四)加(七十六万五)加(七十六万六)加(七十六万七)加(七十六万八)加(七十六万九)加(七十七万)加(七十七万一)加(七十七万二)加(七十七万三)加(七十七万四)加(七十七万五)加(七十七万六)加(七十七万七)加(七十七万八)加(七十七万九)加(七十八万)加(七十八万一)加(七十八万二)加(七十八万三)加(七十八万四)加(七十八万五)加(七十八万六)加(七十八万七)加(七十八万八)加(七十八万九)加(七十九万)加(七十九万一)加(七十九万二)加(七十九万三)加(七十九万四)加(七十九万五)加(七十九万六)加(七十九万七)加(七十九万八)加(七十九万九)加(八十万)加(八十万一)加(八十万二)加(八十万三)加(八十万四)加(八十万五)加(八十万六)加(八十万七)加(八十万八)加(八十万九)加(八十一万)加(八十一万一)加(八十一万二)加(八十一万三)加(八十一万四)加(八十一万五)加(八十一万六)加(八十一万七)加(八十一万八)加(八十一万九)加(八十二万)加(八十二万一)加(八十二万二)加(八十二万三)加(八十二万四)加(八十二万五)加(八十二万六)加(八十二万七)加(八十二万八)加(八十二万九)加(八十三万)加(八十三万一)加(八十三万二)加(八十三万三)加(八十三万四)加(八十三万五)加(八十三万六)加(八十三万七)加(八十三万八)加(八十三万九)加(八十四万)加(八十四万一)加(八十四万二)加(八十四万三)加(八十四万四)加(八十四万五)加(八十四万六)加(八十四万七)加(八十四万八)加(八十四万九)加(八十五万)加(八十五万一)加(八十五万二)加(八十五万三)加(八十五万四)加(八十五万五)加(八十五万六)加(八十五万七)加(八十五万八)加(八十五万九)加(八十六万)加(八十六万一)加(八十六万二)加(八十六万三)加(八十六万四)加(八十六万五)加(八十六万六)加(八十六万七)加(八十六万八)加(八十六万九)加(八十七万)加(八十七万一)加(八十七万二)加(八十七万三)加(八十七万四)加(八十七万五)加(八十七万六)加(八十七万七)加(八十七万八)加(八十七万九)加(八十八万)加(八十八万一)加(八十八万二)加(八十八万三)加(八十八万四)加(八十八万五)加(八十八万六)加(八十八万七)加(八十八万八)加(八十八万九)加(八十九万)加(八十九万一)加(八十九万二)加(八十九万三)加(八十九万四)加(八十九万五)加(八十九万六)加(八十九万七)加(八十九万八)加(八十九万九)加(九十万)加(九十万一)加(九十万二)加(九十万三)加(九十万四)加(九十万五)加(九十万六)加(九十万七)加(九十万八)加(九十万九)加(九十一万)加(九十一万一)加(九十一万二)加(九十一万三)加(九十一万四)加(九十一万五)加(九十一万六)加(九十一万七)加(九十一万八)加(九十一万九)加(九十二万)加(九十二万一)加(九十二万二)加(九十二万三)加(九十二万四)加(九十二万五)加(九十二万六)加(九十二万七)加(九十二万八)加(九十二万九)加(九十三万)加(九十三万一)加(九十三万二)加(九十三万三)加(九十三万四)加(九十三万五)加(九十三万六)加(九十三万七)加(九十三万八)加(九十三万九)加(九十四万)加(九十四万一)加(九十四万二)加(九十四万三)加(九十四万四)加(九十四万五)加(九十四万六)加(九十四万七)加(九十四万八)加(九十四万九)加(九十五万)加(九十五万一)加(九十五万二)加(九十五万三)加(九十五万四)加(九十五万五)加(九十五万六)加(九十五万七)加(九十五万八)加(九十五万九)加(九十六万)加(九十六万一)加(九十六万二)加(九十六万三)加(九十六万四)加(九十六万五)加(九十六万六)加(九十六万七)加(九十六万八)加(九十六万九)加(九十七万)加(九十七万一)加(九十七万二)加(九十七万三)加(九十七万四)加(九十七万五)加(九十七万六)加(九十七万七)加(九十七万八)加(九十七万九)加(九十八万)加(九十八万一)加(九十八万二)加(九十八万三)加(九十八万四)加(九十八万五)加(九十八万六)加(九十八万七)加(九十八万八)加(九十八万九)加(九十九万)加(九十九万一)加(九十九万二)加(九十九万三)加(九十九万四)加(九十九万五)加(九十九万六)加(九十九万七)加(九十九万八)加(九十九万九)加(一百万)加(一百万一)加(一百万二)加(一百万三)加(一百万四)加(一百万五)加(一百万六)加(一百万七)加(一百万八)加(一百万九)加(一百万一十)加(一百万一十一)加(一百万一十二)加(一百万一十三)加(一百万一十四)加(一百万一十五)加(一百万一十六)加(一百万一十七)加(一百万一十八)加(一百万一十九)加(一百万二十)加(一百万二十一)加(一百万二十二)加(一百万二十三)加(一百万二十四)加(一百万二十五)加(一百万二十六)加(一百万二十七)加(一百万二十八)加(一百万二十九)加(一百万三十)加(一百万三十一)加(一百万三十二)加(一百万三十三)加(一百万三十四)加(一百万三十五)加(一百万三十六)加(一百万三十七)加(一百万三十八)加(一百万三十九)加(一百万四十)加(一百万四十一)加(一百万四十二)加(一百万四十三)加(一百万四十四)加(一百万四十五)加(一百万四十六)加(一百万四十七)加(一百万四十八)加(一百万四十九)加(一百万五十)加(一百万五十一)加(一百万五十二)加(一百万五十三)加(一百万五十四)加(一百万五十五)加(一百万五十六)加(一百万五十七)加(一百万五十八)加(一百万五十九)加(一百万六十)加(一百万六十一)加(一百万六十二)加(一百万六十三)加(一百万六十四)加(一百万六十五)加(一百万六十六)加(一百万六十七)加(一百万六十八)加(一百万六十九)加(一百万七十)加(一百万七十一)加(一百万七十二)加(一百万七十三)加(一百万七十四)加(一百万七十五)加(一百万七十六)加(一百万七十七)加(一百万七十八)加(一百万七十九)加(一百万八十)加(一百万八十一)加(一百万八十二)加(一百万八十三)加(一百万八十四)加(一百万八十五)加(一百万八十六)加(一百万八十七)加(一百万八十八)加(一百万八十九)加(一百万九十)加(一百万九十一)加(一百万九十二)加(一百万九十三)加(一百万九十四)加(一百万九十五)加(一百万九十六)加(一百万九十七)加(一百万九十八)加(一百万九十九)加(一百万一百万)

- 50錢づゝ納めさせます、1ヶ年ではいくらになりませうか、但し8月分はいりません
- (2) 白米1俵の中から其の1/10だけ使った残り25リットルある、1俵の入は幾リットルか
- (3) 次の比例式は正しいか否か計算を示しなさい
3:4=5:7
- (4) 大正十年生れの人は今年幾へ年幾つか

- 一、四大節とは何々ですか。何月何日ですか。
- 二、ハサミやクギヌキは何の理を應用したものでせうか。
- 三、水は温度何度の時沸騰しますか又温度何度の時氷になりますか。
- 四、都會の空氣がどうして悪いのですか、森林地方の空氣がどうして善いのですか。
- 五、クケ方(裁縫)の種類を書きなさい。

- 一、明治時代の二つの大きな戦役は何々ですか。
- 二、奥羽地方の縣名及縣廳所在地をあげなさい。
- 三、日本産の米は不足である。どこから輸入しますか。
- 四、次の人々に年代順の番號をつけなさい。
楠木正成、乃木大将、聖徳太子、本居宣長、紫式部

- (一) 次の文の中に間違つてゐる字があつたら直しなさい。
衛生の説備をよくして危儉な病氣を根絶し幾萬の從業者の健康をはかつた。
- (二) 次の語に片假名をつけなさい。
(イ) 風情。(ロ) 境内。(ハ) 直段
(ニ) 留守。
- (三) 次の語と反對の意味の語を書きなさい。
(イ) 長所。(ロ) 失敗。
- (四) 次の語のわけを書きなさい
(イ) 非凡。(ロ) 目撃。(ハ) 儉約
(ニ) よもすがら。

- 一、電氣の利用されて居る方面を四つ書きなさい。
- 二、金魚やフナを飼つて注意して居るといつても口を動かして居る何をしてゐるのですか
- 三、ゴムマリ(穴がないうもの)を暖めると張つてきますどうしてせうか。
- 四、次の動物は體のどこで鳴きますか。
蛙、コホロギ、セミ、スズメ
- 五、皇太神宮はどなたを御祀りしてありますか。

- 5-1(6+2)-(7-3)
- (2) 6分利附の公債額面金額總計1350圓のものは半ヶ年の利子は何程か。
- (3) 甲は2圓15錢乙は1圓43錢今この2人が同じ金高を持つやうにするには甲は乙に幾らやらねばならぬか。
- (4) 午前7時5分に山形を出づる汽車は午後4時50分に弘前に着くと幾時幾分かゝるか。

五六〇

- (一) 次の意味にあてはまる語を書きなさい。
(イ) 選挙の札を入れること。
(ロ) 外國と取引すること。
- (二) 次の文の片假名を漢字に書き改めなさい。
自治制も之を運用する人民に自治のセイシンが乏しければよいケツクヲを得ることは到底ノゾまれな。
- (三) 次の語を用ひてそれ〴〵短文を一つづつ作りなさい。
(イ) からうじ。
(ロ) けなげ。
- (四) 次の言葉のわけを書きなさい

五六

- (イ) 必要は發明の母
- (ロ) 一寸の虫にも五分の魂
- 一、この五枚のカードを一つの纏つた文章に置きかへ御覽なさい。

喜びにあふるゝ
降り積みし雪も
春とはなれり
山河草木
あとなくきえて

- 二、このにある液の中どれが酸性でどれがアルカリ性ですか...そこにあるもので試してごらんなさい。
- 材料(苛性ソーダ液
稀鹽酸リトマスペーパー)

- 八高女
- ◇ 口問口答
- ◇ 第一室
- (一) 棒磁石を手にとらしめ鐵釘を引きつけさせつゝ、それは何ですか。
- どこが一番強く鐵釘を引きま
- すか
- (二) この文を読みなさい(左のカードを示して)

窓の雪——中等學校試験問題集

相談相手になつて下さい

- (三) 仁徳天皇はどういふ天子様で入らせられました
- (四) この數を読みなさい(カードを示して)

- ◇ 第二室
- (一) この文を読み——の所を解釋しなさい(カードを示して)
- まるで凱旋將士のやうに見える
- (二) 17.4の三枚のカードを示して、この三つの數字で最も大きい數を作りなさい。
- (三) (地圖を示して)
- 半島とはどんな所ですか
- 海峡とはどんな所ですか

- ◇ 第三室
- (1) 次の計算の誤を直しなさい(カードを示して)

- 24錢+1錢=4錢
- 2+5×3=21
- (二) この文の誤りを直しなさい(カードを示して)
- 一昨日は大變よい天氣であります
- (三) 心臓はどこにありますか

手で指さしめる)

- 心臓の働いて居るのはどうして分りますか
- ◇ 筆記試問
- 一、10mを13歩で歩む人が200m行くには何歩だけ歩むことになりませうか。
- 二、7-(3+1)を計算しなさい
- 三、世界三大強國の名及びその首府を挙げなさい。
- 四、左の文を口語に直してごらんなさい。

未だ一月もたゞざるにかの畫師は突然歸り來れり。
『即座に』を用ひて短文を作りなさい

- 六、ゴムマリを暖めると、なぜかたくなりませうか
- 七、我が國體が萬國に優れて居る點はどんな點ですか。
- 八、種子が発芽するには何が必要ですか
- 九、左の片假名を漢字に直しなさい

- シンプン()
- ザツク()
- 十七から20までの間にある3の位

數をあるだけ書きなさい。

- 筆記試問問題(第一日)
- 一、奥羽地方の縣名をあげなさい
- 二、シンプンと、たぐやんと合むものを二つあげなさい。
- 三、午前8時30分より午後3時までは何時何分ありますか。
- 四、元金100圓利率年1割3ヶ年の利息はいくらですか
- 五、和氣清麿のえらゝ所はどこですか。
- 六、『勝つてかぶとのををしめよ』とは、どんな意味ですか。
- 七、左の文中、棒の所に讀假名をつけて解釋しなさい。
ゴムの需要が激増した。
- 八、えんさん、りうさん、かせいソーダ、石灰水、せうさんの中どれれんが青色のしけん紙を赤く變じますか。
- 九、次の計算をしなさい。
7528
×489
- 十、左の片假名を漢字に直しなさい。
コクミンのリサウ

五六一

弘前工業 (一日目)

◇口頭試問

- 一、〇〇科は何を學ぶ處か何故此科を希望するか。
- 二、日本紀元年数と西暦紀元年数との差は何程か、本年は西暦何年か。
- 三、青森縣の物産の主なるもの(澤山出るもの)五つを挙げなさい。
- 四、金屬の火鉢に觸ると熱いが木製の火鉢は熱くないのは如何なる理か。
- 五、我國の六大都市の名を挙げなさい。
- 六、過ぎたるは及ばざるが如しとは如何云ふ事か。
- 七、行幸、行啓の意。
- △土木)奥羽地方の主な鐵道線路名
- △(建築)木材の外に家屋を造るものにどんなものがあるか(二つ以上挙げしむ)
- △(家具)家具類を造る木材の名を三つ以上挙げなさい。
- △(機械)鐵の錆を防ぐには如何すれば良いか。

一日目

- (1) $930.24 - 84.135 \times 7 + 9.6 + 8$ を計算せよ
- (2) 1秒間に90m飛ぶ燕と1時間に216km進む飛行機の速さの比を求めよ
- (3) 五角形の角は何れも6直角であるならば正五角形の一角は何度か
- (4) 底邊が40mで高さか23mの平行四邊形の地と上底が30m下底が50m高さか18mの梯形の地とはどちらがどれだけ廣いか
- (5) 或仕事をするに甲1人では15日かり乙1人では18日かりる此の仕事が甲が8日だけして残りを乙がした乙は幾日働いたか

◇國語

- (一) 次の文章の附線の所を解釋しなさい。
十和田湖は青森縣と秋田縣の境の山中にある湖で、風光明媚なので全國に鳴りひびいてゐる。湖岸線は大體單調であるが、東南岸だけは二つの半島が並んで突出してゐるため

柏木町農學校

◇試験問題

△國語の部

- 一、元氣ソウセイ()にしてシンシュ()のキシヤウ()に富み、モクテキ()の存する所、必ず實行のケイタク()あり。
- 二、手紙は其の目的や場合の異なるに隨つて(イ)粗精繁簡の趣を異にする必要がある。精密なる説明を要する時には長きを厭はず(ロ)委曲を盡くして書くべく、父母に(ハ)近況を知らせたり、友人の不幸を慰めたりするための手紙は格別として、普通の手紙はなるべく(ニ)簡潔を旨とするがよい。
- (註)一、は()の中に漢字を入れなさい。
- (二)は傍線——のつけたところのみ解釋しなさい。
- △國史の部
- 三、(イ)江戸幕府は誰が開いたか。
- (ロ)參勤交代とは何か。

四、左の人に就いて簡單にお書きなさい。

(イ)吉田松陰

(ロ)伊能忠敬

(以上四題時間三十分)

△算術 (35分)

- (1) 次の数の平方根を求めよ $\sqrt{2207}$
- (2) 下の圓形の面積を求めよ(略)
- (3) 額面200圓の手形がある、これを日歩2錢で割引すると80日分の1割引高は幾らであるか

△理科 (二十分)

- 一、沖積土とは何か。
- 二、湿度計の球部を濡めした布で包んだ時の示度の低いわけを問ふ。
- 三、同歸線とは何か。

△國語

我等が、前代の事を知り、現時の世態を悟り、又廣く思想を社會に通じ、更に之を後人に傳へることの出来るのは、一に文學の賜物である、文明が時代を追うて進歩するのは

窓の雪——入學者氏名

入學者氏名

昭和五年度

- 1 専攻科 (願書受付順)
- 青森師範
- 工藤要一 長内三郎 齋藤辰正
- 三方信一 石岡定四郎 須藤健
- 藏川村修一 笹森貞二 村井
- 倉藏 石郷岡省三 秋元宇之
- 坂本庸一 柏崎源一 工藤次廣
- 野呂朋三 吉田清榮 中條文雄
- 河野公一 工藤秀三郎 大堀清
- 吾最上次郎 白戸爲教 工藤
- 德藏 今貞一 山谷文吉 須藤
- 誠一 木村東洋雄 山田實 丹
- 藤正篤 坂本平二 長尾徳藏
- 山本鏑 寺田重藏 淺田龍市

其の大半は之を文字の功に歸しなればならぬ。

(註)主として發音の可否を見

ること

△算術

- (1) $7 + (-8)$ (ロ) $6 + (-9)$ (ハ) $3 - (-7)$ (ニ) $-4 - (-5)$ (ホ) $(-8) \div 2$
- △地理
- 一、世界六大陸とは何處々々てすか。
- 二、日本で絹織物業の盛な府縣名を云つて御覽なさい

入學者氏名

昭和五年度

- 瀧川貞三郎 松山豊 村上盛義
- 神兼藏 寺井一郎 鹽谷貞利
- 小山内綱雄 花田哲幸 祐川覺
- 三郎 三浦榮三 三星實 田中
- 常次 工藤幸一 以上四十七人
- 右の外に入學者中澤英二河原
- 木治雄の二名は入學取消した

2 本科第二部 (順序に非ず)

- 鈴木健吉 小川末吉 木村正彌
- 安田富助 前田功 中村政勝
- 小井田幸哉 本間四郎治 長尾
- 一郎 高杉榮司 種市良造 辻
- 田輝夫 長利和見 小笠原久
- 福士正一 佐藤清逸 田中道男
- 林武司 阿部政夫 工藤武衛
- 千葉篤 木村米吉 加福專二
- 小山内末美 佐藤武雄 河野長
- 三郎 鈴木富五郎 佐野清藏
- 寺江信雄 鹿内長吉 葛西忠一
- 大谷繁雄 三浦剛 佐藤勝男
- 山崎俊哉 西谷茂樹 木立吉彌
- 山田卓三 工藤弘文 幸田東造
- 内山勳 佐々木丈夫 大島重吉
- 菊地丈夫 須藤陸奥雄 瀧澤正
- 鶴賀喜丈 佐藤貞次郎 湯田勝
- 雄 吉田啓三 堀田豊吉 田中
- 安衛 赤石正夫 工藤博 松江
- 達雄 鳴海磯雄 齋藤榮治 以上五十
- 村正司 齋藤鐵太郎 以上五十
- 九名

3 本科第一部 (順序に非ず)

- 楠美良三 風張良夫 竹ヶ原寛
- 市六 江渡保雄 中谷金四郎
- 中田勇作 山田勝見 阿部文雄
- 渡邊欣吾 八木橋武三郎 佐々
- 木繁雄 鈴木清治 佐藤一正
- 工藤達郎 柿崎精雄 矢澤松五
- 郎 白川清一 白取藤吉 豊島
- 勝藏 藤田正三郎 山内正一
- 中村尙 寺澤日出男 花田幸藏
- 三ッ谷正治 小山内義正 中島
- 由五郎 工藤貞四郎 瀧澤文三
- 唐牛準逸 西塚五郎 白取久美
- 木村伊三郎 福田榮藏 越晋
- 三浦和夫 根岸善藏 横内光男
- 清野正典 田中卯三郎 清藤由
- 男 大野金太郎 齋藤武作 鳴
- 海軍衛 川崎末吉 松本憲三
- 高橋民一 三浦準 工藤正徳
- 山本健三 三浦軍治 木谷英雄
- 館田勇三 村上良民 小笠原利
- 衛 千葉貞三 工藤正雄 村上
- 方一 中村賢造 祐川尙喜 以
- 上六十名

青森女師

- 第一部 吹田みつ 山口よう
- 相馬みつ江 松山ユリ 長谷川
- ふじ 成田チエ 成田タキ 前
- 田みどり 北川テチ 安田トミ
- 岡田トヨ 秋濱ちな 久保ミサ
- 木村こと 木下芳美 高坂

窓の雪——入學者氏名

ツカサ 藤苗きみ 福士ひで 永倉や
米澤きみ江 大場てる 山下愛
石龜一 木村みつ江 長谷川
第二部 葛西みき 今さな 秋田
子 宮館はる 沼田信子 渡
谷のぶ 南みれ 三浦はな
邊静子 戸館はぎ 苦米地しづ
子 小笠原君枝 板垣つゑ
浦節 福士貴美江 福地きよ
下山キミ 兒玉孝子 熊谷カ
宮田ツネ 横山せつ江 大竹
とッ 類家ソメ 奥寺まさ 岡
とし 石井あい 加藤繁女
宮子 専攻科 三浦はるえ 荒川ひ
で 森田喜久江 山形みつ 船
木茶 奈良貞 松島ハル子 中
村ミサヲ 八戸中學
根岸典男 上村六七一 石塚健
作 山田惣吉 宮崎貞廷 奥寺
敏政 岩澤與五 高橋恒治
中野定一 橋本向次郎 吉田弘
上野壽郎 立花司 服部信正
吉田龜一郎 福士耕四郎 吉川
正英 長谷川清吉 相内建吾
木村淳一 藤井稔 松本榮一
小林登美雄 吉田正雄 八木田
正成 福島幸雄 三浦喜平治
清作 高木直作 佐藤正道 伊
藤泰一 野崎孝 生駒誠一 小
島一弘 小山正 石澤季三 油
井三郎 工藤義衛 工藤陸男
花田彌郷 鳴海良平 澤田徹英
成田治郎 阿部直勝 今清七
高谷進三 藤田伊右衛門 石岡
藤田伊右衛門 中村寛藏 安田
正 山本廣 白取常吉 中村
道 千葉恒雄 齋藤啓爾 中
政治 成田六郎 齋藤啓爾 中
道一 柿崎素弘 本多正六 横
枝勤 柿崎素弘 本多正六 横
島秀三郎 武田國雄 石田要三
樽澤傳之助 猪股二郎 植田廣
平 小田桐四郎 小林隆廣 小
山勝夫 三上慶一 富澤宏一
貝沼春之助 工藤良治 今巖
横濱元和 前田忠治 清野純平
田中道夫 土岐尚三 對馬義男
成田正明 大野武 山形暢彦
大川正之 丹場豊之助 佐々木
金吾 伊藤竹二 三浦不二男
杉本新 成田博 木村正孝 古
川倫 朝井良治 花田忠 山
善繁 小館清三 佐々木雅雄 尾
境圓象 石丸志都夫 關小介 菊
地一彦 武田友一 小野幸七
久保勝治 館田嘉三郎 齋藤正行
山本銀司 館田嘉三郎 齋藤正行
三 熊澤穂静 鈴木重雄 鈴木

五六四

窓の雪——入學者氏名

渡邊不二男 横山良市 猪股俊
太郎 榊井良生 木村秀太郎
鈴木明志 郷家隆 逢坂鐵也
齋藤一郎 蝦名哲雄 佐藤宏六
笹田敏行 奈良勝藏 千葉忠一
工藤浩一 太田良穂 木村秀治
柿崎武徳 戸勇貴雄 菊谷幸
四郎 高橋勇造 毛内豊巳 横
一夫 伊藤壽郎 貝森正大
山招造 伊藤壽郎 貝森正大
玉井満 木下正喜 網野要一
柴谷安幸 今川金兵衛 戸兵
衛 奥瀬馨 福井清 加賀谷元
篤太郎 久保田五郎 成田友三
規六 松山豊次 藤田角左衛門
成田正巳 米村一 渡邊謹一
織田昇 千葉貞次郎 井上太郎
佐々木郁郎 鶴谷圭治 西田英
一 相川一守 前田久 山谷勇
大山新一 友田辰雄(出願順)
弘前中學
西谷浩一 西谷諭一 山本誠一
常川源四郎 兼平男治 成田賢
市兵衛 齋藤一雄 相馬豊司 芳賀
青山豊 榜島正文 中井邦衛
川口楠藏 佐藤惣五郎 掛端勇
正 西村千秋 寺田正巳 栗林
春吉 鹽田芳造 吉峰鼎 福多
田村正道 中野正夫 中野吉植
山田實 木幡清甫 山内芳雄
三浦文次郎 晴山數二 村井吉
清春 磯沼忠吉 西村才助 村
藤幸一 福士彌之助 鈴木克美 佐
福田嘉夫 鈴木弘道 福村四郎 木
下秀彌 米内榮八 三浦徳五郎 木
里貢 林英幹 盛田和政 行 梅
原正彦 長南直治 木村和雄
島脇政三 松尾榮一 白石純一
三浦彌太郎 三河理 伊藤重三
三浦彌太郎 三河理 伊藤重三
大久保彦次郎 木村秋朝 北村
達美 林義朝 小倉劍一 野々
口武治 三浦敬治 大島善次郎
上村巳代治 泉通之 山田敏夫
上杉重義 小原健吉 村井龍一
高橋正吉 石橋榮一 泉山政壽
石橋堅一 金入正一郎 齋藤利
尾忠 工藤心一 接侍健治 村
耕田保 上野金川 尻一雄 小
山田勝 荒谷定藏 石岡善四
武内隆二 荒谷定藏 石岡善四
岸登 三國四郎 齋藤五三郎 直江廣
岩館治郎 齋藤五三郎 直江廣
赤澤成章 石橋由松 圓子
白井義章 加藤順平 高橋
澤田芳美 上野政勝 森
中西良雄 松本薫 田村義
山下松治 野田宏 夏堀由
坂本芳藏 船場己一郎 山
浦竹二 馬場英一 大向重次郎
工藤悦郎 佐藤省吾 市川文之
庄司忍 丸山喜一郎 兼田慎
戸田俊太郎 晴山良治 兼田慎
中田武男 戸來力 下斗米
文昌 妻神秀吉(以上百五十一
名)
寄森中學
相馬誠一 柿崎健次 高木俊彦
丸山宏一 遠藤晴美 川村静
山本鷹一 遠藤晴美 川村静
赤坂篤一 中村昌也 小原
甚三 盛田武二 橋本甫也 矢作
時光 新山三成 荒川四郎
川正 菊池芳三 奥口信一 葛石
西稔 石橋三郎 氣仙治一 小
島嘉三郎 下田清輝 島津眞吉
須藤良吉 竹中修一 中村直竹
西卷一郎 原形清定 吉岡正辰
藤田健一 渡邊誠一 奥崎明
吉田健一 清藤英次郎 新田武夫
沼村英雄 上野大六 北村武四
海保弘 寺尾定雄 鈴木茂
坂井信治 西澤平悦 小倉

五六五

杉山宏 田中正輝 太田守信 金川鐵男 工藤慶一 藤川正 山田新治 今勝雄 古川治三 丸山直 山田善祐 須藤才吉 中野武左門 逢坂通 伊藤立郎 三浦武七 丸山善造 高橋正行 安田秀一 山本良一 石岡健三 若山清一 伊藤彦三郎 葛西清之 正毅 福士繁代 白川清之 郷圓太郎 蝦名勝雄 齋藤勝男 高杉邦四郎 兼平鐵雄 工藤武 良奈良茂藏 七尾和夫 中村 敏三 蝦名喜代治 鳴海信策 禮三 蝦名喜代治 鳴海信策 神富美夫 太田輝夫 北勝司 佐藤正男 成田忠治 太田初男 雪田武治 井藤龍二 宮地喜八 辰美 小倉清喜 中里榮治 葛西 西賢治 中村清六 宮本一 衛内海重 宮崎恒藏 小太郎 士榮 佐々重 木長四郎 高島力藏 看倉茂雄 成木善三 大坂誠七 金丸正己 櫻庭正美 下遠正 岩船享 櫻庭正美 下遠正 越浪文三 千葉正時 吹田守正 田村正三 千葉正時 吹田守正 逸見吉弘 本間金助 齊藤義夫 工藤茂雄 今幸太郎 柳澤精太

秋元貞男 川原正勝 今西澤勝義 小笠原正六 三上秀 郎 久保喜八郎 秋元豊明 西澤繁 平山亮三郎 成田繁雄 黒瀧弘 藏 工藤輝 田端勝一 夏原善太 白鳥義輝 成田繁雄 黒瀧弘 井重雄 高橋幸悟 松田道雄 竹澤四郎 和田慶藏 濱田正 西澤幸一 村林廣吉 木村政之 淵田喜代治 宮地武一郎 赤坂 正 大坂民幸 小宮山定澄 小 笠原又藏 中田昌平 石谷哲雄 長内正一 櫻庭勝雄 栗田實三 秋元敦 板垣正四郎 種口良三 若山善光 工藤勇助 青木亮次 村上之男 川邊耕治 納家富芳 成田久男 奈良愛男 野宮永幸 山崎眞一 木村秀彌 中村安治 本山勝司 飛内益雄 鹿内勇吉 木村政雄 古川武彌 大澤由松 柿崎丑藏 三浦泰藏 對馬勝信 淺瀬石博 西澤喜三郎 相澤德 一 小笠原勇 長谷川三治 馬 淵隆三(百六十名但出願順)

弘前工業 工藤博 角田忠雄 間部勝太郎 工藤猛 吉崎松雄 藤田健 樋口幸一 鈴木彌助 濱田保司 工藤勇 藤田重常 藤田助三 高杉專一 西谷博 宮川辰之助 下山茂樹

五所川原農 木村彦雄 木村直一 藤田忠造 平山俊次 木村才太郎 佐々木定男 長内繁造 越後谷 豐藏 小山内福次

木村才太郎

山田文甫 長 高橋慶造 赤石武四郎 長尾二 郎 工藤文男 山口忠男 太田 仁三郎

第四學年編入合格(席順不同) 佐藤慎一郎 古川誠 太田初夫 村井俊男 三浦淳一 中村良造 小野武三 三浦淳一 小笠原芳一 水産學校 永田保 泉山忠雄 武部義雄 相澤規矩司 柳谷市五郎 廣田 寅次郎 千葉茂 姥名定次郎 蛭田武治 小西源之丞 佐野彌 七 安藤清次郎 島脇福藏 熊野 淺五郎 清水正雄 橋太助 磯島富五郎 高谷正太郎 荒瀬 哲夫 岩船和志隆 福井吉之助 成田東吉 高松要 福井吉之助 笹渡勇介 阿部隆郎 石戸健藏 越後榮次郎 福島金吾 下学坪 寅之助 田中佐太郎 石倉正一 渡邊慶次郎 新山三吉 濱田福 一郎 小笠原富藏 鈴木善五郎 佐々木惣七 晴山武次郎 加藤 清次郎 五戸由太郎 大下吉藏 柳澤大吉 榎谷兼太郎 松橋貞 治 鈴木正四 武部武三 柏木町農 長六 横山武衛 中村健一郎 山内榮之進 須藤繁美 鎌田武

三 清野徳彌 一戸繁甫 中田 田澤定吉 田澤重五郎 古川道
 義親 内山義雄 桑田竹三 木 田澤定吉 田澤重五郎 古川道
 村武四郎 齋藤繁四郎 小野勤 小 田澤定吉 田澤重五郎 古川道
 野早苗 相馬正久 山口由三 小 田澤定吉 田澤重五郎 古川道
 山谷琳造 桑田勝榮 山口由三 小 田澤定吉 田澤重五郎 古川道
 衛今井義盛 樽引岩藏 今井 田澤定吉 田澤重五郎 古川道
 兼次 長谷川毅 工藤芳雄 對 田澤定吉 田澤重五郎 古川道
 馬庄一 奈良榮造 古川喜代策 對 田澤定吉 田澤重五郎 古川道
 古川欽一 今井寅一 工藤武四 對 田澤定吉 田澤重五郎 古川道
 志郎 對馬彦市 花田鏡夫 齋 田澤定吉 田澤重五郎 古川道
 藤田稗 齋藤新吉 天內千代治 齋 田澤定吉 田澤重五郎 古川道
 齊藤百衛 八木橋忠一郎 古川 田澤定吉 田澤重五郎 古川道
 清孝 齋藤清美 工藤勝雄 菊 田澤定吉 田澤重五郎 古川道
 池正 古川峰雄 相馬喜八郎 菊 田澤定吉 田澤重五郎 古川道
 永井健造 佐藤健吉 小田桐榮 田澤定吉 田澤重五郎 古川道
 一 西谷健司 館山嘉一 三上 田澤定吉 田澤重五郎 古川道
 武雄 稻葉順一 田澤清一 小 田澤定吉 田澤重五郎 古川道
 笠原鐵藏 山田貞雄 芳賀直一 小 田澤定吉 田澤重五郎 古川道
 小内武司 菊池松太郎 古川 田澤定吉 田澤重五郎 古川道
 正一 船水健三 岩淵久一 古川 田澤定吉 田澤重五郎 古川道
 浦諒二 相馬久藏 須藤三郎 一 田澤定吉 田澤重五郎 古川道
 門成 阿部良八 須藤三郎 一 田澤定吉 田澤重五郎 古川道
 戸勇吉 工藤榮治 齋藤三 一 田澤定吉 田澤重五郎 古川道
 高木又藏 工藤榮治 齋藤三 一 田澤定吉 田澤重五郎 古川道
 岩淵徳次郎 道川康文 松田秀 一 田澤定吉 田澤重五郎 古川道
 光 横山金作 齋藤彌三郎 佐 田澤定吉 田澤重五郎 古川道
 藤勇三 長尾勝雄 小笠原惣助 田澤定吉 田澤重五郎 古川道
 工藤清 岩淵潔 對馬實 奈良 田澤定吉 田澤重五郎 古川道
 忠司 木村兵太郎 清藤幸一 田澤定吉 田澤重五郎 古川道

菅原アイ 菊池貞子 (出願番號順)

八戸高女
 土屋はる 村中テイ 中原貞子
 吉田ハナ 平田とみ 中村富子
 中村きみ 島山輝子 村田富子
 子 春日篤子 奥田フミ 佐藤
 みさほ 長谷川ツヤ 齊藤菊子
 中居ヨカ 石井アサ 川村トキ
 兒玉ヨカ 田中トミ 竹内喜美
 鳥屋部久子 三浦隆子 三田い
 と 中川原とし 堤ミツ 石岡
 靖代 鈴木さだ 戸狩トキ 三
 浦ハル 木村せつ 坂本みや
 村井八重 玉川ちや 野澤なほ
 築田つさ 泉山長子 石橋晴江
 上斗米ユキ 中村セツ 夏堀千
 登世 土役しげ 蒔田てる 大
 渡みどり 小佐野幸枝 志賀満
 子 上田トミ 丸山かをる 神
 中里榮 山田カス 戸狩みゆき
 澤藤節子 遠山昌 泉山みよ
 廣澤淑子 佐々木トヨ 江原と
 し 浦邊富江 村田まし 廣田
 美字 古川澄子 野村良 伊勢
 崎よれ 老松千枝子 岡部チエ
 杉本せい 米田さなへ 石橋八
 重 橋本和子 坂本ヨシ 福井
 テツ 宗洋子 加藤のぶ 藤井
 かの 林照 竹澤竹 杉澤マサ

窓の雪——入學者氏名

黒瀧きみ 古川きく 小關フ...

木村亮一 坂下市郎 菊池東一...

木田幸太郎 藤原植 中村巳之...

熊谷八重 梅本トメ 大西ユ...

カス 久保きみよ 南山とみ...

とみ 木村ヤエ 木村まさ...

與 石澤きくよ 石川壽に...

八木橋初代 白崎きわ 田中...

窓の雪——入學者氏名

子 岡本成江 上林京子 川村...

協成高女 協成中學...

協成高女 協成中學...

協成高女 協成中學...

社會教育

教育團體

青森縣教育會

縣教育界の改善發達を圖る目的から教育に關する諸般の調査研究をなし、縣外視察員の派遣機關雜誌發行、郷土史其他の圖書刊行、論文募集、講演會、講習會、研究會の開催、善行者、教育功勞者、優良兒童の表彰を行ひ、或は官廳の諮問等に答へ官廳に對する建議をなす等、本縣教育界に於ける最高權威の團體である。昭和五年度豫算は約一萬一千五百圓で新事業として實業補習教育研究會を毎年縣下二箇所に開催し中央より知名人士を招聘して實業補習教育の普及徹底に努力してゐる。會員は縣下の教育關係者、有志者約三千名で事務所を縣學務部教育課に置き現在役員は左の如くである。

▽總裁 青森縣知事 平井三男

▽會長 青森縣學務部長 上田一郎

▽副會長 同上學務部教育課長 鈴木忠直

▽同 縣師範學校長 森山辰之助

▽理事 青森市内各中等學校長

本會の決議機關は總會代議員會(別項の各郡市教育會より選出)役員會の三種である。

郡市教育會

東津輕郡教育會

油川尋常高等小學校に事務所を置き、第一支部(荒川小學校)第二支部(油川小學校)、第三支部(蟹田小學校)、第四支部(三厩小學校)、第五支部(小湊小學校)の六支部を置く。會員四百五十名、基本財産一千二百四十圓、役員は左の如し。

▽會長 村上忠次郎▽副會長 倉光續光

▽理事 一名 中村喜洋志▽監事 鎌田辰小山内德行 高松政之丞 木山善成▽主事 山下健藏 折登岩次

▽會計 藤原重幸 神正雄 川崎保太郎

▽評議員 六名

▽西津輕郡教育會

餘ヶ澤町西津輕尋常高等小學校に事務所を置き第一支部(餘ヶ澤校)、第二支部(木造校)、第三支部(豊川校)、第四支部(深浦校)の四支部に分つ。會員二百五十名、講習會、會報發行、研究會、通俗講演會、視察員派遣等を事業としてゐる。基本財産一萬八百四圓二十九錢を著積す。役員は

▽會長 村上忠次郎▽副會長 倉光續光

▽理事 一名 中村喜洋志▽監事 鎌田辰小山内德行 高松政之丞 木山善成▽主事 山下健藏 折登岩次

▽會計 藤原重幸 神正雄 川崎保太郎

▽評議員 六名

▽南津輕郡教育會

社団法人組織で黒石尋常小學校に事務所を置く。會員四百五十名を算し黒石分會、浪岡分會、藤崎分會、柏木町分會、大鰐分會の五分會に分けてゐる。基本財産一萬二千九百八十七圓三十錢の基

▽會長 原康一▽副會長 渡部義雄

▽理事 楠美藤太郎 三上祐三郎 佐藤良則▽幹事 柿崎次郎 藤田實 柿崎春雄 横山實▽縣教育會代議員 和田喜太郎 佐藤良則 小林長三郎

▽弘前市教育會

弘前市時敏尋常高等小學校に事務所を置く。會員二百二十五名、基金五百三十圓、育英會基金三千圓を有し、昭和四年度以降に於ける社會教育上の實施事項は

▽明治會員 里見岸雄氏講演會▽千葉胤明氏講演會▽海軍中將佐藤軍藏氏 陸軍中將谷田繁太郎氏の軍縮問題講演會▽村川帝大教授の夏季講習會(世界の大事)

▽東京高師橋本訓導の理科教育講習會▽瑞西大學教授ジママン氏の講演會

等て役員は左の通り

▽會長 白取千代次郎▽副會長 花

校)、第六支部(久栗坂小學校)の六支部を置く。會員三百名、研究發表、東青聯合教育品展覽會、講習會、授業研究會、會報の發行等を行つてゐる。基本財産四千三百八圓七十六錢を有す。役員は

▽會長 鎌田喜洋美▽副會長 南由造▽理事 小島友吉 加藤八郎兵衛 寺澤得二 木村善六郎▽縣教育會代議員 山崎連藏 川村健次▽評議員 六名

▽中津輕郡教育會

玉成高等小學校(弘前市)に事務所を置く。全員二百二十三名、財産五千圓を有し、事業としては滿鮮視察及縣外視察團派遣、講習會、講演會及通俗講演會開催、研究獎勵及功勞者の表彰、體育會の開催等を行つてゐる。役員は

▽會長 佐藤佐一▽副會長 長今次郎▽理事 堀内國三郎 長内豊一 笹森重幸 神正雄 川崎保太郎

▽縣教育會代議員 佐藤元右衛門 千葉多七▽常議員 九名

▽南津輕郡教育會

社団法人組織で黒石尋常小學校に事務所を置く。會員四百五十名を算し黒石分會、浪岡分會、藤崎分會、柏木町分會、大鰐分會の五分會に分けてゐる。基本財産一萬二千九百八十七圓三十錢の基

▽會長 原康一▽副會長 渡部義雄

▽理事 楠美藤太郎 三上祐三郎 佐藤良則▽幹事 柿崎次郎 藤田實 柿崎春雄 横山實▽縣教育會代議員 和田喜太郎 佐藤良則 小林長三郎

▽弘前市教育會

弘前市時敏尋常高等小學校に事務所を置く。會員二百二十五名、基金五百三十圓、育英會基金三千圓を有し、昭和四年度以降に於ける社會教育上の實施事項は

▽明治會員 里見岸雄氏講演會▽千葉胤明氏講演會▽海軍中將佐藤軍藏氏 陸軍中將谷田繁太郎氏の軍縮問題講演會▽村川帝大教授の夏季講習會(世界の大事)

▽東京高師橋本訓導の理科教育講習會▽瑞西大學教授ジママン氏の講演會

等て役員は左の通り

▽會長 白取千代次郎▽副會長 花

▽青森市教育會

新町尋常小學校に事務所を置き會員五百三十名を有す、事業として講習會講演會の開催、教育に關する調査會、學事視察員派遣、功勞者表彰等を行つて昭和四年度の社會教育上の施設として朝鮮滿蒙問題講演會、養鷄講習會、日本料理講習會、宗教々々

▽會長 佐藤佐一▽副會長 長今次郎▽理事 堀内國三郎 長内豊一 笹森重幸 神正雄 川崎保太郎

▽縣教育會代議員 佐藤元右衛門 千葉多七▽常議員 九名

▽南津輕郡教育會

社団法人組織で黒石尋常小學校に事務所を置く。會員四百五十名を算し黒石分會、浪岡分會、藤崎分會、柏木町分會、大鰐分會の五分會に分けてゐる。基本財産一萬二千九百八十七圓三十錢の基

▽會長 原康一▽副會長 渡部義雄

▽理事 楠美藤太郎 三上祐三郎 佐藤良則▽幹事 柿崎次郎 藤田實 柿崎春雄 横山實▽縣教育會代議員 和田喜太郎 佐藤良則 小林長三郎

▽弘前市教育會

弘前市時敏尋常高等小學校に事務所を置く。會員二百二十五名、基金五百三十圓、育英會基金三千圓を有し、昭和四年度以降に於ける社會教育上の實施事項は

▽明治會員 里見岸雄氏講演會▽千葉胤明氏講演會▽海軍中將佐藤軍藏氏 陸軍中將谷田繁太郎氏の軍縮問題講演會▽村川帝大教授の夏季講習會(世界の大事)

▽東京高師橋本訓導の理科教育講習會▽瑞西大學教授ジママン氏の講演會

等て役員は左の通り

▽會長 白取千代次郎▽副會長 花

▽青森縣教育會

縣教育界の改善發達を圖る目的から教育に關する諸般の調査研究をなし、縣外視察員の派遣機關雜誌發行、郷土史其他の圖書刊行、論文募集、講演會、講習會、研究會の開催、善行者、教育功勞者、優良兒童の表彰を行ひ、或は官廳の諮問等に答へ官廳に對する建議をなす等、本縣教育界に於ける最高權威の團體である。昭和五年度豫算は約一萬一千五百圓で新事業として實業補習教育研究會を毎年縣下二箇所に開催し中央より知名人士を招聘して實業補習教育の普及徹底に努力してゐる。會員は縣下の教育關係者、有志者約三千名で事務所を縣學務部教育課に置き現在役員は左の如くである。

▽總裁 青森縣知事 平井三男

▽會長 青森縣學務部長 上田一郎

催、會員研究會發表會開催、會員互助部獎勵交付金補助、功績者表彰等を行つてゐる。役員左の如し。

北津輕郡教育會

五所川原尋常高等小學校に事務所を置く、部會を五所川原女子校(一部會)、板柳校(二部會)金木第一校(三部會)、小泊校(第四部)に置く、會員二百九十五名で積立基金二千圓を有す。事業として、會報發行、初等教育研究會、女教員會、講習會、調査研究、通俗講演會、懸賞論文募集、縣外視察團組織、教育功勞者表彰、展覽會等を行つてゐる。役員は

▽會長 荒谷元一▽副會長 小笠原保雄 福田竹太郎▽主事 木村將雄 佐藤不二男 西谷榮 川口勇▽常議員 十四名▽縣教育會代議員 小笠原保雄 齋藤正五郎 荒谷元一

青森縣教育會

事務所を七戸町に置き會員四百五十名を有し之を三支部に分けてゐる。事業としては會員互助、教育功勞者表彰、研究獎勵、視察員派遣、講習會等を催してゐる、財産としては基本財産四千圓山林二十九町一段六畝十五歩、宅地九十坪九合六勺、住宅四十三坪七合を有し役員は

▽會長 荒谷元一▽副會長 小笠原保雄 福田竹太郎▽主事 木村將雄 佐藤不二男 西谷榮 川口勇▽常議員 十四名▽縣教育會代議員 小笠原保雄 齋藤正五郎 荒谷元一

北津輕郡教育會

五所川原尋常高等小學校に事務所を置く、部會を五所川原女子校(一部會)、板柳校(二部會)金木第一校(三部會)、小泊校(第四部)に置く、會員二百九十五名で積立基金二千圓を有す。事業として、會報發行、初等教育研究會、女教員會、講習會、調査研究、通俗講演會、懸賞論文募集、縣外視察團組織、教育功勞者表彰、展覽會等を行つてゐる。役員は

▽會長 荒谷元一▽副會長 小笠原保雄 福田竹太郎▽主事 木村將雄 佐藤不二男 西谷榮 川口勇▽常議員 十四名▽縣教育會代議員 小笠原保雄 齋藤正五郎 荒谷元一

青森縣教育會

事務所を七戸町に置き會員四百五十名を有し之を三支部に分けてゐる。事業としては會員互助、教育功勞者表彰、研究獎勵、視察員派遣、講習會等を催してゐる、財産としては基本財産四千圓山林二十九町一段六畝十五歩、宅地九十坪九合六勺、住宅四十三坪七合を有し役員は

▽會長 荒谷元一▽副會長 小笠原保雄 福田竹太郎▽主事 木村將雄 佐藤不二男 西谷榮 川口勇▽常議員 十四名▽縣教育會代議員 小笠原保雄 齋藤正五郎 荒谷元一

北津輕郡教育會

五所川原尋常高等小學校に事務所を置く、部會を五所川原女子校(一部會)、板柳校(二部會)金木第一校(三部會)、小泊校(第四部)に置く、會員二百九十五名で積立基金二千圓を有す。事業として、會報發行、初等教育研究會、女教員會、講習會、調査研究、通俗講演會、懸賞論文募集、縣外視察團組織、教育功勞者表彰、展覽會等を行つてゐる。役員は

▽會長 荒谷元一▽副會長 小笠原保雄 福田竹太郎▽主事 木村將雄 佐藤不二男 西谷榮 川口勇▽常議員 十四名▽縣教育會代議員 小笠原保雄 齋藤正五郎 荒谷元一

青森縣教育會

事務所を七戸町に置き會員四百五十名を有し之を三支部に分けてゐる。事業としては會員互助、教育功勞者表彰、研究獎勵、視察員派遣、講習會等を催してゐる、財産としては基本財産四千圓山林二十九町一段六畝十五歩、宅地九十坪九合六勺、住宅四十三坪七合を有し役員は

▽會長 荒谷元一▽副會長 小笠原保雄 福田竹太郎▽主事 木村將雄 佐藤不二男 西谷榮 川口勇▽常議員 十四名▽縣教育會代議員 小笠原保雄 齋藤正五郎 荒谷元一

北津輕郡教育會

五所川原尋常高等小學校に事務所を置く、部會を五所川原女子校(一部會)、板柳校(二部會)金木第一校(三部會)、小泊校(第四部)に置く、會員二百九十五名で積立基金二千圓を有す。事業として、會報發行、初等教育研究會、女教員會、講習會、調査研究、通俗講演會、懸賞論文募集、縣外視察團組織、教育功勞者表彰、展覽會等を行つてゐる。役員は

▽會長 荒谷元一▽副會長 小笠原保雄 福田竹太郎▽主事 木村將雄 佐藤不二男 西谷榮 川口勇▽常議員 十四名▽縣教育會代議員 小笠原保雄 齋藤正五郎 荒谷元一

青森縣教育會

事務所を七戸町に置き會員四百五十名を有し之を三支部に分けてゐる。事業としては會員互助、教育功勞者表彰、研究獎勵、視察員派遣、講習會等を催してゐる、財産としては基本財産四千圓山林二十九町一段六畝十五歩、宅地九十坪九合六勺、住宅四十三坪七合を有し役員は

田堅治▽理事川村貞一 木村東

◇八戸市教育會

四年七月七日創立で長者尋常小學校内に事務所を置く會員二百八名で、四年度に於ける事業を列記せば

▽飯田隱老師の宗教と教育講演會▽參禪會▽遊戯講習會▽理科研究會▽籠球研究會▽志垣寛氏講演會▽志賀直方 高橋刀畔氏の生活能率増進講演會▽研究發表會

基本財産三千圓有り、現在役員左の如し

▽會長太田康衛▽副會長丸山董▽理事築瀬眞 小沼勉、木村定太郎 工藤義雄

女教員會

本縣内の女教員會は殆んど各郡市教育會の下に組織されてゐる。女教員會の出現以來未だ歳淺く尙創立されてゐない郡もあるが、既に組織された會は何れも積極的に其目的に精進してゐるので發展を期待されてゐる。

◇中郡女教員會

郡教育會事務所内事務所を置き會員六十二名を有し事業をして視察團派遣講習會等を行つてゐる。役員は

▽會長川越きさ▽副會長成田りつ▽理事中川はぎえ 山形美枝

◇南郡女教員會

會員六十名を有し南郡教育會事務所と所を同じうしてゐる、事業としては遊戯講習等、名士講演會、會員合同視察員派遣、會員研究發表會等を行つてゐる役員は

▽幹事長缺員▽幹事千葉きぬ 鳴海いつ 村上ちよ▽委員(黒石分會)小山内ちよ 今ふみ(藤崎分會)淺利せつ 坂本しげ(柏木町分會)清藤じゆん 東海うめ(浪岡分會)常田みさほ 最上みよ(大鰐分會)中村せつ 竹内ひき

◇北郡女教員會

北郡教育會の事業として組織され同教育會中の女教員を以て組織してゐる。事業としては實地授業、研究發表、名士講演、調査研究、視察、講習等を行ひ

教員互助會

各郡市教育會内に組織され不慮の災厄、轉任、退職等の場合金員を贈り生活の互助を目的としてゐる、各會に依つてそれぞれ内容に多少の相違があるが現在組織されてゐる互助會の狀況は左の如くである

◇中郡教育互助會

貯金總額五千九百三圓に達してゐる

◇南郡教育互助會

昭和三年十一月の組織で會員數三百七十六名、口數四百四十口(一口五十錢)で積立金三千三百圓あり四年度に於て死亡者に對する弔慰料二人計四十圓、疾病者に對する慰藉料二十八人計四百九圓二十錢、罹災者に對する慰藉料を二人に贈與した

◇北郡教員互助會

大正六年七月組織し會員は毎月々俸百分の一を積立して左の如く贈與することになつてゐる

▽會員死亡の際には積立金額に十圓乃至八十圓▽傷災、疾病によ

り或は年齢六十歳を超え職にたへず退職の場合は積立金額に五圓乃至八十圓

▽不時の災厄により家産の大部分を失つた時は十五圓以内▽病氣のため執務せざることを六十日以上又は職務のため傷疾疾病に罹り執務せざること三十日以上の場合には金十圓

▽家事の都合により退職し若くは他郡市へ轉任の場合は積立金額に相當金額添附す

◇上北郡教員互助會

會員は毎年四月、月俸の百分の五を積出し退職又は郡外への轉任者に月俸百分の五に其在職年數を乗じた額を贈與す、現職死亡者には右の額にその額の五割を加贈す

◇下北郡教員互助會

下北郡教育會員百八十名とし積立金一萬圓に達してゐる

教育懇談會

教育に關する意見交換のため組織されたもので事務所を青森縣立圖書館に置き役員は常任幹事佐藤勝雄氏、幹事は三名宛つ

輪番で之に當り毎月一回集會を開いてゐる會員四十七名

圖書館

青森縣内に於ける圖書館總數は現在百五十一館で此中譯は縣立一、市立二、町立五、村立一〇、私立百四十七である。私立の大部分は小學校に併置されてゐる簡易圖書館で之は大正九年に縣が簡易圖書館設置獎勵規程を設けて補助金を交はして來たので著しく普及されたものであるが、昭和五年度から縣財政緊縮關係から補助を中止した爲め簡易圖書館の發達上一頓挫を來した形となつてゐる。縣内に於ける公私立の主なるもの内容を掲ぐれば左の如くである。

◇青森縣立圖書館

縣立圖書館は青森市から一萬五千圓、同市渡邊佐助氏から一萬圓其他寄附總額三萬九千六百圓を合せ四萬一千二百五十圓の費を投じて設立、圖書館長に福士百衛氏、司書に佐藤勝雄氏を任命して昭和三年八月十日から

◇上北郡南郡女教員會

上北郡教育會の南分會區域の女教員を以て組織し事務所を三本木町小學校に置く、視察、教材研究會或は講演會講習會を開催してゐる。役員氏名左の如し

▽會長缺員▽副會長渡部さだ▽幹事佐々木つき 木村喜恵 沼宮内悦 八島きく

◇下北郡女教員會

田名部小學校に事務所を置き會員八十名で毎年一回總會及び教育研究會を開催し其他事業は郡教育會と同じである。役員は▽會長篠崎とめ▽副會長菊地りう▽幹事渡部ひでよ 水野英子 永井ナリ 鷺島きさ 狩野尾ト 濱田この

◇青森市女教員會

橋本小學校に事務所を置き會員八十五名で事業には講習會、講演會、學事視察等を行つてゐる。役員は

▽會長藤田たか▽副會長津谷とみ▽幹事松谷やゑ 兒玉みね

青森市縣廳通り舊東津輕郡役所跡を改造して開館した。建物延坪二百四十六坪、閱覽室定員は特別十、普通九十六、婦人十二、兒童四十、新聞雜誌五十で、昭和四年度豫算一萬八千四百圓、五年度豫算一萬三千二百三十圓

此中四年度で一萬圓代の圖書を購入し五年度には五千圓代購入することになつてゐる。現在の蔵書約一萬八千六百五冊で四年四月から五年三月までの開館數三百二十八圓、閱覽者總數五萬六千四百二十二(一日平均百七十二人)であつた。

◇市立弘前圖書館

明治卅五年私立弘前圖書館として設立されたもので本縣最初の圖書館である。明治三十九年五月十日市立となし同市下白銀町に置き現在蔵書三冊數二萬四千七百九十一冊、一ヶ年の閱覽者七萬六千八百九十四人で附帶事業として展覽會讀書會、講演會等を行つてゐる

◇八戸市立圖書館

八戸市鷹匠小路に在り大正二年七月十八日の創立で蔵書數一萬四千八百四十三冊、一ヶ年の閱覽者七千三百五十四人である。

◇私立青森通俗圖書館

青森市寺町に在り大正七年八月九日の開館である。東奥日報社員一戸岳逸氏の單獨經營に係るもので其の蔵書の豊富なること個人經營圖書館として驚異に價する。その蔵書は和漢書一萬九千七百七十冊、洋書四百三十三冊計二萬八千三百三冊に達し四年度の閱覽者三萬六千六百六十六名である。

◇新渡戸文庫

上北郡三本木町瀬戸山に在り大正十五年七月太田常利氏の設立經營するもので蔵書六千五百五十冊、閱覽者千三百二十六名

◇七戸町立圖書館

大正四年の創立で蔵書二千七百六十冊を有してゐる

◇北津輕郡報德會圖書館

五所川原町に在り社団法人北津輕郡報德自治善隣會の設立經營するものである。二千四百の書冊を蔵し一ヶ年の閱覽者四千七百名

◇野邊地町立圖書館

野邊地小學校に併置し明治四十二年創設

社會教育——圖書館——成人教育

縣內圖書館一覽

種別	館名	創立年月	位	置
縣立	青森縣立圖書館	昭和三、八、二〇		青森市縣廳通
市立	青森通俗圖書館	大正七、八、九		青森市寺町一戸岳逸
市立	弘前圖書館	明治三、五、九		弘前市下白銀町
市立	八戸市立圖書館	大正二、七、八		八戸町鷹匠小路
私立	後湯德進會圖書館	大正三、二、九		後湯青年分團德進會事務所
私立	中澤簡易圖書館	同 三、三、一		後湯村中澤尋常小學校
私立	蓬田圖書館	同 三、三、五		蓬田尋常高等小學校
私立	小橋圖書館	同 三、三、三		後湯村小橋分團事務所
私立	小湊簡易圖書館	同 三、九、五		小湊尋常高等小學校
私立	奧内小學校同窓會圖書館	同 三、九、六		奧内村大字清水
私立	下小國簡易圖書館	同 三、八、一		蟹田村大字小國字山崎
私立	釜ノ澤圖書館	同 三、四、三〇		三厩村釜ノ澤青年團事務所
私立	元宇鐵圖書館	同 三、四、三〇		宇鐵尋常高等小學校
私立	野澤青年分團簡易圖書館	同 二、五、一		高田村野澤小學校
私立	廣瀨簡易圖書館	同 三、七、六		蓬田村廣瀨尋常高等小學校
私立	三厩青年分團簡易圖書館	同 三、一〇、一		三厩尋常高等小學校
私立	安田簡易圖書館	同 三、一〇、五		大野村安田小學校
私立	野田青年分團簡易圖書館	同 三、一〇、三		平館村野田小學校
私立	東岳村青年分團簡易圖書館	同 三、三、一		東岳村宮田小學校
私立	今津青年分團簡易圖書館	同 三、三、一		平館村今津青年分團事務所
私立	橫内圖書館	同 三、三、七		橫内村大字橫内字龜井
私立	大平簡易圖書館	同 三、一、一		蟹田村大字大平

藏書千八百七十四、閱覽者七千七百二十四人に達す
 ◇三本木町立圖書館 三本木小學校に在り
 明治四十二年の創立で藏書千七百九十八、
 閱覽者三千四百九十二人

成人教育

文部省の囑託により縣學務部が大正十五年以來縣内各地に於て成人教育講座を開始してゐるが逐年効果を收めてゐる。昭和四年度は婦人を目的の講座を縣下七ヶ所に開催したが開催地附近の町村長、小學校長、青年團長の集合を求めて聴講生勧誘方法を協議し、長期間に至る講座は結果が思はずくないので四年度からは大體三ヶ月で終了するの方針を樹て、實施したので豫期以上の好結果を收め、從來開催した町村からは引き続き開催の希望を申出てゐる有様である。四年度の開催地及聴講者數等左の如し

開催地	期	日	申込者	修了者
下北郡大湊小學校	自三月三日	一、二、三	六	六
中郡藤代村小學校	自二月九日	一、二、三、四、五	一〇	一〇
三戸郡淺田村小學校	自一月八日	一、二、三、四、五、六、七、八	一七	一七
南郡石川町小學校	自二月十一日	一、二、三、四、五、六	一五	一五

種別	館名	創立年月	位	置
私立	荒川簡易圖書館	大正三、三、三〇		荒川尋常高等小學校
私立	久栗坂簡易圖書館	同 三、二、一		野内村久栗坂尋常高等小學校
私立	蟹田簡易圖書館	同 三、二、一		蟹田尋常高等小學校
私立	金濱學區青年簡易圖書館	同 三、三、一		荒川村金濱小學校
私立	清水川簡易圖書館	同 三、三、六		東平内村清水川小學校
私立	古川青年團簡易圖書館	同 三、一、六		瀧内村古川青年團長宅
私立	西田澤記念圖書館	同 三、五、一		奧内村大字飛鳥字鹽越
私立	中小國簡易圖書館	同 三、八、三		蟹田村大字小國南田
私立	孫内青年團簡易圖書館	同 三、八、四		瀧内村大字孫内
私立	磯山青年分團簡易圖書館	同 三、三、二〇		平館村石濱小學校
私立	上小國簡易圖書館	同 三、一、六		蟹田村大字小國谷田
私立	筒井圖書館	同 四、三、一		筒井尋常高等小學校
私立	新城圖書館	同 四、三、三		新城村新城尋常高等小學校
私立	松森簡易圖書館	同 四、三、三		濱館村大字松森青年團長方
私立	細越簡易圖書館	同 四、七、三		大野村細越小學校
私立	石濱簡易圖書館	同 四、七、三		蟹田村大字石濱磯山
私立	根岸青年分團簡易圖書館	同 四、二、八		平館尋常高等小學校
私立	淺虫簡易圖書館	同 四、一〇、一		淺虫尋常高等小學校
私立	高田青年分團簡易圖書館	同 三、一、二〇		高田村大字同川瀬
私立	山本簡易圖書館	同 一、五、一〇		蟹田村大字山本紅葉坂
私立	鹽越簡易圖書館	同 一、五、一〇		同 村大字鹽越
私立	戸門簡易圖書館	昭和二、三、〇		新城村戸門小學校
私立	南金澤小學校	大正〇、一〇、一		赤石村南金澤小學校
私立	同窓會簡易圖書館	同 一、一〇、三		柴田村大字福原野呂昌一方
私立	福原簡易圖書館	同 一、一〇、三		川除村大字福原野呂昌一方
私立	川除村青年團簡易圖書館	同 三、三、〇		川除小學校内

講座名	講師	場所	年	場	代	田	川	石	蓬	白	金	計
▽家庭衛生、榮養學大意	衛生課長 山本 憲一	東郡蓬田村小學校	未滿	五	三	五	一	一	一	一	一	一
▽家庭衛生、榮養學大意	衛生課長 山本 憲一	八戸市白銀小學校	未滿	五	三	五	一	一	一	一	一	一
▽家庭衛生、榮養學大意	衛生課長 山本 憲一	北郡金木町小學校	未滿	五	三	五	一	一	一	一	一	一
▽家庭衛生、榮養學大意	衛生課長 山本 憲一	而して講座科目及講師は	未滿	五	三	五	一	一	一	一	一	一
▽國民道徳	視學官 福士 百衛	東郡蓬田村小學校	未滿	五	三	五	一	一	一	一	一	一
▽國民道徳	視學官 福士 百衛	八戸市白銀小學校	未滿	五	三	五	一	一	一	一	一	一
▽國民道徳	視學官 福士 百衛	北郡金木町小學校	未滿	五	三	五	一	一	一	一	一	一
▽國民道徳	視學官 福士 百衛	而して講座科目及講師は	未滿	五	三	五	一	一	一	一	一	一
▽家庭衛生、榮養學大意	衛生課長 山本 憲一	東郡蓬田村小學校	未滿	五	三	五	一	一	一	一	一	一
▽家庭衛生、榮養學大意	衛生課長 山本 憲一	八戸市白銀小學校	未滿	五	三	五	一	一	一	一	一	一
▽家庭衛生、榮養學大意	衛生課長 山本 憲一	北郡金木町小學校	未滿	五	三	五	一	一	一	一	一	一
▽家庭衛生、榮養學大意	衛生課長 山本 憲一	而して講座科目及講師は	未滿	五	三	五	一	一	一	一	一	一
▽國民道徳	視學官 福士 百衛	東郡蓬田村小學校	未滿	五	三	五	一	一	一	一	一	一
▽國民道徳	視學官 福士 百衛	八戸市白銀小學校	未滿	五	三	五	一	一	一	一	一	一
▽國民道徳	視學官 福士 百衛	北郡金木町小學校	未滿	五	三	五	一	一	一	一	一	一
▽國民道徳	視學官 福士 百衛	而して講座科目及講師は	未滿	五	三	五	一	一	一	一	一	一
▽家庭衛生、榮養學大意	衛生課長 山本 憲一	東郡蓬田村小學校	未滿	五	三	五	一	一	一	一	一	一
▽家庭衛生、榮養學大意	衛生課長 山本 憲一	八戸市白銀小學校	未滿	五	三	五	一	一	一	一	一	一
▽家庭衛生、榮養學大意	衛生課長 山本 憲一	北郡金木町小學校	未滿	五	三	五	一	一	一	一	一	一
▽家庭衛生、榮養學大意	衛生課長 山本 憲一	而して講座科目及講師は	未滿	五	三	五	一	一	一	一	一	一
▽國民道徳	視學官 福士 百衛	東郡蓬田村小學校	未滿	五	三	五	一	一	一	一	一	一
▽國民道徳	視學官 福士 百衛	八戸市白銀小學校	未滿	五	三	五	一	一	一	一	一	一
▽國民道徳	視學官 福士 百衛	北郡金木町小學校	未滿	五	三	五	一	一	一	一	一	一
▽國民道徳	視學官 福士 百衛	而して講座科目及講師は	未滿	五	三	五	一	一	一	一	一	一
▽家庭衛生、榮養學大意	衛生課長 山本 憲一	東郡蓬田村小學校	未滿	五	三	五	一	一	一	一	一	一
▽家庭衛生、榮養學大意	衛生課長 山本 憲一	八戸市白銀小學校	未滿	五	三	五	一	一	一	一	一	一
▽家庭衛生、榮養學大意	衛生課長 山本 憲一	北郡金木町小學校	未滿	五	三	五	一	一	一	一	一	一
▽家庭衛生、榮養學大意	衛生課長 山本 憲一	而して講座科目及講師は	未滿	五	三	五	一	一	一	一	一	一
▽國民道徳	視學官 福士 百衛	東郡蓬田村小學校	未滿	五	三	五	一	一	一	一	一	一
▽國民道徳	視學官 福士 百衛	八戸市白銀小學校	未滿	五	三	五	一	一	一	一	一	一
▽國民道徳	視學官 福士 百衛	北郡金木町小學校	未滿	五	三	五	一	一	一	一	一	一
▽國民道徳	視學官 福士 百衛	而して講座科目及講師は	未滿	五	三	五	一	一	一	一	一	一
▽家庭衛生、榮養學大意	衛生課長 山本 憲一	東郡蓬田村小學校	未滿	五	三	五	一	一	一	一	一	一
▽家庭衛生、榮養學大意	衛生課長 山本 憲一	八戸市白銀小學校	未滿	五	三	五	一	一	一	一	一	一
▽家庭衛生、榮養學大意	衛生課長 山本 憲一	北郡金木町小學校	未滿	五	三	五	一	一	一	一	一	一
▽家庭衛生、榮養學大意	衛生課長 山本 憲一	而して講座科目及講師は	未滿	五	三	五	一	一	一	一	一	一
▽國民道徳	視學官 福士 百衛	東郡蓬田村小學校	未滿	五	三	五	一	一	一	一	一	一
▽國民道徳	視學官 福士 百衛	八戸市白銀小學校	未滿	五	三	五	一	一	一	一	一	一
▽國民道徳	視學官 福士 百衛	北郡金木町小學校	未滿	五	三	五	一	一	一	一	一	一
▽國民道徳	視學官 福士 百衛	而して講座科目及講師は	未滿	五	三	五	一	一	一	一	一	一
▽家庭衛生、榮養學大意	衛生課長 山本 憲一	東郡蓬田村小學校	未滿	五	三	五	一	一	一	一	一	一
▽家庭衛生、榮養學大意	衛生課長 山本 憲一	八戸市白銀小學校	未滿	五	三	五	一	一	一	一	一	一
▽家庭衛生、榮養學大意	衛生課長 山本 憲一	北郡金木町小學校	未滿	五	三	五	一	一	一	一	一	一
▽家庭衛生、榮養學大意	衛生課長 山本 憲一	而して講座科目及講師は	未滿	五	三	五	一	一	一	一	一	一
▽國民道徳	視學官 福士 百衛	東郡蓬田村小學校	未滿	五	三	五	一	一	一	一	一	一
▽國民道徳	視學官 福士 百衛	八戸市白銀小學校	未滿	五	三	五	一	一	一	一	一	一
▽國民道徳	視學官 福士 百衛	北郡金木町小學校	未滿	五	三	五	一	一	一	一	一	一
▽國民道徳	視學官 福士 百衛	而して講座科目及講師は	未滿	五	三	五	一	一	一	一	一	一
▽家庭衛生、榮養學大意	衛生課長 山本 憲一	東郡蓬田村小學校	未滿	五	三	五	一	一	一	一	一	一
▽家庭衛生、榮養學大意	衛生課長 山本 憲一	八戸市白銀小學校	未滿	五	三	五	一	一	一	一	一	一
▽家庭衛生、榮養學大意	衛生課長 山本 憲一	北郡金木町小學校	未滿	五	三	五	一	一	一	一	一	一
▽家庭衛生、榮養學大意	衛生課長 山本 憲一	而して講座科目及講師は	未滿	五	三	五	一	一	一	一	一	一
▽國民道徳	視學官 福士 百衛	東郡蓬田村小學校	未滿	五	三	五	一	一	一	一	一	一
▽國民道徳	視學官 福士 百衛	八戸市白銀小學校	未滿	五	三	五	一	一	一	一	一	一
▽國民道徳	視學官 福士 百衛	北郡金木町小學校	未滿	五	三	五	一	一	一	一	一	一
▽國民道徳	視學官 福士 百衛	而して講座科目及講師は	未滿	五	三	五	一	一	一	一	一	一
▽家庭衛生、榮養學大意	衛生課長 山本 憲一	東郡蓬田村小學校	未滿	五	三	五	一	一	一	一	一	一
▽家庭衛生、榮養學大意	衛生課長 山本 憲一	八戸市白銀小學校	未滿	五	三	五	一	一	一	一	一	一
▽家庭衛生、榮養學大意	衛生課長 山本 憲一	北郡金木町小學校	未滿	五	三	五	一	一	一	一	一	一
▽家庭衛生、榮養學大意	衛生課長 山本 憲一	而して講座科目及講師は	未滿	五	三	五	一	一	一	一	一	一
▽國民道徳	視學官 福士 百衛	東郡蓬田村小學校	未滿	五	三	五	一	一	一	一	一	一
▽國民道徳	視學官 福士 百衛	八戸市白銀小學校	未滿	五	三	五	一	一	一	一	一	一
▽國民道徳	視學官 福士 百衛	北郡金木町小學校	未滿	五	三	五	一	一	一	一	一	一
▽國民道徳	視學官 福士 百衛	而して講座科目及講師は	未滿	五	三	五	一	一	一	一	一	一
▽家庭衛生、榮養學大意	衛生課長 山本 憲一	東郡蓬田村小學校	未滿	五	三	五	一	一	一	一	一	一
▽家庭衛生、榮養學大意	衛生課長 山本 憲一	八戸市白銀小學校	未滿	五	三	五	一	一	一	一	一	一
▽家庭衛生、榮養學大意	衛生課長 山本 憲一	北郡金木町小學校	未滿	五	三	五	一	一	一	一	一	一
▽家庭衛生、榮養學大意	衛生課長 山本 憲一	而して講座科目及講師は	未滿	五	三	五	一	一	一	一	一	一
▽國民道徳	視學官 福士 百衛	東郡蓬田村小學校	未滿	五	三	五	一	一	一	一	一	一
▽國民道徳	視學官 福士 百衛	八戸市白銀小學校	未滿	五	三	五	一	一	一	一	一	一
▽國民道徳	視學官 福士 百衛	北郡金木町小學校	未滿	五	三	五	一	一	一	一	一	一
▽國民道徳	視學官 福士 百衛	而して講座科目及講師は	未滿									

社會教育——圖書館——聽講者學歷別調——町村の補習教育

喜久美社簡易圖書館	同	三、一、三〇	車力村第三車力小學校	
沼崎簡易圖書館	同	三、二、二	稻垣村沼崎小學校	
繁田簡易圖書館	同	三、二、二	稻垣村繁田小學校	
赤石尋常簡易圖書館	同	三、五、〇	赤石尋常高等小學校	
下福原簡易圖書館	同	四、四、〇	越水村下福原小學校	
出精簡易圖書館	同	五、四、	出精村林小學校	
藏館村青年團簡易圖書館	私立	大正二、四、七	藏館村長峰尋高小學校	
藤崎町立簡易圖書館	私立	大正二、一〇、三〇	藤崎町役場樓上	
光田寺村公立圖書館	私立	二、一〇、一	光田寺村前田屋敷小學校	
猿賀文庫	私立	三、二、二	猿賀小學校	
富木館村簡易圖書館	私立	三、三、〇	富木館村育英小學校	
碓ヶ關簡易圖書館	私立	三、二、八	碓ヶ關尋常高等小學校	
柏木町高等小學校報德會圖書館	私立	同	三、五、三	柏木町小學校
石川町立簡易圖書館	私立	三、二、一	石川尋常高等小學校	
大光寺村圖書館	私立	同	三、七、三	大光寺村大字大光寺
十二里村簡易圖書館	私立	同	三、〇、一	西中野目小學校
田舎館簡易圖書館	私立	昭和三、八、	田舎館村役場	
日沼五十年記念圖書館	私立	昭和三、八、	猿賀村日沼小學校	
北津輕郡報德會圖書館	私立	大正七、二、三	五所川原町字蟬ノ羽	
武田簡易圖書館	私立	同	一〇、一〇、一	武田村富野小學校
羽野木澤簡易圖書館	私立	同	一、一、七	七和村羽野木澤小學校
喜良市簡易圖書館	私立	同	二、三、一	喜良市小學校
金木町青年團簡易圖書館	私立	同	二、三、五	金木町第一尋常高等小學校
小泊簡易圖書館	私立	同	二、三、一	小泊尋常高等小學校
内湯村自強會簡易圖書館	私立	同	二、四、〇	内湯村薄市小學校
田川同窓會簡易圖書館	私立	大正二、一〇、三	中川村田川小學校	
相内村簡易圖書館	私立	同	二、一〇、三	相内小學校
金山簡易圖書文庫	私立	同	二、一〇、三〇	松島村金山小學校
脇元村簡易圖書館	私立	同	二、三、八	脇元小學校
沖飯詰同窓會簡易圖書館	私立	同	二、二、七	中川村沖飯詰小學校
三好村簡易圖書館	私立	同	三、二、二	三好村鶴ヶ岡小學校
中里村青年團簡易圖書館	私立	同	三、二、三	中里尋常高等小學校
沿川村簡易圖書館	私立	同	三、九、三	沿川第一尋常高等小學校
廣田簡易圖書館	私立	同	三、二、二	榮村廣田分教場
尾別、上高根同窓會圖書館	私立	同	三、四、一	内湯村尾別小學校
昆沙門青年團簡易圖書館	私立	同	三、一、六	嘉瀬村昆沙門小學校
小阿彌簡易圖書館	私立	同	三、一、六	小阿彌尋常高等小學校
下前簡易圖書館	私立	同	三、四、一	小泊村下前尋常小學校
高杉村圖書館	私立	大正三、一〇、三	高杉小學校	
船澤村簡易圖書館	私立	大正三、一〇、三	船澤村富榮尋常高等小學校	
駒越簡易圖書館	私立	大正三、一〇、三	駒越小學校、島井野小學校	
大浦村簡易圖書館	私立	同	三、一、六	大浦尋常小學校
和徳村簡易圖書館	私立	同	三、二、五	和徳村役場
和徳村自修簡易圖書館	私立	同	三、二、五	和徳村養正小學校
東目屋村青年團簡易圖書館	私立	同	二、二、三	東目屋村時習小學校
藤代村簡易圖書館	私立	大正三、二、二	藤代村、致遠、三省小學校	
豐田村簡易圖書館	私立	同	一〇、五、五	豐田村役場
自環青年團簡易圖書館	私立	同	一〇、五、五	清水村大字小澤
野邊地圖書館	町立	明治四、五、二	野邊地新町尋常高等小學校	
七戸圖書館	町立	大正四、二、〇	七戸町	

五七八

四歲	五歲	六歲	七歲	八歲	九歲	十歲	十一歲	十二歲	十三歲	十四歲	十五歲	十六歲	十七歲	十八歲	十九歲	二十歲	計
一	二	三	四	五	六	七	八	九	一〇	一一	一二	一三	一四	一五	一六	一七	一七八

聽講者學歷別調

會場	小學	尋常高等	補習	中等	校	中等
學歴	半途	卒業	卒業	半途	退	卒業
退學	卒業	卒業	卒業	卒業	卒業	卒業
大	一	二	三	四	五	六
藤	一	二	三	四	五	六
淺	一	二	三	四	五	六
石	一	二	三	四	五	六
蓬	一	二	三	四	五	六
白	一	二	三	四	五	六
金	一	二	三	四	五	六
計	二	三	四	五	六	七

町村の補習教育

本縣の各町村に於ける實業補習學校數は四百六校に達し縣下百六十七市町村の内北津輕郡五所川原町、板柳町、小阿彌村、梅澤村、内湯村を除き縣内悉く存置せざる所がなく其の普及の程度は先進府縣に比して何等遜色がない。何れも小學校に併置し或は青年團の集會所又は民家を利用して授業上の便を圖り又青年訓練所令第八條に依り

青年訓練所に充當されたものは三百三十三校の多きに達してゐる、各都市の學校數及生徒數を擧ぐれば左の如くである。
(昭和四年度末現在—生徒數は前後記及高等科通算)

郡市	青訓	青訓充	校數	校數	計	男	女
東津輕郡	五	四	五	四	三、七四	二七	二七
西津輕郡	四	五	四	五	二、七五	二七	二七
中津輕郡	六	六	六	六	二、〇八	五	五
南津輕郡	三	一〇	三	三	三、八七	六〇	六〇
北津輕郡	三	一	三	三	二、三九	四〇	四〇
上北郡	四	四	四	四	二、四七	一六	一六
下北郡	三	二	三	三	二、三二	一六	一六
三戸郡	五	三	五	三	三、四四	九二	九二
八戸市	八	四	八	四	四、〇九	一八一	一八一
弘前市	一	二	一	二	一、六	二九	二九
青森市	三	一	三	一	一、三〇	二〇八	二〇八
縣立	一	一	一	一	一、三三	一	一
計	三三	三三	三三	三三	四、六三、五五	三、三三	三、三三

然るに右四百六校の大部分は夜間授業或は冬季のみを限つた季節授業校が多い、晝間補習學校は僅に四十二校に過ぎず又通年授業を行ふものは二十二校のみである。之がため充分なる授業時間がなく實習も又不足で遺憾の點が多い。又補習教員數千七百七十八名の中、専任教員は僅に六十六名に

社會教育——郡市青年團

Table listing youth groups in various municipalities like 市野澤簡易圖書館, 中野簡易圖書館, etc., with columns for group name, establishment date, and location.

戸郡)鈴木安言 井口信雄(弘前)松下賢之 進 外崎日出城 和島茂藏(青森)林豊次郎 和田喜太郎 津島忠八

郡市青年團

東津輕郡青年團、大正六年十月創立、油川町小學校に事務所を置き講習會、競技會、優彩並に縣青年團の施設に應ずる各般の事業を行つてゐる。團長西田源藏、副團長淺木由造

上北郡青年團 七戸町宇町二番地に事務所を置き見學旅行、講習會、意見發表、競技會等を行つてゐる。團長藤島謙 副團長北川喜三郎

片岡津島忠八 浦町横山正雄 常盤町境勝三 大町横井與一郎

正六年創立、事務所八戸尋高校内、事業は體育競技、意見發表、補習教育、講演會、道路、塵芥

淡青青年團 團員五百二十五名で講演、夜學、體育會、水難船救助、害虫驅除、補習教育獎勵

油川町青年團 大正六年二月創立、團員二百六名、團長西田源藏 副團長淺木由造 成田貞治

弘前市青年團 大正八年の創立して弘前市役所に事務所を置く、夜學、一夜講習、競技會登山等を行ひ團長松下賢之進

長猪内清一 第一支部長柴田精一 第二支部長田名部道雄 第三支部長下野源助 第四支部長柄内純一郎

縣下到る所の町村に青年團の組織を見ざるはなく其數百七十團體、團員數三萬七千三百三人

大野村青年團 大正三年四月創立、團員百六十名、團長原野武磨 副團長高坂金吾 大野分團長高坂久馬一 細越分團長木村伴次郎

八戸市青年團 市制實施と共に昭和四年七月三戸郡青年團から分離して市青年團を組織することゝなつたが、五年四月には

大久喜青年團 團長高橋三作 副團長川端右衛門次郎

各地見學、講習會、夜警火防、水難救助、神社佛閣の掃除、敬老、道路愛護、副業獎勵其他

荒川村青年團 大正五年八月創立、團員二百七十名、團長白鳥芳三 副團長鎌田喜洋美 川村憲一郎

白濱、種差、大久喜、金濱等に同年五月には市聯合青年團が成り統一はされたが事業は從來の備各團が自發的に行ふこととなつた。合併したる各部分の

小中野青年團 團員百五十一名で水産補習學校の經營、學藝の獎勵、體育向上を圖り労働部を設けて公德運動をなす、團長木村忠藏 副團長岩見利男 工藤民次郎

青年團の存在は社會に缺くべからざるものとして信頼され

高田村青年團 大正七年十一月創立、團員百十五名、團長長

社會教育——各町村青年團

各町村青年團

內健造 副團長間山長一郎 高團長泉谷宇之吉 阿彌陀川分團
田分團長奧崎平八 野澤分團長 長吉田甚作 達田分團長中川
新山長 邊地分團長木戶寅次郎 廣瀨分團長川崎直之進 高根分團長小
▽瀧內村青年團 明治三十四年 團長川崎直之進 副團長高根分團長小
創立、團員百三十九名、團長渡邊繁一 副團長我滿千代吉 西
邊繁一 副團長我滿千代吉 三內分團長 瀧分團長木村彦弘 三內分團長
長渡邊英彌 浪館分團長倉內清 岩波分團長高村弘重 孫內
分團長我滿千代吉
▽新城村青年團 大正三年十一月 團長川崎直之進 副團長高根分團長小
川村健次 副團長關勇吉 新川分團長 關勇吉 副團長關勇吉 新川分團長
分團長關勇吉 副團長關勇吉 新川分團長 關勇吉 副團長關勇吉 新川分團長
安長 鶴ヶ坂分團長穴水與三郎 戶門分團長吉川善三
▽奧內村青年團 大正四年八月 創立、團員二百名、團長阿部助
太郎 副團長館田眞太郎 市川太郎 副團長館田眞太郎 市川太郎
夏井田分團長溝江久雄 飛鳥分團長 阿部助太郎 副團長館田眞太郎 市川
上充穂 奧內分團長新山周藏 前田分團長澤田浩 清水分團長
寺田由藏 內眞部分團長井上松四郎
▽蓬田村青年團 明治四十四年十一月 創立、團員五百三十二名
中澤分團長坂本友太郎 長科分團長坂本友太郎 長科分團長坂本友太郎

葛西要之助 副團長赤平榮司 外童子分團長太田與市 松野木
分團長工藤政吉 藥師野分團長 田中仁三 清水川分團長龜越松
五郎 口廣分團長井筒辰太郎 狩場澤分團長金津松太郎
▽西津輕郡 鶴ヶ澤町文武會 明治三十三年四月 創立、團員百九十五名、
團長村上忠次郎 副團長工藤喜右衛門 第一支部長見崎久吉
第二支部長中村喜左衛門 第三支部長須藤勇藏 第四支部長
內吉彌 第五支部長藤富太郎 第六支部長今別幸三郎 第七支
部長川越清吉 第八支部長小友惣右衛門
▽赤石村青年團 大正十四年十一月 創立、團員三百七名、團長
長谷川深太郎 副團長宮本義行 赤石支部長長谷川深太郎 姥袋
支部長內山愛三 日照田支部長 小野勘助 南金澤支部長宮本義
行 種里支部長清野清衛 一ツ森支部長太田直次郎 深谷支部
長葛西喜久衛 小森支部長神喜一郎
▽大戸瀨村青年團 大正二年二月 創立、團員五百十九名、團長
櫻庭良五郎 副團長京谷傳平 北金ヶ崎分團長小野佐關分團
長

田分團長木村捨三 今津分團長 福井團次郎 舟岡分團長中島與
三郎 磯山分團長橫內利輔 立、團員三百六十四名、團長田
中金兵衛 副團長新山森之助 村元分團長小鹿庄太郎 山崎分
團長太田福藏 大泊分團長上野與三郎 襲月分團長小倉慶太郎
砂ヶ森分團長鈴木作太郎 奧平部分團長長島勇三郎 明治三十
▽今別村青年團 明治三十年創 立、團員百九十四名、團長中井
五郎 副團長神雄四郎 橋本五郎 今別分團長澤田垂穂 大
川分團長相內鶴吉 濱名分團 川分團長相內鶴吉 濱名分團
長五十嵐辰五郎 鍋田分團長 內已之七 二股分團長相內鐵五
郎
▽三厩村青年團 大正七年七月 創立、團員二百七十三名、團長
牧野逸藏 副團長白鳥俊三郎 三厩分團長齊藤勳 中濱分團長
安保小一郎 增川分團長東勇藏 六條分團長伊藤雄藏 四枚藤
田分團長三浦清五郎 釜澤分團長 田中梯次郎 元宇鐵分團長工藤
忠三 上宇鐵分團長秋田米作 川梨泊分團長大宮金作 浜榔分
團長伊藤竹雄
▽橫內村青年團 大正三年十一月 創立、團員百九名、團長鎌田長
尾

長越甚四郎 柳田分團長葛西運 作 岩坂分團長小山力之助 田
野坂分團長兼平政一 野山分團 長佐藤專之助 風合瀨分團長小
野柏太郎 轟木分團長野呂昇一 野浦町青年團 大正四年十一月
▽深浦町青年團 大正四年十一月 創立、團員四百四十名、團長
鳥川一覺 副團長佐藤幸一郎 深浦分團長鈴木寬山 橫磯分團
長山下尚隆 鱸作分團長野呂克正 廣戶分團長對馬敏行 追良
前田善太郎
▽岩崎村青年團 明治四十一年 九月 創立、團員二百二十五名、
團長菊地文五郎 副團長木山善成 工藤彌平 岩崎分團長松林
宇之助 正道尻分團長西卷多次郎 久田分團長齋藤重一 松神
分團長松井泰治 黑崎分團長工藤行雄 大間越分團長神馬喜八
郎 澤邊分團長平澤末太郎 立、團員百五十五名、團長一戶
中村青年團 明治三十八年創 才門四郎 副團長本間竹太郎 戶
三上燈 中村分團長齋藤豐三郎 濱橫澤分團長原田末作 荻范分
團長瀧澤健藏 長平分團長長尾武俊
▽舞戶村青年團 大正五年四月 創立、團員百九名、團長鎌田長
尾

月創立、團員二百十六名、團長 花田宇之吉 副團長矢作時之助
第一分團長鳴海貞一 第二分團 長千葉幸吉 第三分團長和田助
三郎
▽筒井村青年團 明治四十年十 一月 創立、團員百十三名、團長
德差甚作 副團長中村隆一 藤正一 筒井分團長佐藤正治 佐
濱田分團長山內作十郎 奧野分 團長遠間武治 幸畑分團長小泉
喜一郎
▽原別村青年團 明治四十三年 五月 創立、團員百八十七名、團
長齋藤萬兵衛 副團長小笠原武男 三浦昌太郎 原別分團長千
葉惣吉 泉野分團長小笠原兵助 八幡林分團長和田金作 矢田前
分團長鹿內鶴松 平新田分團長 齋藤金藏 諏訪澤分團長豐川武
四郎 築木分團長津川潔 後山分團長小笠原百吉 桑原分團
長山口喜助 戶崎分團長鹿內英 三ヶ濱分團長三浦自名 小柳分團
慶司副團長三浦自名 小柳分團 長山口岩雄 戶山分團長長內由
分團長近藤繁一 松森分團長 元宇鐵分團長秋田米作 松森分團
長近藤繁一 松森分團長 元宇鐵分團長秋田米作 松森分團長
葉平吉 澤山分團長神昇一 東岳村青年團 明治四十年八月

月創立、團員百四名、團長木村 貴三郎 副團長石川利應
▽野內村青年團 大正二年十一月 創立、團員二百三十名、團長
鈴木源吉 副團長赤坂陽太郎 野內分團長貝森鶴治郎 久栗坂
分團長赤坂市三郎 淺虫分團長 松井武雄
▽西平內村青年團 大正三年十 一月 創立、團員百五名、團長木村
清藏 副團長齋藤貞一 彌崎秀次郎 山口分團長千代谷順次
藤澤分團長小形禮一 土屋分團 長逢坂初太郎 浪打分團長濱中
勝三 茂浦分團長彌崎秀次郎 浦田分團長豐島民藏 稻生分團
長豐島吉三郎
▽小湊町青年團 大正三年十一 月 創立、團員三百二名、團長森
田盛健 副團長十文字善次郎 小湊分團長辻村武雄 沼館分團
長濱田佐之吉 濱子分團長平田喜八 福島分團長木村豐八 福
館分團長辻村岩吉 淺所分團長 太田重吉 東瀧分團長飯田金次
郎 東田澤分團長吉川仁三郎 內童子分團長竹達嘉七 田茂木
分團長蝦名早苗 野內畑分團長 畑井多市
▽東平內村青年團 大正三年十 月 創立、團員百六十三名、團長
櫻庭良五郎 副團長京谷傳平 北金ヶ崎分團長小野佐關分團
長

長越甚四郎 柳田分團長葛西運 作 岩坂分團長小山力之助 田
野坂分團長兼平政一 野山分團 長佐藤專之助 風合瀨分團長小
野柏太郎 轟木分團長野呂昇一 野浦町青年團 大正四年十一月
▽深浦町青年團 大正四年十一月 創立、團員四百四十名、團長
鳥川一覺 副團長佐藤幸一郎 深浦分團長鈴木寬山 橫磯分團
長山下尚隆 鱸作分團長野呂克正 廣戶分團長對馬敏行 追良
前田善太郎
▽岩崎村青年團 明治四十一年 九月 創立、團員二百二十五名、
團長菊地文五郎 副團長木山善成 工藤彌平 岩崎分團長松林
宇之助 正道尻分團長西卷多次郎 久田分團長齋藤重一 松神
分團長松井泰治 黑崎分團長工藤行雄 大間越分團長神馬喜八
郎 澤邊分團長平澤末太郎 立、團員百五十五名、團長一戶
中村青年團 明治三十八年創 才門四郎 副團長本間竹太郎 戶
三上燈 中村分團長齋藤豐三郎 濱橫澤分團長原田末作 荻范分
團長瀧澤健藏 長平分團長長尾武俊
▽舞戶村青年團 大正五年四月 創立、團員百九名、團長鎌田長
尾

副團長柳引源藏 第一支部長追 良瀨定吉 第二支部長伊藤吉郎
第三支部長傳福武雄
▽鳴澤村青年團 團員二百五十 名、團長今作太郎 副團長神助
作 南浮田分團長原直子 湯船分團長神義雄 小屋敷分團長
中野孝一 建石分團長木村千代 松野分團長大橋朝江
來島分團長長齊藤榮壽 出松 分團長三浦三郎 大正五年九月
▽森田村青年團 大正五年九月 創立、團員三百六十二名、團長
山谷省三 副團長三戶晟一 山內德光 大館分團長鶴賀健次
郎 床舞分團長木村與惣松 森田分團長三戶晟一 山田分團長
原田直太郎 貓淵分團長山崎喜四郎 中田分團長櫻庭源三 下
相野分團長奈良藤次郎 上相野 分團長櫻庭惠 榮田同交會長山
谷潤規
▽越水村青年團 大正五年九月 創立、團員三百四十二名、團長
岡分團長山下三四郎 藤岡分團 長長谷川德一 越水分團長神久
丙 駒田分團長工藤源作 吹原 分團長瀧谷谷三郎 南廣森分
團長大澤秀一 丸山分團長工藤 健作 長見分團長山谷繁一 三ッ館
福原分團長長谷川繁一 三ッ館

分團長長谷川佐一 大正九年六月
 柴田分村青年團 團員二百五十名
 月創立 團員二百五十名
 杉森秀一郎 副團長 町田萬一
 柴田分團長 町田萬一 菊川分團
 長寺田渡人 福原分團長 安田健
 次郎

▽木造町青年團 明治四十三年
 十一月創立 團員百六十五名
 團長 葛西麟平 副團長 倉光續光
 小田原喜六 第一分團長 島英三
 第二分團長 高橋柏太郎 第三分
 團長 平野藤次郎 第四分團長 成
 田健次郎 第五分團長 小林說晴
 田元村矯風會 明治四十一年
 十二月創立 團員二百三十五名
 團長 西村孫兵衛 副團長 小山內
 德行 第一支部長 貴田市太郎
 第二支部長 天坂唯一 第三支部
 長 寺山貢 第四支部長 秋庭喜代
 作

▽柏村青年團 大正四年創立
 團員三百二十一名 團長 澤田忠
 次郎 副團長 小山內孫兵衛 小
 和卷分團長 神伴次郎 桑野木田
 分團長 葛西麟平 上古川分團長
 小關佐太郎 下古川分團長 齋藤
 英榮 玉稻分團長 澁谷豐 廣須
 分團長 澁谷兵作 廣須第一分團
 長 工藤比呂志
 長川除村青年團 明治四十二年

▽大浦青年團 明治三十五年創
 立 團員二百七十二名 團長 三
 浦兼吉 副團長 佐藤傳次郎 熊島
 分團長 相馬永作 高屋分團長 笹
 小一郎 賀田分團長 一町田與助
 八幡分團長 川口元太郎 植田分
 團長 三上繁志郎 鼻和分團長 前
 田幸太郎

▽船津青年團 明治四十四年一
 月創立 團員百五十四名 團長
 高木太吉 副團長 苗田長苗 苗田
 鶴田支部長 前田萬三 小島支
 長 前田藤七 三ッ森支部長 神
 一 支部長 細越支部長 本間嘉一
 笠支部長 對馬得一 宮館支部長
 佐藤東助 中別所支部長 高谷惣
 太郎

▽高杉村青年團 大正二年六月
 創立 團員百七十名 團長 藤田
 嘉七 副團長 齋藤鹿之輔 長利
 粕五郎 高杉分團長 齋藤鹿之輔
 強行分團長 利粕五郎 大正五年八月
 創立 團員百七十四名 團長 須
 藤水市 副團長 增田永春 檜木
 分團長 高橋金四郎 鬼澤分團長
 鳴海辰之助 草薙分團長 葛西兵
 助 十面澤分團長 增田佐一郎
 修齊分團長 佐藤重之助

▽南津經郡 大正五年八月
 創立 團員百九十二名 團長
 月創立 團員百九十二名 團長

▽三橋友吉 副團長 新岡一夫 館
 岡分團長 橫山清昭 菰槌分團長
 新岡軍太郎 筑木坂分團長 三橋
 長太郎 平瀧分團長 中村昌三
 車力村青年團 團員四百八十八名
 團長 北澤武三郎 副團長 尾野勇太郎
 車力分團長 毛內爲之助 下車力
 工藤房太郎 下牛瀨分團長 佐藤
 喜市 豐富分團長 佐々木秀二郎
 富田分團長 松橋英一
 十二月創立 團員六十二名
 長竹內忠一 副團長 缺

▽清水村青年團 大正十年三月
 創立 團員二百五十一名 團長
 成田清太郎 副團長 奈良岡修造
 青柳分團長 奈良岡修造 自張分
 團長 西澤小太郎
 四月創立 團員二百九十七名
 團長 佐藤多市 副團長 藤田嘉三
 團長 進修分團長 太田稔 明誠分
 團長 工藤重吉 靜修分團長 加藤
 柏太郎 養正分團長 中村民五郎
 團員二百六十七名 團長 一戶顯
 副團長 清水市太郎 團長 二ッ
 屋副團長 福田子分團長 佐藤貞雄 福

▽岩木村青年團 大正七年四月
 創立 團員百三十名 團長 須藤
 市右衛門 副團長 笹浩 玉田竹
 次郎 五代分團長 鳴海福太郎
 宮地分團長 山崎彦一 新法師分

▽浪岡村青年團 明治四十四年
 十一月創立 團員百四十三名
 團長 齋藤正五郎 副團長 平野千
 代一 有馬彌市 浪岡分團長 平
 井忠作 五本松分團長 太田又一
 王余魚澤分團長 秋元甚三郎
 五郷村青年團 大正六年九月
 創立 團員百九十八名 團長 鎌
 田瀧一 副團長 成田平三郎 團長
 谷川晉之助 本郷分團長 林樹三
 北中野分團長 相澤清一 吉內分
 團長 成田丈之助 細野分團長 雪
 田武助

▽六郷村青年團 大正五年十一
 月創立 團員百五十名 團長 宇
 野清一郎 副團長 丹代光男 高
 田操 竹鼻分團長 乘田義隆 高
 館分團長 大平一二 二子分團
 赤坂分團長 赤平善作 上十川分
 團長 吉澤勝壽

▽十二里村青年團 大正三年八
 月創立 團員百七十名 團長 成
 田貞一 副團長 神集明 黑瀧文
 太郎 中小分團長 佐々木千代瀧
 矢澤分團長 黑瀧文太郎 水沼分
 團長 三好金四郎 中野目分團長
 佐々木吉雄 西中野目分團長
 田長五郎 依分團長 中村又太
 郎 常盤村青年團 明治四十二年

團長 玉田幾美 新岡分團長 三上
 啓作 葛原分團長 花田兼雄 高
 岡分團長 阿部義三 百澤分團長
 太田稔

▽相馬村青年團 大正八年八月
 創立 團員三百五十五名 團長 成田
 重雄 副團長 三上富太郎 佐藤
 勇

▽東目屋村青年團 大正八年四月
 月創立 團員二百七十七名 團長 佐
 藤友太郎 副團長 繁田岩男 西
 澤武三郎 國吉分團長 繁田岩男
 時習分團長 西澤武三郎

▽就將青年團 大正七年二月創
 立 團員二百五十四名 團長 三
 上治郎 副團長 工藤喜代芽 坂田
 勝廣 第一支部長 三浦武雄 第
 二支部長 前山和一 第三支部長
 坂田勝廣 第四支部長 村上九郎
 創立 團員百名 團長 大瀨意津
 男 副團長 成谷喜一郎 岩谷榮
 吉 致遠分團長 成谷善一郎 三
 省分團長 岩谷榮吉

▽新和村青年團 大正七年四月
 創立 團員二百二名 團長 水木
 重兵衛 副團長 神勇之助 青女
 子分團長 大高千代司 種市分團
 長 對馬辰雄 小友分團長 水木嘉
 太郎 三和分團長 工藤千代司
 笹館分團長 乘田長一

▽大浦青年團 明治三十五年創
 立 團員二百七十二名 團長 三
 浦兼吉 副團長 佐藤傳次郎 熊島
 分團長 相馬永作 高屋分團長 笹
 小一郎 賀田分團長 一町田與助
 八幡分團長 川口元太郎 植田分
 團長 三上繁志郎 鼻和分團長 前
 田幸太郎

▽船津青年團 明治四十四年一
 月創立 團員百五十四名 團長
 高木太吉 副團長 苗田長苗 苗田
 鶴田支部長 前田萬三 小島支
 長 前田藤七 三ッ森支部長 神
 一 支部長 細越支部長 本間嘉一
 笠支部長 對馬得一 宮館支部長
 佐藤東助 中別所支部長 高谷惣
 太郎

▽高杉村青年團 大正二年六月
 創立 團員百七十名 團長 藤田
 嘉七 副團長 齋藤鹿之輔 長利
 粕五郎 高杉分團長 齋藤鹿之輔
 強行分團長 利粕五郎 大正五年八月
 創立 團員百七十四名 團長 須
 藤水市 副團長 增田永春 檜木
 分團長 高橋金四郎 鬼澤分團長
 鳴海辰之助 草薙分團長 葛西兵
 助 十面澤分團長 增田佐一郎
 修齊分團長 佐藤重之助

▽南津經郡 大正五年八月
 創立 團員百九十二名 團長
 月創立 團員百九十二名 團長

▽三橋友吉 副團長 新岡一夫 館
 岡分團長 橫山清昭 菰槌分團長
 新岡軍太郎 筑木坂分團長 三橋
 長太郎 平瀧分團長 中村昌三
 車力村青年團 團員四百八十八名
 團長 北澤武三郎 副團長 尾野勇太郎
 車力分團長 毛內爲之助 下車力
 工藤房太郎 下牛瀨分團長 佐藤
 喜市 豐富分團長 佐々木秀二郎
 富田分團長 松橋英一
 十二月創立 團員六十二名
 長竹內忠一 副團長 缺

▽清水村青年團 大正十年三月
 創立 團員二百五十一名 團長
 成田清太郎 副團長 奈良岡修造
 青柳分團長 奈良岡修造 自張分
 團長 西澤小太郎
 四月創立 團員二百九十七名
 團長 佐藤多市 副團長 藤田嘉三
 團長 進修分團長 太田稔 明誠分
 團長 工藤重吉 靜修分團長 加藤
 柏太郎 養正分團長 中村民五郎
 團員二百六十七名 團長 一戶顯
 副團長 清水市太郎 團長 二ッ
 屋副團長 福田子分團長 佐藤貞雄 福

▽岩木村青年團 大正七年四月
 創立 團員百三十名 團長 須藤
 市右衛門 副團長 笹浩 玉田竹
 次郎 五代分團長 鳴海福太郎
 宮地分團長 山崎彦一 新法師分

▽浪岡村青年團 明治四十四年
 十一月創立 團員百四十三名
 團長 齋藤正五郎 副團長 平野千
 代一 有馬彌市 浪岡分團長 平
 井忠作 五本松分團長 太田又一
 王余魚澤分團長 秋元甚三郎
 五郷村青年團 大正六年九月
 創立 團員百九十八名 團長 鎌
 田瀧一 副團長 成田平三郎 團長
 谷川晉之助 本郷分團長 林樹三
 北中野分團長 相澤清一 吉內分
 團長 成田丈之助 細野分團長 雪
 田武助

▽六郷村青年團 大正五年十一
 月創立 團員百五十名 團長 宇
 野清一郎 副團長 丹代光男 高
 田操 竹鼻分團長 乘田義隆 高
 館分團長 大平一二 二子分團
 赤坂分團長 赤平善作 上十川分
 團長 吉澤勝壽

▽十二里村青年團 大正三年八
 月創立 團員百七十名 團長 成
 田貞一 副團長 神集明 黑瀧文
 太郎 中小分團長 佐々木千代瀧
 矢澤分團長 黑瀧文太郎 水沼分
 團長 三好金四郎 中野目分團長
 佐々木吉雄 西中野目分團長
 田長五郎 依分團長 中村又太
 郎 常盤村青年團 明治四十二年

三月創立 團員二百五十名 團長 齋藤多
鎌田德太郎 副團長 岩淵憲四郎
海老名優一 常盤分團長 成田國
太郎 若松分團長 佐々木光榮
磯分團長 坂岡由雄 德下分團長
淺利要一 福島分團長 石川淺之
助
▽藤崎町青年團 大正七年創立
團員百二十名 團長 津輕隆明
▽光田寺村青年團 大正四年九
月創立 團員百八十一名 團長
中山喜代吉 副團長 鈴木靜一
東光寺分團長 三浦慶藏 前田屋
敷分團長 菊地正彦 川部分團長
鹿內清
▽畑岡青年團 大正五年三月創
立 團員百四十三名 團長 田中
稔 副團長 三浦傳藏 須郷武代
林崎分團長 中村堅五郎 飯田分
團長 佐藤以佐美 横澤、辻分團
長 太田巳一郎 塚成分團長 葛西
勝彌 深味分團長 八木橋重雄
▽田舎館村青年團 大正六年五
月創立 團員二百五十二名 團
長 工藤廣吉 副團長 菊地三郎
田澤健一 垂柳分團長 瀧本慶之
助 畑中分團長 佐々木銚二郎
大根子分團長 田澤恒夫 豐蔭分
團長 清藤啓助
▽中郷青年團 大正六年二月創
立 團員百五十名 團長 齋藤多
七 副團長 對馬友之進 齋藤芳
馬場尻分團長 中西四郎 飛
内分團長 信平周藏 野際分團長
佐藤直吉 株梗木分團長 石澤金
藏 東野際分團長 千葉政吉 東
野際(山形道)分團長 須藤幸七
境松分團長 山田市太郎 黑石分
團長 酒井秀一 袋井分團長 善寺口
太平雄 小屋敷分團長 福山善四
郎 山形村青年團 大正六年九
月創立 團員四百八十二名 團長
熊澤五助 副團長 千葉米作 石坂分
團長 佐藤克郎 豐岡分團長 佐藤
嘉三 花卷分團長 工藤久一 湯湯上
下山形分團長 藤久一 溫湯分
團長 後藤多助 南中野分團長 山
内常則 大川原分團長 高松貞吉
板留分團長 櫻江竹城 二庄内分
團長 千葉多一郎 沖浦分團長 濱
直衛 袋分團長 伊藤健藏
▽猿賀村青年團 大正五年八月
創立 團員百三十八名 團長 清
藤盛治 副團長 須郷七郎 猿賀
分團長 清藤甚五郎 中佐渡分團
長 小田桐耕 八幡崎分團長 白
戶久摩 新山分團長 福士喜知郎
長關新太郎 大袋分團長 葛西勇
▽尾上村青年團 大正五年八月
創立 團員百二十名 團長 須藤榮
藏 副團長 缺員 尾上支部長 小
野喜一郎 高木支部長 山口又一
野子野木支部長 石澤理右衛門
▽淺瀨石村青年團 明治四十四
年七月創立 團員百七十名 團
長 北山巖 副團長 內山勇 第一
分團長 工藤與作 第二分團長 內
山誠一郎 第三分團長 佐藤武芳
山誠一郎 第四分團長 藤次郎
▽金田村青年團 大正四年八月
創立 團員百六十五名 團長 松
田操 副團長 須藤清一 南田中
分團長 工藤孫一 金屋分團長 佐
藤覺次郎 李平分團長 成田寅太
郎 新屋町分團長 小田桐義美
▽大光寺村青年團 大正六年九
月創立 團員二百二十六名 團
長 內健榮 副團長 桑田幾太郎
中村孝太郎 大光寺分團長 大
川孔 本町分團長 須々田勇吉
小和森分團長 今井長之助 荒田
分團長 古川淺一 館田分團長 古
川米藏 苗生松分團長 澤田作次
館分團長 今井健哉 杉館分團長
▽藤喜右衛門 大正六年一月
創立 團員二百八十一名 團長
赤平利吉 副團長 鎌田彌平治
大湯藤作 柏木町分團長 栗林長
作 向陽分團長 成田專次郎 石
郷分團長 成田富太郎 原田分團
長 岩淵三千郎 岩館分團長 齋藤
與市 大坊分團長 三浦福太郎
河岸分團長 山谷清藏
▽尾崎村青年團 大正二年九月
創立 團員百四十五名 團長 齋
義行 副團長 八木橋保光 尾崎支
部長 中島嘉吉 新屋支部長 葛西
寛造 平田森支部長 古川與三郎
▽町居村青年團 大正六年一月
創立 團員九十三名 團長 大澤
清衛 副團長 奈良武始 櫛引源
吾
▽竹館村青年團 明治四十五年
創立 團員二百五十五名 團長
桑名豐治 副團長 田中勇太郎
沖館分團長 今井松三郎 新館分
團長 木村虎之進 唐竹分團長 原
田茂 廣船分團長 福士太市 小
國分團長 金澤元一 葛川分團長
長谷川清次
▽石川町青年團 大正六年九月
創立 團員二百九十一名 團長
寺田年 副團長 工藤敬三 成田
長五郎 工藤準三 石川分團長
工藤植五郎 大澤分團長 相馬俊
夫 植山分團長 工藤祐二 小金
崎分團長 金崎一郎 八幡館分團

長成田彦作 乳井分團長 成田長
五郎 藥師堂分團長 野呂大吉
▽大鰐町青年團 大正五年創立
團員二百六十名 團長 利彌之
助 副團長 畑山富三郎 大鰐分
團長 山本豐作 宿川原分團長 山
田要次郎 三ツ目分團長 長貴田
雄史 居士分團長 外崎美貞 高
野、新田分團長 幸山甚佐久 虹
貝分團長 山口寅太郎 早瀬野分
團長 山内伊佐久 島田分團長 下
山彦太郎
▽藏館村青年團 大正五年八月
創立 團員百三十一名 團長 中
村周之助 副團長 原定聰 佐
藤常作 藏館支部長 松岡治 元
長峰支部長 原金子 中長峰支
部長 原定聰 九十九森支部長
成田三郎 苦木支部長 木木實
駒木支部長 吹田福松 唐牛支部
長 藤田信一
▽碓ヶ關村青年團 大正三年三
月創立 團員百七十二名 團長
石田政藏 副團長 相馬八郎 佐
々木勇 小友安五郎 碓ヶ關分
團長 工藤多太一 古懸分團長 葛
西純一 久吉分團長 小友安五郎
△五所川原町青年團 大正六年
十二月創立 團員百五十名 團長
長木村吉三郎 副團長 齋藤匡則
△沿川村青年團 大正七年六月
創立 團員百八十八名 團長 齋藤
▽小阿彌村青年團 大正七年十
一月創立 團員百二十名 團長
安田武雄 副團長 山口清造 大
依分團長 小枝武四郎 高増分團
長 安田久作 五幾形分團長 長內
金造 狐森分團長 楠美良金 柏
木分團長 田澤清造 牡丹森分團
長 佐藤七郎
△梅澤村青年團 大正四年八月
創立 團員百十五名 團長 鈴木
連治 副團長 佐藤一郎 梅田支
部長 前田勝太郎 中泉支部長 關
又之丞 横范支部長 鈴木慶助
松倉支部長 鈴木常策 瀨良澤支
部長 泉力太郎 沖支部長 菊池勇
助
△板柳町青年團 明治二十一年
創立 團員二百一名 會長 佐藤
親英 副會長 吹田健之進 三上
勇次郎 三千石部會長 工藤源造
赤田部會長 三上久兵衛 欠落林
小澤洋助
▽鶴田村青年團 大正九年創立
團員二百二名 團長 赤城邦雄
▽鶴田分團長 鶴田直 菅蒲川分團長
三浦德三郎 鶴田分團長 松山末
太郎 龜田分團長 花田林三郎
△大卷分團長 尾崎十四男
▽沿川村青年團 大正七年六月
創立 團員百八十八名 團長 齋藤
▽俊治 副團長 松山爲藏 五林平
分團長 工藤省治 夕顏關分團長
松橋新八郎 常海夕顏關分團長
精判 館瀧分團長 加藤敬一
△六郷村青年團 明治四十一年
創立 團員百三十名 團長 佐奈
耕一郎 副團長 須郷純一 第一
支部長 松山源吉 第二支部長 奈
良勇藏 第三支部長 一戶治三郎
▽榮村青年團 大正四年四月創
立 團員百二十四名 團長 岩淵
忠藏 副團長 久 湊分團長 平山
敬作 姥池分團長 平山國忠 廣
田分團長 横山藤作 稻實分團長
一戶丑五郎 七ツ館分團長 笹森
正五郎
△中川村青年團 大正六年十二
月創立 團員百九十八名 團長
三上直太郎 副團長 其田繁雄
田川分團長 平山清一 種井分團
長 奈良岡繁雄 新宮分團長 松本
良吉 川山分團長 秋田長吉 中
泊分團長 外崎鐵男 沖飯詰分團
長 田中才五郎 櫻田分團長 其田
長六
▽三好青年團 大正七年一月創
立 團員百三十名 團長 長尾正
賢 副團長 高橋昇一 鶴ヶ岡支
部長 川浪彌七郎 藻川支部長 一
▽七和村青年團 明治四十四年
創立 團員百三十四名 團長 松三郎
▽嘉瀨村青年團 大正八年三月
創立 團員百五名 團長 其田農
人 副團長 木村富雄 神島安次
嘉瀨分團長 鳴海民之助 中柏木
橋分團長 原田勘作 長富分團長
高 毘沙門分團長 杉山武雄

社會教育——各町村青年團

喜良市村青年團 明治四十四年五月創立 團員二百二十九名 團長高橋松太郎 副團長三上武雄 第一分團長藤元唯廣 第二分團長齊藤藤一 第三分團長今久五郎
△金木町青年團 明治四十一年十二月創立 團員三百三十名 團長秋谷清逸 副團長吉田米造 大橋忠雄 第一分團長小田桐直 第二分團長長田正義 第三分團長白川彌太郎
△武田村青年團 大正七年三月創立 團員四百名 團長奈良七五郎 副團長三上格馬 富野支部長松野儀助 豐島支部長奈良勝英 若野支部長桑林左右門 茂木支部長坂本清則 長泥支部長坂本佐市郎 豐岡支部長長利清造 福浦支部長新岡彌右衛門
△中里村青年團 大正六年一月創立 團員二百八十三名 團長井沼光男 副團長井沼豐助 派立分團長荒關傳藏 向町分團長加藤善五郎 五林分團長伏見市三郎 宮川分團長齊藤清太郎 宮野澤分團長葛西良吉 深野田分團長鎌田忠治 八幡分團長石澤昌義 大澤內分團長三上清太郎
△內湯村青年團 大正七年八月創立 團員三百名 團長工藤良太郎 副團長三浦信平 傳法寺分團長久三浦信平 瀧澤分團長外澤清吉 大不動分團長小笠原善次郎 長下分團長土棟好正
△六戶村青年團 大正八年八月創立 團員四百十三名 團長吉田正次郎 副團長鈴木友記 田中莊七郎 犬落瀨分團長鈴木友記 折茂江光行 工藤彦一 七百分團長藤江光行 小鶴町分團長齊藤龍雄 古間木分團長佃長齋 沼分團長澤田子之助 金矢分團長太田專藏 上吉田分團長吉田助信 下吉田分團長佐藤寅治
△下田村青年團 大正五年創立 團員二百九十一名 團長袴田健三 副團長柏崎孝一 松内操 木村支團長磯沼定美 三本木三、田支團長馬場繁樹 木内支團長柏崎市太郎 間木支團長袴田良見 洗平支團長山白覺之助 阿光坊支團長成田健次郎 木崎支團長北向善之助 木ノ下支團長田中豐
△百石町青年團 大正六年二月創立 團員三百六十名 團長三浦元次郎 副團長三浦正助 百石分團長村井秀之助 深澤分團長石小笠原三之助
△東通村青年團 大正六年九月創立 團員六百七十七名 團長山本雄太郎 副團長山本角次郎 入口支團長木村鐵治 大角支團長佐々木才太 目名支團長吉田貞太郎 長佐支團長石持支團長吉田長海老 鹿橋支團長石持支團長吉田長海老 支團長賀佐春松 野牛支團長甲

社會教育——各町村青年團

△四和村青年團 大正八年八月創立 團員三百名 團長工藤良太郎 副團長三浦信平 傳法寺分團長久三浦信平 瀧澤分團長外澤清吉 大不動分團長小笠原善次郎 長下分團長土棟好正
△六戶村青年團 大正八年八月創立 團員四百十三名 團長吉田正次郎 副團長鈴木友記 田中莊七郎 犬落瀨分團長鈴木友記 折茂江光行 工藤彦一 七百分團長藤江光行 小鶴町分團長齊藤龍雄 古間木分團長佃長齋 沼分團長澤田子之助 金矢分團長太田專藏 上吉田分團長吉田助信 下吉田分團長佐藤寅治
△下田村青年團 大正五年創立 團員二百九十一名 團長袴田健三 副團長柏崎孝一 松内操 木村支團長磯沼定美 三本木三、田支團長馬場繁樹 木内支團長柏崎市太郎 間木支團長袴田良見 洗平支團長山白覺之助 阿光坊支團長成田健次郎 木崎支團長北向善之助 木ノ下支團長田中豐
△百石町青年團 大正六年二月創立 團員三百六十名 團長三浦元次郎 副團長三浦正助 百石分團長村井秀之助 深澤分團長石小笠原三之助
△東通村青年團 大正六年九月創立 團員六百七十七名 團長山本雄太郎 副團長山本角次郎 入口支團長木村鐵治 大角支團長佐々木才太 目名支團長吉田貞太郎 長佐支團長石持支團長吉田長海老 鹿橋支團長石持支團長吉田長海老 支團長賀佐春松 野牛支團長甲
△岩屋支團長岩屋地政治 尻屋支團長成田榮 尻屋支團長阿部新藏 猿ヶ森支團長葛卷行匡 田代支團長中島恒太 小田野澤支團長川口岩次郎 白糠支團長竹園支團長老部支團長石橋瀧次郎 砂子支團長南澤又吉 田屋支團長館石五郎
△田名部町青年團 大正七年六月創立 團員七百五十六名 團長熊谷力治 副團長平尾順太郎 田名部分團長二本柳龜太郎 根分團長山口正己 烏澤分團長杉本慶次郎 奧內分團長高松小一 中野澤分團長坂本昇
△大湊町青年團 大正四年十月創立 團員四百八名 團長太田直藏 副團長佐々木由路 菊地榮興 坂本豐之助 大平義勇 會長甲由太郎 大湊一心組長三川嘉夫 大湊青年團長祐川喜代 宇田青年團長飛内石藏 宇曾利宇田青年團長佐々木英二 城ヶ澤川青年團長藤助作 永下青年團長佐々木五衛門 泉澤青年團長中村惣左衛門 角違青年團長瀨川秀藏
△川內町青年團 大正七年五月創立 團員三百八十四名 團長坂部市太郎 副團長工藤正輔
△川內分團長藤田廉榮 田野澤分團長高野安造 戶澤分團長松本久一郎 銀杏木分團長高清水榮 八ヶ分團長工藤重吉 小倉分團長角井和一郎 檜川分團長東喜一郎 宿野部分團長笹原松若 彌崎分團長大室元三郎
△臨野澤村青年團 大正八年二月創立 團員二百三十四名 團長森寅吉 副團長福田健之助 脇野澤支團長橋本勇八 小澤支團長山本亮八 瀧山支團長山口力之助 源頭城支團長北山與太郎 瀨野支團長柴田常一 新井田支團長松浦源吾 蛸田支團長杉澤喜代治 九艘泊支團長山田喜久治
△大畑村青年團 大正四年創立 團員三百三十七名 團長瀨川忠夫 副團長伊藤金治 澁谷洋藏 正津川分團長筒井常七 上野分團長古川末吉 大畑分團長穴澤敏夫 湊分團長倉本由太郎 孫次郎分團長田高長次郎 二枚橋、釣屋濱分團長小林淺次郎 木野部分團長齋藤直衛 赤川分團長川本榮藏 關根橋分團長藤平五郎 高橋川分團長山本平藏 小目名分團長山田末治
△風間浦村青年團 大正六年十一月創立 團員二百六十六名 團長

社會教育——縣下青年團模範者

丑太郎 畑中甚五郎(蟹田村)
飯田岩吉(蓬田村)
田中一郎(小湊町) 勤勉
高橋一郎(後湯村) 向學の志
強く孝行にして熱心に家業に勵みその他凡てが農村青年の好模範である
△玉熊敏雄(後湯村) 團體的訓練の體得と洗練された社會意義の持主として農村青年中稀に見る人である

西津輕郡

鎌田恭吉 盛義雄 原田東一郎
盛義雄(福原村)
笹森善悟(岩崎村)
江良長一郎(館岡村) 親孝行
傳福常一(舞戸村)
戸喜作 一戸留五郎(中村)
齊藤久一(鳴澤村) 出來崎青年分團の副團長として團員を指導し、月二回の修養會、讀書會を行ひ、出來島原野に徐々に殖林せしめんと計劃してゐる
長内石太郎(鳴澤村) 性質清潔潔白、出來島分團の幹部として會計に任せられ、青年に禁酒を勧め現在禁酒會が成立してゐる
高橋朝捷 高橋喜代藏 佐々木源弘 佐々木直四郎 佐々木年雄(川除村)

中津輕郡

平山増太郎(藤代村)
高屋與八 小山茂雄(和徳村)
福士登喜美(和徳村) 盛岡藩兵隊一番の成績で退營し、縣下模範青年として表彰せられ、同じく東京雄辯社より全國模範として表彰せられ、目下農業を營み副支部長の職に就いてゐる
齊藤武雄(堀越村) 中郡青年團表彰
阿保武三郎 佐藤崇太郎 笹森儀助 福士茂雄(堀越村)
八木橋龍夫(高杉村)
相馬敏男(豊田村)
石岡勇 工藤幸作 進藤重雄
石岡正治(清水村)
三浦俊之助 工藤武雄 米澤尾治(西目屋村)
工藤誠三郎 堀川永作 古川榮相馬光男(藤代村)
長尾佐太郎(船澤村)
須藤繁吉 須藤義雄 三上子五郎(裾野村) 木村富榮(岩木村)
佐藤有造
南津輕郡
雪田元八 須藤多平(五郷村)
白戸英三 今井義三 葛西喜芳 今井周三 葛西安太郎 葛西健一 葛西長一(町居村)
山内三藏(女鹿澤村)

北津輕郡

中山寅一(光田寺村) 資性温厚篤實にして團の振興に没頭し至誠人を動かす信望一身に柔る
水木實(藏館村) 孝悌の情厚く交際を精勵たるのみならず支部長として常に陣頭に起つて指導の功多し
工藤藤一 平川正雄(光田寺村)
佐々木精太郎(碓ヶ關村) 熱心に家業に従事し、温厚篤實にして訓練所及補習校は殆ど無缺席にして他の模範とされてゐる
長内房雄 長内操(尾上村)
津川武三 鎌田東次郎(五郷村)
吹田勇助(柏木町)
北津輕郡
須郷良藏 太田又四郎(六郷村)
新谷政太郎(七和村) 大正八年三月時の郡長より表彰され、大正十三年七月郡の青年團長より模範青年として表彰され、十一月十二月横須賀海兵團に機關兵として入團、昭和四年十一月一等機關兵で除隊、在團中善行賞、技術證明證服優等賞を受け、歸郷後は専ら農事に従事してゐる
青山定雄(内湯村) 勤勉親

上北郡

吉田彌吉 長嶺初太郎 橋本石太郎 吉本勝太郎 折館利助(六戸村)
天間武治(天間林村)
伊藤勇吉(四利村)
山端市松(大深内村) 數年以前より青年の指導をなし、今年志願兵として五聯隊に入營
氣田佐美哉(三本木町)
二ツ森吉次郎(三澤村)
沼山吉助(甲地村)
内山義雄(浦野館村) 農事研

究家

△天間林村 性質温厚
△沼田長次郎 金崎種次郎(六戸村)
△下北郡
△鳥山重太郎(田名部町) 團務に精勵
△久保田市次郎(川内町) 品行方正にして家庭圓滿を圖り道路愛護並に村内のことに獻身的に働いてゐる
△杉本丑松(東通村)
△布施重次郎(川内町)
△繁佐家辰夫 二ツ森松太郎(三本木町)
△工藤孫彦 瀬川市三郎(大湊町)
△三戸郡
△大野重一(階上村)
△工藤政吉 松井馬之丞 龜田金次郎(名久井村)
△中村正次郎(留崎村)
△前田惣吉 川村辨次郎(五戸町)
△中村政藏(下長苗代村) 浮動し易き農村青年を精神的に積極的に善導し、藁工品製作會を開き其の代金で木炭、會旗を買ひ士氣の養成につとむる等の模範とされてゐる
△弘前市

社會教育——處女會

處女會

處女會も又縣下の市町村に設立され、郡市には郡市聯合處女會あり縣には縣聯合處女會があつて統制されてゐる
青森縣聯合處女會
大正十五年九月一日創立したもので縣學務部社會課に置き縣補助金一千四百圓を主たる財源とし昭和四年度事業としては、大會の開催、會報發行、幹部講習會、表彰、一日講習、婦女鑑編纂等を行つた。役員左の如し
會長學務部長上田一郎▽副會長社會課長今泉房吉▽幹事屬高野思郎 社會主事補澁谷洋藏

郡市聯合處女會

同川村作太郎▽評議員(各郡市聯合會會長) 東郡鈴木源吉 西郡倉光續光 中郡佐藤佐一 南郡荒谷元一 北郡三浦雄造 上北郡藤島滿 下北郡平尾順太郎 三戸郡久員 青森市藤田タカ 弘前市松下賢之助 八戸市笹井正太郎
西津輕郡聯合處女會 木造町向陽尋常高等小學校に事務所を置き意見發表會、講演講習會、處女作品展覽會の開催、町村處女會の施設獎勵等を行つてゐる、會長倉光續光、副會長村上忠次郎
南津輕郡處女會 大正十四年十一月二十八日組織、黒石町女子尋常高等小學校に事務所を置き中堅處女養成講習會、講習講演會、展覽會の開催、模範會員節婦烈女の表彰等を行ふ。會長上田三郎、副會長古山正三、幹事村上三郎
上北郡處女會 事務所を七戸町字七戸三番地に置き見學旅行、意見發表、講習會等を開催してゐる、會長藤島滿、副會長北川喜三郎
下北郡處女會 田名部町田名部尋常高等學校に事務所を置く

北津輕郡

北津輕郡處女會 五所川原女子尋常高等小學校に置く、事業としては講演會、講習會の開催見學旅行の實施、處女會に關する調査研究其他を行つてゐる、會長三浦雄造、副會長飯塚良三、青森市處女會 事務所を橋本

小學校に置く、會員二百名で事業として裁縫、活生、作法、遊戯、手藝の講習會等を催してゐる、沖館に支部あり會長は藤田とく、副會長津谷とみ

東郡聯合處女會 大正十四年十月十五日の創立で事務所は久栗坂尋常高等小學校に置く、會長鈴木源吉、副會長龜田貞作

三戸郡處女會 縣立八戸高等女學校に事務所を置き事業として作品展覽會、幹部講習會等を行つてゐる、會長三田藤吾、副會長大西喜三郎、齊藤謙太郎、近田庄太郎

中津輕郡處女會 弘前市下白銀町玉成高等小學校に事務所を置く、中郡十六ヶ村を區域として總會を開いて講演、意見發表、作品展覽會を行ひ又裁縫、手藝作法、料理の講習會を催してゐる、會長佐藤佐一、副會長堀内國三郎

各町村處女會

東津輕郡

▽油川町處女會 大正九年二月創立 會員五〇名 會長西田源藏 副會長津幡久子 須藤久

▽大野村處女會 大正十五年二月創立 會員一三名 會長原

子武磨 副會長高坂金吾 大野分會長山上たけ 細越分會長石山勝雄 安田分會長菊池孝一

▽荒川處女會 大正十年二月創立 會員百名 會長白鳥芳三

▽高田村處女會 大正十二年十月創立 會員九十五名 會長長内健造 副會長間山長一郎 高田支部長淺野茂保 野澤支部長工藤直雄

▽瀧内村處女會 明治四十五年創立 現在は立消えの姿で役員等もない

▽新城村處女會 大正八年八月十五日創立 會員一五三名 會長工藤英夫 副會長對馬まつ

▽長石津浩靜 石澤支部長齋藤徳太郎 戸門支部長野呂齡助 鶴ヶ坂支部長種市有隣

▽奥内村處女會 大正七年十二月十日創立 會員一三八名 會長阿部助太郎 副會長館田眞太郎 市川謙吉

▽後湯村處女會 大正十二年八月創立 會長高木太吉 副會長櫻田とし、四戸橋支部長森山イヨ 後湯支部長工藤そよ 六枚橋支部長相馬チヤ 小橋支部長横田ミエ 左堰支部長福岡キサ

▽蓬田村處女會 大正十四年創立 會員一二二名 會長坂本種一 副會長川村文行 廣瀬支部長中川マツ 蓬田支部長森光秀

▽蟹田村處女會 大正十三年八月創立 會員一三八名 會長山崎金之助 副會長久保淺吉 蟹田支部長久保淺吉 鹽越支部長長内武吾 小國支部長風張豐志

▽大山支部長安田武四郎

▽平館村處女會 大正十四年八月創立 會員二二六名 會長村市藏 副會長秋元初太郎 石崎支部長田中芳郎 平館支部長我滿三郎 野田支部長山崎貞雄 今津支部長洞口良太郎 舟岡支部長高橋潔 磯山支部長横内利輔

▽一本木村處女會 大正八年二月創立 會員一五五名 會長田中金兵衛 副會長新山森之助

▽村元山崎支部長岡野格造 大泊支部長木村はる 巽月支部長小倉トキ 砂濱支部長藤巻キヨ

▽奥平支部長田中くに

▽今別村處女會 明治四十四年創立 會員七二名 會長神雄四郎 副會長中村ヒサ 今別支部長神雄四郎 大川平支部長小鹿

▽三厩村處女會 大正十四年八月創立 會員七二名 會長牧野逸藏 副會長白鳥俊三郎 三厩支部長小原仁太郎 宇鐵支部長横濱文四郎 龍飛支部長牧野三郎

▽横内村處女會 大正八年八月十日創立 會員一〇六名 會長矢作時之助 副會長矢作いね 高杉ちや 米田のり

▽筒井處女會 大正五年十一月二十一日創立 會員八五名 會長筒井女子補習學校長 副會長古澤ちさ

▽原別村處女會 大正五年八月創立 會員一〇六名 會長齋藤萬兵衛 副會長小笠原武男 三浦昌太郎 原別支部長小笠原武男 諏訪支部長三浦昌太郎

▽濱館處女會 大正九年三月七日創立 會員六六名 會長三浦自助 副會長鈴木文四郎

▽東嶽村處女會 大正十一年二月創立 會員一〇八名 會長成田つや 副會長柿崎ハナ 原子

▽野内村處女會 大正十四年十月十二日創立 會員一八一一名 會長鈴木源吉 副會長赤坂陽太郎 淺虫支部長成田こと 久栗坂支部長龜田貞作 野内支部長

柿崎キヌ

▽西平内村處女會 大正十四年創立 會員一九名 會長木村清藏 副會長欠 山口支部長三上ムメ 土屋支部長黒瀧のぶ

▽藤澤支部長小形ソノ 茂浦支部長須藤カヌエ 浦田支部長工藤

▽小湊町處女會 大正十五年二月創立 會員一三九名 會長森田盛健 副會長十文字善次郎

▽小湊支部長十文字善次郎 淺所支部長竹森三郎 東田澤支部長山本とよ 内童子支部長黒土盛

▽東平内村處女會 大正十四年六月二十五日創立 會員九四名 會長葛西要之助 副會長赤平樂司 外童子支部長太田はつと

▽清水川支部長齋藤つや 口廣支部長井筒ふさ 狩場澤副支部長中村明一 松野木支部長工藤つね

西津輕郡

▽鎌ヶ澤處女會 大正八年創立 會員一九六名 會長村上忠次郎

▽赤石村處女會 大正十四年十一月二十八日創立 會員一六四名 會長宮本義行 副會長長谷川深太郎 南金澤支部長宮本義

行 赤石支部長長谷川深太郎 一ツ森支部長鎌田武一郎 深谷支部長葛西喜久衛

▽穴戸瀨 村として統一されたものが無い、修道處女會は大正十年北金ヶ澤に創立 會長山屋不二夫 風合瀨處女會は大正十一年創立 會長佐々木芳次 島木處女會は同年創立 會長桑村安太郎 全會員七五名

▽深浦町女子青年會 大正十四年十一月創立 會員二八四名 會長島川一覺 副會長佐藤幸一 郎及小學校長 深浦支部長齋藤清 横磯支部長山下尙隆 鱸作支部長野呂克正 廣戸支部長濱田嘉兵衛 追良瀬支部長黒瀧きく

▽岩崎村處女會 昭和二年組織 會長一四七名 會長七戶稜七郎 副會長木山善成 工藤彌平 大間越支部長菊池五郎 兵衛 黒崎支部長工藤彌平 澤邊支部長菊地武之助 岩崎支部長西巻ソノ

▽中道尻支部長齋藤榮

▽中村處女會 大正十四年組織 會員一二一名 會長本間竹太郎 副會長三上澄 中村支部長本間竹太郎 濱橋支部長益谷才八 長平支部長長尾武俊 芦花支部長三上澄

▽新戸處女會 大正九年八月創立 會員五十一名 會長鎌田長立 會長森山のぶ

▽鳴澤村處女會 會員八三名 會長原直司 副會長中野孝一

▽大橋朝江

▽森田村女子青年會 大正十五年二月設立 會員一二〇名 會長山谷省一 副會長三戸晟一

▽小山内徳充 森田支部長三戸晟一

▽育成支部長小山内徳充

▽下福原女子青年會 大正十一年三月十六日創立 會員四〇名 會長相馬英俊

▽柴田村處女會 大正十四年十月創立 會員一〇七名 會長杉森秀一郎 副會長川島りち 此田支部長町田萬一 菊川支部長寺田渡人 福原支部長安田健次郎

▽木造町處女會 大正十年七月二十三日創立 會員九〇名 會長倉光續光 副會長木村文信

▽水元村女子青年會 大正十一年六月創立 會員六四名 會長小山内徳行 第一支部長金澤浪太郎 第二支部長中野公濟 第三支部長乘田豊太郎 第四支部長山口善吉郎

▽柏村處女會 大正十年創立 會員一七一名 會長澤田忠次郎 副會長小山内孫兵衛 桑野木田

▽川除村處女會 大正十一年三月三十日創立 會員九六名 會長三浦友助 副會長柴野イマ

▽出精村處女會 大正十四年十月十七日創立 會員一六四名 會長福島善兵衛 副會長鳴海貞藏 以支部長鳴海貞藏 永田支部長成田源助 兼館支部長小山内孫一 出野里支部長菊地慶助

▽稻垣村處女會 大正十四年六月創立 會員二五三名 會長長内長五郎 副會長高松政之丞 月長支部長高松政之丞 沼崎支部長平尾貞 千年支部長尾野達穂 繁田支部長秋元廉吉 下繁田支部長福井憲一

▽館岡女子青年會 大正十一年二月二十四日創立 會員一三三名 會長三橋友吉 副會長新岡一夫 館岡支部長長谷川重昭 菰穂支部長小山内平内市 筒木支部長佐藤公知

▽車力村 村處女會として統一されしものがなく車力處女會は大正十一年創立會長尾野勇太郎

▽牛湯處女會は同年創立會長村上上徳彌 富港處女會等は 大正十五年創立 會長宮西又一

社會教育——各町村處女會

△十三女子青年團 大正十四年八月創立したる現在役員もなく有名無實の状態にある

中津郡
▽清水村處女會 大正十四年八月廿五日創立 會員一八名
會長成田清太郎 副會長奈良岡修造
青柳支部長奈良岡修造
小澤支部長西澤小太郎
和徳村處女會 大正十五年五月八日創立 會員一四一名
會長藤多市 副會長藤田嘉三郎
長佐藤多市 副會長明誠支部長工藤恒雄 靜修支部長中村晉太郎
養正處女會中村民五郎
▽豐田村女子青年團 大正十一年二月二十六日創立 會員一四一名
會長佐藤貞雄 副會長山形まつ 新里支部長佐藤貞雄
知新支部長戸沼清吉 外崎支部長清水市太郎
堀越村處女會 大正十二年四月月創立 會員八一名
會長佐藤元右衛門 副會長齋藤秀代
取上支部長對馬としゑ 大清水支部長千葉きよ 門外支部長芳賀さき
堀越支部長竹谷つき 川合支部長小堀つや
▽千年度女會 大正十四年四月一日創立 會員二八名
會長福眞清吉 副會長高橋治惠

▽十二里村處女會 大正三年八月創立 會員二五名
會長清野千代吉 副會長三浦善五郎
後藤善吾
▽常磐女子青年團 大正十四年十二月創立 會員八〇名
會長鎌田徳太郎 副會長岩淵憲四郎
海老名優一 若松分團長岩淵憲四郎
福島分團長海老名優一
▽藤崎町處女會 大正八年四月三日創立 會員一〇〇名
會長原源吉 副會長成田すゑ
▽光田寺村處女會 大正十四年七月一日創立 會員一四四名
會長中山喜代吉 東光寺支部長三浦慶藏 前田屋敷支部長菊地正彦
川部支部長鹿内とよ
▽畑岡村處女會 大正十四年十一月六日創立 會員八五名
會長高木助十郎 副會長工藤喜一
第一支部長高木助十郎 第二支部長有馬右伸
▽田舎館村處女會 大正十四年十一月創立 會員二〇四名
會長長工藤周吉 副會長吉田榮造
垂柳支部長瀧本慶之助 畑中支部長吉田榮造 大根子支部長棟方孝之進 豊蔭支部長清藤啓助
▽中郷處女會 大正七年八月創立 會員一七四名
會長古山正三

社會教育——各町村處女會

▽駒越村處女會 大正十四年十月組織 會員六四名
會長白澤多吉 副會長田中兼二
駒越支部長鎌田マツ 鳥井野支部長木村リツ
▽岩木村處女會 大正十四年六月廿五日創立 會員一二五名
會長須藤市右衛門 副會長笹浩玉田竹次郎 五代支部長葛西ナホ 宮地支部長三上タケ 新法師支部長太田コヨ 葛原支部長田村ナヲ 新岡支部長佐藤ナリ 高岡支部長高木ナミ 百澤支部長木原キヨ
▽相馬村處女會 大正十五年三月創立 會員一三〇名
會長成田重雄 副會長三上富太郎
石堂支部長佐藤勇 紙漉澤支部長三上富太郎 相馬支部長三井アヤ
▽東目屋處女會 會員八〇名
會長西澤直太郎 副會長飛鳥末太郎 大高正橋 國吉支部長大高正橋 時習支部長飛鳥末太郎
▽西目屋村將處女會 大正十一年組織 會員一〇〇名
會長三上榮 第一支部長工藤市太郎 第二支部長對馬良金 第三支部長成田そよ 第四支部長長谷川良雄
▽藤代村處女會 大正八年九月六日創立 大正十五年縣知事より表彰された、會員一三一名
會長欠員 致遠處女會長成谷喜一郎 三省處女會長岩谷榮吉
▽新和村處女會 大正十年四月創立 會員九五名
會長今長次郎 副會長新和支部長今長次郎 小友支部長神勇之助 三和支部長森馨
▽大浦處女會 大正九年組織 會員五五名
會長三浦兼吉 副會長笹森やゑ
▽船澤處女會 大正九年八月創立 會員九六名
會長高木太吉
▽高杉村處女會 大正十四年舊來の二處女會を統一組織す、會員七九名
會長藤田嘉七 副會長對馬儀作 三上ツユ 高杉支部長三上ツエ 強行支部長對馬儀作
▽裾野村處女會 大正十二年八月二十五日創立 會員一四五名
會長川越きさき 副會長神ムメ 自得支部長藝田むめ 草薙支部長神ムメ 十面澤支部長増田やゑ 十腰内支部長佐藤たま
南津郡
▽黒石町處女會 大正八年五月八日創立 會員一五名
會長荒谷元一 副會長木村將雄
▽女鹿澤村處女會 大正十四年十一月二日創立 會員七八名
會長西塚寅六郎 副會長常田健三郎 須藤金之助 女鹿澤支部長常田健三郎 成業支部長須藤金之助
▽富木館村處女會 大正九年三月創立 會員一〇五名
會長小山勝義 副會長工藤智行 育英支部長小山勝義 福館支部長工藤智行
▽野澤村處女會 大正八年三月十七日創立 會員一二九名
會長喜多島元次郎
▽大杉村處女會 大正十四年十一月二日創立 會員八三名
會長工藤きよ 副會長久野みつゑ
杉澤支部長工藤省吾 大榮支部長工藤正光
▽浪岡村處女會 大正七年三月卅一日創立 會員六五名
會長齊藤正五郎 副會長常田みさほ
▽五郷村處女會 大正十五年六月十日創立 會員一四〇名
會長長谷川宗一 副會長盛田茂理
本郷支部長盛田茂理 北中野支部長木村武一 細野支部長加川惣吉
▽六郷村處女會 大正九年一月一日創立 會員一〇〇名
會長丹代光男 副會長江利山竹五郎
上十川支部長吉崎勝壽

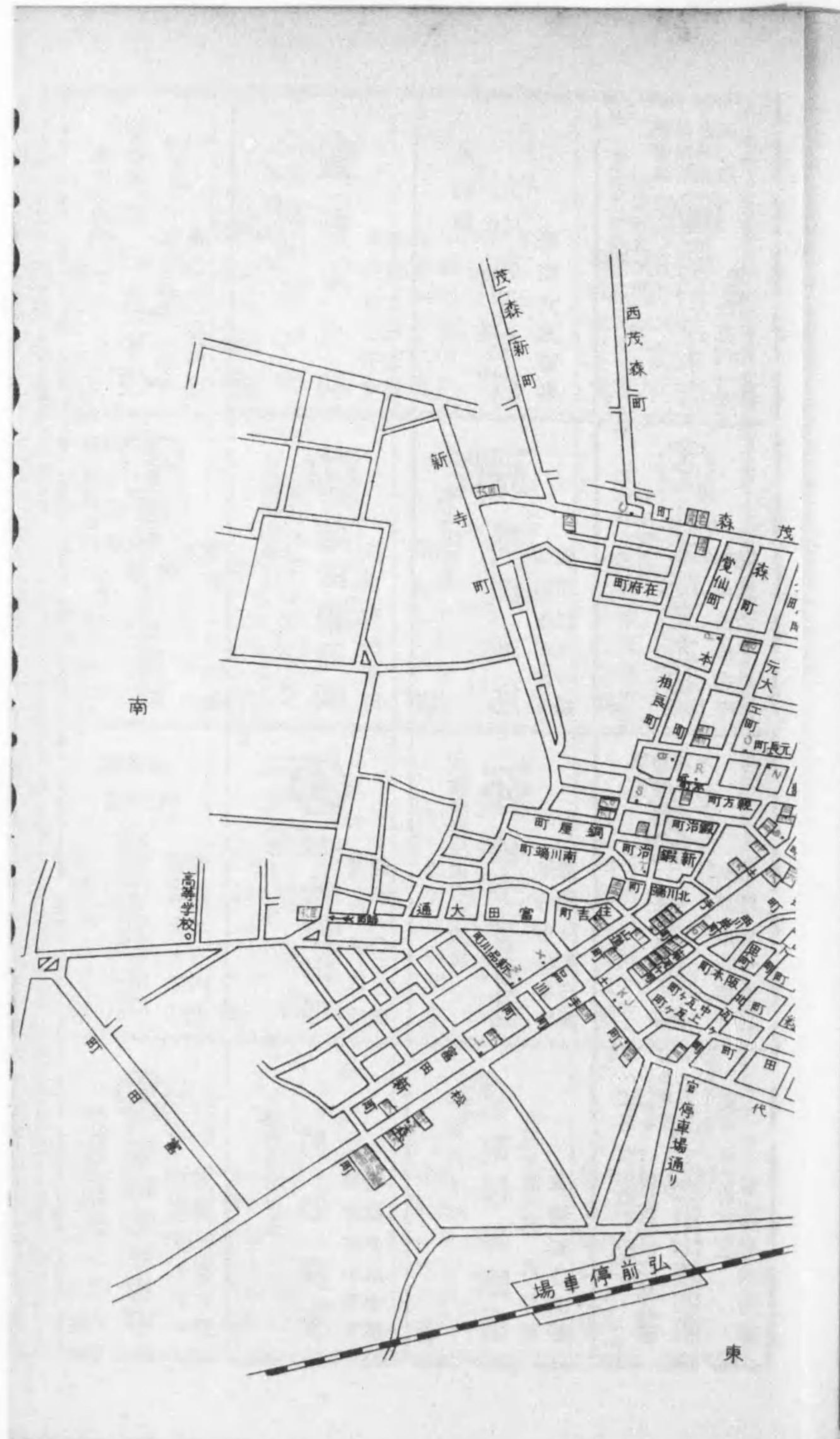
年三月一日創立 會員一二九名
會長高島德太郎 副會長林チヨ
鶴田支部長 瀧谷やき 菖蒲川支
部長 田中おふれ 大巻支部長 尾
崎みや 龜田支部長 澤田あけ
▽沿川村處女會 大正九年三月
創立 會員一〇九名 會長松山
慶助 副會長石岡ヤエ
▽六郷村處女會 大正八年八月
創立 會員一二二名 會長松江
政一 副會長黑瀧信隆 第一支
部長 田村嘉六 第二支部長 成田
榮作
▽榮村處女會 大正十年八月二
十一日創立 會員六七名 會長
泉傳十郎 副會長兼子靜江 榮
支部長 泉傳十郎 七館支部長 工
藤金四郎
▽中川村處女會 大正十五年五
月十六日創立 會員一四二名
會長山川彬 田川支部長 葛西ミ
ネ 沖飯詰支部長 笠井カツ
▽三好處女會 大正八年十二月
二十七日創立 會員八〇名 會
長白取喜作 副會長澤田アネ
▽七和村處女會 大正十一年二
月創立 會員八〇名 會長藤田
紋太郎 副會長三上堅太郎 三
上泰助 工藤金徳 高野支部長
三上泰助 羽野木澤支部長 三上堅太
三上泰助 羽野木澤支部長 三上堅太
年三月一日創立 會員一二九名
會長高島德太郎 副會長林チヨ
鶴田支部長 瀧谷やき 菖蒲川支
部長 田中おふれ 大巻支部長 尾
崎みや 龜田支部長 澤田あけ
▽沿川村處女會 大正九年三月
創立 會員一〇九名 會長松山
慶助 副會長石岡ヤエ
▽六郷村處女會 大正八年八月
創立 會員一二二名 會長松江
政一 副會長黑瀧信隆 第一支
部長 田村嘉六 第二支部長 成田
榮作
▽榮村處女會 大正十年八月二
十一日創立 會員六七名 會長
泉傳十郎 副會長兼子靜江 榮
支部長 泉傳十郎 七館支部長 工
藤金四郎
▽中川村處女會 大正十五年五
月十六日創立 會員一四二名
會長山川彬 田川支部長 葛西ミ
ネ 沖飯詰支部長 笠井カツ
▽三好處女會 大正八年十二月
二十七日創立 會員八〇名 會
長白取喜作 副會長澤田アネ
▽七和村處女會 大正十一年二
月創立 會員八〇名 會長藤田
紋太郎 副會長三上堅太郎 三
上泰助 工藤金徳 高野支部長
三上泰助 羽野木澤支部長 三上堅太
三上泰助 羽野木澤支部長 三上堅太

▽長橋村處女會 大正十五年一
月創立 會員五七名 會長石岡
義雄 野里支部長 伊藤門之丞
松野木支部長 山田章
▽松島村處女會 大正十一年一
月創立 會員一八〇名 會長加藤
定市 副會長野呂千次郎 吹畑
支部長 鈴木吉彌 一野坪支部長
館山藤左衛門 金山支部長 齊藤
清助 水野尾支部長 石谷伊秀
▽飯詰處女會 大正十年五月三
日創立 會員四〇名 會長島田
林次郎 副會長長泉多助
▽嘉瀬村處女會 大正十四年創
立 會員一二〇名 會長鳴海民
之助 副會長伊藤慶三郎 橫島
嘉臣 第一支部長 伊藤慶三郎
第二支部長 橫島嘉臣
▽喜良市村處女會 大正九年二
月二十四日創立 會員七二名
會長武田武四郎 副會長笹木と
し
▽金木町處女會 大正十四年十
二月創立 會員一四一名 會長
中谷新吉郎 第一支部長 福士勇
第二支部長 杉山子之助 第三支
部長 外崎イッ
▽武田村處女會 大正九年三月
十日創立 會員一八〇名 會長
三上格馬 副會長新岡キッ 豐

島幹事加賀田サヨ 富野幹事野
村タマ 富岡幹事藤本ハヨ 福
浦幹事藤本ヨシ 蘆野幹事長利
ミイ 田茂木幹事高松オリノ
▽中里村處女會 大正九年八月
十五日創立 會員一二〇名 會
長木村忠藏 副會長古川リサ
▽内湯村處女會 大正十年創立
會員一七名 會長奧田順藏
尾別支部長 坂本金七 薄市支部
長 下澤才一 今泉支部長 福士貞
藏
▽相内村處女會 大正八年四月
三日創立 會員三六名 會長藤
田儀八 副會長藤田きぬ
▽脇元女子青年團 大正八年八
月二日創立 會員四三名 會長
岩川老一 葛西のぶ
▽小泊村處女會 大正十四年十
一月十五日創立 會員七四名
會長開米農夫 副會長橋本直四
郎 小泊分會長 長谷川武一 下
前分會長 小野豊五郎
▽野邊地町處女會 大正十四年
十二月二十九日創立 會員一七
〇名 會長石黒熊三郎 副會長
八木澤幸三郎 野邊地支部長 八
木澤幸三郎 馬門支部長 井上雄
太郎 有戸支部長 高田みゑ
▽横濱村處女會 大正九年創立

會員一〇八名 會長杉山庄作
副會長横濱博 横濱支部長 横濱
博 有畑支部長 荒井新二
▽天間林村處女會 昭和二年一
月一日創立 會員三六二名 會
長千葉喜代美 副會長向中野寅
吉 天間館支部長 四戸松三郎
坪支部長 豊川菊治 白石支部長
和田藤治郎 中野支部長 向中野
定男 野支部長 向中野則光 四
ヶ村支部長 甲治萬治郎 榎林支
部長 中野渡勳 二つ森支部長 石
原敬輔 甲李支部長 三上主税
▽甲地村處女會 大正十四年一
月十日創立 會員二三〇名 會
長瀧川祐治 副會長福士光直
水喰支部長 野月澄登 甲地支部
斗曳支部長 鶴賀豊 清水目支部
長 白取得三 夫雜原支部長 仁科
節雄 乙供缺員 保戸澤福士光
直
▽七戸町處女會 大正七年三月
創立 會員二五四名 會長北川
喜三郎 副會長藤嶋いよ 野々
▽浦野館村處女會 大正七年二
月二十七日創立 會員二三四名
會長漆戸潔 副會長渡部勝太
上野支部長 工藤又四郎 大浦支
部長 白鳥鐵五郎 小川原支部長
白濱末吉 新築支部長 小笠原善

弘前市 商工業 及醫家 御案内



凡例
 一 廣告の順序は北より南へ、地番は五
 二 順業者は北より南へ、地番は四
 三 工業者の数は一より六、表は四
 四 家の数は十を以て示した
 五 戸数は二を以て示した
 六 警察署
 七 郵便局
 八 市役所
 九 市記
 十 市記

三式番 81 番 番 番
 木吉 42

海産物問屋
相仁商店
弘前市元寺町
電話一六四番

平和記念東京大博覽會賞牌
ホテ1印乾温純製造元
平和
石岡熊吉
弘前市代官町電話九五番
御大典記念京都大博覽會金牌受領

銘酒一洋醸造元
木筒屋川村東一郎
弘前市紺屋町
電話三六六番

弘前市土手町
三菊池薬店
菊池長之
電話三六六番

銘酒鶴鶴醸造元
阿波屋佐藤才八
弘前市桶屋町
電話一〇六番

陶器卸小賣商
尾張屋坂本國三郎
弘前市百石町
電話四六六番

銘酒松の井醸造元
高松多三郎
弘前市和徳町
電話五〇一番

砂糖・麥粉・麵類・農表和洋
紙類・精撰味噌製造販賣
千葉金作商店
弘前市和徳町
電話一六六番

雜貨卸問屋
雨森音次郎商店
弘前市土手町
電話二〇三番

味噌製造
今村友太郎
弘前市松森町
電話一八〇番

履物問屋
サカイヤ號
葛西邦助商店
弘前市土手町
電話四五三番

和洋金物卸商
農具製作
全工藤豊吉
弘前市土手町
電話四二三番

白鶴と沖正宗
肥料商
各櫻庭秀輔商店
弘前市桶屋町
電話四五番

林檎問屋
藤唯七
弘前市本町六四
電話六四〇番

諸官衙御用達
高橋靴店
弘前市一番町(電話二四番)

建築材料各種卸小賣
銅鐵金物一式
忠社共慶助商店
弘前市百石町
電話二二九番

萬小間物商
板垣常吉商店
弘前市茂森町

米雜穀商
味噌製造業
加藤幸助
弘前市新寺町
電話一三二番

萬金物商
川島豊吉
弘前市土手町
電話三一三番

美術商標レツテル印刷
林檎ペーパー各種圖案
電力弘美堂印刷所
弘前市中土手町(野宮小路)
電話一三〇一番

三井物産株式會社木炭一手販賣店
三井物産株式會社石炭特約販賣店
石炭炭商 櫻庭圭造商店
弘前市代官町四二番
電話三七番

萬國珍鳥各種
壽聲園
飼料相馬飼鳥店
弘前市代官町

醬油味噌製造業
竹内運吉
弘前市土手町
電話三一三番

吳服卸商
飛鳥義助商店
電話五〇二番

小館木材株式會社
特約販賣店
木材木羽根ミクニ板
石郷岡材木店
弘前市新鍛冶町
電話一二三九番

弘前市元寺町
加福自轉車部
電話一六〇番

弘前市元寺町電話三三番
開雲堂木村本店
弘前市中土手町電話三三番
開雲堂木村支店

林檎輸出商
今野榮太郎
弘前市東長町
電話九五二番

弘前市元寺町
齋吉旅館
電話三九番

銘酒玉千鳥醸造元
玉田酒造店
弘前市茂森町
電話二〇六番

軍隊諸官公衙御用達
仕出し商
知坂駒吉
弘前市茂森町
電話四八番

自動車の御用は
新車揃の
富田自動車部
弘前市土手町
電話二二七番

銘酒遊天
富名醸造元
富名醸造株式會社
弘前市富田大通
電話五五九番

純良牛乳
長尾容量舎
弘前市春日町
電話一六二番

銘酒
白梅醸造元
三野村音次郎
弘前市新町
電話一四四番

酒類商
成田豊助商店
弘前市茂森町
電話一二九番

新柄豊富取揃
久鳴海吳服店
弘前市和徳町
電話二二四番

青森縣最初の印刷所
創業明治十三年
活版石版一
和洋帳簿式
野崎印刷所
弘前市元寺町
電話二二七番

味噌製造業
嘉中谷熊吉
弘前市濱の町
電話一四〇番

時計並
貴金屬
眼鏡部
長尾時計店
弘前市和徳町

萬糸物商
軍隊御用達倍行社特約店
野宮忠吉
弘前市土手町
電話二二九番

年産一千石
銘酒萬千代
酒濱一醸造元
中村萬次郎
弘前市濱の町
電話四四八番

墨表紙類卸商
久鳴海雜貨店
弘前市土手町
電話一六八番

一度當店の
スタイルを試みられよ
品質と本位
能登屋洋服店
弘前市土手町
電話九〇八番

陶器卸小賣商
尾張屋 坂本國三郎
弘前市百石町
電話四六六番

銘酒松の井醸造元
高松多三郎
弘前市和徳町
電話五〇一番

砂糖・麥粉・麵類・墨表和洋
紙類・精撰味噌製造販賣
太千葉金作商店
弘前市和徳町
電話一六六番

弘前市本町六四
問屋 藤唯七
電話六四〇番

諸官衙御用達
高橋靴店
弘前市一番町(電話二四番)

建築材料各種卸小賣
銅鐵金物一式卸小賣
忠社共慶助商店
弘前市百石町
電話二二九番

萬國珍鳥各種
壽聲園
飼具及
相馬飼鳥店
弘前市代官町

醬油味噌製造業
竹内運吉
弘前市土手町
電話三一三番

飛鳥義助商店
吳服卸商
電話五〇二番

銘酒玉千鳥醸造元
玉田酒造店
弘前市茂森町
電話二〇六番

軍隊諸官公衙御用達
御料理
知坂駒吉
弘前市茂森町
電話四八番

自動車の御用は
新車揃の
富田自動車部
弘前市土手町
電話二二七番

銘酒遊天醸造元
富田醸造株式會社
弘前市富田大通
電話五五九番

純良牛乳
長尾容量舎
弘前市春日町
電話一六二番

銘酒白梅醸造元
野村音次郎
弘前市新町
電話一四四番

窓掛敷物の御用は
室内裝飾品
和洋家具
ハクライ堂
大室 寅雄
電話二二八番

酒類商
成田豊助商店
弘前市茂森町
電話一二九番

新柄豊富取揃
冬鳴海吳服店
弘前市和徳町
電話二四四番

青森縣最初の印刷所
創業明治十三年
活版石版一
和洋帳簿式
野崎印刷所
弘前市元寺町
電話二二七番

津輕塗製造販賣
弘前漆器株式會社
弘前市元寺町
電話一五六番

味噌製造業
中谷熊吉
弘前市濱の町
電話一四〇番

時計並
貴金屬
眼鏡部
長尾時計店
弘前市和徳町

萬糸物商
軍隊御用達信託特約店
野宮忠吉
弘前市土手町
電話二一九番

弘前市土手町八一
有限責任
弘前信用組合
電話四三八番

年産一千石
銘酒萬千代醸造元
酒濱一
中村萬次郎
弘前市濱の町
電話四四八番

墨表紙類卸商
冬鳴海雜貨店
弘前市土手町
電話一六八番

一度當店の
スタイルを試みられよ
品質と本
位
能登屋洋服店
弘前市土手町
電話九〇八番

弘前市本町壹番地
弘前電燈株式會社
電話一五五番

萬年筆専門
責任付
平山萬年堂
弘前市中土手町
電話一二三四番

履物問屋
奥多
余福永忠助
弘前市土手町
電話二二三番

藥種商
丸山龜吉藥店
電話六五四番

め 電氣正宗發賣元
弘前市本町五丁目
酒醬油
燒酎
食料品
問屋
明治屋本店
電話三六一番
電話五五二番

銘酒長安正宗
吉野櫻 醸造元
福島造株式會社
弘前市富田
電話二二六番

美味茶葉果汁
藤田のフド一液
藤田葡萄園
弘前市松森町

雜貨販賣店
松岡商店
弘前市代官町
電話二六一番

あけび工藝品
輸出貿易商
八木橋文之助商店
弘前市山道町
電話六一八番

鰹節
福澤食料品店
弘前市土手町
電話九一六番

弘前市東長町
苹果輸出部
堀内喜代治
電話一〇一五番

銘酒常盤正宗醸造元
松木合資會社
弘前市松森町
電話一五三番

木家佛筆
材具壇筒
峯山本善藏
弘前市和徳町
電話五一七番

砂糖麥粉卸商
藤忠七商店
弘前市土手町
電話一三九番

肥料農業用品
町商會
弘前市土手町
電話四三七番

弘前市本町
前吳服店
前田久三郎
電話五〇三番

本店 弘前市中土手町
電話一〇三八番
支店 弘前市百石町
電話七六〇番
山小川藤四郎

弘前病院長 醫學博士 天木 順吉 自宅 弘前市長坂町 電話九三六番	弘前病院副院長 醫學博士 菊池 精三 自宅 弘前市下轄師町 電話一三三七番	弘前市品川町 醫學博士 齋藤 靜 電話一〇一七番	弘前市品川町 花柳病科 鳴海 醫院 X光線科 電話一〇〇〇三九番	弘前市本町五丁目 齒科 一般 平山 良太郎 東齒醫學士 電話一〇六一番	弘前市代官町 山田 咽喉科醫院 電話二六四番
青森縣齒科醫師會 第二部長 淺利 竹之助 弘前市代官町 電話七四五番	弘前市品川町 眼科 醫 木村 實明 電話一二四七番	伊東病院長 醫學博士 齋藤 周藏 弘前市元長町 電話二三〇番	弘前市松森町 小兒科 成田 醫院 電話五一六番	弘前市親方町 外柳病科 引田 醫院 婦人科 電話一三〇番	弘前市本町 由島 齒科醫院 電話八〇八番
弘前市本町 石郷岡眼科醫院 電話一〇一〇番	青森縣齒科醫師會長 工藤 道生 弘前市一番町 電話二四九番	弘前市元長町 婦產科 田澤 醫院 電話四三〇番	弘前市元寺町 中野 齒科醫院 電話二六三番	弘前市百石町 福島 咽喉科醫院 電話三二番	弘前市元寺町 眼科 醫 吉安 駿策 電話二四四番
弘前市土手町 婦人科 金上 醫院 電話四〇二番	弘前市北川端町 醫學博士 兒島 武夫 電話一〇〇三番	(本院)弘前市桶屋町 (分院)弘前市紺屋町 寺田 齒科醫院	弘前市土手町 花柳病科 廣田 醫院 電話四六四番	弘前市代官町 脫盲 腸炎 森 醫院 電話四三四番	弘前市茂森町 小兒科 吉田 醫院 電話三三三番

三郎 新山支部長甲地長壽
 大深内村處女會 大正十四年十一月二十一日創立 會員二八〇名 會長小向由藏 副會長成田喜三郎 洞内支部長永瀬佐太郎 羽立支部長竹ヶ原正 早坂支部長三島三五郎 立崎支部長立崎善七 深井支部長伊藤眞吉 晴山支部長市澤耕作 能澤支部長吉米地吉重

三本木町處女會 大正十五年八月創立 會員二五九名 會長和田足也 三本木支部長戸來松次郎 赤沼支部長照井壽雄 中振支部長吉田光次郎 下切田支部長成田竹太郎 上切田支部長大川三太郎

法興澤村處女會 大正十四年三月創立 會員二二一名 會長小笠原貞治 副會長漆坂正夫 澤田支部長小笠原傳次郎 法興澤支部長平野友見

藤坂村處女會 大正九年一月組織 會員一五〇名 會長高坂廣志 副會長佐々木ツギ 米田サダ 米田キミ

四和村處女會 大正十三年一月三十一日創立 會員一六二名 會長工藤良太郎 副會長三浦信平 傳法寺支部長三浦信平 瀧澤支部長田口平

勝造 大不動支部長小笠原善次郎 長下支部長土棟好正 六戸村處女會 大正十四年十一月三十日創立 會員一八六名 會長吉田正次郎 副會長鈴木友記 田中莊七 犬落瀬支部長木友記 折茂支部長工藤彦一 古間支部長佃良夫 柳町支部長齋藤龍雄 岡沼支部長澤田子之助

下田村處女會 大正十四年十一月二十三日創立 會員一四〇名 會長袴田健三 副會長松田操 中野渡喜佐太 木内々支部長松田操 下田支部長中野渡喜佐太 木ノ下支部長武井諒 百石町處女會 大正十四年十一月二十三日創立 會長三浦元次郎 副會長三浦正助 百石支部長三浦ユキ 一川目支部長松山武夫 二川目支部長新戸部喜助

三澤村處女會 大正十五年一月組織 會員二一九名 會長沼宮内菊治 岡三澤分會長佃清三川目分會長菅忍 淋代分會長吉田岩松 細谷分會長松村丑藏 織笠分會長菅誠三 根井分會長村井新三郎 三澤分會長荒井四郎 六ヶ所村處女會 大正十五年

六月二十七日創立 會員二一六名 會長高田達也 副會長阿部留吉 倉内支部長西田兵輔 志支部長工藤ヒロ 平沼支部長田中きぬ 鷹架支部長小林寛 戸長樋口勝雄 出戸支部長木村嘉次郎 泊支部長工藤誠

田名部町處女會 大正十四年十一月三日創立 會員二七五名 會長熊谷力治 副會長平尾順太郎 田名支部長山口正巳 鳥澤支部長伊東徳一 奥内支部長高松小長 中野澤支部長坂本昇

東通村處女會 大正十四年十一月創立 會員三九八名 會長山本雄太郎 副會長山本角次郎 山本支部長海老名昌助 蒲野澤支部長小川清之助 石持支部長瀨川丈夫 鹿橋支部長白濱たけ野牛支部長甲孝助 入口支部長木村鐵治 岩屋支部長菊地政治 尻屋支部長成田榮 尻勞支部長阿部新藏 猿ヶ森支部長葛巻行匡 大和支部長十倉隆義 田代支部長中島恒太 小野田澤支部長白嶽支部長竹園均 老部支部長石橋瀧次郎 砂子支部長池敬次郎 田屋支部長中村

秀太郎 大湊町處女會 大正十四年十一月三日創立 會員一五五名 會長本田直藏 副會長佐々木由路 坂本豐之助 菊地榮興 大湊支部長佐々木由路 大平支部長坂本豐之助 城ヶ澤支部長菊地榮興

川内町處女會 大正十三年十一月三日創立 會員一五五名 會長坂部市太郎 副會長岡田彦一 工藤正輔 戸澤支部長松本久一郎 田野澤支部長大坂長吉 川内支部長工藤正輔 銀杏木支部長三上正信 畑支部長工藤竹藏 小倉平支部長川野ヨテ 川支部長佐々木武四 宿野支部長酒井富作 蟬崎支部長鳴海寛

脇野澤村處女會 大正八年二月創立 會員九二名 會長森寅吉 副會長福田健之助 脇野澤支部長中村勝 小澤支部長福田健之助 瀧山支部長上小倉勇 大畑村處女會 大正十四年十一月創立 會員一九八名 會長瀨川忠夫 副會長瀧谷洋藏 山口支部長津川支部長筒井常士 大畑支部長瀧谷洋藏 孫次郎間濱支部長津はぎ 二板橋支部長津はぎ 二板橋支部長内健喜 木野部支部

社會教育——各町村處女會

長齋藤直衛 赤川支部長宗原マ
ツ 關根橋支部長澤田集五郎
高橋川小目名支部長山田ハル
▽風間浦村處女會 大正十四年
十月創立 會員一〇二名 會長
佐々木正之助 副會長伊勢忠次
郎 下風呂支部長齋藤才吉 桑
畑支部長織谷市太郎 易國間支
部長伊勢忠次郎 蛇浦支部長畑
山末次郎
▽大奥村處女會 大正十四年三
月創立 會員一八〇名 會長佐
々木吉三郎 副會長和田兵吉
大間支部長小川萬次郎 奥戸支
部長鎌田東洋
▽佐井村處女會 大正七年創立
會員一八五名 會長小島三郎
副會長柴田貞次郎 兩佐井支部
長小島三郎 原田支部長西山ハ
ナ 川目支部長下山トマ 矢越
支部長立花稻人 磯谷支部長福
田キヤ 長後支部長森勇八 福
浦支部長齋藤清巳 牛瀧支部長
坂井キヤ
△三戸郡
▽三戸町處女會 大正八年一月
創立 會員二一九名 會長齋藤
謙太郎 副會長大向ツネ
▽五戸町處女會 大正十四年創
立 會員一四二名 會長大西喜
三郎 副會長西塚のぶ 蛇川支
近田庄太郎 副會長村田ツル
▽下長苗代處女會 大正十一年
一月創立 會員二〇六名 會長
盛壽 副會長神田よし 内舟渡
支部長三上かほる 惡蟲支部長
在家はつよ 河原木支部長小笠
原たみ 石堂支部長田名部りさ
高館支部長河原木みさを 小田
支部長小原きよ 八太郎支部長
渡邊りき 日計支部長窪田よつ
▽北川村處女會 大正十二年九
月創立 會員一三一名 會長川
村美彌治 副會長長谷川又吉
▽地引村處女會 大正十一年十
一月十七日創立 會員一〇三名
會長梅村長一郎 副會長坂本貞
吉 米地上町支部長川守田サダ
同下宿支部長夏堀ミナ 同町中
支部長夏堀タカ 同後小路支部
長夏堀リセ 片岸支部長瀧田キ
ク 高橋支部長高橋カヨ 小泉
支部長木村ヨシ 麥澤支部長島
守ハナ
▽島守村處女會 大正十年三月
二十四日創立 會員一〇名
會長築瀬綱藏 副會長缺
▽名久井村處女會 大正十五年
一月二十三日創立 會員二七九
名 會長中居重太郎 副會長黒
川健三 上名久井支部長中村昌
喜治 下名久井支部長松木興身
平支部長長根ちよ 鳥舌内支部
長渡邊爲治 鳥谷支部長相内庄
次郎 法光寺支部長石橋幸七
横澤支部長室岡武雄
▽中澤村處女會 大正十五年六
月一日創立 會員一三二名 會
長稻垣邦 副會長缺 中野處女
會長西川政三 市野澤處女會長
相内秀 鳩田處女會長中野廣志
▽斗川村處女會 大正十四年十
二月十一日創立 會員一〇〇名
會長缺 副會長種市八重人 工
藤芳太郎 斗内支部長缺 豊川
支部長種市八重人 大舌支部長
工藤芳太郎
▽猿邊村處女會 大正十三年十
月十日創立 會員八〇名 會長
井畑幸八 副會長和田弘 貝守
支部長履地貫之助 杉澤支部長
谷田庄九郎 下田支部長松尾資
郎 蛇沼支部長月館泰俊 袴田
支部長月館健二郎
▽上郷村處女會 大正十四年一
月二十五日創立 會員二三六名
會長川守田益人 副會長小向正
定 石龜處女會長川守田益人
原處女會長小向正定 山口處女
會長田中幸一郎 遠瀬處女會長
松野民彌 夏坂處女會長久保武
志 向村處女會 大正九年八月創

立 會員七五名 會長缺員中
副會長高橋トヨ 大向支部長谷内
ふよ 小向支部長堀合とし子
▽平良崎處女會 大正十四年十
一月十五日創立 會員一九三名
會長馬場忠恕 副會長三浦茂八
下郷支部長三浦茂八 沖通支部
長柏田元松 相内支部長山内金
吾 赤石支部長木村繁三
▽留崎村處女會 大正十四年三
月二十日創立 會員八六名 會
長工藤祐三 副會長川守田孝
庭田きく 船場ヨシ 梅内支部
長工藤實 目時支部長庭田金藏
泉山支部長工藤忠太郎
▽川内村處女會 創立月日不詳
會員一四二名 會長豊川彌之助
切谷内支部長新井山くり 上市
川支部長佐々木たま
▽市川村處女會 大正八年三月
創立 會員一〇〇名 會長鈴木
清麓 副會長川村彌兵衛 多賀
支部長林健 森木支部長星野ツ
ネ
▽倉石村處女會 昭和三年三月
二十二日創立 會員一三七名
會長馬場正太郎 副會長小向健
治 三浦良雄 又重支部長馬場
正太郎 中市支部長久保とみ
石澤支部長三浦良雄
△戸來村處女會 大正十年十月
創立 會員一三二名 會長中村
イル 副會長島山やゑ 横田い
な
▽野澤村處女會 大正十年二月
創立 會員田島明納 副會長工
藤祐二 直江政藏 西越支部
長工藤祐二 手倉橋支部長直江
政藏
▽淺田村處女會 大正十四年十
一月二十三日創立 會長長峰清
の 副會長遠藤定治 松尾よし
の 沼田すゑ 淺水支部長沼田
すゑ 扇田支部長松尾よしの
▽豊崎村處女會 大正十五年三
月二十二日創立 會長三浦芳雄
副會長白石利八 平野萬藏 豊
間内支部長福士みつゑ 七崎支
部長堀米キク
▽田部村處女會 大正十二年四
月十五日創立 會員一二九名
會長缺 副會長工藤德彌 森越
藤德彌 堀渡支部長長正逸 杉
澤支部長市澤安恵 星岡支部長
池田宗美
▽田代處女會 大正十二年二月
二十日創立 會員二八名 會長
大久保源太郎 副會長中村つや
△東津郡
▽本堂やゑ子(西平内村)
▽竹内百合子(新城村)
▽倉本メガ(東平内村) 繁忙な
農事の傍ら裁縫に勵み學校へ出
席し處女の模範とされてゐる
▽木立なほ 白取みわ(高田村)
▽山田ソダ(新城村) 資性温良
にして一家の和樂を圖り弟妹を
撫育する等處女の模範とされて
ゐる
▽高森チエ 赤田チム 松尾ミ
キ 小山ツタ(高田村)
▽三津谷ハル 遠藤ミツ(小湊
町)
▽米田キヌエ(一本木村)
▽相坂クニ(蓬田村)
▽加藤キヨ(小湊町) 貞淑
▽工藤ソヨ 森山イヨ 片川み
ちの 福岡きさ 横田みゑ(後
湯村) 家業に精勵し且思想堅
實
△西津郡
▽笹森ナミ 笹森ミサ(岩崎村)
▽野呂ハナエ(館岡村) 親孝行
▽一戸きく子 木鎖たか子 一戸
シナ子(中村)
▽成田チヨ子 菊地みゑ子 山
本かれ子(川除村)
△中津郡
▽朝田とみ 小堀みや(堀越村)
△成田しま 齋藤りゑ(清水村)
▽笹せつゑ 藤田ふよ 堀川キ
く(藤代村)
▽笹キエ(船澤村)
▽須藤オサ 須藤ハル(裾野村)
▽佐藤ナリ 田中キセ(岩木村)
▽對馬キミ(新和村)
△南津郡
▽雪田しな 雪田りき(五郷村)
▽中山テル 福井ハツエ 一戸
ミエ 阿部キヨ(光田寺村)
▽津川ヌヲ 野崎きゑ 鎌田き
わ(五郷村)
▽栗林くよ(柏木町)
▽猪股なよ(六郷村) 實踐躬行
福士せい(同) 質素勤勉
宇野うた(同) 敬老孝行
千葉トセ(同) 犠牲奉仕
△北津郡
▽今ナサ(七和村) 昭和二年小
學校卒業後十七歳にして二ツ谷
村の評議員となり、現在に及ん
でゐるが、一般處女の如く美衣
を好まず虚榮に憧れず、常に會
員を指導誘掖する等處女の模範
者である
▽長尾千代 川浪せつ 川浪幸
三(三好村)
▽伊丸岡ミツ(喜良市村) 十七
歳にして病母看護の傍ら家政萬
般を引受け、營林署勤務の兄と

社會教育——縣下處女會模範者

縣下處女會模範者

社會教育——青年訓練所現況

小學校在學中の二弟妹をして遺憾なく本務を發揮せしめ、自家に下宿せる客の賄をなし勇敢に苦境と闘ひつゝある

△前田キヲ(四和村) △角田たみ(三本木町) △豊川リツ 程川キエ(三本木町) △町おみな 町崎はつゑ(天間林村) 家にあつては家業に熱心 性質濃厚

△石澤八重(大畑村) 品行方正 貞淑 長谷てつ(同) 親孝行 勤勉 荒川ヨシエ(同) 親孝行 △住吉あきよ(東通村) △大室とく(川内町) △三戸郡 長根ちよ 工藤きぬ(名久井村) △丈口まさ(留崎村)

△中村さき(五戸町) △木村サナ(下長苗代村) 處女にあつては兩親に孝養をつくし、家庭に足る 兄妹には親切に他の模範とする

青年訓練所現況

(昭和四年四月末現在)

兼實業補習學校一覽

Table with columns for school names, student numbers, and fees. Includes schools like 青訓 兼實業補習學校, 東津 兼實業補習學校, etc.

Table listing various agricultural training schools (e.g., 青訓 孫内農業補習學校, 新城農業補習學校) with their respective student counts and fees.

Table listing more agricultural training schools (e.g., 青訓 平館農業補習學校, 石濱水産補習學校) with their respective student counts and fees.

社會教育——青年訓練所現況

Table listing agricultural training schools in the left column, including 青訓 野内農業補習學校, 同 久栗坂水産補習學校, etc.

Table listing agricultural training schools in the middle column, including 青訓 修道農業補習學校, 同 風合瀨農業補習學校, etc.

Table listing agricultural training schools in the right column, including 青訓 柏第一農業補習學校, 同 川除農業補習學校, etc.

青訓 充當	水産 補習學校七	一	五	青訓 充當	農業 補習學校三	一	五	青訓 充當	水産 補習學校三	二	一	三
同	白銀 水産 補習學校	四	三	同	白銀 水産 補習學校	五	一	計	八	三	三	七
同	小中野 水産 補習學校	二	一	同	大久喜 水産 補習學校	三	一	計	八	三	三	七

縣下青年訓練所模範生

東津輕郡

八戸安太郎(東平内村) 開始以來無缺席にして成績佳良であ
 小川甚一(蟹田村)
 蝦名政藏(野内村) 訓練所
 小形省作(西平内村)
 我満千代吉(瀧内村) 訓練所
 前指導員として、又青年團長と
 して常に訓練所生徒、青年團員
 の指導矯風に努め四年指導員を
 辭したる後も指導員を輔佐し専
 心後輩指導に努め、村の中堅人
 物として衆望を一身に負つてゐ
 る
 我満清九郎(瀧内村) 在學中
 は成績優秀、責任觀念強く山仕
 事より遅く歸りたる場合は夕食
 も攝らず出席し三時間餘の訓練
 を受けたること度々あるも一回
 も遅刻したる事なく模範生とし
 て村民周知の所である
 中村秀雄 有馬末三郎(新城
 村)
 後藤福三郎(西平内村) 無缺席
 倉本喜一(東平内村) 無缺席
 齋藤博(高田村)
 工藤富次郎(新城村) 資性温
 順、農に従事の傍ら勉學に努め
 訓練所及補習校は無缺席にして
 成績佳良、昨年郡青年團より表
 彰された
 吉崎金之助 杉田子之助(奥
 内村)
 遠島末八 飯田福藏(小湊町)
 前田金之丞(奥内村)
 三橋勝哉 相馬喜代榮(大野
 村) 兩君とも入學以來無缺席
 にして學力優秀操行善良、他の
 模範とされてゐる
 櫻田金吾 濱藤繁雄 鹿内忠
 義(横内村)
 渡邊清一郎(瀧内村) 學業出
 席品行其他の模範として、郡青
 年團長より表彰された
 太田健次 木村文雄 近藤勇
 太郎 今重五郎 山崎君雄 木
 村勝太郎 山崎正男(東岳村)
 七君共學業操行優秀
 太田勝吉(蓬田村)
 福田甚五郎 田中常作 福田
 岩松 畑井伊三郎(小湊町) 品
 行方正にして勤勉
 西津輕郡
 野呂鐵之進(館岡村) 熱誠家
 野呂常雄 江良鐵五郎(館岡
 村) 無缺席
 川野龜太郎(舞戸村)
 齋藤八三郎 一戸忠雄(中村)
 小關金藏(柏村)
 工藤多三郎 工藤覺造(車力
 村)
 山本豊太郎 高橋喜代作 高
 橋潔氏 境谷繁穂(川除村)
 中津輕郡
 山形竹四郎(清水村)
 佐藤源平 三上秀美 相馬徳
 太郎 工藤兼太郎(千年村)
 高屋與八 小山歳雄(和徳村)
 對馬定雄 丸岡勝美(裾野村)
 佐藤保太郎 佐藤貫造(堀越
 村)
 工藤健藏 清野健一 林勝義
 (清水村)
 相馬鐵雄 大瀬不二雄 渡邊
 宗二郎 藤田守二(藤代村)
 對馬榮(船澤村)
 梨田勇 三上伊太郎 須藤榮
 吉(裾野村)
 田村繁治 神傳 長利粕一
 石郷岡喜助 高森亦藏 鼻和幸
 三(高杉村)
 成田清一(新和村)
 南津輕郡
 三上忠助(畑岡村)
 奈良岡覺策 成田長左武郎
 笹森正直 古川正雄 古川惣一
 奈良岡喜代作 鎌田勝衛(常盤
 村)
 工藤清(野澤村) 第四年次に
 して素行端正、義務心に厚く入
 所以來無缺席
 工藤長(野澤村) 三年次生で
 無缺席、性質温順義務心強く着
 實そのものである、繼父に事へ
 てゐるが、常に家庭和樂の中心
 となり家業に精勵してゐる

雪田源四郎 雪田清三郎(五郷村)

雪田源四郎 雪田清三郎(五郷村) として努力家であり昨年模範生として表彰された
 淺利彌智英(田舎館村) 出席
 學業成績優秀操行方正、敬神崇
 祖の念深く、勤勞貯金を實行し
 讀書の趣味あり團の事業に熱心
 である
 竹村壽太郎 藤田岩太郎 成
 田永作 奈良忠四郎 奈良重弘
 葛西秀治 大澤庄之助 竹村直
 衛(町居村)
 坂本東三郎 奈良岡健作 須
 藤常四郎(女鹿澤村)
 中山榮一(光田寺村)
 今井哲夫 三上繁藏(藏館村)
 青訓並に夜學に精勵思想堅實家
 業に精勵
 乘田喜代美(柏木町)
 工藤熊雄(金田村)
 今井久五郎 齋藤誠治(大光
 寺村)
 中田勇造(柏木町)
 佐々木孫一 山谷彦武 土岐
 東一郎 熊澤東作(山形村)
 大村彦三郎(十二里村) 四年
 次生にして補習校共無缺席で品
 行方正
 須藤芳夫 千葉順造(六郷村)
 北津輕郡
 田中芳次郎 加藤勇藏(小泊)
 大坂忠三郎(七和村) 勤勉に
 社會教育——縣下青年訓練所模範生

川政雄 佐々木與作 中川重藏
 (長橋村)
 齋藤榮(七和村) 身體強健、
 孝行の念厚く研究的態度にて耕
 作に従事し、訓練所には皆勤、
 學業優良にして他の出席督勵を
 なし、中堅となり思想善導につ
 とめてゐる
 成田定五郎 角田佐嘉代 柏
 崎石五郎 田中金三郎 佐藤勝
 雄(小泊村) 四君は愛郷會を起
 し村内夜警の務を交替に無報酬
 で當り、社會奉仕の一端として
 各自金員を醸出し、村内要所に
 下駄を入れた箱を吊し、村民の
 困つた際には自由に履かしめ、
 餘暇には讀書修養につとめ補習
 校及青訓の成績は何れも優等て
 ある
 上北郡
 長嶺政美 佐々木忠次郎 大
 久保石太郎(六戸村)
 村中半次郎(野邊地町)
 小林義忠 鳥谷部記代志(六
 戸村)
 澤口福太郎(百石町) 昨年訓
 練所査閲の際査閱官佐藤中佐よ
 り激賞され陸奥の輝に掲載され
 た
 白山萬次郎(三本木町)
 久保民次郎 笹森石太郎 佐
 藤東七郎 瀧澤正一(三本木町)
 十枝内謙藏(天間林村) 性質
 温厚にして家業に熱心である
 瀧川一藏(野邊地町) 入所年
 齡に達せざるに願出て、入所し
 勤勉にして品行方正
 玉川清三(下田村)
 下北郡
 坂下俊三(東通村)
 三戸郡
 山田圓太郎 山田健二 山田
 健三 齋藤定次郎 田向一郎
 上野正一郎(館村)
 小笠原吉五郎(地引村) 家事
 一切を處理し人物温厚にして訓
 練所補習校出席良好である
 清水頭福右衛門(階上村)
 工藤松藏 工藤益田 山本孫
 八 田戸謙藏 本田利 松井金
 中村力太郎 大久保三藏
 (名久井村)
 戸川慶治(留崎村)
 後村末太郎(下長苗代村) 青
 訓出席歩合が振はざるため、日
 夜督勵に奔走し多大なる進歩向
 上を來した
 八戸市
 小向安太郎 第三年生 且
 て幼時父母を失ひ妹と二人の恵
 まれざる境遇にあり乍ら奮つて
 訓練所に出席し、成績も拔群に
 六二一

して、昨年の査閲に手塚中佐より表彰状を授與された。▽深川石藏 磯島綱藏 荒木田義定 神子澤千之助 四君とも出席良好、不良なるものを自發的に善導する等の好模範を示し衆望が厚い。▽角岩藏(湊町)

八師團發表の青訓模範生

青年訓練所生徒及關係者にし其の善行他の範とすべきものを調査し第八師團司令部は昭和四年八月及び五年五月の二回に互つて之を天下に發表した、その中本縣内の青年訓練所生徒を掲ぐれば左の如くである。▽福士登喜美(中郡和徳村) 訓練所開期中は無缺席で總て他の生徒の先導者となり農事改良にも熱心、家庭にあつてはその圓滿を圖り、補習校在學中は無缺席賞及優等賞を受け中郡青年團より模範團員として表彰された。▽齋藤正夫(弘前市富田町第二大成訓練所生) 入所以來無缺席の勉強家で、初め訓練所に手旗

の用意がなかつたので自費で手旗を作り同友に配つた、現在家業に精勵してゐる。▽鳴海金太郎(南郡竹館訓練所 第四年生) 養家の仕事が多忙なため缺席したのを諭されて以來精勵し一日の缺席もない模範生となつた。▽川口唯一(北郡金木町) 一服失明の君は補習校を優等で卒業し、訓練所に進んで入所、一日の缺席もなく、冷暲した同友も今では尊敬を拂つてゐる。▽川口豊五郎(北郡金木町蒔田) 當訓練所の先達であるが、喇叭の必要を感じ寄附を仰ぎ喇叭二個を買求め、熱心なる勸奨によつて訓練所も各自の費用で買ふ事になつた。▽赤井武志(下北郡東通村野牛訓練所生) 昭和二年一月入所以來無缺席にして、彼は一眼失明の眼近視であるが、四ヶ年間無缺席で通して見せる」と奮勵。▽佐々木八郎 岩館榮吉 松橋徳治(三戸郡湊訓練所生) 三君ともよく同友の出席督勵、學校

内容充實の爲め努力し又は生徒の服裝を一定し、或は補習校同窓會を創設し凡て他業に先んじて遂行し昨年の當校査閲の成績を良好ならしめるに至つた。▽田中長助(南郡竹館村) 資性温厚にして、仕事歸りに訓練の號令を耳にし草鞋のまま夕食も攝らずに十時まで熱心に訓練を受ける等の模範として推稱されてゐる。▽野呂成義(西郡館岡訓練所 第四年生) 病母病妻を看護し、家業に精勵しつゝ出席し、徴兵検査で補充兵となつた後も、而も農繁期の時に田畑で疲れた身で夕食もとらずに訓練所に駆けつけた事等が屢々衆人を感動せしめた。▽對馬榮(中郡船澤村折笠) 温厚篤實で犠牲的精神強く老いた祖母と母に孝養をつくし、六人の弟妹育養の傍ら家政を齊へ、青訓には一日の缺席もなく新聞雜誌に依つても亦修養を積み、その奮勵的行爲には何人も驚嘆してゐる。

▽佐々木將城(南郡小畑訓練所 第三年生) 開所以來無缺席にして、同村に陽チブスで一家全滅の悲運に遭遇した一家のため同友を十有餘名引率して堆肥を完全に運搬してやつたことが義舉として推稱されてゐる。▽小川甚一(東郡蟹田青年訓練所) 不幸にして病氣のため歩行の自由を缺き、一里半餘の道を松葉杖で通ひ、開設中無缺席にして下級生の世話する等衆の模範生となつてゐる。▽玉熊繁雄(東郡後湯村小橋訓練所 第四年生) 終始一貫眞摯なる態度で犠牲的精神に富み、率先躬行出席を勸誘し訓練所全般の成績向上にとつとめる等の模範生である。▽工藤長(南郡野澤村訓練所 第三年生) 入所以來三ヶ年無缺席、訓練日には村内を喇叭を吹奏して報知し廻つてゐる。▽津川武三(南郡五郷村本郷訓練所 第三年生) 三ヶ年殆ど無缺席にして私費を以て材料を集め銃架一間工作して寄附した

▽長谷川佐次郎(南郡五郷村北中野訓練所 第三年生) 入所以來無缺席で、同輩後輩の出席勸誘及讀書會を催し知識の向上に努めてゐる。▽齋藤久三郎(南郡五郷村細野訓練所 第一年生) 左眼失明したにも拘らず入所以來無缺席で勉勵してゐる。▽工藤兼太郎(中郡千年村訓練所) 壯丁検査で不合格となつたに拘らず出席する等の模範とするに足る。▽平澤萬佐司(西郡岩崎村訓練所) 大工職として他村に出稼する際は出先訓練所に出席し、一日の缺席もない。

今別少年團 神 雄四郎 三 大正三・四
平内少年義勇團 十文字善次郎 三三 同 八・一〇・二〇
正通尻少年團 齋藤 榮 四
和徳村少年團 中村 民五郎 一五 同 一〇・七・二〇
大浦少年義勇團 三浦 兼吉 二〇 同 四・三・二九
豊田村少年團 一戸 顯 九 同 九・一・一七
少年義勇團 高木 太吉 一四 同 八・五・一七
玉成義勇團 佐藤 佐一 六六 同 四・一〇
富柳少年團 一戸 忠藏 五五 大正二〇・四・一
福館少年團 齋藤 惠治 六〇 同 一三
輝峰ボーイスカウト 須藤 文雄 四 同 七・一〇・一五
大鰐町少年團 小笠原 保雄 二二 同 一三・一〇・一五
碓ヶ關幼年養生會 石田 政藏 八 明治三三・九・一九
五所川原少年團 増田 貢 二〇 大正三三・四
愛國少年團 阿部 文雄 二六 昭和二
愛國少年團 持子澤支部 齋藤 榮 三 同 二
今泉少年團 福士 貞藏 五 大正八・九・二〇
小中野少年團 松浦 與一郎 五三 同 一三・四・一〇
天間林少年團 中野渡 勳 二九 同 九・八・一七
白濱少年團 差波 元次郎 四 同 五・二・二

少年團

縣下に於ける日本少年團は現在二十六團あり智徳修養、身體鍛練、實務の習練、公益の増進等を旗印として健氣な努力を續けてゐる。各團の狀況左の如し

Table with columns: 團名, 團長, 團員, 創立年月日. Includes entries for 奥内少年團, 磯山少年團, etc.

Table with columns: 團名, 團長, 團員, 創立年月日. Includes entries for 小中野少年團, 天間林少年團, etc.

社會教育——少年赤十字團——團員數一覽表——育英事業

大湊少年團	佐々木由路	二〇四	大正三・二・二
地引少年義勇團	湊剛男	七	昭和三・二・三
青森少年團	森山辰之助	二五三	大正五・二・二
八戸市少年義勇團	船越三郎	一六	同 一五・五・六
八戸少年團	奥谷忠史	五〇	同 一五・八・三

少年赤十字團

健全なる第二國民を養成する
ため昭和二年五月以來縣當局の
諒解を得て模範校として推薦さ
れてゐる學校へ少年赤十字團を
設置したが四年十二月現在三十
六校で團員數は一、三〇〇人
内男七、二九二人女五、〇〇八
人で昭和三年六月現在に比し同
年十二月末には既に七百餘の増
加を見てゐるので、漸次に縣下
各模範校へ設置したい意嚮をも
つてゐる。本團の實施事業とし
ては、一、少年赤十字の組織並
に趣旨發揚に努める二、健康の

育英事業

縣下に於ける育英事業團體は左記二十三で各其の内容等を掲ぐれば左の如くである
此の内青森縣育英資金は大正五年五月御即位記念として育英の事業を行ふべく、大正五年度より同十四年度迄毎年金五千圓を縣費
より支出して之れを資金に繰入れ、他を寄附に待ち以て資金十萬圓を造成する計畫を立てたのである、而して本資金は特別會計に屬
せしめて之れが整理を爲すもので、資金管理規程に依れば學資の貸付は資金より生ずる収入及び學資返納金を之れに充て、猶市町村

團員數一覽表

(四年十二月現在)

郡別	團員數	男女計
東郡	油川	一七
南郡	筒井	二七
中郡	蓬田	一七
西郡	木造	一七
北郡	越水	一七
上北郡	富岡	一七
法奥	藤崎	一七
板柳	前田	一七
五所川原	黒石	一七
羽ノ木澤	胡桃館	一七
木内々々	法奥	一七
計		一七

立學校設備費に年七歩の利を以て貸付し、之れが償還は年賦を以て爲さしめてゐる。學資貸付規則は市役所、町村役場及び公立學校等に備付けの縣例規程中に掲載されて居り又青森縣獎學會は設立の初め津輕伯爵家より多額の寄附があつたものである。

施設又は事業名	創立年月日	主なる出資者	施設者又は代表者	事務所所在地	貸付額	進學者	資産額	昭和四年度經費	備考
御即位記念青森縣育英事業	大正五・五	青森縣及寄附金	青森縣知事	青森市青森縣廳	二〇〇圓より	六	一、〇〇、〇〇〇	八、〇〇〇	給與八名總額四、〇〇〇圓貸與者吾名三、六〇〇圓
財團法人青森縣獎學會	大正七・四	津輕伯爵外縣下有志	一戸兵衛	東京市麻布區市兵衛町一三番地	不	三	三、八、五〇	—	弘前高等學校四弘前中學校二東奥義塾一
藤田育英社弘前支社	大正一〇・四	藤田謙一	東奥義塾財團法人	弘前市上白銀町八番地	與	九	一、〇七、一〇	二、七、六、〇〇〇	弘前高等學校一
財團法人青森市育英會	明治三〇・六	有志の寄附金	柏原彦太郎	青森市鍛冶町一九	貸	一	九、九、七、一〇	一、〇	青森中學校一
八戸育英會	大正三・三	星三藏外二八名	種市良一	八戸市番町四一藤田末藏方	貸	五	二、九、三、一、九七〇	六、九、〇、〇〇〇	八戸中學校在學
東奥義塾財團育英會	明治三三・三	東奥義塾財團法人	工藤儀助	青森市大字大野字長島三ノ	貸	二	一〇〇、〇〇〇	—	—
中津輕郡教育會附屬育英會	大正九・〇	郡内有志者寄附	教育會長佐藤佐一	弘前市高等小學校	貸	—	六、一〇〇	五、三	弘前高等學校一弘前中學校二青森師範學校一秋田師範學校一弘前工業學校一

社會教育——育英事業

社會教育——育英事業

下田村育英會	大正二	上北郡	上北郡	田村役場	三〇〇圓内	一	一	10,000	一,〇〇〇	師範卒一 三本木農在學一
獎學資金蓄積	大正二〇	下北郡東	下北郡東	通村役場	—	—	—	2,100	—	—
餘ヶ澤育英會	昭和三	西郡西海	西郡西海	澤西海小	—	—	—	3,850	—	—
切田育英資金	大正	上北郡	上北郡	切田財產	大學五〇〇 內高等校 四〇〇內中 學三〇〇 農三〇〇內	三	五	年三,〇〇〇 圓宛積立 三,〇〇〇圓 とする	2,000	大學校一 師範校二 三本木農八 中學校三 水産校一
薄資秀才兒童養	同	上北郡	上北郡	六戸村役場	—	—	—	—	—	—
成	六、三五	六戸村補	六戸村教	育會	二〇〇圓内	—	二	—	—	—
大典記念六ヶ所	昭和三	上北郡	上北郡	六ヶ所村役場	—	—	—	—	—	—
村教員養成費貸	三、三九	六ヶ所村	六ヶ所村	役場	五〇圓内	—	二	—	—	男、女師範校各一 名づゝ
野邊地育英資金	大正三	伊藤福平	野邊地町	野邊地町	—	—	—	—	—	北海道帝大一人三〇〇 圓 慶大一人二〇〇圓 小樽高商一人二〇〇圓 野邊地中學二人〇〇圓
百石町御慶事記	大正三	一般町稅	百石町	百石町	二〇〇圓	—	二	1,450	—	女師校二
念育不事業	三、七	子爵	八戸市二	八戸銀行	—	—	—	—	—	—
八戸獎學會	大正七	南部利克	天城政容	町支店內	其他必需 額	二	二	8,000	—	弘前高等學校在學

大光寺村獎學資	大正四	南郡	大光寺	南津郡役場	—	—	—	—	—	—
大奥村育英資金	大正二	下北郡	大奥村長	下北郡	六〇圓	四	—	—	—	—
芳賀育英會	大正三	芳賀德藏	芳賀德藏	中郡堀越	—	—	—	—	—	—
大戸瀨村教育會	大正二〇	西郡	大戸瀨	西郡大戸	二〇圓	—	—	70,000	—	—

實業補習學校

昭和三年度縣下實業補習學校の状況を見るに農村に設置される農業補習學校數三百十九を數へ、縣下學校數四百二十一校に對して七割は農業補習學校を併置する状態で生徒數一萬四千八百三十九人、教員數兼務一千二百九十五人本職と併せて一千二百五人に達してゐる。次ぎは水産補習學校の二十九校で生徒數は二千二十一人で農業補習學校生徒數の約七分の一に過ぎない。工業補習學校は縣下に唯一校あるのみで補習學校總數四百二校生徒總數は二萬六百二十一人である。

種別	學校數	學級數	教員數	同上兼務	生徒數	入學者	卒業者
工業補習學校	一	六	—	八	五	四	—
農業補習學校	三九	五六	二〇	一、二五	一四、八三	二、七五	四、四八
水産補習學校	二	五	—	五	二〇	一、〇〇	五七
商業補習學校	三	七	—	二〇	二四	一、六	八
商、水、補習學校	二	五	—	二	七	九	—
農、水、補習學校	三	八	—	二	一八	一、〇八	三六
農、商、補習學校	一	二	—	四	一五	—	—
補習學校	一	二	—	—	—	—	—
農、商、補習學校	五	九	—	二	三	—	—
商、工、補習學校	一	四	—	三	—	—	—
女子補習學校	一	三	—	七	—	—	—
計	四〇一	七五	—	一、五六	二〇、三二	二、一〇五	六、〇〇七

實業補習學校 (昭和三年)

交付して之が發達普及を圖つて
あるが、現在縣内に於ける共同
浴場の總數は二百九十九箇所
之を村別に掲ぐれば左の如し。

東郡	大野村	一	荒川村	二
	高田村	一	瀧内村	四
	奥内村	二	筒井村	一
	原内村	一	東嶽村	一
	野内村	一	一本木村	一
	西内村	五	東平内村	二
西郡	赤石村	七	大戸瀨村	一
	中水村	五	舞戸村	一
	越水村	七	柴田村	九
	水元村	一	出精村	二
	館岡村	三	車力村	一
中郡	森田村	四		
	和徳村	一	駒越村	一
	岩木村	一	相馬村	二
東目屋村				
山形村	一	大鰯町	一	
石川町	二	浪岡村	一	
女鹿澤村	一	五郷村	一	
北郡				

七和村	一七	天間林村	二
浦野館村	二	大深内村	一
野邊地町	二	甲地村	三
三本木町	九	法奥澤村	一
藤坂村	八	下田村	三
六戸村	七		
三澤村	五		
田名部町	一	大湊町	二
東通村	一	大畑村	一
川内町	四	脇野澤村	二
上長苗代村	三	地引村	八
中澤村	二	三戸町	一
猿邊村	三	田子町	三
上郷村	五	平良崎村	一
名久井村	二	倉石村	一
豊崎村	二	戸來村	一
公益質屋	現在青森縣内にある		
公益質屋	は左の如くである。		
共済會公益質屋	……青森市		
古川町字美法八番地			
八戸市公益質屋	……八戸市		
番町十一番地			
鯉ヶ澤町公益質屋	……西郡		

市役所から三千圓支出して貧困者に施療券を配布治療を施した
が、施療券發行數は五二二であ
つた。

弘前市醫師會
弘前市醫師會では施療券を發行
し之を弘前市役所と警察署に委
託して貧困者に施療することと
なつてゐるが、四年度に施療を
受けたものは石郷岡眼科醫院で
二名あつたのみである。

北津輕郡醫師會
北津輕郡醫師會は昭和四年度に
御大典記念の奉仕事業として施
療券を發行し貧困者に施療した
從來用ひられてゐる施療方法と
して患者の發生都度施療券を願
出でしめて交付することは利用
成績舉らず、濟生會、赤十字社
のそれに見ても明らかであるの
で、北津輕郡醫師會では、一回
二圓の施療券五十枚宛を會員が
發行し、會員二十八名二千八百
圓代の施療券を發行して警察署
に之を托し、警察署では貧困者
の家族の數に應じて適當に之を
交付し置き以て簡易に使用させ

出稼先	出稼時	出稼	船下船	頭頭	夫夫	夫夫	高低	最通
種類	時期	日數	頭頭	頭頭	頭頭	頭頭	頭頭	頭頭
出稼先	出稼時	出稼	船下船	頭頭	夫夫	夫夫	高低	最通
種類	時期	日數	頭頭	頭頭	頭頭	頭頭	頭頭	頭頭
出稼先	出稼時	出稼	船下船	頭頭	夫夫	夫夫	高低	最通
種類	時期	日數	頭頭	頭頭	頭頭	頭頭	頭頭	頭頭

保健救療事業

濟生會施療 青森縣濟生會は、
畏くも明治天皇陛下より御下賜
あらせられた多額の御内帑金を
基本とし、之に有志賛翼の義金
を加へて、無告の患者を救療し
弘く聖恩の餘澤に霑はしむべく
成立したもので、此目的のため
に努力してゐる。昭和四年の事
業費は通常配當總額が一千六百
四十一圓、臨時巡回治療費五百
八圓であるが、昭和四年中に取
扱つた通常患者數は百名で之を
種別すると左の如くである。

全治	外住、收容	計
輕快者	男 三 女 三	六
死亡者	男 七 女 五	一
廢療其他	男 二 女 三	一
臨時巡回治療	男 一 女 一	二
は昭和四年十	男 一 女 一	二
二月十一日から二十八日まで十	男 一 女 一	二
八日間行つたが、巡回地及びそ	男 一 女 一	二
の治療患者數は左の如くであ	男 一 女 一	二

市役所から三千圓支出して貧困者に施療券を配布治療を施した
が、施療券發行數は五二二であ
つた。

弘前市醫師會
弘前市醫師會では施療券を發行
し之を弘前市役所と警察署に委
託して貧困者に施療することと
なつてゐるが、四年度に施療を
受けたものは石郷岡眼科醫院で
二名あつたのみである。

北津輕郡醫師會
北津輕郡醫師會は昭和四年度に
御大典記念の奉仕事業として施
療券を發行し貧困者に施療した
從來用ひられてゐる施療方法と
して患者の發生都度施療券を願
出でしめて交付することは利用
成績舉らず、濟生會、赤十字社
のそれに見ても明らかであるの
で、北津輕郡醫師會では、一回
二圓の施療券五十枚宛を會員が
發行し、會員二十八名二千八百
圓代の施療券を發行して警察署
に之を托し、警察署では貧困者
の家族の數に應じて適當に之を
交付し置き以て簡易に使用させ

る方法をとつた。
青森實業診療所 青森市では昭
和五年二月、實費診療所開設を
決議し五年度豫算一萬三千二百
四十五圓を以て、着々準備を進
め五月二十六日から愈々開所し
た。同診療所は浦町國通り舊船
水米屋跡に在り森本茂氏を主任
とし、青森市住民で生計豊かな
らざる人及其家族のため實費を
以て診療及相談の需めに應ずる
ものである。診療所で取扱ふも
のは

- 一、内科
- 二、小兒科
- 三、乳幼兒の健康相談
- 四、保健衛生に關する一般相
談

(但簡易な診療は各科に互つて
行ふ)

診療は休日を除き毎日午前九時
から午後四時迄行ひ健康相談は
午前中に取扱ふことになつて居
り、診療を受けんとするものは
申出て診療券の交付を受ければ
よいのであつて、病狀に依つて
は車馬賃の實費を出せば往診す

患者治療結果

前年度越患者	男 三 女 一	計 四
外來、往診、	男 三 女 一	計 四
巡回の新患者	男 三 女 一	計 四
收容	男 三 女 一	計 四
計	男 三 女 一	計 四

醫師會施療 各郡市醫師會で昭
和四年度に於てなしたる施療狀
況は左の如し。

青森市醫師會
青森市醫師會から三千圓、青森

利増進を圖るもので、出稼人の
家族で困窮の者には精神的物質
的の援助をなすことに努めてゐ
る。此の組合は知事の認可を得
るもので、市町村組合は市町村
長が組合長となり町村組合を統
一して郡聯合會があり之を網羅
して縣聯合組合が組織されてゐ
る。現在組合數は

東郡十三、西郡十九、中郡七
南郡二十四、北郡十二、上北
郡十一、下北郡四、三戸郡二
十一

組合員總數二萬一千五百四十三
名で、是等漁業出稼者の出稼時
期、歸還時期、出稼期間及收入
は大要左の如くである。

一期間の普
通收得高

社會事業——保險救療事業——日本赤十字社青森支部の活動

ることにもなつてゐる。治療諸費は左の如く定められてゐるが公私團體の援助を受けてゐる者や、治療費納入の資力無きものは費用を減免することにもなつてゐる。

◇治療諸費

- ▽内服薬（水薬、散薬、丸薬等）
- 一劑一日分 金十二錢以内
- ▽外用薬（含嗽薬、洗滌薬、膏薬、塗有薬等）
- 一劑 金十二錢以内
- ▽乳幼児の健康相談 保健衛生に關する一般相談は無料

◇手数料

- ▽手術料 一回金一圓以内
- ▽外科處置一回金五十錢以内
- ▽普通診断書、證明書、検査書及諸検査料（診察を含む特殊のものを除く）
- 金三十錢以内
- ▽處方箋 一通金五十錢

（但特別高價薬及多量の材料や特別手當を要した場合は別に其の費用を徴収す）
結核豫防會の活動 結核豫防會

は縣衛生課にあり昭和五年度豫算は千三百八十圓で縣下各警察署、市町村役場及衛生組合と連絡をとり結核豫防のため活動してゐるが四年度で行つた事業は左の如くである。

- ▽結核豫防デーの實施 四月二十七日を豫防デーとし縣下に互つて左の事項を實施した。
- イ、宣傳ポスター、チラシ、葉、マツチ、其他印刷物を配布
- ロ、看護婦をして鈴蘭の街頭販賣
- ハ、自動車宣傳
- ニ、活動常設館に於ける講演ホ、自動車、人力車、馬車等の無料消毒

▽活動寫眞の巡迴開催 活動寫眞班を縣下各地に派遣して結核豫防の宣傳をなしたが、その巡迴開催数は三十三回であつた。
▽消毒所設置 青森、弘前兩市に消毒所を常設した。
▽略痰の無料検査 を開始したが四年度に此の検査を行つたのは二百二十九件であつた。

▽結核患者の無料診断及相談 簡保健康相談所 本縣に於ける簡保健康相談所は相當良好であるが、この被保険者の豫防醫學の應用の目的から大正十一年から簡保健康相談所が設けられ、本縣では青森市米町に設置されてゐる。此相談所では被保険者に對しては全然無料で次の様なことを行ふのである。

- ▽病氣の有無を検し疾病豫防について適當な指導を與へる
- ▽罹病者には其病氣の性質、治療方法等について指導を與へる。
- ▽事情に依つては處方箋を交付する
- ▽診断書、健康證明書等も請求があれば交付する

昭和四年度で取扱つた之らの数は三千二百二十八件であつた。而して又該相談所は巡迴看護も取扱つてゐる。之は疾病又は傷痕の被保険者から請求があれば巡迴看護婦が出張して検脈、繃帯交換、濕布、吸入、灌腸等の看

六三〇

護手當をなし又看護方法や醫療上の心得等に就て家族の相談相手となるのであつて、此外に時には季節的に必要な衛生注意を促すために進んで被保険者の家庭を訪問することもある。四年度で之ら巡迴看護を取扱つた数は五百四十四件である。現在醫師一名事務主任一名、看護婦三名て是等の仕事に當つてゐる。

日本赤十字社青森支部の活動

日本赤十字社青森支部は青森市長島町に事務所を置く。社員名簿は別項にあるが、事業概要は左の通りである。
▽救護員の養成。毎年約十名の生徒を一切の學費及手當を給し在盛岡市日本赤十字社支部病院に養成を委託し三ヶ年間學科及實地につき看護法を修得させてゐるが、一人につき一千圓を要する。
▽救護材料の準備。戦時及平時救護に要する衛生材料、普通材料並に被服を年々多額の費

用を投じて購入してゐる。
▽災害救護。天災事變等の非常時及不慮の傷病者を出す虞ある場合は直ちに醫員及看護婦を派遣し臨時救護を行ふてゐるが、昭和四年度の救護件数は一九。救護所設置数二四、救護職員數六九人、救護患者數一四四人、救護費四四七圓五三である。

▽結核豫防撲滅。縣下樞要の地に結核患者依託診療所を設け患者の救療を行ひ、縣衛生課及縣結核豫防協會と合同して豫防宣傳をしてゐる。昭和四年度の施療患者數は一五〇名である。
▽救急函配置。少年赤十字團に配置をし團員に救急療法を會得させて活用を期しつゝある。

▽夏季児童保護所。児童保護事業の項に詳記してゐる。
▽少年赤十字團。別項少年赤十字團にあり。
▽學校看護婦の派遣と養成。學校に看護婦を派遣する必要を

社會事業——日本赤十字社青森縣支部——青森縣慈晃會

認め昭和二、三年に二名宛を文部省主催學校看護婦講習會に出席せしめた。現在青森師範學校に一名派遣してゐるが、昭和四年中の手當患者數は一五、六五〇名である。

現在の支部役員左の如し
▽支部長 平井三男▽副支部長 福島繁三▽參事 足立達夫、上田一郎▽幹事 眞崎長年、金澤運郎、鈴木忠直、佐々木新七、佐藤太治右衛門、小山内彌次郎、戸田恭一、西岡太郎、今泉房吉▽會計 監事 倉田藤吉▽主任 奈良圓助▽書記 工藤寛造、古村長四郎、柿崎泰、山内保、杉田庄治郎、小野寺フヂエ、（雇）江利山軍一▽商議員 橋本八右衛門、樋口喜輔、野村治三郎、田中勇三、松下賢之進、阿部政太郎、佐藤石太郎、宇野勇作、平山爲之助、久保節

日本赤十字社青森縣支部

特別社員以上名簿
佩有功章特別社員

- ▽東郡油川町三上重郎兵衛、蓬田村中吉兵衛、一本木村小倉十兵衛、野内村平田義造
- ▽西郡木造町高谷豊之助、市田忠八、葛西麟平、森田村原田藤治郎、車力村鳴海周次郎、館岡村野呂忠一
- ▽中郡和徳村笹森榮、高杉村高杉金作、東小屋村西澤二三郎、船澤村高谷貞助
- ▽南郡石川町成田忠正、六郷村宇野勇作、田舎館村佐藤源藏、中郷村對馬璋太郎、淺瀬石村鳴海直四郎
- ▽北郡五所川原町澤田長助、佐々木嘉太郎、平山又三郎、板柳町竹浪繁造、安田才助、安田昌藏、安田久五郎、青山淺次郎、菊地仁了、坂本元太郎、金木町高橋彌左衛門、津島文治、榮村平山爲之助
- ▽上北郡野邊地町石黒熊三郎、野村治三郎、伊藤福平、七戸町盛田喜平次、小原平右衛門
- ▽下北郡川内町菊地與太郎、風間浦村佐賀清太郎
- ▽三戸郡地引村夏堀源太郎、五

青森縣慈晃會

刑務所からの釋放者又は起訴猶豫、執行猶豫者に對して直接間接、若しくは一時的保護を與ふる財團法人青森縣慈晃會は今や縣下各警察署所在地に支部を置き免囚保護に活動してゐるが、昭和五年二月十一日には畏くも其事業御奨励のため御沙汰書及御下賜金並に司法保護事業奨励金一封を御下賜された。現在事務所は青森市浦町宇野臨三三七に置く、昭和四年度の事業成績を見るに收容して保護したものの

社會事業——教化團體

は前年越五人、新保護二十四人、一年延人員千七百七十三人、間接に保護したものは越人員二十一一人、新保護百二十三人で此延人員四千四百九十一人に達し又一時的に保護したものは男五百九十六人女十二人であつた。而して保護場に收容したものは、收容期間は一ヶ月以内十二人、二ヶ月以内九人、三ヶ月以内三人、六ヶ月以内二人、六ヶ月以上三人であつた。昭和四年中の保護成績を表記せば左の如くである。

Table with columns for '保護の種類' (Type of Protection) and '人員' (Personnel). Rows include '場内に於て就業する者' (Employed in the field), '場外に於て就業する者' (Employed outside the field), '收容したる者' (Those who were sheltered), '間接に保護したる者' (Indirectly protected), and '保護したる者' (Those who were protected).

一時的に保護したるもの

Table showing the breakdown of '一時的に保護したるもの' (Those protected temporarily) by gender and category. Categories include '釋放の時一時宿泊せしむ' (Temporary lodging at release), '被保護者の家族を扶助す' (Assistance to family of protected), '保護者呼寄せ引渡す' (Handover to guardian), '訪問訓練' (Home visits), '人の紹介をなす' (Introduction of people), '書信訓諭' (Letters and admonitions), '他の保護者を紹介す' (Introduction of other guardians), '歸住地役場等へ送金手續' (Remittance to home town), '職業の紹介をなす' (Introduction of occupations), '所轄警察署町村役場寺院等保護依頼' (Request for protection from police, village offices, temples), '衣食雑品又は旅費を給與す' (Provision of food, clothing, travel expenses), '職業用具の給與又は貸與' (Provision or loan of work tools), '中食給與' (Provision of meals), '親族又は故舊の許まで同伴す' (Accompanying to relatives/old friends), '停車場又は乗船場其他途中迄同伴す' (Accompanying to train stations/ports), '家庭隣佑被害者との融和を計る' (Promoting harmony with family neighbors/victims).

方面委員 別項行政の欄に記してゐる。

教化團體

△昭和謝恩會 財團法人昭和謝恩會は上北郡藤坂村苦米地義三氏の設立したもので民間の教化團體として最も實質的なをなしてゐるものである。苦米地氏は夙に郷里を出でて奮闘の結果、現在日本人造肥料株式會社取締役、關西部部長であり此外八會社に關係してゐる成功者であるが、豫て社會に貢獻すべく宿望を抱いてゐたが之が實現について、氏の恩師である本縣教育界の功勞者として知らるゝ、藤坂村加藤源三氏に協同して、その結果社會を教化するに隠れたる孝子節婦義僕等の徳行者を顕彰するにありとなし、苦米地氏は淨財五萬圓を提し、此の利息を以て事業を行ふこととなし御即位大典記念として昭和三年十一月十日昭和謝恩會を設立したのである。事務所を藤崎村大字相坂七十六番地

に置き氏の出身地たる青森縣内に於ける善行者を表彰し且つ善行を奨励して社會教化に貢獻する目的から表彰、獎勵、講演、印刷物配布等を行ふもので、顧問に一戸兵衛大將を推戴し役員は理事長苦米地義三、常務理事加藤源三其他理事監事評議員等縣下各方面の人々を網羅してゐる。昭和四年二月以來縣下各地に至り百六名を表彰した。

▽弘前養生會 壯年養生會、成年養生會、東門會(幼年養生會)、婦人養生會、養生幼稚園を經營して早起勵行養生興國自治協同をモットーとなしその努力は普く知られてゐる。殊に東門會は日本最初の早起會として著名である。現在伊東五一郎氏が理事長である。

▽英進社 縣内中學校の優等卒業生及優等生を以て組織してゐる團體である。明治四十一年、弘前中學校卒業後東大法科に入學中の松野常世氏が縣出身の秀才と自負し許されてゐる青年も周囲の刺戟

ないため漫心し誘惑に負けて無爲の人となり又中央に出ても良き先輩の手引なきため、可惜才能を發揮し得ず埋れて了ふ是等秀才を完全に伸ばしむるには先輩後輩の連絡が必要である」と主唱し弘前中學校生徒中の同志を糾合して七月七日岩木山頂に於て發會式を擧げた、至誠剛健、親切を本領とし將來有爲の國士たるを目標とし秀才を選んて入社せしめ、大正二、三年頃に青森中學校を中心に青森支部を設け、同十二年、三年頃には八戸中學校を中心に八戸支部を設けた。現在會員百五十八名で何れも社會に重要な位置を占めて活動しつゝあり、東京に本部を置くが敢て役員等を設けず現在縣内に於ける仕事は青森縣立病院理事長醫學博士阿部竹之助氏が中心になつてやつてゐる。

徳思想の普及に努力してゐる平山爲之助、長尾角左衛門、川越茂則氏等が中心である。

▽希望社支部縣聯盟 希望社は皇室を中心とし信と愛とに立脚して人類愛に基いた國際的、國家的集團で後藤靜香氏の主宰するものである。青森縣には青森、弘前、八戸の三市に支部あり昭和五年五月此の三支部が合して希望社青森縣聯盟を結成した。會員三千名を有し、社會の倫理化、教育の生産化、産業の教育化、救護及慰問、生活改善の五項目を掲げて活動してゐる。聯盟及支部主事は

▽縣聯盟主事 椿繁藏▽支部主事 青森伊頭作三、弘前川村貞治、八戸吉尾千春

縣聯合會加盟團體

青森縣教化團體聯合會に加入してゐる團體は左の如くであるが此外は宗教團體其他の項にあるから省く。

名稱	場所	團體代表者
耕光園	黒石	工藤阿義良
修養園南郡部	黒石	鳴海才八

社會事業——教化團體——縣聯合會加盟團體——教化總動員

北郡精進講 鶴田 竹浪仁次郎
東北四恩會 七戸 飯塚圓收
戸來四恩會 戸來 中村 閣定
興ヶ澤町振 興ヶ澤 北村 誠一
五所川原町 五所川原 長
七戸町教化團體町役場 七戸 町長
甲地村 同 村役場 澁川 祐治
濱館村 同 同 濱館村 長
六ヶ所村 同 同 六ヶ所村 長
大深内村 同 同 小向由藏
野邊地町 同 町役場 野邊地町 長
天間林村 同 村役場 天間林村 長
三澤村 同 同 三澤村 長
弘前市 同 市役所 松下市 長
右の町村教化團體聯合會はそれぞれ社會教化團體等を分子として成立してゐるものであるが、前記以外の知名の團體を列記せば左の如し(社法は社團法人、財法は財團法人の略)

團體名稱	所在地
田名部柳町栗山奉公會(社法)	田名部町
慈善同盟社(社法)	三戸郡館村
八戸慈善會(財法)	八戸市
青森市社會事業研究會	青森市

陸三慈善會 三戸町
早天修養會 同
四恩會 同
土曜會 五所川原町
(婦人の教化團體は「婦人」欄に詳記してゐる)

教化總動員 國體觀念を明にして國民精神を興し經濟生活の改善を圖つて國力を培養する目的から本縣では昭和三年十月十二日知事會長として青森縣教化團體聯合會が組織された。恰も昭和四年秋、政府の方針により國民教化總動員を行ふこととなり、本縣聯合會では教化運動開始に當り、先づ昭和四年九月十七日午前十時、青森市公會堂に於て實施に關する協議を遂げんため縣下の教化團體、宗教團體、教育會、青少年團、在郷軍人會、處女會神職會、新聞社等の代表者二百餘名の會合を催して左記七部に分つて實施事項の協議をなした。

▽第一部教育會關係▽第二部青少年團、在郷軍人關係▽第三

部婦人會、處女會、女教員關係▽第四部神職會關係▽第五部宗教團體關係▽第六部新聞事業關係▽第七部教化團體其他關係

出席者は何れも眞摯なる態度を以て協議を遂げ左の如き實施事項を決議した。

教化總動員實施協議會 決議事項

- 甲、實施申合事項(共通)
 - 一、祝祭日には毎戸必ず國旗を掲揚すること
 - 一、公私の會合には時間を勵行すること
 - 一、集會には力めて國歌を合唱すること
 - 一、神宮大麻曆の頒布を徹底すること
 - 一、未成年者禁酒禁煙の徹底を期すること
 - 一、冠婚葬祭の冗費を節約すること
 - 一、教化強調週間を毎年一回實施すること
- 乙、各委員部決定事項
 - 第一部(教育會關係)

- 一、學校として實施すべき事項
 - イ、各學校に於て實行事項の申合せをする事
 - ロ、本運動の趣旨徹底に關する訓話を成案的に實施すること
 - ハ、標語、ポスター等に依り趣旨宣傳に努むる事
 - ニ、學用品の節約に努むる事
 - ホ、貯金を奨励する事
 - 二、教育會として實施すべき事項
 - イ、各教育會に於て實行事項の申合せを爲すこと
 - ロ、講演會講習會を開催して趣旨宣傳に努むる事
 - ハ、趣旨徹底に適切なる展覽會を開催する事
 - ニ、善行者並に優良團體を表彰する事
- 第二部(青少年團在(郷軍人關係))
 - 一、國民精神作興上左記事項を行ふ事
 - イ、陸海軍記念日、國民一般に記念日の精神を普及せしむる事

- ロ、體育デー、十月上旬に繰上げ一般に普及せしむる事
- ハ、武道の奨励縣下を統一せる大會を開催する事
- 二、其他の事項
 - イ、青少年の讀物指導に一層注意する事
- 第三部(婦人會處女會)
 - 一、婦人會
 - イ、講演會
 - ロ、簡易なる洗濯講習會
 - 二、處女會
 - イ、縣主催の講習會にはなるべく最寄りの場所に於て聴講せしむる事
 - ロ、祝祭日には最寄學校の儀式に參列する事
 - ハ、會員の貯金奨励
 - 三、女教員會
 - イ、女教員は努めて質素にして運動に便なる服装を爲すこと
- 第四部(神職會關係)
 - 一、吾人神職團體は我國内外の現狀に鑑み各自共立場に於て教化總動員實施の二大目的を

基調として一大愛國運動を爲さんとす其方法は左の方針に依る

一、特に今秋行はせらるゝ伊勢神宮御式年正遷宮祭の意義を周知せしむる方法を講ずる事

神宮大麻曆の頒布を徹底せしむる事

國民精神作興の御詔書の御趣旨を一層徹底せしむる事

冠婚葬祭を行ふに當り冗費を除き奢侈に陥らざる事を普及せしむる事

其他本聯合會の掲ぐる施設事項の實行に努力する事

之を實行するに當り各市町村長を中心として各地方の良風美俗を維持せしめ其環境に應じ實行方法を講ずる事

第五部(宗教團體關係)

一、佛教各宗派(二百何ヶ寺)の宗務所より各寺院に奨励し獨自の寺院に於て二ヶ月間に此趣旨を徹底せしむべく努力し又成績を報告せしむる事、町村に於て佛教、キリスト教、修養團其他と協力して本日の

會合者は直ちに教化團體運動の發起人となり實施に着手する事

二、實行方法は未成年者禁酒禁煙の徹底又會議等の場合喫煙を遠慮すべき事、家庭經濟に留意し家庭の圓滿を圖る事、寺院教會其他に於て二ヶ月間に此問題に關して講演會をなすやうに努め、又本日會合の二百五十名は各町村各方面に於て主となつて教化運動に従事する事、宗教團體に實施細則を頒布する事

第六部(新聞事業關係)

一、青森縣教化總動員に賛意を表し之を援助する事

一、實施案は之を適當なりと認む

第七部(教化團體其他關係)

一、各種團體は連絡提携の上左記事項を實施する事

イ、各團體は本運動の目的達成の爲め少くとも一つ以上實行具體案を定め聯合會と提携して實行する事

ロ、講演、講習會、展覽會、映寫會、ポスター、ビラの頒布、表彰等の施設をなす事

次いで縣聯合會は町村長會議に指示し或は縣下小學校長會議に指示して各種の研究を続け、縣下に互つて大々的活動をなした其實績左の如し

◇縣聯合會單獨主催の施設

(イ)教化總動員の第一聲として九月二十一日午後一時青森女子師範學校講堂に催した。

國民精神作興に關して 會長 平井 知事

國力の培養と公私經濟緊縮に關して 大藏省 小川郷太郎

入場者一千二百名稀なる盛況を呈した。

(ロ)青森、弘前、八戸の三市、五所川原七戸の二町で貴族院議員嘉納治五郎氏、法學博士大川周吉氏を招聘して教化講演會を催した。

(ハ)第一次の一齊運動として十月二日から一週間を第一回民風

作興週間とし講演會、映寫會を催した。講演會數二十五、映寫會數十五。

(ニ)民風作興標語懸賞募集をなした處應募者四百九十八名、入賞二十名。

(ホ)宮内省御歌所寄人千葉胤明氏を招聘して青森、七戸、黒石弘前、木造、五所川原、淺虫の七ヶ所て明治天皇御聖徳及時局に關する講演會を催した。

(イ)九月二十五日縣會議事堂に各官衙長中等學校長、團體代表者四十三名會合して教化總動員趣旨徹底方法、市町村教化團體設置方法の諮問案を出して徹底方案並に團體設置準則を設けた

(ト)十月二十九日縣會議事堂に縣内婦人團體協議會を開催出席百二十四名で矯風教化の運動上婦人團體として採るべき適當の方法を協議した。

(チ)九月二十一日夜女子師範學校に教化事業關係者懇談會を催し運動實施につき協議した。

◇公共團體其他と共同主催の施設

縣並に町村と共同主催で(第一回十月二日より一週間)第二回(十一月七日より一週間)の民風作興週間を設け實施案に基き活動した。講演會の成績は第一回週間は小學校を中心の回數四百二校聽衆七萬一千六百十二人中等學校中もの三十校聽衆一萬六千七百二十一人で、第二回週間は、小學校中心四百十二校聽衆七萬三千百七十七人、中等學校中心三十校聽衆一萬七千六百七十七人であつた。

右の各事業の外縣聯合會後援でやつた事業も尠くなかつた。尙各市町村ではそれ、教化團體を組織し其地方の實情に照合して適當なる實施案を樹て實行につとめた。

司法

裁判所管轄區域

現在の管轄區域は左の通りである。

青森地方〔青森、五所川原兩區裁判所〕
 〔裁判所の管轄區域〕
 同弘前〔弘前、饒ケ澤兩區裁判所〕
 同八戸〔八戸區裁判所の管轄區域〕

青森	區裁判所管轄區域	五所川原
上下東青 北北津森 郡郡輕市 の内 浦天野 六野間邊 ケ館林地 所村村町	區裁判所管轄區域 五所川原 南中北 畑津新津 岡輕和輕 村郡村郡 のの内	弘前 南中弘 浪大富黑津村東岩千豐清津前 岡杉木石輕村東岩千豐清津前 村館町郡裾船藤屋村村郡 村の野澤代村相駒堀和内 五郷野鹿西馬越越德 村澤澤高大目村村村 村村杉浦屋
八戸 上三八 村村村北戸 下六藤木の 田戸坂町内 村村法 三百四奥 澤百和澤	饒ケ澤 西津輕郡 藏石町柏石村光常六 館川居木村田盤鄉 村町村金猴中寺村村 大田賀郷村藤十 碓大尾竹光村村村 ケ鰯崎館寺田崎二 關町村村淺尾山舍町里 村瀬上形館村	

昭和四年青森地方裁判所檢事局檢事受理罪名種別表

罪名	區分	年度	舊受	新受	計	起	上	欄	の	内	計	未濟	第二審
逃	公務執行妨害	走	前本	前本	年	年	年	年	年	年	年	年	年
刑	犯	法	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年
受	受理	計	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年
起	上	欄	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年
の	内	計	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年
未	濟	計	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年
第二	審	計	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年
受	審	計	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年

罪名	區分	年度	舊受	新受	計	起	上	欄	の	内	計	未濟	第二審
放	失	火	前本	前本	年	年	年	年	年	年	年	年	年
火	火	火	前本	前本	年	年	年	年	年	年	年	年	年
擾	擾	擾	前本	前本	年	年	年	年	年	年	年	年	年
水	水	水	前本	前本	年	年	年	年	年	年	年	年	年
利	利	利	前本	前本	年	年	年	年	年	年	年	年	年
害	害	害	前本	前本	年	年	年	年	年	年	年	年	年
妨	妨	妨	前本	前本	年	年	年	年	年	年	年	年	年
入	入	入	前本	前本	年	年	年	年	年	年	年	年	年
侵	侵	侵	前本	前本	年	年	年	年	年	年	年	年	年
住	住	住	前本	前本	年	年	年	年	年	年	年	年	年
居	居	居	前本	前本	年	年	年	年	年	年	年	年	年
を	を	を	前本	前本	年	年	年	年	年	年	年	年	年
侵	侵	侵	前本	前本	年	年	年	年	年	年	年	年	年
す	す	す	前本	前本	年	年	年	年	年	年	年	年	年
飲	飲	飲	前本	前本	年	年	年	年	年	年	年	年	年
料	料	料	前本	前本	年	年	年	年	年	年	年	年	年
水	水	水	前本	前本	年	年	年	年	年	年	年	年	年
に	に	に	前本	前本	年	年	年	年	年	年	年	年	年
關	關	關	前本	前本	年	年	年	年	年	年	年	年	年
す	す	す	前本	前本	年	年	年	年	年	年	年	年	年
通	通	通	前本	前本	年	年	年	年	年	年	年	年	年
貨	貨	貨	前本	前本	年	年	年	年	年	年	年	年	年
偽	偽	偽	前本	前本	年	年	年	年	年	年	年	年	年
文	文	文	前本	前本	年	年	年	年	年	年	年	年	年
書	書	書	前本	前本	年	年	年	年	年	年	年	年	年
偽	偽	偽	前本	前本	年	年	年	年	年	年	年	年	年
有	有	有	前本	前本	年	年	年	年	年	年	年	年	年
價	價	價	前本	前本	年	年	年	年	年	年	年	年	年
證	證	證	前本	前本	年	年	年	年	年	年	年	年	年
券	券	券	前本	前本	年	年	年	年	年	年	年	年	年
偽	偽	偽	前本	前本	年	年	年	年	年	年	年	年	年
印	印	印	前本	前本	年	年	年	年	年	年	年	年	年
章	章	章	前本	前本	年	年	年	年	年	年	年	年	年
偽	偽	偽	前本	前本	年	年	年	年	年	年	年	年	年
誣	誣	誣	前本	前本	年	年	年	年	年	年	年	年	年
告	告	告	前本	前本	年	年	年	年	年	年	年	年	年

事件	第一審		第二審		其他事件		抗告		計
	地	支	地	支	地	支	地	支	
事件	八	八	八	八	八	八	八	八	八
裁判所	計	計	計	計	計	計	計	計	計
舊受	一	一	一	一	一	一	一	一	一
新受	一	一	一	一	一	一	一	一	一
計	二	二	二	二	二	二	二	二	二
判決	二	二	二	二	二	二	二	二	二
調	二	二	二	二	二	二	二	二	二
不調	二	二	二	二	二	二	二	二	二
判決の處分	二	二	二	二	二	二	二	二	二
其他	二	二	二	二	二	二	二	二	二
計	四	四	四	四	四	四	四	四	四
被告人員	三	三	三	三	三	三	三	三	三
審理中	三	三	三	三	三	三	三	三	三
停止	三	三	三	三	三	三	三	三	三
計	九	九	九	九	九	九	九	九	九
被告人員	七	七	七	七	七	七	七	七	七
前年新受比較	二	二	二	二	二	二	二	二	二
增減	一	一	一	一	一	一	一	一	一

昭和四年區裁判所民事事件

事件	第一審		第二審		和解		禁止		治産		失	
	地	支	地	支	地	支	地	支	地	支	地	支
事件	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八
區裁判所	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計
舊受	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
新受	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
計	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
判決	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
調	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
不調	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
判決の處分	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
其他	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
計	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四
審理中	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
停止	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
計	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六
前年新受比較	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
增減	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一

司法——陪審該當事件 辯護士會

辭退によつて陪審裁判が不成立に終り、未だ實際參與を見ずに居るがその該當犯罪は左の通りである。

昭和四年度分

△嬰兒殺し

本籍北海道余市町當時

△放火未遂 南郡金田村金屋

△放火未遂 南郡金田村金屋

△嬰兒殺し 北郡小阿彌村

農 某女(三九) (陪審辭退)

此の事件は一審青森地方で證據不十分の理由で無罪となつたが檢事が控訴し宮城控訴院で懲役一年六月を言渡された。

△毒殺未遂 南郡竹館村

農 某男 (陪審辭退)

△強盜傷人 中郡相馬村紙漉澤

元小學校教員某男(陪審辭退)

△弟殺し 北郡鶴田村

農 某男 (犯行自白)

昭和五年度分

△放火(懲役三年)

北郡五所川原町停車場通り

某男(二〇) (犯行自白)

辯護士會

△殺人放火(懲役二十年)

西郡大戸瀨村大字風合瀨

豫備役歩兵一等卒

農 某男(二七) (自白)

△強盜殺人未遂(懲役十年)

東郡高田村大字高田

農 某男(三五) (自白)

△住居侵入猥褻致傷

岩手縣生れ當時青森市浪打

某男(三五) (自白)

△放火(本稿執筆後判決言渡し)

本籍北郡小阿彌村當時青森

市長島 某男(四六) (辭退)

△嬰兒殺し並に屍體遺棄自白

懲役二年、四年間執行猶豫

本籍岩手縣當時青森市長島

町 某女(四四)

本會は明治二十七年四月辯護士

法實施と同時に青森縣代官人組

合を廢止して創立されたもので

創立當時の會長は故榊喜洋芽

氏で當時は會員總數十名に過ぎ

なかつた。それが大正十二年前

後から漸く數を加へて今日では

弘前

同前

青森

同前

同前

同前

同前

同前

同前

同前

同前

同前

同前

同前

同前

同前

同前

同前

同前

同前

同前

同前

同前

同前

同前

同前

同前

同前

同前

同前

同前

同前

同前

同前

同前

同前

同前

同前

同前

同前

同前

同前

同前

同前

同前

同前

同前

同前

同前

同前

同前

同前

同前

同前

同前

同前

同前

同前

同前

同前

同前

同前

同前

同前

同前

同前

青森地方裁判所登記管轄區域

區裁判所	出張所	管轄區域
青森	青森市	東津輕郡の内
油川	東津輕郡の内	荒川村 高田村 瀧内村
蟹田	東津輕郡の内	横内村 筒井村 原内村
今別	東津輕郡の内	奥内村 後湯村
野内	東津輕郡の内	蓬田村 平館村
小森	東津輕郡の内	一本木村 三厩村
野邊地	東津輕郡の内	東嶽村
七戸	上北郡の内	西平内村 東平内村
乙供	上北郡の内	横濱村
田名部	上北郡の内	天間林村 浦野館村
大間	上北郡の内	大深内村
川内	上北郡の内	六ヶ所村
五所	下北郡の内	大湊町 東通村 大畑村
	下北郡の内	風間浦村 佐井村
	下北郡の内	脇野澤村
	北津輕郡の内	

司法——青森地方裁判所登記管轄區域

青森十六名、弘前三名、八戸二名計三十一名の會員を算するに至つたのである。昭和五年五月十一日淺蟲温泉南部館に於て通常總會を開き役員を左の如く決定した

辯護士會々員 (登録順)

(昭和五年四月二十日現在)

事務所 氏名

川口榮之進

三上直吉

小野恒三郎

令泉秀雄

澤地甚藏

氣仙忠治

梅村忠大

長山壽雄

内野義太郎

中村豊司

小林剛

寺井俊夫

弘前

同前

青森

同前

同前

同前

同前

同前

同前

同前

同前

同前

同前

同前

同前

同前

同前

同前

同前

同前

同前

同前

同前

同前

同前

同前

同前

同前

同前

同前

同前

同前

同前

同前

同前

同前

同前

同前

同前

同前

同前

同前

同前

同前

同前

同前

同前

同前

同前

同前

同前

同前

同前

同前

同前

同前

同前

同前

同前

同前

同前

同前

同前

同前

同前

同前

此の外會員にあらざるも辯護士登録中のもので青森に横岡勉、八代美根三の二名がある。

館田謙吉 溝江武秀 中村貞三 工藤鐵四郎 小田桐守成 葛西千代治 竹内西敏 中西真兆 福山眞兆 後藤泰雄 竹田藤吉 大田隆美 神山隆文 對馬完吉 大里光一 丸岡奥松 二葉松男 成田正衛 内野房吉

司法—管内登記事務一覽表

倉庫	餘ヶ澤					浪岡
	木造	深澤	餘ヶ澤	藏館	柏木町	
出野里	西津輕郡の内 出野里	西津輕郡の内 岩崎村	西津輕郡の内 大戸瀨村	西津輕郡の内 石川町	南津輕郡の内 尾崎村	浪岡村
兼館	兼館	兼館	兼館	兼館	兼館	兼館

八戸							
三本木	百石	戸來	五戸	田子	市野澤	劍吉	三戸
三本木	百石	戸來	五戸	田子	市野澤	劍吉	三戸
三本木	百石	戸來	五戸	田子	市野澤	劍吉	三戸

昭和四年度管内登記事務一覽表 (青森地方裁判所)

倉庫	不動産		その他		計	登録料
	船舶登記	件数	件数	筒数		
倉庫	船舶登記	件数	件数	筒数	計	登録料
倉庫	船舶登記	件数	件数	筒数	計	登録料

盗犯防止法公布
第五十八特別議會の協賛を経たる盗犯防止及び處分に關する法律は昭和五年五月二十二日公布せられ、六月十一日から實施されることとなつたが、同法律に

倉庫	木造	深澤	餘ヶ澤	藏館	柏木町	浪岡
倉庫	木造	深澤	餘ヶ澤	藏館	柏木町	浪岡
倉庫	木造	深澤	餘ヶ澤	藏館	柏木町	浪岡

つき世間に誤解があるといつて右公布に際して泉二局長は次の如く語つた。
盗犯等防止法に就いては色々誤解が傳へられこの法律に對してあるひは殺し得、殺され損、あるひは斬り捨て御免などといふ非難もあるやうで、左様な誤解を招くのは甚だ遺憾である。そこで一般國民に新法の趣意を誤解ないやうにしたい趣旨から今回司法省刑事局から説明書を發表したわけである、本法でもつとも問題となつたのは第一條第一項と第二項でその條項もかくかくの條件の具つた場合は正當防衛であると例をあげたに過ぎない、實際生命、身體、貞操に危険があつたかどうか、又危険ありと誤認されたかどうかにかつては本人がいくら主張してもそれだけではだめで裁判の際裁判官がさういふ様に判断しなくてはだめである

議論の中心第一條

第一條 左の各條の場合にお

五戸警察署	三戸郡	倉石村	野澤村	浅田村
三戸警察署	三戸郡	戸來村	川内村	
弘前警察署	弘前市	留崎村	斗川村	猿邊村
	弘前市	名久井村	向村	平良崎村
	中津輕郡	和徳村	豊田村	堀越村
	清津村	駒越村	岩木村	相馬村
	千手村	西目屋村	藤代村	大浦村
	船津村	高杉村	藤野村	

二十年以上勤続現勤者

拜年月日	官職名	氏名
同三十七年三月	巡查	三上 主計
同三十八年三月	巡查	葛谷辰之助
同三十九年三月	巡查	風張喜世治
同四十年三月	巡查	池田熊太郎
同四十一年三月	巡查	葛西 助七
同四十二年三月	巡查	寺田 勇作
同四十三年三月	巡查	藤田 峯次郎
同四十四年三月	巡查	石郷岡貞勝
同四十五年三月	巡查	角田 健吉
同四十六年三月	巡查	梶 八郎
同四十七年三月	巡查	池井鐵之助
同四十八年三月	巡查	小島熊太郎
同四十九年三月	巡查	齊藤 幸吉
同三十四年三月	巡查	佐藤 寅喜
同三十五年三月	巡查	櫻谷末太郎
同三十六年三月	巡查	畑中啓太郎
同三十七年三月	巡查	工藤 喜助
同三十八年三月	巡查	浅野 右造
同三十九年三月	巡查	岡崎 三治
同四十年三月	巡查	須藤慶之助
同四一年三月	巡查	中畑 龜吉
同四二年三月	巡查	木村 玄三
同四三年三月	巡查	佐藤 征吉
同四四年三月	巡查	毛内 慶作
同四五年三月	巡查	間山 仁助
同四六年三月	巡查	平塚 與助
同四七年三月	巡查	逸見 憐八
同四八年三月	巡查	工藤 俊一
同四九年三月	巡查	佐藤 傳藏
同五十年三月	巡查	川口庄次郎

青森縣警部補考試問題

△昭和三年四月十九、二十日施行

一、天皇の神聖不可侵を論ずべし。

二、法律の制定手續を問ふ。

行政 一、上級官廳の下級官廳に對する監督權を述べよ。

警察法 一、道路警察を論ず。

二、營業の種類を舉げて各其の說明を爲し、左の營業は何れの種類に屬すやを示せ。

イ、印刷業、ロ、自動車販賣業、ハ、木貨宿業、ニ、牛乳請賣業、ホ、出版業

刑法 一、正當防衛を論ずべし。

二、職務妨害罪を説明せよ。

刑事訴訟法 一、合法主義及便宜主義を論ぜよ。

二、左の語の意義を述べよ。

イ、公訴權、ロ、押收、ハ、疏明、ニ、調書、ホ、檢證

裁判所構成法 一、裁判長と裁判所長との區別を明かにすべし。

算術 一、或る學校の生徒数は皆んなで六百九人で男生徒は女生徒より四十七人多い。男の生徒は何人か。

二、米を運ぶのに車一臺に三十俵、積むと八臺いる、これを一臺に二十五俵づゝ積むと何臺いるか。

三、或る書籍を定價の八掛で買つて五圓札を出したら、一圓八十錢の釣銭があつた。此の書籍の定價は何程か。

四、或人が日歩二錢八厘で金五百圓を貸し、元利合計五百七圓五十六錢を得た。幾日間貸したか。

△昭和四年十月七日施行

憲法 一、國體と政體との區別を述べよ。

二、議會解散の意義を問ふ。

裁判所構成法

一、檢事同一體の原則とは何ぞや。

二、裁判權と管轄權との差異を説明すべし。

行政法

一、府縣知事の法律上の性質。

二、警察許可の性質。

刑法

一、公務員の意義を問ふ。

二、所謂「違法阻却の事由」とは何ぞや。

刑事訴訟法

一、刑事訴訟法上に於ける被告人の地位を説明すべし。

二、現行犯及び准現行犯の意義を説明すべし。

警察法

一、警察許可の効果及び其の消滅原因を論ぜよ。

二、左の意義を問ふ。

イ、結社

ロ、多業運動

算術

$$\frac{(6.8+5.6) \div 4 - 0.1}{1} \times (0.24 + 0.7 \times 5 + 4) \div \frac{1}{2} =$$

警察——青森縣巡查採用試験問題

二、甲の所持金は乙の所持金より二圓四十錢多い、そして乙の所持金は甲の所持金の八分の五である。甲乙の所持金各何程か。

三、アメリカ合衆國の金貨の單位は「ドル」「セント」であつて「ドル」は「百セント」である。今四十八ドルを百圓とすると五圓は何ドル何セントに當るか。

四、一升二圓四十五錢の酒が九升ある。これに水を入れて一升二圓二十五錢の酒を作るには水を何程入れるとよいか。

△昭和五年四月十日五所川原に於て施行

讀方(四十分)

一、左の語に讀方を附し解釋せよ。

1. 曲學阿世 2. 軋轢 3. 安心立命 4. 宇宙 5. 修養 6. 洞ヶ峠

二、左の語を漢字に直せ

一、セイタウ、セイハ、サケイシサウ、3. タイイク、シヤウレイ、4. コクタイセイタイ、5. ラウヒセツヤク、6. キンケン、リョクカウ

三、左の語を簡単に説明し尙棒線の部に讀假名を附けよ。

(一)土は凡てをだん／＼と刺戟して堀の邊には蘆やとだしばや其他の草が空と相映じてすつきりと其の首を擡げる。

(二)バザール

(三)ヂレンマ

作文 筆跡(四十分)

一、就職を依頼する文。

二、所感。

地理(四十分)

左記地名に付(1)は郡市名(2)は縣名を記せ。

(1)佐井、鮫、小泊、深浦

(2)能代、宮古、横手、鶴岡

歴史(四十分)

一、聖徳太子の新政に就き記せ

二、井伊直弼とは如何なる人か

算術(四十分)

一、某數の九倍に十二を加ふれば三百九となる某數如何。

二、九人の職人が共に働けば十四日に仕上ぐる仕事を二十一人ならば幾日を要するか。

三、童子若干人に桃三箇づゝ與ふれば三十二箇餘り、若し五箇づゝ與ふれば十四箇不足すと云ふ、童子及桃の數如何。

△昭和五年四月十二日弘前市に於て施行。

讀方(四十分)

一、左の語に讀方を附し解釋せよ。

1. 葛藤 2. 退嬰 3. 塞翁が馬 4. 二千石 5. 繼纒 6. 杞憂

二、左の語を漢字に直せ。

1. サンゲウ、リツコク 2. コツカ、コウリュウ 3. ヒレイダイヘウセイ 4. ホケン、エイセイ 5. ヨバウケイサツ 6. ケンシン、ドリョク

三、左の語を簡単に説明し尙棒線の部に讀假名を附けよ。

1. 久しく停頓の形で陰慘な空氣に蔽はれてゐたロンドン會議は久し振りで晴朗の雰圍氣を觀取し得るに至つた。

2. モットー。

六五七

警察——本縣犯罪發生檢舉件數年表

作文筆跡(四十分)
 一、卒業を祝する文。
 二、所感
地理(四十分)
 一、本縣内各市の人口並に知る處を記せ。
 二、左記地名の縣名を記せ、石卷、酒田、沼津、平泉、若松、米澤
歴史(四十分)
 一、明治の新政に付記せ。
 二、和氣清磨とは如何なる人か
算術(四十分)
 一、若干數あり之に十二を加ふれば十三の十四倍となると云ふ原數如何。
 二、東倉の米七百二十俵を馬車八輛にて六回に運び終り、西倉の米は同馬車十八輛にて九回にて運び終ると云ふ、西倉に何俵入れあるか。
 三、長さ七十五間ある道の兩側に等距離に櫻一株づゝ植ゑたるに兩端とも總て六十二株を要したり樹と樹との距離を求む
 △昭和五年四月十四日青森市に

て施行。
讀方(四十分)
 一、左の語に讀方を附し解釋せよ。
 (1)背水の陣 (2)金甌無缺 (3) 罔固 (4)特度 (5)思想國難 (6)覆水盆に返らず
 二、左の語を漢字に直せ。
 (1)コクサイ、レンメイ (2)キヨクイツチ (3)ラウヒセツヤク (4)エンマンダケフ (5)チツジヨキヂ (6)タイイクシヤウレイ
 三、左の語を簡単に説明し尙棒線の部に讀假名を附けよ。
 (1)久しく停頓の形で陰慘な空氣に蔽はれてゐたロンドン會議は久し振りで晴朗の雰圍氣を觀取し得るに至つた。
 (2)コントラスト
作文筆跡(四十分)
所感
 (一)類焼見舞の文
 (二)地理(四十分)
 一、本縣内中學校及農學校の所在地を問ふ。

本縣犯罪發生檢舉件數年表 (昭和四年中)

罪名	被害件數		檢舉件數	
	本年	前年	本年	前年
皇室に對する罪	0	0	0	0
内亂に對する罪	0	0	0	0
外患に對する罪	0	0	0	0
國交に對する罪	0	0	0	0
公務執行妨害罪	1	0	1	0
逃走罪	0	0	0	0
犯罪藏匿證據湮滅罪	0	0	0	0
竊取誘拐の罪	1	0	1	0
脅迫の罪	0	0	0	0
逮捕監禁の罪	0	0	0	0
遺棄の罪	0	0	0	0
墮胎の罪	0	0	0	0
業務上過失傷害罪	0	0	0	0
強盜罪	0	0	0	0
強盜未遂罪	0	0	0	0
強盜共謀罪	0	0	0	0
強盜脅迫罪	0	0	0	0
強盜斃命罪	0	0	0	0
強盜傷害罪	0	0	0	0
強盜竊取罪	0	0	0	0
強盜竊取未遂罪	0	0	0	0
強盜竊取共謀罪	0	0	0	0
強盜竊取斃命罪	0	0	0	0
強盜竊取傷害罪	0	0	0	0
強盜竊取未遂罪	0	0	0	0
強盜竊取共謀罪	0	0	0	0
強盜竊取斃命罪	0	0	0	0
強盜竊取傷害罪	0	0	0	0
強盜竊取未遂罪	0	0	0	0
強盜竊取共謀罪	0	0	0	0
強盜竊取斃命罪	0	0	0	0
強盜竊取傷害罪	0	0	0	0
強盜竊取未遂罪	0	0	0	0
強盜竊取共謀罪	0	0	0	0
強盜竊取斃命罪	0	0	0	0
強盜竊取傷害罪	0	0	0	0
強盜竊取未遂罪	0	0	0	0
強盜竊取共謀罪	0	0	0	0
強盜竊取斃命罪	0	0	0	0
強盜竊取傷害罪	0	0	0	0
強盜竊取未遂罪	0	0	0	0
強盜竊取共謀罪	0	0	0	0
強盜竊取斃命罪	0	0	0	0
強盜竊取傷害罪	0	0	0	0
強盜竊取未遂罪	0	0	0	0
強盜竊取共謀罪	0	0	0	0
強盜竊取斃命罪	0	0	0	0
強盜竊取傷害罪	0	0	0	0
強盜竊取未遂罪	0	0	0	0
強盜竊取共謀罪	0	0	0	0
強盜竊取斃命罪	0	0	0	0
強盜竊取傷害罪	0	0	0	0
強盜竊取未遂罪	0	0	0	0
強盜竊取共謀罪	0	0	0	0
強盜竊取斃命罪	0	0	0	0
強盜竊取傷害罪	0	0	0	0
強盜竊取未遂罪	0	0	0	0
強盜竊取共謀罪	0	0	0	0
強盜竊取斃命罪	0	0	0	0
強盜竊取傷害罪	0	0	0	0
強盜竊取未遂罪	0	0	0	0
強盜竊取共謀罪	0	0	0	0
強盜竊取斃命罪	0	0	0	0
強盜竊取傷害罪	0	0	0	0
強盜竊取未遂罪	0	0	0	0
強盜竊取共謀罪	0	0	0	0
強盜竊取斃命罪	0	0	0	0
強盜竊取傷害罪	0	0	0	0
強盜竊取未遂罪	0	0	0	0
強盜竊取共謀罪	0	0	0	0
強盜竊取斃命罪	0	0	0	0
強盜竊取傷害罪	0	0	0	0
強盜竊取未遂罪	0	0	0	0
強盜竊取共謀罪	0	0	0	0
強盜竊取斃命罪	0	0	0	0
強盜竊取傷害罪	0	0	0	0
強盜竊取未遂罪	0	0	0	0
強盜竊取共謀罪	0	0	0	0
強盜竊取斃命罪	0	0	0	0
強盜竊取傷害罪	0	0	0	0
強盜竊取未遂罪	0	0	0	0
強盜竊取共謀罪	0	0	0	0
強盜竊取斃命罪	0	0	0	0
強盜竊取傷害罪	0	0	0	0
強盜竊取未遂罪	0	0	0	0
強盜竊取共謀罪	0	0	0	0
強盜竊取斃命罪	0	0	0	0
強盜竊取傷害罪	0	0	0	0
強盜竊取未遂罪	0	0	0	0
強盜竊取共謀罪	0	0	0	0
強盜竊取斃命罪	0	0	0	0
強盜竊取傷害罪	0	0	0	0
強盜竊取未遂罪	0	0	0	0
強盜竊取共謀罪	0	0	0	0
強盜竊取斃命罪	0	0	0	0
強盜竊取傷害罪	0	0	0	0
強盜竊取未遂罪	0	0	0	0
強盜竊取共謀罪	0	0	0	0
強盜竊取斃命罪	0	0	0	0
強盜竊取傷害罪	0	0	0	0
強盜竊取未遂罪	0	0	0	0
強盜竊取共謀罪	0	0	0	0
強盜竊取斃命罪	0	0	0	0
強盜竊取傷害罪	0	0	0	0
強盜竊取未遂罪	0	0	0	0
強盜竊取共謀罪	0	0	0	0
強盜竊取斃命罪	0	0	0	0
強盜竊取傷害罪	0	0	0	0
強盜竊取未遂罪	0	0	0	0
強盜竊取共謀罪	0	0	0	0
強盜竊取斃命罪	0	0	0	0
強盜竊取傷害罪	0	0	0	0
強盜竊取未遂罪	0	0	0	0
強盜竊取共謀罪	0	0	0	0
強盜竊取斃命罪	0	0	0	0
強盜竊取傷害罪	0	0	0	0
強盜竊取未遂罪	0	0	0	0
強盜竊取共謀罪	0	0	0	0
強盜竊取斃命罪	0	0	0	0
強盜竊取傷害罪	0	0	0	0
強盜竊取未遂罪	0	0	0	0
強盜竊取共謀罪	0	0	0	0
強盜竊取斃命罪	0	0	0	0
強盜竊取傷害罪	0	0	0	0
強盜竊取未遂罪	0	0	0	0
強盜竊取共謀罪	0	0	0	0
強盜竊取斃命罪	0	0	0	0
強盜竊取傷害罪	0	0	0	0
強盜竊取未遂罪	0	0	0	0
強盜竊取共謀罪	0	0	0	0
強盜竊取斃命罪	0	0	0	0
強盜竊取傷害罪	0	0	0	0
強盜竊取未遂罪	0	0	0	0
強盜竊取共謀罪	0	0	0	0
強盜竊取斃命罪	0	0	0	0
強盜竊取傷害罪	0	0	0	0
強盜竊取未遂罪	0	0	0	0
強盜竊取共謀罪	0	0	0	0
強盜竊取斃命罪	0	0	0	0
強盜竊取傷害罪	0	0	0	0
強盜竊取未遂罪	0	0	0	0
強盜竊取共謀罪	0	0	0	0
強盜竊取斃命罪	0	0	0	0
強盜竊取傷害罪	0	0	0	0
強盜竊取未遂罪	0	0	0	0
強盜竊取共謀罪	0	0	0	0
強盜竊取斃命罪	0	0	0	0
強盜竊取傷害罪	0	0	0	0
強盜竊取未遂罪	0	0	0	0
強盜竊取共謀罪	0	0	0	0
強盜竊取斃命罪	0	0	0	0
強盜竊取傷害罪	0	0	0	0
強盜竊取未遂罪	0	0	0	0
強盜竊取共謀罪	0	0	0	0
強盜竊取斃命罪	0	0	0	0
強盜竊取傷害罪	0	0	0	0
強盜竊取未遂罪	0	0	0	0
強盜竊取共謀罪	0	0	0	0
強盜竊取斃命罪	0	0	0	0
強盜竊取傷害罪	0	0	0	0
強盜竊取未遂罪	0	0	0	0
強盜竊取共謀罪	0	0	0	0
強盜竊取斃命罪	0	0	0	0
強盜竊取傷害罪	0	0	0	0
強盜竊取未遂罪	0	0	0	0
強盜竊取共謀罪	0	0	0	0
強盜竊取斃命罪	0	0	0	0
強盜竊取傷害罪	0	0	0	0
強盜竊取未遂罪	0	0	0	0
強盜竊取共謀罪	0	0	0	0
強盜竊取斃命罪	0	0	0	0
強盜竊取傷害罪	0	0	0	0
強盜竊取未遂罪	0	0	0	0
強盜竊取共謀罪	0	0	0	0
強盜竊取斃命罪	0	0	0	0
強盜竊取傷害罪	0	0	0	0
強盜竊取未遂罪	0	0	0	0
強盜竊取共謀罪	0	0	0	0
強盜竊取斃命罪	0	0	0	0
強盜竊取傷害罪	0	0	0	0
強盜竊取未遂罪	0	0	0	0
強盜竊取共謀罪	0	0	0	0
強盜竊取斃命罪	0	0	0	0
強盜竊取傷害罪	0	0	0	0
強盜竊取未遂罪	0	0	0	0
強盜竊取共謀罪	0	0	0	0
強盜竊取斃命罪	0	0	0	0
強盜竊取傷害罪	0	0	0	0
強盜竊取未遂罪	0	0	0	0
強盜竊取共謀罪	0	0	0	0
強盜竊取斃命罪	0	0	0	0
強盜竊取傷害罪	0	0	0	0
強盜竊取未遂罪	0	0	0	0
強盜竊取共謀罪	0	0	0	0
強盜竊取斃命罪	0	0	0	0
強盜竊取傷害罪	0	0	0	0
強盜竊取未遂罪	0	0	0	0
強盜竊取共謀罪	0	0	0	0
強盜竊取斃命罪	0	0	0	0
強盜竊取傷害罪	0	0	0	0
強盜竊取未遂罪	0	0	0	0
強盜竊取共謀罪	0	0	0	0
強盜竊取斃命罪	0	0	0	0
強盜竊取傷害罪	0	0	0	0
強盜竊取未遂罪	0	0	0	0
強盜竊取共謀罪	0	0	0	0
強盜竊取斃命罪	0	0	0	0
強盜竊取傷害罪	0	0	0	0
強盜竊取未遂罪	0	0	0	0
強盜竊取共謀罪	0	0	0	0
強盜竊取斃命罪	0	0	0	0
強盜竊取傷害罪	0	0	0	0
強盜竊取未遂罪	0	0	0	0
強盜竊取共謀罪	0	0	0	0
強盜竊取斃命罪	0	0	0	0
強盜竊取傷害罪	0	0	0	0
強盜竊取未遂罪	0	0	0	0
強盜竊取共謀罪	0	0	0	0
強盜竊取斃命罪	0	0	0	0
強盜竊取傷害罪	0	0	0	0
強盜竊取未遂罪	0	0	0	0
強盜竊取共謀罪	0	0	0	0
強盜竊取斃命罪	0	0	0	0
強盜竊取傷害罪	0	0	0	0
強盜竊取未遂罪	0	0	0	0
強盜竊取共謀罪	0	0	0	0
強盜竊取斃命罪	0	0	0	0
強盜竊取傷害罪	0	0	0	0
強盜竊取未遂罪	0	0	0	0
強盜竊取共謀罪	0	0	0	0
強盜竊取斃命罪	0	0	0	0
強盜竊取傷害罪	0	0	0	0
強盜竊取未遂罪	0	0	0	0
強盜竊取共謀罪	0	0	0	0
強盜竊取斃命罪	0	0	0	0

警察—青森縣消防義會—消防組幹部及各組員數

青森縣消防義會

創立 大正四年九月十七日

役員 總裁 知事 平井 三男

會長 警察部長

幹事長 足立 達夫

幹事 消防課長 警視 渡邊男二郎

幹事 消防課次席 警部補 長内 文治

各警察署を支部所在地とし、

會員數は昭和五年四月現在二萬

五千三百十四人である。毎月機

關紙消防義會報を發行してゐ

第五部機關部 副組員數

主任 高際高一郎

第六部 相馬甚之助

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

小湊警察署管内

津村理兵衛

頭 小消防

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

蟹田警察署管内

石岡長兵衛

頭 小消防

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

青森警察署管内

田中 勇三

頭 加賀 秀雄

副頭 小消防

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

計六

警察—消防組幹部及各組員數

八戶警察署管内

Table listing police divisions and personnel counts for the 8th Division (八戶警察署管内). It includes sub-sections for 八戶市 (8th City) and 三戸警察署管内 (Sanpo Police Station Area). Personnel are listed by division (e.g., 第一池田, 第二近藤) with their names and counts.

警察—消防組幹部及各組員數

Table listing police divisions and personnel counts for the 6th Division (六六三). It includes sub-sections for 三本木警察署管内 (Sanbonaki Police Station Area) and 尾上村 (Oshimura). Personnel are listed by division (e.g., 第一沼田, 第二石ヶ森) with their names and counts.

警察—消防組幹部及各組員數

Table listing police and fire department personnel across various districts like 成田喜一郎, 清野早次郎, 岩崎村, etc., with their respective ranks and counts.

消防關係十年以上以
上勤績者

Table listing individuals with 10+ years of fire service experience, categorized by police divisions (e.g., 田名部警察署管内, 木造警察署管内) and their names.

警察—衛生組合

合長長谷川吉三郎
 △甲地村組合長(各部)
 水喰大杉長松 保戸澤漆戸甚平
 乙部乙部元松 萌出萌出房男
 田ノ澤甲地赤松
 △六ヶ所村南部組合長橋本象次
 副組合長高村太助 泊村組合長
 漢正三 副組合長村井善八
 -△五所川原警察署管内
 △五所川原衛生組合(町村別)
 田町組合長鹿内藤太郎 副組
 合長高松西藏 委員六名 組合
 員一六〇名
 上五所川原組合長小田桐惣十
 郎 副組合長石井勘太郎 委員
 五名 組合員四〇名
 新屋敷組合長下山友太郎 副
 組合長山崎勇助 委員四名 組
 合員一〇〇名
 合長八木橋武太夫 委員四名
 組合員一四〇名
 旭町組合長鶴谷清輔 副組合
 長秋元平次郎 委員六名 組合
 員三二〇名
 上平井町組合長秋元久吉 副
 組合長鶴谷常吉 委員五名 組
 合員一〇〇名
 中平井町組合長平野淺次郎
 副組合長荒谷健次郎 委員五名

組合員一二〇名
 下平井町組合長丸山元三郎
 副組合長齋藤勇太郎 委員六名
 組合員三〇〇名
 柏原組合長佐々木定四郎 副
 組合長缺 委員二名 組合員一
 四〇名
 寺町組合長中村吉次郎 副組
 合長成田末吉 委員五名 組合
 員一五〇名
 五所川原町聯合衛生組合長町
 長佐々木哲造 副組合長警察署
 長三上重五郎 理事助役齋藤匡
 則 警部補野呂竹四郎 委員一
 〇名 組合員一六一〇名(本組
 合は五所川原町各町組合の聯合
 せるものにて、町長は組合長、
 副組合長は警察署長、委員は各
 町組合長を以て之に充つ。)
 △中川村田川組合長山形孫兵衛
 副組合長奈良藤七郎 委員五名
 組合員六二名
 同新宮組合長松本百太郎 副
 組合長山川市三郎 委員四名
 組合員三六名
 中川村組合代表者村長山川彬
 委員九名 組合員九八名
 △七和村組合長村長藤田紋太郎
 副組合長助役楠美和右衛門 理
 事松島武 委員二一名 組合員

五五二名
 △金木警察署管内
 △金木町衛生組合
 組合長高橋良三郎
 △板柳警察署管内
 △板柳衛生組合
 仲町組合長竹浪繁造 副組合
 長松山鐵三郎 表町組合長三上
 秀一 副組合長津清藏 派立
 町組合長菊地仁了 副組合長佐
 藤宇作 馬喰町組合長植野平助
 副組合長青山幸作 川端町組合
 長赤石兼次郎 副組合長松山惣
 太郎 灰沼組合長杉澤繁雄 副
 組合長米澤喜助 福野田組合長
 副組合長安田豊次郎 副組合長
 津健治 三千石組合長佐々木健
 次郎 副組合長長永澤健治 三千
 石組合長 佐々木健次郎 副組合
 長白取治三郎 赤田組合長三上
 源吉 副組合長三上清太郎 掛
 落林組合長對馬豊三郎 副組合
 長小澤証吉 小幡組合長野宮勝
 之助 副組合長工藤一男
 (以上各組合は委員三名づつ。)
 △六郷村衛生組合(大字別)
 石野組合長三祐助 副組合
 長須郷伴次郎 野中組合長三上
 勝太郎 副組合長福田圓次郎
 境村組合長須郷輪次郎 副組

合長成田亥次郎 胡桃館組合長
 奈良重次郎 副組合長工藤岩次
 郎 中野組合長松山榮 副組合
 長相川貞太郎 山道組合長澁谷
 善作 副組合長一戸榮吉(以上
 各組合は委員三名づつ。)
 △小阿彌村(大字別)
 柏木組合長田澤里松 副組合
 長田澤忠藏 牡丹森組合長成田
 太郎 副組合長高谷丑太郎 大
 枝組合長三戸藏吉 副組合長小
 枝秀男 高増組合長安田平十郎
 副組合長工藤源次郎 副組合長
 合長藤川東吉 副組合長成田百太
 郎 五幾形組合長長内長作 副組
 合長長内清藏以上(以上各組合
 は委員三名づつ。)
 △滑川村組合長齋藤俊治 副
 組合長齋藤貞吉 委員四名
 △新和村組合長大高喜八郎
 副組合長缺員 委員七名
 △三本木警察署管内
 △三本木衛生組合
 副組合長警察署長小山内義雄
 顧問高橋吉三郎 篠田翠 篠
 田壽 石川清 組合員一二五九
 九名 委員四十名(組合事務を
 處理す)
 △三戸警察署管内

警察—衛生組合

△三戸町衛生組合
 組合長三戸町長諏訪内剛人 副
 組合長三戸町助役淺井祐三
 △第一區委員長奥田作 副委員
 長木村專藏 委員大西福太郎
 松尾甚助 青木藤次郎 松尾善
 平 梅館榮太郎 袴田直藏
 △第二區委員長松原初太郎 副
 委員長大志田一城 委員工藤三
 太郎 山谷政吉 山口芳藏 石
 井與八 松岡万次郎 松田淺次
 郎 赤塚定吉 中堤軍平 遠藤
 佐太郎 澤山松太郎 松原與八
 松尾重太郎 川守田兼吉
 △第三區委員長松尾茂 副委員
 長時村重治 委員五十嵐辰五郎
 松尾專藏 志賀治志 太田三太
 郎 中島岩吉
 △第四區委員長田子宮太 副委
 員長松尾吉兵衛 委員松尾政次
 郎 中島利兵衛 元塚謹三郎
 △第五區委員長矢幅三太郎 副
 委員長松尾傳吉 委員加藤庄八
 佐々木春松 松尾十兵衛 安達
 福松 淺井熊之助
 △第六區委員長堀口市太郎 副
 委員長田島捷三郎 委員加藤利
 夫 小泉三代七 中島秀三 工
 藤久兵衛 松原岩見
 △第七區委員長日野千代吉 副

委員長矢幅福治 委員梶川村治
 小笠原良吉 松尾清八 高屋敷
 治三郎 松尾多三郎 内澤大次
 郎
 △第八區委員長宮森榮作 副委
 員長石龜松太郎 委員松尾三丞
 一條新太郎 大澤三太
 △第九區委員長山崎留吉 副委
 員長鎌澤伊太郎 委員鎌澤金次
 郎 福田三太郎 鎌澤重太郎
 鎌澤甚太郎 工藤龜吉 冷水三
 郎
 △第十區委員長 川市三五郎
 副委員長白山豊八 委員境ノ澤
 米作 水梨留吉 水梨孫作 水
 梨和吉 水梨三藏
 △平良崎村衛生組合
 組合長平良崎村長馬場忠恕
 △第一區委員寺澤佐太郎 第二
 區沖田福太郎 佐々木源十郎 第
 三區西村馬吉 中里銀之助 第
 四區中野重次郎 杉澤源太郎 第
 五區中野重次郎 杉澤源太郎 第
 六區中野重次郎 杉澤源太郎
 △三戸停車場前衛生組合
 組合長谷内石松 委員上平三
 治 大向才太郎 工藤覺次郎
 極權忠次郎 坂本源太郎 留目
 德太郎 山崎留吉 内田長之助
 △小湊警察署管内
 小湊組合長野呂此次郎(小湊町
 長) 組合員數一〇二一
 東平内組合長葛西要之助(東平
 内村長) 組合員數四〇七
 西平内組合長木村敬三(西平内
 村長) 組合員數四〇一
 (副組合長、理事等の制度なし)
 △七戸警察署管内
 七戸町下町衛生組合長盛田重
 兵衛 委員泉山末吉 佐藤佐太
 郎 組合員一四四人
 同小川町衛生組合長缺畑茂三
 郎 委員平尾常吉 平内山万之
 丞 組合員八三人
 同川向衛生組合長小原第吉
 副組合長藤谷徳太郎 委員太田
 資吉 津田政吉 組合員一三八
 人
 同若前衛生組合長盛田八百二
 委員小林定之助 福田久松 組
 合員七二人
 同新川原衛生組合長中野吉十
 郎 副組合長林松三郎 委員板
 橋石三 高田榮 立崎定見 員
 塚五三郎 荒川富 田鏡正人 組
 合員一〇四人
 同川原町衛生組合長米内山勉
 治 副組合長小林吉五郎 委員
 沼崎 治部袋三之丞 作田清人 沼崎

松之助 山口鶴 立崎源次郎
 佐々木勘三郎 西野勝見 大友
 龜三郎 工藤與之助 米内山健
 三 組合員一〇二人
 同南浦衛生組合長鷺山胤三
 郎 副組合長木郷友八 委員高村重
 太郎 姥名馬之助 小原辰五郎
 高橋房吉 岡村正太郎 組合員
 六七人
 同影津内衛生組合長高坂徳太
 郎 副組合長八重澤喜平 委員
 附田太作 長谷川徳太郎 大野
 淺吉 倉岡定次郎 横手兼吉
 小村吾助 組合員三七人
 同新町衛生組合長小原甚兵衛
 副組合長佐藤吉太郎 組合員一
 四四人
 同横町衛生組合長川村榮一
 副組合長太田庄之丞 組合員七
 〇人
 同城内衛生組合長横泰藏 組
 合員九六人
 同間林村衛生組合長澤田清見
 副組合長澤田榮八 委員甲慶作
 中ノ渡末吉 坪吉兵衛 白石徳
 右衛門 兔内由太郎 苦米地六
 松ノ上野重作 鳴海長之丞 楠
 万吉 松山寶治 十枝内市太郎
 古内市松 中野兼松 平代森巳
 太郎 鳥谷部長 高田乙松

警察——縣內警察取締營業組合

高田長治 千葉甚藏 高松敏三 組) 菊池源五郎 委員南豐太郎
田島三五郎 花松留吉 二ツ森 神雄作 委員長(五組) 泉源吾
末吉 二ツ森松三郎 古屋敷盛 委員龜谷順藏 中森由助 委員
藏 李澤長盛 組合員全村民一 長(六組) 秋田巳代吉 委員林
〇〇八人 市太郎 神馬豐作 下手濱委員
大深内村衛生組合長成田喜三 張江善之助 岩崎兼松
郎 副組合長中野渡喜代美 組 下風呂衛生組合長長谷川榮太
合員全村民七〇四人 郎 副組合長佐賀喜一郎
△大間警察署管内 △大間村奧戶衛生組合長興村正
大奥村大字大間衛生組合長阿部 太郎 副組合長清水時次郎 委
勝義 副組合長蛭子長太郎 委員炭瀨千代八 小林孫八 宮野
員長(一組) 藤田清太郎 委員伊 正太郎 金澤勝之助 菊池清一
藤源藏 蛭子富之助 委員長(二 郎 小野龜之助 森田要助 安
組) 小濱源藏 委員蛭子幸吉 委 東格治 和田金太郎 佐々木鶴
員長(三組) 竹内兼光 委員田中 松
菊松 新田市之助 委員長(四 松

縣內警察取締營業組合

(役員、組合員其他現況)

自動車營業組合

組 合 名 組合長 副組合長 員數 創立年月
東青自動車營業組合 伊藤 貞作 佐川 廣忠 三六 大正三、八、四
中弘自動車營業組合 富田 孫七 齋藤 吉六 元昭和二、六、三〇
三戸乘合自動車組合 中村保太郎 大向 守 二大正一〇、七、二〇
八戸自動車營業組合 吉田三郎兵衛 益
五戸乘合自動車組合 谷 泰次郎 九昭和四、一〇、
下北自動車營業組合 白濱誠榮造 一五

自動車運轉手組合

六七六

組 合 名 組合長 副組合長 員數 創立年月
青森自動車運轉手會 伊藤 貞作 早瀬喜三郎 一六 大正一四、一、一八
(理事) 佐川廣忠 松下重太郎 田村滋治 小笠原幸之助 天
內勝四郎 小石定吉
(相談役) 鈴木芳三郎 太田三太郎 須藤佐之助
弘前自動車運轉手會 松木 三郎 佐井留太郎 三〇 昭和三、七、七
(幹事) 富田孫七 野宮虎太郎 蒔苗文雄 田村清太郎 新谷
金太郎 木村貞作
三本木町自動車會 照井陸次郎 小澤三之丞 一九 昭和四、三、二
(顧問) 三本木警察署長
(幹事) 小原愛吉 照井德兵衛 今井平司 小野文右衛門 田
口孝造 阿部喜代三郎
三戸自動車運轉手組合 中村保太郎 大向 守 二五 昭和四、五、三〇
(幹事) 高橋甚之助 馬場勇吉
八戸自動車運轉手會 二森 毅 二本柳榮吉 三〇 昭和四、三、四

乘合馬車馬糞營業組合

組 合 名 組合長 副組合長 員數 創立年月
中弘乘合馬車馬糞營業 新岡爲之助 江利山 德右衛門 三〇
業 村元 長六 大正四、三、二〇
(役員) 山本由吉 對馬與一 中澤勝太郎 山田豐榮 成田彦
五郎
青森乘合馬車馬糞組合 外崎與助 大正五、五、七
黑石町乘合馬車馬糞 野呂米太郎 長内 永吉 三〇 二、七、二六
營業 組合

荷馬車營業組合

二明治元、四、三〇

浪岡村乘合馬車組合 佐藤 要作 三明治四、六、七
(幹事) 葛西万次郎 高木和次郎
鯉ヶ澤乘合馬車 櫻井專次郎 七同 三九、一〇、一五
營業 組合 昭和三、五、三〇
板柳乘合馬車營業組合 雪田千代太郎
(幹事) 北島半次郎
乘合馬車營業組合(金木)(取締人)伊藤豐吉 二明治三、五、一八
五所川原乘合馬車組合 齊藤半兵衛 三
八戸乘合馬車馬糞組合長 吉田三郎兵衛 四明治四、四、一七
大鶴乘合馬車組合 樺澤 彦六 四明治四、四、
七戸町乘合馬車營業組合 野内春松 四明治五、四、
木造町乘合馬車營業組合 宮川啓吉 四 大正五、八、九

人力車營業組合

組 合 名 組合長 副組合長 員數 創立年月
青森組人力車營業組合 山谷佐太郎 二〇明治元、
(役員) 福川徳太郎 葛西佐之助 有馬才三 佐藤寅松 工藤
彦太郎 久米田太七郎 野倉一男 館山東作 吹田亥之助
弘前人力車營業組合 大瀬辰五郎 三明治元、二〇、三
(役員) 中畑徳太郎 瓜田佐吉 工藤兼吉 鳴海三太郎 小山
内東太郎 高橋平吉 外崎正吉 東野 由松 壺明治三、六、三
八戸人力車營業組合 馬渡駿一郎 福士 熊吉 四〇明治四、七、三六
黑石人力車營業組合 工藤市太郎 二明治四、六、二四
大鰐人力車組合 藤田鐵之助 五所川原人力車組合 北谷彦四郎 四 大正九、八、二四
木造町人力車營業組合 中村彌助 三本木町人力車組合 本多 浩治 小田 兼松 七明治元、四、一七

青森縣理髮組合聯合會

六七七

人員 七百十二名 創立 昭和四年七月五日
(總裁) 足立達夫 (副總裁) 山本憲一 (名譽顧問) 芳賀
左一郎 三上憲之助 吉田榮吉
(會長) 加藤佐吉 (副會長) 大瀬末太郎 大久保幸太郎 中
村祐作 大橋定雄 岩淵周藏 (會計) 梅田千代吉
(顧問) 大瀬勝太郎 植田平助 小館吉三郎 花坂理喜也
支部名 支部長 支部員 田名部支部 種市 要助 四
青森支部 山口寅次郎 三三 三戸支部 諏訪 義勝 三六
弘前支部 宮川富士太郎 三〇 仙臺谷藏吉 六
黑石支部 村上清五郎 三三 木造支部 杉野 利正 三三
五所川原支部 田中秀三郎 三三 七戸支部 蓼内 良吉 三三

警察——縣內警察取締營業組合

警察——縣内警察取締營業組合

五戸支部 小林 與助 二 浪岡支部 佐々木勝三郎 八
小湊支部 今田收太郎 八 大間支部 田口勇次郎 二
三本木支部 黒澤權太郎 三 板柳支部 三浦久之助 六
野邊地支部 杉山由太郎 三 八戸支部 根市 茂吉 六
六鰐支部 猪股 龜吉 三

理髮業組合

青森理髮營業組合 副組合長 創立年月
(顧問) 横山繁次郎 三上保真 (部長) 成田七之助 山口寅次郎
館山大信 上野福藏 笹原重助 長沼春吉
弘前理髮組合 大瀬米太郎 宮川富士太郎 二〇 大正三、
(幹事) 齋藤久七 三上百平 藤田喜三郎 石郷喜代治 大和
勝三郎 外九名
黒石町外十六ヶ村 中村 祐作 村上清五郎
上磯理髮營業組合 野村甚之助 大正三、五、五
浪岡村外六ヶ村 佐々木勝三郎 平野 宗助 三 大正二、二、三〇
(會計) 關武四郎 (幹事) 杉本要作 今良一 平野スミ
三本木町理髮組合 馬場 福松 三浦重次郎 只 大正六、八、七
(評議員) 鈴木廣峯 高松兼吉 關川佐太郎
(評議員) 戸理髮 杉野 利正 二 大正七、
(會計) 第一部長 棟方多吉 (第二部長) 安田巳次郎
(相談役) 根深三郎 京野はる

女髮結組合

弘前女髮結組合 石井 ユキ 岩崎 ミヤ 大正三、六、七
(幹事) 村山キヌ 黒瀧キサ 棟方ミヨ 宮崎サダ
五所川原女髮結組合 森下かつ子 一 大正二、四、二
青森婦人美髮營業組合 小笠原みん 大釜 さた 三 明治三〇、二〇
(幹事) 小石ソノ 山本とめ 鳴海はつ 三浦ミエ 阿部リズ
日沼しゑ 山添たつ 村田つる 湊くに 小田あさ 安
田さだ 武田きよ (顧問) 武田吉三郎

解通船業組合

青森縣通船業組合 田村 善治 鈴木 友吉 三
(委員) 若井由五郎 遠藤幸作 三上福次郎 小島竹三 山田
由吉 (顧問) 阿部梅藏 坂垣元久

常設興行組合

青森縣常設興行組合 竹内千代吉 九 昭和四、二、六
(常務幹事) 藤田永吉 岡田易太郎 戸澤忠雄

映畫說明者

青森說明者協會 水島 天遊 (兼幹事) 一九大正五、五、
(顧問) 渡邊男二郎 芳賀左一郎 (賛助員) 坂本勇三
(相談役) 橋本美洲 染井五郎 中村映陽 (幹事) 三木嘯谷
(書記) 茂樹谷 (會計) 石田憲一

遊戯場營業組合

青森遊戯場營業組合 小野寺嘉一郎 二 大正五、五、二八
青森撞球業組合 加藤 彦三 二 昭和三、七、二六
(理事) 加藤政五郎 (會計) 田村三十郎

鐵蹄工組合

中弘鐵蹄工組合 菅野 寅三 佐藤 要吉 三 元昭和四、三、二六
警察——縣内警察取締營業組合

野邊地町理髮組合 (未定) 杉山由次郎 五 大正三、五、二五
金木町理髮組合 葛西與太郎 山田 豊三 同 六、一、
(會計) 岩田與助
三戸理髮營業組合 諏訪 義勝 工藤 軍司 三 明治三〇、八、九
(評議員) 堀内正 名久井安三 下田かよ 山口いね
(幹事) 青木ちゑ

大鰐理髮營業組合 田口勇次郎 倉谷富士太郎 三 大正三、六、三〇
小湊理髮組合 今田收太郎 佐藤 米松 八 大正三、七、二
五所川原理髮組合 田中秀三郎 三 大正三、一、三〇
八戸理髮組合 大久保幸太郎 根市 茂吉 三 大正五、
七戸理髮同業組合 蓼内 良一 三 大正七、五、二六
五戸町理髮組合 田中 與助 三 大正三、六、
木造町理髮營業組合 仙臺谷藏吉 三 明治四、七、三
下北理髮業組合 種市 要助

(會計) 福士龍之助 (幹事) 田中與五郎 大和田信 成田豊
吉 菅原篤平 相馬多治 森岡福藏
八戸踏鐵工組合 淵澤 仙松
西北聯合踏鐵工組合 松坂松四郎

鍼灸按摩マツサイジ組合

青森縣鍼灸按摩マツサイジ組合 (支部長) (副支部長)
同組合中弘支部 齊藤 隆策 高坂 又吉 元昭和二、二、四
(幹事) 鎌田竹雄 白銀孝吉 中村壽美江
(評議員) 阿部嘉七 外六名
(顧問) 芝山寅次郎 青森警署長 (幹事) 澤田金助 阿保源良
白取寛太郎 乘田永三郎 一 大正三、八、二

産婆組合

青森産婆會 戸田とく 田村なつ
(幹事) 一戸ヤエ
黒石町外一町五ヶ村 三浦 元三 二 大正二、四、七、三
産婆組合 花田 きよ 大正七、八、二
上磯産婆組合 三上 タケ 一 同 八、二、二
浪岡産婆營業組合 平川ソノ 二 五昭和三、八、二五
野邊地産婆組合 蛭名 カメ

警察—縣内警察取締營業組合

金木町産婆組合 中江 貞市 珍田 それ 一四 大正三、九、二四
五所川原産婆組合 丸山さだ子 一九 大正五、三、二五
八戸産婆組合 龜徳 しづ 昭和四、三、三
西郡産婆會 武沼清太郎 三
弘前産婆會 田澤 多吉 三
丹藤キヨ 笹森初野 明才地マツ 三

質屋營業組合

浪岡質屋營業組合 (取締人) 平野根五郎 組合 創立年月
浪岡質屋營業組合 鳴海 俊吉 三 明治三、二、二六
黒石町質屋營業組合 尾崎 有隣 三 明治三、三、二二
蟹ヶ澤質屋營業組合 或 作次郎 五 明治三、二、二六
蟹田質屋古物商組合 山田平太郎 大正一、三、二六
青森質屋營業組合 木村忠太郎 三 明治三、一、二七
八戸質屋組合 金田 重吉 八 明治三、九、一〇
弘前市質屋商組合 宮川 清七 一〇

古物商營業組合

三戸古物商營業組合 松尾 甚助 組合 創立年月
三戸古物商營業組合 松尾啓次郎 下川喜代治 三 明治三、三、二六
三戸古物商營業組合 西村西松 長谷川儀三郎 三 明治三、三、二六
野邊地古物商營業組合 角鹿 藤吉 三 明治三、三、二六
野邊地古物商營業組合 飛鳥慶太郎 一〇 大正一、三、二二
五所川原古物商組合 河野市兵衛 石岡 佐藏 三 明治三、三、二二
八戸古物商組合 青森古物商組合 八戸 大正二、二、二〇

獸肉販賣業組合

八戸牛馬宿組合 細越千太郎 八 大正七、五、三
八戸獸肉販賣業組合 松井忠太郎 太田 繁富 三
五戸町獸肉商組合 高橋徳次郎 横田 きみ 六 大正二、二、二二
(評議員) 高谷左部郎
田名部獸肉商組合 山本八三郎 六

牛乳搾取業組合

八戸牛乳搾取業組合 遠藤 正郎 組合 創立年月
八戸牛乳搾取業組合 遠藤 正郎 六 昭和四、七、三

湯屋營業組合

黒石湯屋營業組合 長谷川傳六 五 大正九、八、元
鯉ヶ澤湯屋營業組合 松野利正 五 明治四、二、二六
野邊地湯屋組合 八木橋元吉 六 昭和四、四、三
五所川原湯屋組合 山崎 勇助 六 明治三、二、二二
八戸湯屋組合 金田鐵二郎 中道 健治 三 大正五、一〇、二七
木造町湯屋營業組合 雨ノ森覺之進 三 大正八、二、三

温泉客舎組合

警察—縣内警察取締營業組合

六八〇

(取締人) 小川儀太郎 (副取締人) 廣田春吉 山内晋次郎
(評議員) 佐藤親業 稻田源七 木村長吉
七戸町古物商營業組合 橋本專太郎 一四 大正七、五、二六
五戸町古物商組合 村越竹次郎 (理事) 三六 大正九、
(評議員) 守田石松 三浦宮松 岡村清助
木造古物商營業組合 葛西孝五郎 三 大正元、二、二八

牛馬商營業組合

東青牛馬商組合 原子 光英 工藤 東助 二七 大正八、八、七
浪岡牛馬商組合 種市 萬吉 神 惣作 二七 大正八、八、七
(會計) 高橋勝五郎 小笠原幸吉 二〇 大正二、二、二二
田名部牛馬商組合 福田朝次郎 明治三、四、二五
三戸牛馬商營業組合 山口 偵造 六 大正七、一、二六
(副組合長) 中村勇次郎 大澤三六 (幹事) 中村省一郎 堰
向辰藏 館金之丞
八戸牛馬商組合 馬渡又兵衛 一七 大正六、三、七
七戸牛馬商營業組合 中原秀太郎 六 大正二、
五戸町牛馬商組合 大西五之助 霞 金吉 三 大正二、
(會計) 尾形幸之助 (評議員) 三浦善太郎 外九名
西郡牛馬商組合 山形嘉兵衛 三 明治三、五、二
北郡牛馬商組合 盛 岩五郎 三 明治三、五、二

牛馬宿營業組合

青森牛馬宿組合 成田八三郎 寺山鐵太郎 六 明治三、
寺山鐵太郎 六 明治三、

組 名 組合長 副組合長 組合 創立年月
淺虫温泉客舎組合 木村莊左衛門 員數 三
大鰐温泉客舎組合 長利 良造 五

組 名 組合長 副組合長 組合 創立年月
鑛泉營業組合 菊地友三郎 後藤善四郎 員數 四
(會計) 野尻直太郎
大鰐鑛泉營業組合 菊地權三郎 六

清涼飲料水製造販賣業組合

東青清涼飲料水製造 佐藤鐵之助 細井 儀助 七 大正二、
販賣業組合 橋本八右衛門 三 昭和二、三、
八戸清涼飲料水製造 西北清涼飲料水製造同業組合 押澤與茂一

アイスクリーム組合

青森アイスクリーム組合 今村丹藏 江莉内元吉 五 大正二、五、八、三
(評議員) 淺利茂助 佐々木勇太郎 藤田國太郎
(會計) 若松榮八
弘前市アイスクリー 前山熊三郎 三 大正二、五、九、二
行 高松健次郎 (評議員) 石山豊太郎 中野榮太郎 成
(幹事) 田熊太郎 寺島榮七
八戸アイスクリーム營業組合 長瀬喜藏 三 昭和五、三、元

警察—縣內警察取締營業組合

旅人宿營業組合

Table listing various business groups under '旅人宿營業組合' with columns for group name, members, and establishment year.

料理店組合

Table listing various business groups under '料理店組合' with columns for group name, members, and establishment year.

三業組合

Table listing various business groups under '三業組合' with columns for group name, members, and establishment year.

貸座敷營業組合

Table listing various business groups under '貸座敷營業組合' with columns for group name, members, and establishment year.

西洋料理店組合

Table listing various business groups under '西洋料理店組合' with columns for group name, members, and establishment year.

警察—縣內警察取締營業組合

警察—縣内警察取締營業組合

三本木町貸座敷組合 大坂重之助 二明治三、五、二
(評議員) 昆留太郎 近谷善次郎
野邊地貸座敷營業組合 中村喜左衛門 五明治三、一、七
八不明
三戸貸座敷營業組合 石塚忠作 小野寺福次郎 九明治三、七、三
田名部貸座敷營業組合 履地鐵太郎 同 三、九、三
大湊貸座敷營業組合 佐藤 七藏 同 三、一〇、五
小中野貸座敷營業組合 (取締) 宇佐見重作 同 三、三、五
七戸町貸座敷營業組合 高田重三 九同 三、三、五
木造町貸座敷營業組合 三浦良助 二同 四、九、二

料理店營業保健組合

青森規貝町料理店 永浦傳左衛門 相川明美 元大正元、九、一
營業保健組合 藤田永吉 黒田宇市 平田末吉 三上善太郎 佐藤
(評議員) 赤坂定吉
春次郎 三浦仙三郎 澤田 正國 一九同 五、二、五
青森長古川料理店 三浦仙三郎 澤田 正國 一九同 五、二、五
保健組合 外崎喜代太郎 山田長太郎 鹿内卯三郎
(幹事) 土岐丑五郎
弘前保健料理店組合 記本喜一郎 大湯 兼吉 二昭和四、二、二五
(役員) 佐藤福次郎 藤木作藏 工藤慶吉 志井吉彌 大橋一造
(書記) 村谷良吉
(會計、書記) 三昭和四、四、
金木町料理店保健組合 福田義一 三昭和四、三、二
店保健組合 外崎 イヨ 前田宇太郎

飲食店組合

三本木町飲食店組合 菅原福次郎 中野渡信衛 九明治九、五、一九
板柳飲食店組合 吹田 ちる 工藤與惣吉 大正二五、五、三
野邊地飲食店組合 大橋定五郎 川守田兼吉 四同 八、三、一九
三戸飲食店營業組合 北村淺次郎 山内繁太郎 (委員) 赤塚定吉
(會計) 松原初太郎 (書記) 山内繁太郎 佐藤長太 極權
一戸禮造 森本福太郎 馬場寅吉 田島岩松
忠次郎
田子飲食店營業組合 久慈 房治 泉山 覺藏 三 大正九、一、二〇
大湊飲食店營業組合 大久忠太郎 新谷千代吉 同 一、四、
田名部飲食店組合 村上 雄三 須藤 丑藏 七 大正三、一、二〇
小湊飲食店組合 伊藤勝三郎 同 八、二、二〇
五所川原飲食店組合 川村嘉太郎 同 二、一、一五
小中野飲食店組合 前森千之助 田名部彦四郎 同 二、一、一五
八戸飲食店組合 村上 重吉 堀合 芳藏 三 大正五、三、二四
青森飲食店營業組合 館田佐太郎 同 四、六、
七戸町飲食店營業組合 宮澤善太郎 同 七、五、七
五戸町飲食店組合 種米佐太郎 同 一、一、
木造町飲食店營業組合 柳原久三郎 三同 元、一〇、一七

弘前飲食店組合 石川三次郎 二〇

酌婦置屋組合

組 合 名 組合長 副組合長 組合員數 創立年月
淺虫酌婦置屋組合 澤谷 光一 一五大正一四、三、二六

藝妓見番組合

組 合 名 組合長 副組合長 組合員數 創立年月
青森藝妓見番組合 棟方英一郎 坂井源一 一九
(會計) 儀賀七三郎 (理事) 佐々木友義 烏谷子之吉 神崎
豐次 (藝妓總取締) 阿部チセ (副) 中村ムラ
弘前藝妓見番組合 中村 元吉 五昭和二、一、三
(役員) 兼平イヨ 佐藤コマ 二葉タカ 鼻和ナリ 蒔苗ヒサ
坂本カセ 鹽谷たま
五所川原藝妓組合 櫻井 ツル 二大正二、一、三
小中野藝妓組合 (取締) 夏田アン 河村むつ 同 三、五、一四
大鰐見番組合 成田 たけ 二同 一〇、一、一
(評議員) 奈良万吉 佐藤勝永 池田はる 杉原きく
(會計) 島田駒次郎
七戸町藝妓營業組合 中村 誠一 五昭和二、九、八

藝娼妓酌婦紹介業組合

組 合 名 組合長 副組合長 組合員數 創立年月
弘前藝娼妓酌婦 岡田 失平 小笠原藤吉 二大正六、六、一〇
(役員) 高橋千代吉 羽賀喜代太郎 木村由吉 中村甚八郎
前田徳太郎
警察—縣内警察取締營業組合

小中野藝妓酌婦 松橋金太郎 大木 彌右衛門 二昭和三、七、一

妓酌婦保健組合

組 合 名 組合長 副組合長 組合員數 創立年月
三本木町藝妓 奥寺 敬助 高木 定吉 三昭和三、六、三
(會計) 三輪兵太郎 (評議員) 竹内利吉
百古瀬藝妓酌婦保健組合 田中五三郎 三
(評議員) 長谷末吉 高橋專吉 三浦喜四郎 坂本丑藏
黒石町外二ヶ村藝妓 長内 タミ 中村 ツマ 三同 三、八、二六
酌婦雇人保健組合 杉本 左内 (會計) 米田 敬吉 三同 二、四、三〇
大鰐藝妓酌婦 杉本 左内 (會計) 米田 敬吉 三同 二、四、三〇

紹介業組合

組 合 名 組合長 副組合長 組合員數 創立年月
青森營業利職業 盛 八十吉 倉光重次郎 二昭和二、六、八
紹介業組合 櫻田 平八 三 大正二五、七、元
青森周旋業者組合 櫻田 平八 三 大正二五、七、元

青森縣下質屋營業店數及昭和四年度貸出流質高調

Table with columns for 郡市別 (Municipality), 店數 (Number of shops), 入質高 (Entrusted amount), and 流質高 (Released amount). Data is provided for 弘前市, 青森市, and 八戸市.

警察—拾得金品調—警部補巡查配置定員表

東津輕郡	二	四、四〇三	二八〇	六〇〇	一〇三	上北郡	九	五、一〇七	六八六
西津輕郡	八	二〇、〇八四	二、五八	五七五	三三	下北郡	七	一〇、五〇一	三二
中津輕郡	一四	三三、二八四	一七、七三三	一八、四四四	合	計	六	一七、三三三	五、六〇四
南津輕郡	一四	二二、六三三	二、六四六	一八、四四四	計	郡	五	一、三九八	二、三、八七五
北津輕郡	四	二、六三三	二、六四六	四、四五	計	郡	五	一、三九八	二、三、八七五

拾得金品調 (昭和三年)

署別	穀類		衣類		畜數		雜品		現金	
	拾得件數	同量	拾得件數	同量	拾得件數	同量	拾得件數	同量	拾得件數	同量
青森署	二	二	一	一	九	九	二	二	五	五
小湊署	一	一	一	一	九	九	二	二	五	五
弘前署	三〇	三〇	一	一	九	九	二	二	五	五
八戸署	二〇	二〇	一	一	九	九	二	二	五	五
三戸署	一〇	一〇	一	一	九	九	二	二	五	五
五戸署	一〇	一〇	一	一	九	九	二	二	五	五
黒石署	一〇	一〇	一	一	九	九	二	二	五	五
浪岡署	一〇	一〇	一	一	九	九	二	二	五	五
大湊署	一〇	一〇	一	一	九	九	二	二	五	五
鯉ヶ澤署	一〇	一〇	一	一	九	九	二	二	五	五
木造署	一〇	一〇	一	一	九	九	二	二	五	五
五所川原署	一〇	一〇	一	一	九	九	二	二	五	五
金木署	一〇	一〇	一	一	九	九	二	二	五	五
板柳署	一〇	一〇	一	一	九	九	二	二	五	五
七戸署	一〇	一〇	一	一	九	九	二	二	五	五
野邊地署	一〇	一〇	一	一	九	九	二	二	五	五
三本木署	一〇	一〇	一	一	九	九	二	二	五	五
田名部署	一〇	一〇	一	一	九	九	二	二	五	五
野邊地署	一〇	一〇	一	一	九	九	二	二	五	五

警部補巡查配置定員表 (昭和四年六月二十日改正)

署別	警部補	巡查	配置員
青森	一	一	二
小湊	一	一	二
弘前	一	一	二
八戸	一	一	二
三戸	一	一	二
五戸	一	一	二
黒石	一	一	二
浪岡	一	一	二
大湊	一	一	二
鯉ヶ澤	一	一	二
木造	一	一	二
五所川原	一	一	二
金木	一	一	二
板柳	一	一	二
七戸	一	一	二
野邊地	一	一	二
三本木	一	一	二
田名部	一	一	二
野邊地	一	一	二

遺失物及遺失金調 (昭和三年)

署別	穀類		衣類		畜數		雜品	
	遺失件數	同量	遺失件數	同量	遺失件數	同量	遺失件數	同量
青森署	一	一	一	一	九	九	二	二
小湊署	一	一	一	一	九	九	二	二
弘前署	一	一	一	一	九	九	二	二
八戸署	一	一	一	一	九	九	二	二
三戸署	一	一	一	一	九	九	二	二
五戸署	一	一	一	一	九	九	二	二
黒石署	一	一	一	一	九	九	二	二
浪岡署	一	一	一	一	九	九	二	二
大湊署	一	一	一	一	九	九	二	二
鯉ヶ澤署	一	一	一	一	九	九	二	二
木造署	一	一	一	一	九	九	二	二
五所川原署	一	一	一	一	九	九	二	二
金木署	一	一	一	一	九	九	二	二
板柳署	一	一	一	一	九	九	二	二
七戸署	一	一	一	一	九	九	二	二
野邊地署	一	一	一	一	九	九	二	二
三本木署	一	一	一	一	九	九	二	二
田名部署	一	一	一	一	九	九	二	二
野邊地署	一	一	一	一	九	九	二	二

警察官吏帶勳者

(昭和五年四月現在)

官職名	勳位	氏名
警察部長	從五位	足立 達夫
地方警視	從七位	荒川 又市

藝娼妓其の他の調

(昭和四年十二月末日調)

Table with columns for '種別' (Category), '署別' (Office), and '遊藝人' (Amusement person). Rows include '全管' (Total), '青森' (Aomori), '小湊' (Komatsu), '弘前' (Hiogo), etc.

藝妓年齢

(昭和四年末現在)

Table showing age distribution of geishas. Columns represent age groups: '十四歳未満', '十四歳以上十七歳未満', etc.

衛生

本縣醫師分布一覽表

Table of doctor distribution in the prefecture. Columns: '郡市別' (Municipality), '醫師數' (Number of doctors), '人口' (Population), '醫師一人當り人口' (Population per doctor).

青森縣醫師名簿

List of doctors in Aomori Prefecture, including names and locations such as '大光寺、碓ヶ關、富木館、大杉' and '青森市醫師會'.

醫師なき町村

List of municipalities without doctors, including '昭和三十四年十一月廿五日現在' and '水元、川除、出精、館岡、十三'.

衛生—本縣醫師分布一覽表—醫師なき町村—青森縣醫師名簿

衛生—青森縣醫師名簿

町) 博、齋藤周藏(元長町) 引 長室岡榮三(小中野町)
田雄輔(親方町) 博、天木順吉
(弘前市立病院)
△會員 石郷岡正男(本町) 石
原弘(山道町) 石原君代(同)
洞口清(植田町) 金上新(土手
町) 吉安駿策(元寺町) 吉田秀
雄(茂森町) 田澤多七(東長町)
竹内軌榮(相良町) 鳴海定五郎
(品川町) 鳴海康伸(同) 蓮沼
賢哉(同) 永野幸平(下白銀町)
長澤剛(品川町) 小野芳甫(住吉
町) 松井東洋(上瓦ヶ町) 福島
龍男(百石町) 藤盛律(品川町)
博、兒島武夫(北川端町) 秋本
文太郎(品川町) 博、齋藤靜(同)
齋藤民次郎(駒越町) 木村實明
(品川町) 進藤武英(紺屋町)
廣田守(土手町) 森五郎(代官
町) 博、菊池精三(市立病院)
石川英一(同) 松田武千代(同)
出口恒三郎(同) 野村一(同)
榎木定一(同) 木村亮太郎(同)
千葉昇(桶屋町) 福士文敏(中
郡豐田村) 須藤繁文(同高杉村)
奈良靜吾(同上) 鳴海泰太郎(同)
大浦村 福島守男(同西目屋村)
山田玄策(同駒越村) 芳賀德藏
(同堀越村) 以上五十一名
△八戶市醫師會
會長 種市良一(朔日町) 副會
長 清原省吾(三瓶村) 中道慶吉(今
別村) 三橋隆伯(蟹田村) 伊藤
聰(後湯村) 館田金鐵(油川町)
林義輔(同) 博、中條資俊(新
城村) 佐藤良春(同) 高橋直彌
(同) 山内文祥(野内村) 益田
甚吾(同) 吉田寛作(同) 宮田
久吉(小湊町) 萩原孫太郎(蟹
田村) 以上二十二名
△西津輕郡醫師會
會長 大高桂州(深浦町) 副
會長 島田玄隆(木造町)
△理事 武沼清太郎(饒ヶ澤町)
笹森勝衛(木造町)
△評議員 番場建造(舞戶村)
白取龜吉(饒ヶ澤町) 一戶俊秀
(森田村) 野崎勉(木造町)
△會員 種村基也(同) 奥村義
孝(岩崎村) 大屋雅(深浦町)
奥口衛(赤石村) 櫻庭良逸(同)
川村清之進(木造町) 樋口信之
助(稻垣村) 葛城晃彦(車力村)
以上十七名
△南津輕郡醫師會
會長 跡地靜夫(黒石町) 三
浦久和雄(尾上村)
△理事 缺
△評議員 三浦元三(黒石町) 富
田澤榮(同) 小坂清吉(同) 富
澤祐三(同)
△會員 唐牛皓(黒石町) 岡崎
行雄(同) 工藤龍彦(同) 川口
清俊(同) 跡地實成(同) 小枝
貞男(同) 唐牛義孝(同) 山本
耕平(尾上村) 三浦義廣(同)
常田健太郎(浪岡村) 高屋良治
(同) 菊池義行(十二里村) 三
浦祐一(石川町) 今井七兵衛(常
盤村) 伊藤覺太郎(柏木町) 福
井要三(藤崎町) 福井辰藏(同)
幸田正實(同) 佐々木榮作(大
鰐町) 安東文二郎(同) 福井末
吉(藤崎町) 今祐造(猿賀村)
成田求芽(女鹿澤村) 相澤武良
(野澤村) 小山長作(同) 橫準
三郎(藏館村) 阿保龜之助(田
舍館村) 芳賀德藏(大光寺村)
以上三十五名
△北津輕郡醫師會
會長 小笠原源八郎(五所川
原町) 副會長 坂本元太郎(板柳
町)
△理事 丸山元三郎(五所川原
町) 澤田榮三郎(同)
△評議員 増田貢(五所川原町)
唐牛義孝(同) 大高金助(板柳
町) 相馬爲男(鶴田村) 須藤仁
郎(長橋村)
△會員 三上克比(五所川原町)
丸山定子(同) 三上金三郎(同)
藤森寛美(同) 鳴海祐清(金木
町) 三上正道(同) 竹浪熊太郎

(板柳町) 今岡健太郎(同) 北
島德本(沿川村) 神健一(鶴田
村) 阿部保孝(七和村) 山岡敏
一(板柳町) 今岡健三(鶴田村)
丸山經太郎(七和村) 相澤武良
(沿川村) 中江貞市(武田村)
井沼光男(中里村) 石郷岡條助
(脇元村) 大西惠隣(相内村)
博、原田篤行(五所川原町)
以上廿九名
△上北郡醫師會
會長 駒ヶ嶺虎太(七戸町) 副
會長 高橋吉三郎(三本木町)
△理事 奥秋盛次(七戸町) 駒
ヶ嶺昇(六ヶ所村)
△評議員 工藤岩次郎(浦野館
村) 篠田翠(三本木町) 甲田榮
吾(下田村) 伊藤祐紀(三澤村)
△會員 寺島鶴翼(横濱村) 一
野邊省三(野邊地町) 鈴木逸太
(同) 近藤富三(同) 山田茂(百
石町) 石田平一郎(七戸町)
石田正三(同) 淺葉知義(甲地)
村) 北村功(天間林村) 久保田
留吉(浦野館村) 石川清(三本
木町) 篠田壽(同) 井田秀逸(法
奥澤村) 大越平治郎(同) 内藤
偏義(藤坂村) 田村化三郎(下
田村) 伊藤可以(三澤村) 赤澤
茂(同) 木村寅之丞(六ヶ所村)
大内小六(同) 以上二十八名
△下北郡醫師會
會長 丸山鐵三郎(田名部町)
副會長 須藤松雄(大奥村)
△理事 武山秀雄(田名部町)
川岸泰藏(同)
△評議員 菊池勤(大湊町) 稻
原廣(大畑村) 岡野人壽郎(東
通村)
△會員 阿部興(大湊町) 北村
一郎(川内町) 千枝三郎(同)
菊池亮(同) 桑原如則(同) 中
村勝(脇野澤村) 三上剛太郎(佐
井村) 萩原福壽(大奥村) 茅根
道輝(風間浦村) 千原右膳(同)
細越英之進(東通村) 島田昇(同)
佐藤義美(田名部町) 以上二十名
△三戸郡醫師會
會長 松尾由郎(五戸町) 副
會長 田島治(三戸町)
△理事 八幡信吉(三戸町) 松
尾由雄(五戸町)
△評議員 八幡信吉 山田誠助
(留崎村) 松尾由雄 一ノ渡深
太郎(田子町) 尖倉宣孝(同)
大久保正次郎(市川村) 出町惠
男(北川村)
△會員 前田貞彦(三戸町) 松
尾敏雄(五戸町) 立花惣助(同)
伊藤宗吉(上郷村) 金田肇(田
子町) 根橋傳太郎(同) 宮本三
雄(向村) 古谷寅五郎(名久井
村) 古谷乾(同) 白井喜太郎(野
澤村) 中村辻(豐崎村) 柿沼卓
郎(階上村) 佐藤銀珀(地引村)
金澤元祐(倉石村) 上伊南健興
(島守村) 中村文彌(田部村)
赤沼三郎(戸來村) 以上二十六名
再掲
日本醫師會役員
△評議員 神竹之助 田澤多吉
跡地靜夫

青森縣醫師會役員

會長 神竹之助
副會長 種市良一
△理事 村上不二 長尾健字
鈴木三伯 成田榮
△評議員 伊藤宗三郎 松原正
治 村上不二 長尾健字 鈴木
三伯 石郷岡正男 石原弘 田
澤多吉 成田榮 鳴海泰太郎
奥秋盛 藤田愛次郎 星三藏
館田金鐵 中條資俊 笹森勝衛
鈴木寅太郎 跡地靜夫 田澤榮
富澤祐三 三浦久和雄 三上克
比 小笠原源八郎 鳴海祐清
一野邊省三 駒ヶ嶺虎太 伊藤
可以 須藤松雄 丸山鐵三郎
田島治 山田誠助 松尾由郎

昭和三年度死亡者病症月別表

Table with columns for month (月), sex (性別), and disease categories (傳染病, 皮膚骨及關節病, 血行及神經病, etc.). Rows show monthly data for males and females.

衛生—青森縣醫師會役員—日本醫師會役員—昭和三年度死亡者病症月別表

Table listing various medical treatments and their prices. Columns include treatment names (e.g., 橋本, 三上壽録), quantities (e.g., 一日分), and prices in Yen and Sen (e.g., 拾五錢, 拾八錢).

藥價表

一、水劑、散劑 一日分 拾貳錢
二、浸劑、煎劑 同 拾八錢

Table listing names of midwives (産婆) in Aomori Prefecture, organized by municipality (郡市別). Includes names like 橋本, 阿部, 河谷, etc.

青森縣下産婆名簿

(昭和五年四月末現在)

Table listing names of midwives (産婆) in Aomori Prefecture, organized by municipality (郡市別). Includes names like 岡みさを, 佐藤盛枝, 高松ミエ, etc.

館)手倉森ニヲ(倉石) 志賀ク 大津米藏
(留崎) 古里キク(大館) 中 阿部長一郎 石橋兼次郎 戸來
赤澤ツル(留崎) 川村ミヲ(平 葛助 立花圓野 川端藏之
良崎) 中里トキハ(川内) 三浦 助
たき(豊崎) 大野ユキ子(川内) 助
林崎チエ(是川) 富山ヨネ(五 藤盛久 高橋原治
戸) 安藤やす(向) 戸川てつ(五 △北郡 石澤紋人
戸) 工藤そめ(名久井) 類家ふ △北郡 澤口三之助 渡部貢
さ(五戸) 村下みき(戸來) 工 鳥山道之助 川島勝千代 板橋
藤キヨノ(平良崎) 三田たか(上 新藏 蛭名宮次郎 大野正吉
郷) 石井ゆわ(上郷) 夏堀さと △三戸郡 林葛治 上野井田専
(地引) 福田とし(猿邊) 中川 太郎 中屋敷芳松 中野久太郎
原とし(豊崎) 木村いと(平良 齋藤正夫 菊池みや
崎) 時村つね(三戸) 沼瀧みゑ △鍼灸術
(平良崎) 西塚イシ(劍吉) 宮 堀川剛男 平山省齋 平山九藏
永ひさ(三戸) 志賀クニ(階上) 藏

鍼灸按摩名簿

(昭和五年四月現在)

見ヤエ 最上健吉 大場正七
小笠原良運 川崎晴之 矢田は
る 小杉才太郎
△弘前市 木村由吉 木村セツ
千葉巳之助 宮崎タマ 今文貞
山田金三郎 葛西ナホ
△八戸市 仲澤六彌 里見仁三
△東郡 喜久川ナリ 今田孫吉
今田由吉 齋藤岩吉 館田市太
郎 奥谷又次郎 緒股甚之助
八戸倉之助 豊川卯之吉
△西郡 小山内玄祐 川崎粕太
郎 小笠原卯之助 梶浦ハル
田村萬助 工藤三益 山谷道俊
山田徳松 笹木玄龍 秋元隆泰
櫻庭兼次郎 佐藤寅吉 菊池金
次郎
△中郡 三浦庸庵 三上長作
齋藤春藏 齋藤勇吉 齋藤良一
野呂カヨ 川村元太郎
△南郡 石澤彌左衛門 大館仁
三郎 山内仲宅 福井廣策 藤
本玄琢 田村甚松 秋元ツク
須藤佐一
△北郡 福田定一 澁谷三郎
今フミ 山口秀太郎 成田玄仲
奈良熊吉 片岡熊吉 吉岡アサ
西谷幸市 岩田定左衛門 大山
△上北郡 沖澤フサ 米内山長吉
通明 安井長助
奥山源治 衛生—鍼灸按摩名簿

澤田重造 三浦權太郎 菅原三太郎

尿道整腹術業者氏名

(昭和五年四月現在)

青森市 金澤時司 綠壯司
八戸市 石田慶助 大野經幸 奈良源一
東部 唐牛金藏(筒井) 貝堀義憲(深浦)
西部 横山秀峯(沿川) 舞石辰男(五所川原)
北郡 鈴木稔(野邊地)
上北郡 鈴木稔(野邊地)

青森縣醫師會

(昭和五年四月現在)

青森縣醫師會は昭和三年三月の改良發達を圖るを目的とし、創立され青森縣を區域とし事務所は青森縣廳農務課に置く。役員 會員左の如し。
會長 岩朝庄作(農務課) 副會長 齋藤要次郎(青森市古川町) 阿部清彦(農務課)
理事 木村勇藏(東郡筒井村) 支部及會員

東青支部

青森市古川町字美法齋藤要次郎
支部長 齋藤要次郎(評議員)
幹事 木村勇藏(東郡筒井)
小形傳吉(同小湊町)
代議員 田村敏治(縣衛生課)
原子光英(青森浦町橋本)
支部會員 東郡佐々木嘉七郎(西平内) 長尾金藏(小町湊)
佐藤竹松(原別) 白戸久三郎(油川町) 丸尾晋太郎(蟹田) 赤平邦雄(後湯) 工藤與太郎(同)
青森市佐藤雄藏(大野片岡) 原子量橋(長島) 村上清之助(沖館) 中村儀之丞(縣病) 阿部清彦(縣農務課) 川田宗夫(衛生營通り) 松尾健治(農務課)
西北支部
北郡中里村三上茂吉
支部長 三上茂吉(評議員)
幹事 中村漸(北郡飯詰村)
工藤太五郎(西郡赤石村)
代議員 神定助(北郡鶴田)
小島子之助(西郡大戸健一)
支部會員 西郡新岡健一(館岡) 鳴海茂作(森田) 木村洋一(柏村) 中村清八(車力村) 秋元勝三郎(稻垣村) 長澤才吉(川除村) 佐藤多助(木造町) 藤田一三(水元村) 小友正右衛門(鯉ヶ澤) 大澤半藏(深浦町) 北郡伊藤重輔(七和村) 永田義雄(小阿彌村) 安田武雄(同) 山口甚三郎(金木町) 高杉喬(松島村) 小笠原植一(七和村) 福土正雄(沿川村) 佐藤親英(板柳町)

中北支部

弘前市新鍛冶町安西信重
支部長 安西信重(評議員)
幹事 福田忠二(弘前新鍛冶町) 櫻庭良策(中郡和徳村)
代議員 前田宗忠(中郡船澤村)
支部會員 弘前花岡文藏(和徳町) 中郡 對馬儀一郎(新和村) 藤田徹衛(大浦村) 蒔苗義男(高杉村) 三上行雄(岩木村) 三上哲次郎(東目屋村) 松野敏夫(同) 板垣金雄(和徳村) 佐藤珪治(堀越村) 中田得一(和徳村)

南部支部

南郡中郷村株梗木石澤勇太郎
支部長 石澤勇太郎(評議員)
幹事 成田良吉(黒石町) 齋藤祐一(黒石町)
代議員 成田良吉(黒石町)
支部會員 鎌田武利(五郷村) 鎌田一(同) 竹村文明(町居村) 安田仁八郎(常盤村) 佐藤平内(尾上村) 葛西石五郎(浪岡村)

安田長五郎(十二里村) 阿部四五兵衛(藤崎町) 阿部圓藏(同) 須藤茂一郎(富木館村)
上北支部
七戸町大字七戸西野慶治
支部長 西野慶治(評議員)
幹事 小原甚兵衛(七戸町)
吉田圓之助(三本木町)
代議員 林静(三澤村) 新谷敷利三郎(法奥澤) 蝦名一郎(浦野館)
支部會員 袴田良見(下田村) 三島友司(法奥澤村) 奥山吉三郎(同) 小笠原司隆(同) 北向

清藏(六戸村) 昆余太郎(百石村) 渡邊熊夫(三澤村) 小野寺正次郎(同) 中村榮作(三本木農學校) 永井隆(同) 高橋秀雄(同) 皆川清(廣澤牧場) 太田忠和(四和村) 柳澤信一(同) 布施千代吉(同) 飯田哲二(野邊地町) 盛田仙(沼崎村) 原田正雄(甲地村) 南義一(同) 杉村吉雄(大深内村) 氣田親信(六ヶ所村) 南義郎(七戸町) 花松健之助(同) 久保田正志(三本木町) 小笠原圭三郎(同)
下北支部

田名部町中野渡晋
支部長 中野渡晋(評議員)
幹事 佐々木吉三郎(田名部町) 佐々木磐夫(同)
代議員 潮川總兵太(大湊町)
支部會員 中島清造(田名部町) 上遠野秀造(川内町) 高田榮清(同) 高橋四郎(田名部町)
中野渡陽(同)
三戸支部
倉石村大字石澤小村只之助
支部長 小村只之助(評議員)
幹事 小村只之助 古館清次(八日町)

古館清次 柴田興七
支部會員 八戸市 中野重太郎(稻荷町) 阿部健三郎(類家) 鈴木善美(鮫) 上野静夫(長者山下) 三戸郡 大西五三郎(五戸村) 橋賀助(川内村) 東三郎(倉石村) 江波成吉(戸來村) 小坂市男(同) 山内勘藏(平良崎村) 澤田操(斗川村) 市川勝(大館村) 村上藤藏(島守) 宇藤政司(田子村) 松坂專太郎(川内村) 工藤清助(名久井村) 藤村專太郎(三戸町) 玉上良藏(中馬渡) 馬渡又一郎(上長苗代)

派出看護婦會

會 名 場所
青森看護婦會 青森寺町
會長 對馬 たい

愛生看護婦會 青森市
協同看護婦會 同安方町
東奥看護婦會支部 八戸市
丹藤看護婦會 八戸市

太田 たま 八戸看護婦會
久我 ちや 慈惠看護婦會
嵯峨 ちさ 東奥看護婦會
弘前新品川町丹藤 キヨ

八戸長横町 戸部 サキ
八戸八幡町 上口 きめ
五所川原町 本庄 なほ

縣下看護婦數調

(昭和五年三月末現在)

Table with columns for region (郡市別), number of nurses (免許), and total count (計). Rows include 青森市, 弘前市, 八戸市, 東郡, 西郡, 南郡, 北郡.

昭和四年傳染病患者情况

昭和四年中に於ける縣下傳染病發生の状況を左記表により、

前年度と比較すれば腸チブス患者は百九十五人の増加、死者は同一、是を患者百人に付死亡比例を見るに總數に於て一七、五五にして、前年に比し三、五四減となつてゐる。
バラチブスは患者三十三人死者一人の増加となり、死亡比例は三、八四にして、前年に比し五、〇五の減となつてゐる。

赤痢患者は前年より患者十七人死者一人の減、死亡比例は一八、五一にして前年に比し三、〇二増してゐる。
次に、チフテリアは前年に比し患者七十六人死者十二人増して居り、猩紅熱は患者七人増して死者なし。流行性腦脊髄膜炎は前年に比し同一である。
是等昭和四年中に發した總傳

衛生——傳染病發生死亡者表——トラホーム檢診成績

染病患者は一千二百八十八人死者二百二十四人、死者九人増しを見るに、一六、六一にして前六五減じてゐる。

者二百十四人で、前年に比し思てゐる。是を百人に付死亡比例年の一九、二六に比較して二、

昭和四年傳染病發生及死亡者表

郡市別	赤痢		腸チブス		バラチブス		猩紅熱		チフテリア		流腦炎		計
	患者	死者	患者	死者	患者	死者	患者	死者	患者	死者	患者	死者	
市別	前市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
市別	青森市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
市別	弘前市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
市別	八戸市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
市別	青森市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
市別	東郡	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
市別	西郡	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
市別	中郡	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
市別	南郡	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
市別	北郡	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
市別	上北郡	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
市別	下北郡	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
市別	三戸郡	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
市別	合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

縣下トラホーム檢診成績

トラホーム治療所調

昭和四年三月末現在

△治療所數 市立 三、町村立 六三、合計六六

△治療所費用豫算

町村支出 一九、九四七
縣費支出 六、六四五
市町村へ補助一四、三〇〇
計四〇、八九二圓

△昭和三年中の治療患者數 實數 三八、七七五
延數 一六、三〇〇

△從事醫院數 四五

△昭和四年トラホーム治療經費

郡市別表

青森市	五六三四圓
弘前市	六一七圓
東郡	九〇五圓
西郡	一七三三圓
中郡	一九七六圓
南郡	五四二圓
北郡	七〇〇圓
上北郡	六七二圓

下北郡

三戸郡	五四〇圓
計	一七七八圓
合計	一九九四七圓

一般住民トラホーム檢診成績 (昭和四年)

郡市別	檢診人員		患者		計	患者百分比
	計	女	計	女		
青森市	一、〇八一	一、〇八一	一、〇八一	一、〇八一	一、〇八一	一〇〇
弘前市	一、〇八一	一、〇八一	一、〇八一	一、〇八一	一、〇八一	一〇〇
東郡	一、〇八一	一、〇八一	一、〇八一	一、〇八一	一、〇八一	一〇〇
西郡	一、〇八一	一、〇八一	一、〇八一	一、〇八一	一、〇八一	一〇〇
中郡	一、〇八一	一、〇八一	一、〇八一	一、〇八一	一、〇八一	一〇〇
南郡	一、〇八一	一、〇八一	一、〇八一	一、〇八一	一、〇八一	一〇〇
北郡	一、〇八一	一、〇八一	一、〇八一	一、〇八一	一、〇八一	一〇〇
下北郡	一、〇八一	一、〇八一	一、〇八一	一、〇八一	一、〇八一	一〇〇
計	一、〇八一	一、〇八一	一、〇八一	一、〇八一	一、〇八一	一〇〇

警察取締營業者トラホーム檢診成績

署別	檢診人員		患者		計	患者百分比
	計	女	計	女		
青森	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	一〇〇
弘前	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一〇〇
八戸	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一〇〇
浪岡	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一〇〇
大鰐	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一〇〇
金木	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一〇〇
田名部	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一〇〇
計	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一〇〇

衛生——トラホーム檢診成績

七〇五

七〇四

衛生—トラホーム検診成績
各小學校トラホーム検診成績
(昭和四年十一月)

郡市別	検診人員	患者	計	患者百分比
青森市	六、三三四	重 三、五三四 輕 七、四四〇	一一、〇七四	一〇、五二
弘前市	三、四九三	重 一、三九八 輕 二、二二五	三、六二三	一〇、五二
東 郡	七、〇九六	重 一、六二一 輕 四、四一四	六、〇三五	八、五二
西 郡	三、八八六	重 一、〇九〇 輕 二、七九三	三、八八三	九、七二
中 郡	七、〇七七	重 一、九三〇 輕 五、一四三	七、〇七三	九、九二
南 郡	六、六五九	重 一、七二七 輕 四、九三二	六、六五九	一〇、〇〇
北 郡	一、七四七	重 一、〇七三 輕 六、六八六	七、四一九	二、三三
上北郡	七、七三三	重 一、四四〇 輕 六、二九三	七、七三三	一八、五二
下北郡	六、三三四	重 一、五三四 輕 四、八〇〇	六、三三四	二四、〇〇
計	六、三三四	重 一、五三四 輕 四、八〇〇	六、三三四	二四、〇〇

三戸郡 七〇六

縣下中等學校トラホーム検診成績

校名	検診人員	患者	計	患者百分比
青森市	四、九四〇	重 一、〇〇〇 輕 三、九四〇	四、九四〇	二二、〇八
弘前市	九、九八〇	重 一、〇〇〇 輕 八、九八〇	九、九八〇	一〇、〇〇
東 郡	七、〇九六	重 一、〇〇〇 輕 六、〇九六	七、〇九六	一四、〇八
西 郡	三、八八六	重 一、〇〇〇 輕 二、八八六	三、八八六	七、四七
中 郡	七、〇七七	重 一、〇〇〇 輕 六、〇七七	七、〇七七	一四、〇八
南 郡	六、六五九	重 一、〇〇〇 輕 五、六五九	六、六五九	一四、〇八
北 郡	一、七四七	重 一、〇〇〇 輕 七、〇七三	八、八二〇	一九、七二
上北郡	七、七三三	重 一、〇〇〇 輕 六、七三三	七、七三三	一四、〇八
下北郡	六、三三四	重 一、〇〇〇 輕 五、三三四	六、三三四	一四、〇八
計	六、三三四	重 一、〇〇〇 輕 五、三三四	六、三三四	一四、〇八

昭和五年度徴兵適齡者トラホーム検診成績

郡市別	検診人員	患者	計	患者百分比
青森市	二、七五五	重 〇、二七五 輕 二、四八〇	二、七五五	一〇、〇〇
弘前市	二、〇二二	重 〇、二〇二 輕 一、八二〇	二、〇二二	一〇、〇〇
東 郡	五、五七〇	重 〇、五七〇 輕 五、〇〇〇	五、五七〇	一〇、〇〇
西 郡	五、五七〇	重 〇、五七〇 輕 五、〇〇〇	五、五七〇	一〇、〇〇
中 郡	五、五七〇	重 〇、五七〇 輕 五、〇〇〇	五、五七〇	一〇、〇〇
南 郡	一、〇六九	重 〇、一〇六 輕 九、六三三	一、〇六九	一〇、〇〇
北 郡	六、〇二一	重 〇、六〇二 輕 五、四一九	六、〇二一	一〇、〇〇
上北郡	七、七三三	重 〇、七七三 輕 六、九六〇	七、七三三	一〇、〇〇
下北郡	八、四一一	重 〇、八四一 輕 七、五七〇	八、四一一	一〇、〇〇
計	六、三三四	重 〇、六三三 輕 五、七〇一	六、三三四	一〇、〇〇

水道

△水源地
青森市水道 東郡横内村横内
五所川原町 北郡飯詰村飯詰
川上流
川上流
(大鱒簡易水道は土木の項を見よ)

△用水量(昭和四年中)
青森市一日平均 四三、四七五石
衛生—徴兵トラホーム検診成績—水道—青森五所川原水質検査表

青森五所川原水質検査表

(昭和五年四月十一日調)

採酌場所	青森市配水	五所川原町配水
天候	晴天	晴天
温度	八、五度	八、五度
清濁	ナシ	ナシ
色度	ナシ	ナシ
臭度	ナシ	ナシ
反酸	二、三四度	二、三四度
硫酸	二、三四度	二、三四度
硝酸	二、三四度	二、三四度
亜硝酸	二、三四度	二、三四度
アムモニア性窒素	二、三四度	二、三四度
蛋白アムモニア性窒素	二、三四度	二、三四度
過マンガン酸カリウム	二、三四度	二、三四度
消費量	二、三四度	二、三四度
硬度	二、三四度	二、三四度
蒸發残渣	二、三四度	二、三四度
鐵	二、三四度	二、三四度
鉛	二、三四度	二、三四度
細菌	二、三四度	二、三四度

第二區癩病療養所

北部保養院(青森市外石江)
本院は明治四十年東津輕郡新城村石江に創立されて以來、北海道、青森、秋田、山形、福島、岩手、宮城の六道六縣にわたる癩患者の療養の途なく、且つ救護者の無い者を行政官廳の指圖に依つて收容救護し、開始當時は定員五十名に過ぎなかつたが漸時擴張し現在は二百餘名の患者を收容してゐる、
本院の構内は坪數六萬三千九百五十九坪、建物千八百五十九坪である。

本院は専ら治癩の研究に努むる、傍ら患者慰安の爲、佛教基督教等の布教師を招聘して説教に依つて安心立命の光明を得せしめ、又は娛樂機關を置き、花卉果樹の栽培をさせる爲に菜園を起す等、種々慢性患者の救護と慰安に努めてゐる、
△現職員氏名
院長兼院長從五位勳五等醫學博士 中條 資俊
醫員從五位 佐藤 良春

曹洞宗 三
神道宗 一
臨濟宗 一
計 五
不 明
計 五
△現職員氏名
所長 石橋昇 醫員 本山茂
藥劑員 長谷川芳野 事務員 長谷川仁太郎 一戸勇太郎 助手 金澤定治 看護婦四人
△設置科 内科 外科
△診療別
第一種 公傷患者(鐵道に依り負傷した者等)
第二種 乗降客病人但し第一第二は共に省に責任あるものと否とを區別し、後者は料金個人支拂となる。
第三種 鐵道従業員家族、休日 第一、第三日曜。
その他日曜、祭日、土曜日は午前中診療し、普通は午前九時から午後三時迄)
△昭和四年度患者延數、新來患者 四五七七人 再來患者 四五七八七人 一日平均 一五三人
△診療回数と料金
手術 一回 五圓
處置料 三三圓 六三圓 五圓
藥價 九五五(劑)五六五、空圓

收容患者道縣男女別

道縣	男	女	計
北海道	七	三	一〇
青森縣	三	七	一〇
秋田縣	三	七	一〇
岩手縣	三	七	一〇
宮城縣	三	七	一〇
福島縣	三	七	一〇
山形縣	三	七	一〇
直接收容	三	七	一〇
其他	三	七	一〇
計	三〇	三〇	六〇

宗 教 別

宗 教	男	女	計
宗 種	六	二	八
眞 宗	一	一	二
法 華 宗	一	一	二
天 理 教	一	一	二
淨 土 宗	一	一	二
眞 言 宗	一	一	二
眞 言 宗	一	一	二
計	三〇	三〇	六〇

收容患者職業別

職業	男	女	計
農業	三	三	六
工業	一	一	二
商業	一	一	二
職業不明	一	一	二
計	六	六	一二

收容患者年齡別

年齡	男	女	計
二〇迄	一	一	二
三〇迄	一	一	二
四〇迄	一	一	二
五〇迄	一	一	二
六〇迄	一	一	二
七〇迄	一	一	二
計	六	六	一二

公立病院案内

合計 一三五八四 一三三三、三三三

△現職員氏名(昭和五年四月現在)

- △内科部 部長院長博士 鈴木 三伯
副部長醫學博士湯川 啓吾
醫員 水木 太郎
助手 中村儀之丞
- △外科及整形外科部 部長博士 副島 廉治
一 醫員(留學中)田中 實
園田 正治 實藤 保
一 戸 銀藏
- △小兒科部 部長、博士蜂谷太郎
醫員 藤倉 廉平
- △皮膚泌尿科部長 大川 隆之
同部長代理 藤井末太郎
醫員 柳澤 中
- △産科婦人科部長、博士 一井上 秀夫
醫員 芳賀 武雄
- △眼科部 部長、副院長、博士久保木保壽
醫員 成田 秀
- △耳鼻咽喉科部長、博士 衛生—公立病院案内
- △理療科部 部長、博士 小關 勉
醫員(留學中)石井 俊次 奈良太二郎
湯田 勝年 石田良太郎 幾野 政紀 館 禮七 淺田 馬彦 梅澤 亮一 北谷巖 山本忠雄 和泉喜洋志 村田善一郎 伊香サダ 村田清之助 村田與次郎 伊藤勝次郎 赤坂 祥三 三上勝榮 伊藤今太郎 木立壽 英 内山良太郎 金 芳三郎 芳三郎 柿崎きち子 西澤彌作 奥崎利 助
- △齒科部 部長 阿部竹之助
湯田 勝年 石田良太郎 幾野 政紀 館 禮七 淺田 馬彦 梅澤 亮一
- △藥劑部 部長 梅澤 亮一
藥劑員 和泉喜洋志
- △事務部 部長 村田清之助
書記 村田與次郎 伊藤勝次郎 赤坂 祥三 三上勝榮 伊藤今太郎 木立壽 英 内山良太郎 金 芳三郎 芳三郎 柿崎きち子 西澤彌作 奥崎利 助
- △看護婦長 嘉瀬 ヨシ
副婦長 大塚 トシ
- △囑託講習科修身講師山内元八
看護婦産婆生花講師村田卯三郎 其の他

△設置科目
内科部 外科及整形外科部 婦人科部 眼科部 耳鼻咽喉科
皮膚泌尿科部 小兒科部 産科 部 理療科部 齒科部 藥劑部
△入院患者收容定數及賄料

病室等級	病室數	一室定員	總員	賄料	
				種別	料金
特等室	四	一人	四人	粥	一日三食 二十錢
一等室	一六	一人	一六人	飯湯	同 二十錢
二等室	一六	一人	一六人	飯湯	同 二十錢
三等室	一三	一人	一三人	飯湯	同 二十錢
傳染病室	一	二人	二人	飯湯	同 二十錢
合計	七五	一人	一七四人	粥	一日三食 二十錢

種別	料金		附記
	診察料	往診料	
普通診療料	金五十錢		診察の順序により診察を受けるもの
特急診療料	金一圓		診察の順序に依らず直に診察を受けるもの
院長	金四圓	(一里未満)	一里以上二里未満
副院長	金二圓	(一里未満)	二里以上三里未満
醫師	金一圓	(一里未満)	三里以上四里未満
醫師	金五十錢	(一里未満)	四里以上五里未満
醫師	金二十錢	(一里未満)	五里以上六里未満
醫師	金十錢	(一里未満)	六里以上七里未満
醫師	金五錢	(一里未満)	七里以上八里未満
醫師	金二錢	(一里未満)	八里以上九里未満
醫師	金一錢	(一里未満)	九里以上十里未満
醫師	金五錢	(一里未満)	十里以上
産婆往診料	金五十錢		一里以上一里に付金五十錢を増す
内服薬	金十錢		高價薬一劑一日分三十錢
外用薬一劑	金十五錢		入院患者より普通薬價は徴收せず高價薬價は半額とす

種別	料金
入院患者	二九二五
計	四二二五

種別	入院料		附添人座料
	食料	料	
特等	金三圓	金五圓	金二十五錢
甲等	金二圓	金四圓	金二十錢
乙等	金一圓	金三圓	金十五錢
丙等	金一圓	金二圓	金十錢
傳染	金三圓	金四圓	金十五錢

種別	料金
入院患者	二九二五
計	四二二五

昭和三年度中に於ける外來及入院患者科別延人数表

豫防設備としては(イ)院内五ヶ所に單式感應火災報知器(ロ)要所十二ヶ所に消火栓、其の他等小學校及構内、寺町正覺寺及構内、日本赤十字社青森支部。

小兒科三、八四 齒科 八四七
産科三、八三 其他 三〇四
計 二、五五〇

△現職員氏名(昭和五年四月現在)
(青森市濱町二丁目)
院長、外科、博士神竹之助
醫師 内科 河田信時 外科 小川是郎 藥劑師、矢口助次
電氣掛、山本仁太郎 會計、葛西武吉 事務員、澤田平太郎

△現職員氏名
院長 博士田中館要橋 副院長 菊池恒昌 藥劑師 辻村改
事務員 櫻田健藏 看護婦 五人

△設置科目
内科、産科婦人科、皮膚泌尿科、

△災害立退所 善知鳥神社、附
衛生—公私立病院案内

備考 患者附添人各等室とも近寺院。
△備急班 これは病院出入の職人に依つて組織され、火急の場合に出動して應急の處置をとる。職員二十二名で、年一回總會を開き、その際實際演習をなして訓練を積む

△竹瀝病院(青森市寺町五十八番地)

△災害立退所 寺町蓮心寺、尙竹浪消防組なるもの八人にて組織され火災その他の災害に備ふ

△高橋病院(青森市浦町國道)

△現職員氏名(院主高橋濟二)
院長、博士守成一 醫師 荒井正雄 一丸鐘一 長内源次郎 藥劑師 代田爲一 事務員 長内準一 看護婦 十人

含む。
 △災害避難所
 橋本小學校。青森高等女學校
 △現職員氏名
 院長 長尾健字 醫員 淀川 賢一 事務員 南莊七 看護婦 五人
 △設置科目
 内科、小兒科、傳染病科、
 △入院患者收容定員三十人
 △入院料金規定
 東棟普通室 二圓五十錢、西棟普通室 二圓(各一室一人)傳染室 二圓五十錢(一室二人)附添座料一人一日金二十錢
 △賄料 一日分 一圓二十錢
 備考 夜具及炭は患者持のと。高價藥及手術料、材料、水等使用したる時は相當代價を納むるこ。
 △災害避難所 浦町舊停車場跡但し其の時に依り變更するは論をまたず。
 ◇東青信用組合診療所
 (青森市國道縣病向ひ)
 昭和三年九月創立さる。
 △現職員氏名

博士瀨ノ口涉 中川政男 藥劑師 黒瀧つな 事務員 成田卓司 大澤一郎 武藤修治 柴谷慶助 看護婦三人
 △設置科目 内科
 △入院患者收容定員 二十名(但し現に擴張しつゝあり)
 △入院料金 縣立病院に準ずる
 △災害避難所 香取神社
 ◇弘前病院(弘前市本町)
 △現職員氏名
 院長 博士天木順吉 副院長 博士菊池精三 醫員 出口恒三郎 松田武千代 野村一 石川英一 榎井定一 木村亮太郎 藥劑師 加藤慶治 藥劑員 小野高紀 岩崎謙次郎 市川龜雄 看護婦二人
 事務長 齊藤恒之助 看護婦長 藤島トヨ 看護婦二十八名
 △設置科目
 内科、外科、耳鼻咽喉科、眼科、婦人科
 △入院料金
 一等 二圓二十錢、二等 一圓七十錢、三等 九十錢、特等甲 四圓、乙 三圓五十錢

但し入院者の投薬は一日二種まで無料其他は相當料金を徴收す。
 △傳染病患者入院料
 市外 四圓六十錢
 市内 一圓七十錢
 收容患者 一圓
 但し入院料は一日に滿たざるも一日分を徴收す。
 △災害避難所
 一、南塘グラウンド二、朝陽小學校、三電燈會社構内
 ◇伊東病院(弘前市元長町)
 △現職員氏名
 院長 伊東五一郎 院長 博士 齋藤周藏 醫員 竹内軌榮
 △設置科目 内科、小兒科、傳染病科
 △入院料金 金一圓八十錢
 △災害避難所 第一、公園内第二、南塘グラウンド
 ◇八戸病院(八戸市鍛冶町)
 △現職員氏名
 院長 内科小兒科博士星三藏 副院長同 博士 桂島忠良 久慈分院主任 博士 三船竹藏 副院長外科 同 寺島清七 醫員 同(分院勤務)金田文平

坂野弘一 關川謙二 杉山一郎 池野遊登 土井一郎 北島忍 宮澤きよ
 院長 產科婦人科 耳鼻咽喉科
 藥劑科
 事務課
 看護婦長
 外職員二十五名
 △設置科目
 内科、小兒科、外科、產科婦人科、耳鼻咽喉科、眼科、X光線科
 △入院患者收容定員數五十名
 △入院料金
 金五十錢以上金二圓五十錢まで(入院の種類に依り異なる)
 △災害避難所 第一、長者山第二、本壽寺
 ◇黒石病院(黒石町)
 △現職員氏名
 院長 唐牛浩 醫員 岡崎行雄 唐牛義孝
 △設置科目
 内科、小兒科、外科、婦人科 眼科、皮膚泌尿科、物療科(レントゲンチャテルミー)
 △入院設備 普通病室、傳染病室の設備あり。

◇小笠原病院(五所川原町)

△現職員氏名
 院長 小笠原源八郎 醫員 藤森寛美 看護婦 五名
 △設置科目
 内科、外科、小兒科、産科婦人科、泌尿性病科
 △入院患者收容定員十七名(一室一名)
 △入院料金 一等二圓五十錢 二等二圓 三等一圓五十錢
 △災害避難所 公會堂、澤田醫院
 ◇増田病院(北郡五所川原町)
 △現職員氏名
 院長 増田貢 副院長博士 原田篤行 醫員 小林仁作 事務 飛鳥藤四郎
 看護婦 齋藤みゑ外五名
 △設置科目
 内科、外科、耳鼻咽喉科、花柳病科、小兒科、理療科
 △入院案内
 收容患者定員 二十八名
 入院料 一圓五十錢以上二圓五十錢迄

△災害避難所

男子部小學校々庭、八幡宮境内

青森縣衛生協會

縣民の保健及公衆衛生施設の完備を期するの目的とする青森縣衛生協會は、昭和四年五月十一日創立され、三ヶ年廿萬圓の計畫で基金募集を始めたが、約一萬圓餘を集めて緊縮政策と不景氣に遇ひ、一時停止するの已むなきに至り、時機をみて再募集をする事になつてゐる。

一總裁 平井三男
 一會長 足立達夫
 一副會長 川村亨 神竹之助
 一理事長 山本憲一
 一理事 松原正治 鈴木三伯
 長尾健字(以上常務)中野浩(青森) 松下賢之進(弘前) 西田源藏(東郡) 北村誠一(西郡) 成田清太郎(中郡) 山田文彌(南郡) 佐々木哲造(北郡) 諏訪内剛人(三戸郡) 藤島高(上北) 熊谷力治(下北) 一評議員 川口榮之進(青森) 村上不二(同) 森田盛健(小湊) 山崎

金之助(蟹田) 工藤喜右衛門(鱒ヶ澤) 笹森勝衛(木造) 宮川忠助(弘前) 笹森榮(同) 鳴海長左衛門(黒石) 石岡久司(浪岡) 前田藏吉(大鰐) 平山爲之助(五所川原) 中谷新吉郎(金木) 竹浪繁造(板柳) 福士秀雄(八戸) 川守田富彌(同) 田島治(三戸) 田村喜三郎(五戸) 駒ヶ嶺虎太(七戸) 土屋寛(三本木) 杉山久之丞(野邊地) 山本八三郎(田名部) 佐々木正之助(大間)

の進歩發達を圖るを目的とし、大正十年より始まり毎月一回集會、毎年二月十一日を以て總會を開催し縣下同學者を招す。
 △青森醫學會
 大正八年より青森市内の開業醫及び縣病の科長級の醫師を以て會員とし、會員の學術技能の進歩發達を圖るの無無論だが、同時に會員の親交をはかるにあり、故に集會は座談的に開いてゐる。常任幹事は松原正治氏で隔月一回當番幹事の定めた場所

青森縣結核豫防會

結核病を豫防撲滅するを目的とする青森縣結核豫防會は大正十年六月十九日に創設され、青森縣衛生課内に事務所を置く役員左の如し。
 △會頭 平井三男 副會頭 足立達夫
 △常務理事 山本憲一 松原正治 澤田定信
 △理事 神竹之助 鈴木三伯 長尾健字 奈良圓助
 醫學集談會
 △青森縣立青森病院醫學集談會
 職員相互の醫學的學術技能

に集會する。
 △弘前市立病院集談會 月二回
 △八戸病院集談會 隔月一回
 △東北醫學會
 本部を東北帝大醫學部に置き青森縣支部は縣立病院に於て事務をとつてゐる。
 毎年一回青森、弘前、八戸の三市の中一回集會を催し、本部より講師來つて講演する等醫學術技能の發達を圖つてゐる。昭和四年は青森市新町小學校を會場として開催したが、今年は弘前市に開催さるゝ筈である。

土木建築

縣土木出張所々々

- 青森土木出張所 東津輕郡、青森市
- 青森土木出張所 西津輕郡、中津輕郡岩木村大字松代
- 弘前土木出張所 中津輕郡(松代を除く)、南津輕郡石川町、大鰐町、藏館村、碓ヶ關村、弘前市
- 黒石土木出張所 南津輕郡(石川、大鰐、藏館、碓ヶ關を除く)
- 五所川原土木出張所 北津輕郡
- 八戸土木出張所 八戸市、三戸郡
- 三本木土木出張所 上北郡(横濱村、六ヶ所村字

道路改良工事

本縣内道路を根本的に一大改良を施すの計畫は大正十五年から樹てられて昭和三年度から繼續的意味の單年工事として實施することになつた。三年度は總費用四十萬二千圓、此内三十三萬圓は起債により五萬二千圓の國

庫補助二萬圓の地元寄附を財源とするもので、此第一回の改良工事を加ふる路線十七線も決定したが、其後政府の緊縮政策から起債が延引すると共にその認可額も減少したので、更に施工路線を變更し左の如く四年度に於て工事を施した。

- 金木十三線(稻垣村地内)工費一萬二千二百二十六圓
- 國道五號路線(青森、新城間)工費二萬九千八百三十五圓
- 青森鰐ヶ澤線(柏村、木造町間)工費三萬圓
- 國道五號路線(和徳村)工費二萬三千四百九十五圓
- 吹上黒石線(淺瀬石村、金田村間)工費一萬七千九百七十七圓(施工中)
- 黒石大鰐線(尾上村)工費二萬四千圓
- 五所川原小泊港線(松島村、嘉瀬村間)工費二萬四千圓
- 田名部大間線(田名部町)工費三萬二千圓
- 青森八戸線(淺田村、豊崎村)工費一萬三千六十圓

道路橋梁の新築改築修繕

昭和四年度に於ける本縣内の各道路橋梁の新築改築、修繕の特定工事は經常費九萬三千圓、臨時費四萬一千三百圓計十三萬四千三百圓である。(此外に繼續的意味を含んだ道路改良工事水害復組工事があるが之は各其項に詳記してある、之を各土木出張所に掲ぐれば左の如し(經常臨時合算)

青森土木出張所 道路修繕二ヶ所二千四百三十三圓、橋梁修繕二ヶ所二千七百五十五圓、橋梁架替三ヶ所五千八百五十圓、計一萬六千八百八圓

五所川原土木出張所 道路修繕二ヶ所五百圓、橋梁修繕二ヶ所三千五百圓、橋梁架替二ヶ所三千五百圓、計七千八百廿三圓

鰐ヶ澤土木出張所 道路修繕三ヶ所二千二百七圓、橋梁修繕二ヶ所二千五百三十五圓、橋梁架替五ヶ所五千八百五十八圓、

計一萬六千六百六十二圓

弘前土木出張所 道路修繕三ヶ所千九百六十二圓、橋梁修繕三ヶ所三千圓、橋梁架替四ヶ所九千九百廿二圓、計一萬四千八百九十四圓

黒石土木出張所 道路修繕三ヶ所千三百三十圓、橋梁修繕二ヶ所五千五百圓、橋梁架替四ヶ所四千三百五圓、計一萬四千五百五圓

三本木土木出張所 道路修繕三ヶ所二千二百二十二圓、橋梁修繕四ヶ所三千八百四十三圓、橋梁架替三ヶ所四千三百二十一圓、計一萬三千八百八十六圓

田名郡土木出張所 道路修繕二ヶ所千二百圓、橋梁修繕二ヶ所二千四百二十九圓、橋梁架替一ヶ所三千二百圓計六千八百二十九圓

八戸土木出張所 道路修繕三ヶ所千六百圓、橋梁修繕十ヶ所六萬一千五百八十八圓

災害復舊工事

第一回復舊工事 昭和四年四月二十日から連日豪雨が續き河

土木建築——災害復舊工事

川出水のため道路橋梁の破損、潰流失や護岸の欠損等夥しく、縣は緊急を要するものにつき復舊計畫をたてた、その費用は道路橋梁費九萬一千圓、治水堤防費十一萬七千四百九十一圓、監督費一萬三千二百九十九圓、合計二十一萬七千九百八十九圓に達した。工事の内訳は道路の復舊十九ヶ所四萬七千六百七十七圓、橋梁の復舊十三ヶ所二萬四千二百二十一圓、橋梁架替七ヶ所一萬八千三百六十四圓、河岸復舊二十ヶ所二萬九千九百八十三圓、堤防復舊は四十ヶ所に及び八萬六千九百二十四圓であつた。

第二回復舊工事 四年八月二十六、二十七日の兩日の豪雨のため再び出水し道路橋梁河岸堤防の破損欠損するもの多く、緊急復舊を要するものは道路復舊四十六ヶ所、橋梁復舊十二ヶ所、橋梁架替二十一ヶ所、野内川外十二ヶ所に對する河岸復舊二十六ヶ所、堤防復舊十ヶ所を算した。

之に要する復舊費は道路橋梁費十四萬九千八百四十二圓、治水

堤防費四萬二千八百八十七圓、監督費一萬二千七百七十一圓、合計二十萬三千圓を要するのであるが、起債認可の關係上四年度中には工事に着手するに至らなかつたが、五年四月十六日に起債認可となつたので直ちに着手準備を進めた。此の第二回復舊費を土木出張所に記せば左の如し。

土木出張所名	道路復舊費	橋梁復舊費	橋梁架替費	河岸復舊費	堤防復舊費	計
五所川原	10,651	4,171	6,334	—	—	21,156
黒石	13,010	1,800	9,100	—	—	23,910
弘前	7,933	1,100	2,550	—	—	11,583
八戸	9,591	1,477	5,332	—	—	16,399
田名部	5,975	5,080	3,633	—	—	14,688
三本木	2,600	9,600	5,484	—	—	17,684
八戸	9,484	2,300	6,260	—	—	18,044
計	67,745	16,579	45,733	—	—	130,057

進行中又は完成の諸事業

岩木川改修工事 總工費一千四百萬圓、工年限十九ヶ年で大正七年から着手してゐる岩木川改修工事は、既に着手以來十二年を経過し工費五百八十五萬圓を費し北郡鶴田村菖蒲川から以北、北郡武田村田茂木、西郡車力村方面にまで新堤防が築か

れ、川の曲折が直され又十三瀉水戸口には目下突堤の築造が行はれてゐる。昭和五年度の工費年度割は六十萬圓で稻垣工場を中心とする築堤と十三瀉水戸口の突堤工事が主なるもので、五所川原町附近は、乾橋架替工事關係で未着手の箇所を乾橋架替も了つたので五年度に着手し同年中に完成する筈である。而して支川十川の切替工事も五年か

土木建築——進行中又は完成の諸事業

ら着手さるゝことゝなつた。之は十川上流から擴築工事を行ひ北郡榮村姥港から新川を開鑿して岩木川に直注させるものである。之に對する五年度費用は約十萬圓(凡そ四萬圓は土地買収)を要する。尙五年度に於て岩木川工事のため地方民へ人夫賃として落つる金は約二十萬圓である。

山田川治水工事 西郡十一ヶ町村八千町歩の耕地の排水路たる

年度 事業費

年度	昭和二年度	三年度	四年度	五年度	六年度	七年度	計
補助金	四〇,〇〇〇	八五,〇〇〇	九〇,〇〇〇	六六,〇〇〇	二〇,〇〇〇	〇	四三三,〇〇〇
寄附金	一〇,〇〇〇	二〇,〇〇〇	二〇,〇〇〇	二〇,〇〇〇	二〇,〇〇〇	〇	一〇〇,〇〇〇
一般歳入	一〇,〇〇〇	三〇,〇〇〇	三〇,〇〇〇	三〇,〇〇〇	三〇,〇〇〇	〇	一五〇,〇〇〇
負擔金	六〇〇	六〇〇	六〇〇	六〇〇	六〇〇	〇	三,〇〇〇
縣債	三〇,〇〇〇	四〇,〇〇〇	四〇,〇〇〇	四〇,〇〇〇	四〇,〇〇〇	〇	一六〇,〇〇〇
計	九〇,〇〇〇	一七五,〇〇〇	一七〇,〇〇〇	一六六,〇〇〇	一六〇,〇〇〇	〇	六六二,〇〇〇

右の排水工事は岩木川の改修とも關係あり、内務省岩木川改修事務所關係の改修工事は昭和四年度から準備に着手し、五年度

から西郡柏村に跨り岩木川に架してゐる乾橋は明治十七年の架設にかゝり縣下第一の名橋であつたが、既に老齡に達し加ふるに岩木川改修工事の實施に伴ふて改築することゝなり、昭和二年の縣會で工費十五萬二千圓を可決し此内、内務省が八萬四千九百八圓負擔することゝなり昭和三年十二月工を起した。工事は東京竹林組の請負(セメント官給)に係り鐵筋コンクリート橋の全長百八十間、有效幅員三間、五百六十七坪の長大なもので鐵筋混凝土、橋臺二同橋脚三十七組、流水除三十七組(外に前後接續道路工事を含む)である。橋體はI字型鐵桁三十八連を架渡し其上に鐵筋混凝土厚さ五寸の床板を張り表面膠石鋪裝とし高欄は鑄鐵製、親柱は花崗岩小叩仕上げで、下部の構造は左右兩岸の橋臺とも橋脚と同一構造とし何れも鐵筋混凝土杭五本から成り之を河底三十尺の凝結砂利層に達せしめて、安全なる支持力を保持し且つ洪水の

年度 事業費

年度	昭和二年度	三年度	四年度	五年度	六年度	七年度	計
補助金	四〇,〇〇〇	八五,〇〇〇	九〇,〇〇〇	六六,〇〇〇	二〇,〇〇〇	〇	四三三,〇〇〇
寄附金	一〇,〇〇〇	二〇,〇〇〇	二〇,〇〇〇	二〇,〇〇〇	二〇,〇〇〇	〇	一〇〇,〇〇〇
一般歳入	一〇,〇〇〇	三〇,〇〇〇	三〇,〇〇〇	三〇,〇〇〇	三〇,〇〇〇	〇	一五〇,〇〇〇
負擔金	六〇〇	六〇〇	六〇〇	六〇〇	六〇〇	〇	三,〇〇〇
縣債	三〇,〇〇〇	四〇,〇〇〇	四〇,〇〇〇	四〇,〇〇〇	四〇,〇〇〇	〇	一六〇,〇〇〇
計	九〇,〇〇〇	一七五,〇〇〇	一七〇,〇〇〇	一六六,〇〇〇	一六〇,〇〇〇	〇	六六二,〇〇〇

右の排水工事は岩木川の改修とも關係あり、内務省岩木川改修事務所關係の改修工事は昭和四年度から準備に着手し、五年度

から灌溉水を取入れる十一ヶ堰の用水を充分ならしめ水利争ひを防止するため南郡山形村大字大穴に貯水池を築造する所謂大穴貯水池工事は、工費三十一萬七千圓、之が半額を農林省に於て補助し四分一は縣費、殘る四分一は關係水利組合が負擔して大正十三年度から昭和四年までの繼續事業として着手した。工事中、請負業者の不仕末から賃金不渡問題が起つたり又地盤軟弱のため六十尺の築堤が五十二尺に變更されて關係組合の間に軋轢を生ずる等幾多の波瀾を経て四年十一月工事を終り五年三(圓以下略)

年度	昭和二年度	三年度	四年度	五年度	計
補助金	四〇,〇〇〇	八五,〇〇〇	九〇,〇〇〇	六六,〇〇〇	四三三,〇〇〇
寄附金	一〇,〇〇〇	二〇,〇〇〇	二〇,〇〇〇	二〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇
一般歳入	一〇,〇〇〇	三〇,〇〇〇	三〇,〇〇〇	三〇,〇〇〇	一五〇,〇〇〇
負擔金	六〇〇	六〇〇	六〇〇	六〇〇	三,〇〇〇
縣債	三〇,〇〇〇	四〇,〇〇〇	四〇,〇〇〇	四〇,〇〇〇	一六〇,〇〇〇
計	九〇,〇〇〇	一七五,〇〇〇	一七〇,〇〇〇	一六六,〇〇〇	六六二,〇〇〇

(五年度事業費は見込額故、完成までには尙増額を見るべし) 定て、土工は三十八萬圓で青森津輕鐵道工事 北郡五所川原町市成田文吉氏が請負ひ五所川原から同郡中里村に至る十三哩餘町の津輕鐵道工事は昭和三年八月

土木建築——進行中又は完成の諸事業

る難澁で設計が屢々變更されて豫定期間までには到底竣工を見ず五年二月末迄に既に四十五萬圓の土工費を投じた。然し五年四月には五所川原を距る五哩の地點まで建設機關車が運轉され難工事とされて嘉瀬金木間も七月迄には出來上る豫定がつき、又深郷田、中里間(十一哩六五—十二哩一〇)は坵炭層のため橋梁の築堤、土管等が埋没し頗る困難を極めたが此の沈下地帯も六十四尺にして地盤に達することが判明したので工事方針も確立した同年九月末までには完成する豫定である。

弘前第四發電所工事 弘前電燈株式會社の昭和五年三月末に於ける供給電力は、沖浦發電所七百KW(キロワット)、板留發電所千三百五十五KW、温湯發電所三百六十KW、弘前火力發電所一千KW、青電よりの受電力五百KW合計三千五百九十五KWであるが地方に於ける電力の需要を充すべく、最大出力三千二百三十KWの一の渡發電所を工事

中である。昭和四年十一月から着工し、トンネルは九分通り出來上り現在人夫三百五十名を使用して工事を急いでゐるが目下の進行状況から推せば竣工期日昭和六年六月末を繰上げ同年四月末までには竣工する見込みである設計大要左の如し。

▽取入口南郡竹館村大字葛川▽發電所同村大字小國▽水路延長三千間(内サイホン五十間、トンネル二千三百五十間、暗渠二百十間、水路橋二百間、耐壓トンネル百九十間)▽使用水量百七十五個▽有効落差二百八十尺▽調整池水面千六百面坪、水深二十尺、容量百萬立方尺

八戸水電火力發電所落成 湯水期に於て需用者に對し所定の電力を完全に供給するため二十一萬餘圓を以て八戸市吹揚に火力發電所を新設した、原動機は瑞西製で發電機は富士電氣會社の製造に係り平水時に於ては進相機として利用すべく此設備は同社を以て嚆矢とし既設の四發電

土木建築——進行中又は完成の諸事業

所二千七百廿キロにこの新設火力發電力七百五十キロを合すれば三千四百八十キロとなるが昭和五年二月中旬竣工と共に逓信省電氣局の検査を受け同十八日許可を得三月初旬落成式を舉行した。

八戸港修築工事 従來の鮫港は八戸市制の實施により八戸港と改稱され、之が修築工事は大正八年總工費二百萬圓の豫算で着手以來既に十一ヶ年を経過し當初計畫に依れば昭和五年度で完成する豫定であつた。然るに當初計畫を擴張するの必要に接し昭和三年の通常縣會に於て同四年度豫算に追加工費四十一萬圓を可決してその起債を政府に稟請したが、政府の財政緊縮方針から容易に認可せず昭和四年十月認可せざる旨を決し書類を返戻し來つた。依て縣當局は關係地方の熱望に同情しつゝも五年度に十二萬圓を支出して工事を打切るの止むなきに立至つた。然るに幸にも政府は失業者救済のために土木關係の起債を認め

ることになり、五年四月に至つて内務、大藏兩省から起債の内諾を得たので總計二百四十一萬圓を以て最初の改定計畫の外に埠頭設備並に魚揚場埋築工事を施行することゝなつた。今後の工事費支出年度割は昭和五年度二十七萬圓、六年度二十萬圓、七年度六萬圓とし之を以て完成する筈である。五年度の工事内容は

- ▽埠頭設備費 七二、八一〇圓
▽魚揚場埋築費 三一、六五〇圓
▽器具機械費 三五、七三〇圓
▽工場設備費 三、四九〇圓
▽土地買収移轉補償費 三、一〇〇圓
▽測量費 五〇圓
▽雜費 一、九七〇圓
▽昭和三十四年四月末の工事進行状況は左の通りである。
▽此防波堤 二百十間全部の基礎工事を終り目下仕上中であるが既に百七十七間一分を完了した。
▽船入防波堤 百五十七間全部の基礎工事を終り目下仕上中仕上中で五十四間は完了し北

防波堤ともに殆んど竣工したと同様である。
▽後方設備 五十噸級の船舶十二隻を横付けする埠頭の埋立地一萬八千坪の實地踏査を終り海中工事の一部が目下進行中である。

大鰐水道工事 南郡大鰐町の上水道布設工事は大鰐信用利用組合の事業として昭和三年十一月工事認可を申請し四年二月六日認可に接すると共に着手した。工費十五萬圓で昭和五年六月を以て完成の豫定であるが事務所を信用利用組合に置き既に竣工した一部の淨水池を利用して早くも給水を開始してゐる。水源は大鰐と距る千六百十米突七五の阿闍羅山に源を發する阿闍羅澤及三毛澤の合流と地下水に求め水量は最湯水期で一日千二百四十八立方米突、水壓百二十封度、人口一萬人に給水の設備である。送水路はヒューム管、配水路は鑄鐵管、市街地給水管の延長は四千七十米突である。

鐵道省關係工事(縣内)
▽古間木、沼崎間、川邊溢橋外二ヶ所桁架替其他工事は三年四月より着手し四年七月廿日竣工、工費二萬七千三百卅七圓
▽陣場、津輕新城間枕木増加工事は三年八月起工、四年四月廿日竣工、工費一萬六千八百八十四圓
▽白澤、陣間外十三ヶ所レール更換工事は三年九年末から着手四年五月十八日竣工、工費四萬百六圓
▽乙供、千曳間外一ヶ所の基面取換工事三千六百九十九立米の工事は三年九月十日竣工四年五月十九日竣工、工費一萬三千六百九十七圓
▽千曳驛構内外三ヶ所レール更換工事は四年三月廿二日から四月廿日までに施工、工費二萬六千二百七圓
▽浪岡驛有效長延伸其他工事は三年十月十九日着手四年七月廿日竣工一萬四千三百廿圓を要す
▽川部藤崎間深堀橋梁外五ヶ所橋梁改築工事は三年十一月着手四年九月廿日竣工工費一萬五千

三百七十四圓

- ▽小湊驛對向轉轍器改良工事は三年十一月より着手四年七月十日竣工工費一萬二千六百卅五圓
▽白澤驛安全側線新設其他工事は三年十二月起工し四年九月竣工工費一萬六千四百四十七圓
▽大釋迦驛有效長延伸其他工事は三年十一月着手四年八月十四日竣工工費二萬七千九百五十九圓
▽大釋迦、津輕新城間信號場新設工事は四年四月八日着手、同年八月十四日完成工費四萬九百六十三圓
▽川部藤崎間乙谷堰外九ヶ所溝橋改築工事は三年十一月廿三日起工四年八月十六日完成工費一萬二千七十一圓
▽下田、古間木間奥入瀬川橋梁桁架替其他工事は三年十一月廿七日着手四年八月二日完成、工費三萬六千六百三十三圓
▽陸奥鶴田、五所川原間十三田堰外十ヶ所溝橋改築工事は四年一月廿四日着手同年十月廿九日完成工費一萬四千四百廿三圓
▽藤崎、板柳間第一滝堰外八個

縣下に於ける四年以降の主なる新築

- ▽所溝橋改築工事は四年七月十一日着手し同年十一月廿二日完成工費一萬一千六百十九圓
▽陣場、碓ヶ關間軌條更換工事は四年十月二十九日開始工費一萬九千四百廿四圓
▽陸中八木間路盤改良工事は四年十月十七日着手同年十一月廿五日完成、工費九千二百四十二圓
▽轟、下田間法切擴工事は四年十一月十日着手同年十二月廿二日完成、工費七千八百圓
▽陣場、碓ヶ關間第五平川橋梁桁架更換補強工事は四年十一月十四日起工、五年三月十三日完成工費一萬七千六百八十五圓
▽縣立圖書館書庫及附屬建物 坪で一萬六千八百四十圓を要し四年五月十三日起工、同年七月二十一日竣工した。
▽縣會議事堂 總工費十四萬一千二百六十九圓餘を投じ縣廳構内に四年五月二十七日竣工し同年十一月十日竣工した。總坪千五百八十九平方米餘(一階八百平方米、二階七百四十九平方米

土木建築——進行中又は完成の諸事業

塔屋三十九平方米)で設計監督は青森縣土木課建築係が相當し建築工事は東京大塚組が請負した。

▽板柳苹果害虫研究所 木造平屋建五十七坪、三千八百圓を投じ四年八月十五日起工、十一月二日竣工した。

▽三本木農學校教室増築 百二坪一萬六千圓で四年十一月二日建築、五年四月末竣工。

▽柏木町農學校教室増築 百八十七坪五合工費一萬七千四百八十八圓で四年八月起工し同年十月竣工。

▽五所川原農學校教室増築 五所川原町が寄附したもので木造二階建五十坪、工費五千四百五十圓、五年四月から工事に着手した。

鐵道省關係建物

▽青森驛連絡待合室増築 三百平米は四年八月二十二日着手同年十一月十九日竣工、工費九千九百四十八圓

市町村及個人建物

青森市

▽青森市浪打尋常高等小學校 今上陛下御大典記念事業の一として舊練兵場の一廓に四年四月一日より工を起し五年一月十七日に完成した。設計は阿部直實建築事務所、工事請負は吉田弘氏で總延坪一千四百八十七坪餘

屋上運動場四百九十九坪餘、高さ四十四尺の鐵筋コンクリート、獨逸近世式の大建築である。工費總額二十三萬五千七百二十四圓餘。

▽東奥日報社工場新築及改造工事 東奥日報社は業務の發展と共に社屋狹隘を告げ、先づ植字工場の新築を行ふこととなり四年六月二十七日指名入札の結果青森市株式會社に落札した。新築工場は東西十四間、南北七間、木造總二階建(外部鐵網コンクリート)で大竹縣立工業學

校長の設計に成り堅牢にして採光、通風及各室の連絡に意を注ぎ能率向上を主眼としたもので地方新聞界に於て誇とすへき設備である。工事日數百日、十月上旬落成し同九日に落成式を挙げたが總工費二萬二千餘圓を要した。階下は新聞折疊室、活字鑄造室、鉛版製作室、食堂(兼講堂)、宿直室、小使室、浴場等に分れ階上は植字室、大組室、凹版室、起重機、寫眞製版室に區分されてゐる。此の工場新築に依り社内互つて大改造を行ひ編輯局は階上に移轉し、舊紙倉庫は物置に、舊工場を紙倉庫に、舊寫眞部は鳩舎及帶紙扱室に變更した。又舊編輯局跡は營業局とし、營業局跡は應接室とすべく五年四月上旬から工事に着手した。

▽蓮華寺新築 青森市寺町蓮華寺の新築工事は昭和二年十月十一日地鎮祭を執行直ちに着手し四年十月竣工した。工費總額二十萬圓餘、檀家の贈金によつて出來上つたもので總延坪二百八

坪、鐵骨鐵筋コンクリートの高さ六十八尺、屋根は銅を以て葺き安壯美麗、市内の寺院中に其の比を見ない。

▽濱町西尾三郎方住家及倉庫 九十七坪一萬七千六百圓、四年八月廿日竣工。

▽大東食品株式會社貯米庫 百十七坪五年二月二十日竣工。

▽角弘鐵店青森支店の自動車販賣部店舗及修繕工場百二十坪工費二萬五千圓で五年三月二十七日、起工五月末竣工。

弘前市

▽市立幼稚園 第一大成小學校に併置新築、九十八坪で工事費豫算總額九千二百圓、請負額七千圓

第二大成小學校新築

鐵筋コンクリートで建坪は階下六百五十九坪四八四、二階三百六十三坪四三五、三階三百六十三坪四四五、四階四坪八四合計千三百九十一坪一九四の大建築で工事費總額十三萬八千圓

▽消防屯所 弘前市役所及警察署構内に増築工事をなす總建坪四十五坪五で請負金額三千五百八圓三十三錢

▽勝岳院改築 西茂森町曹洞宗勝岳院の本堂間口八間半奥行七間、開山堂間口五間奥行八間三尺、位牌堂間口五間奥行四間、庫裡間口六間奥行十二間三尺は工費二萬三千四百圓十一錢で施工。

▽長尾富士麓氏邸 弘前市春日町縣會議員長尾富士麓氏新築住宅兼牛乳搾取營業所、木造二階建百十坪を新築、壯麗。

▽木村開運堂 中土手町菓子製造販賣店百三十坪新築屋根及外部は銅板を用ひ宏壯美麗。

▽弘前驛 鐵道省關係工事に詳記してゐる。

土木建築——進行中又は完成の諸事業

弘前簡易保險健康相談所

二階建總建坪五十七坪、昭和四年九月一日落成式舉行、工費六千五百圓

▽昭和座 南横町岡内彌平氏經營の昭和座は五年二月起工同年五月上旬落成、二階建二百二十坪で工費一萬二千圓、收容人員五百

◇東津輕郡 蟹田村 鹽越尋常小學校舎五間に九間新築す工費八千六百六十九圓

◇高田村 郷社金山神社本殿拜殿の屋根修築及社務所増築、工費八百五十圓

◇大宇小館長内健造氏の住宅改造 増築す此の費用約一萬百圓

◇後湯村 村立後湯尋常小學校新築、本校舎六百四十一坪七五此の建築

費三萬一千七百八十二圓、附屬建物四十四坪一千五百五十圓、御眞影奉置所八百五十六圓其他敷地買收費土木費等を合し四萬三百九十三圓を要した、四年二月十二日起工同年七月三十日竣工

す敷地總面積四町二段六畝五歩▽左堰青年分團事務所廿八坪新築、工費一千二百圓

◇野内村 淺虫温泉坂館百十坪新築工費九千圓

◇淺虫温泉椿館で明治天皇行在所模倣新築、一坪八合で工費八百五十圓

◇西平内村 山口尋常小學校土屋分教場六十坪新築、工費二千六百圓

◇小湊町 第五十九銀行小湊支店は一萬圓を以て四年度に新築落成。

◇一本木村 砂ヶ森分教場増築三十五坪、工費三千四百圓

◇巽月小學校増築卅五坪工費三千四百四十七圓

◇東平内村

▽外童子尋常小學校工費一千圓

▽大字袴場澤野宮工事費千六百十三圓

◇西津輕郡 赤石村 南金澤尋常高等小學校新築工事は四年度竣工建坪四百九十九坪、總工費三萬五百圓

◇大戸瀬村 修造尋常高等小學校講堂八間に十二間及び御眞影奉安殿四間に三間は四年七月竣工、總工費一萬圓

◇中津輕郡 西目屋村 村社熊野宮神社は四年度で二千五百圓を以て改築。

◇相馬村 相馬郵便局新築四年十月落成工費三千三百圓

◇大浦村 大浦小學校新築工事は二萬二千五百圓で青森市成文組が請負し五年五月より起工。

◇堀越村 村役場改築、本屋總二階五間と六間、附屬建物平屋五間半に

土木建築—道路改良工事

四間半、工費六千圓

◆南津經郡

▽元町土木請負業肥田稔氏の邸宅は昭和四年末竣工、工費三萬圓

▽日蓮宗妙經寺本堂は昭和四年相澤組が建築、工費二萬五千圓

▽黒石男子部小學校體操場は、昭和四年八月竣工、建坪百六十坪、工費一萬一千圓

▽黒石、中郷、六郷、山形の四町村組合立隔離病舎は昭和四年春中郷村地内に建築、七月竣工式を擧ぐ、敷地千九坪、建物百六十五坪工費一萬二圓

◆六郷村
▽林檎輸出者山口秀太郎氏は昭和四年大字赤坂、十川間に邸宅新築間口五間奥行十一間半で工費八千五百圓

◆五郷村
▽村社八幡宮本殿改築、總工費千三百圓

◆山形村
▽袋村白山姫神社改築三間に三間半、工事費千二百圓

七二二

◆津輕鐵道株式會社事務所木造二階建六十二坪八三は昭和四年新築、工費七千八百四十二圓

◆梅澤村
▽大字梅田福士三四郎、今妻かんは熊野宮神社へ四年七月十四日石鳥居獻納、高さ十七尺横十九尺、工費六百圓

▽梅田興農會肥料部倉庫は四年十月新築、工費千三百圓

◆六郷村
▽四年に火葬場新築、工費六百五十圓

▽中野神社本殿新築、工費九百六十五圓

◆中川村
▽沖飯詰尋常小學校兒童文庫新築、十坪、四百五十圓

◆上北郡
▽木内内小學校講堂新築

▽甲田醫院二階建新築

◆法典澤村
▽十和田湖郵便局コンクリート二階建新築、工費三千五百圓

◆横澤村
▽有烟尋常高等小學校百八坪を

増築、工費二千五百圓

▽横濱尋常高等小學校百目木分敷場九十一坪を増築、工費千五百八十圓

▽西福寺庫裡七十坪を新築、工費三千圓

◆三澤村
▽三澤村公益質屋建築は四年十月完成、倉庫鐵筋コンクリート二階建二十四坪、事務室十五坪其他で工費六千圓

◆田名部町
▽株式會社陸奥銀行支店新築、木筋コンクリート五十六坪、工費八千圓他に土地五十坪四千圓

▽田名部運輸軌道株式會社事務所増改築木造二階建、工費一千圓

◆東通村
▽老部尋常高等小學校舎新築建坪二百廿八坪、敷地二千十坪、總工費一萬九千四百六圓

▽田屋尋常高等小學校舎新築百九十八坪、敷地九百坪此總工費一萬六千九百圓

◆三戸郡

◆倉石村

▽又重尋常高等小學校講堂七間に五間を四年度で新築落成した

◆階上村
▽階上村立小舟渡尋常小學校新築、工費五千圓

◆館村
△賣市小學校本校舎二階建百二十坪、講堂兼體操場七十八坪、附屬建物六十八坪、教員住宅十七坪餘を新築、工費一萬五千圓

▽明治尋常高等小學校御眞影奉置庫(鐵筋コンクリート)新築工費六百九十圓

市街地建築物法發布

青森市に於ける市街地建築物法は昭和五年四月二十八日縣報第五百號で公布され五月一日より公布することとなつた。

市街地建築物法

青森市に於ける縣令市街地建築物法は四月二十八日縣報第五百號で公布され、五月一日より實施されたが施行細則は左の通りである。

市街地建築物法施行細則
第一條 本則に於て法と稱する

土木建築—道路改良工事

は市街地建築物法、令と稱するは市街地建築物法施行令、規則と稱するは市街地建築物法施行規則と謂ふ

第二條 法、令、規則又は本則に依り知事に提出すべき書類は正副二通と爲し所轄警察管署を経由すべし

第三條 本則に依る建築に關し他の法令に依り知事又は警察署長の許可又は認可を要するものあるときは其の法令に依る特殊の事項又は圖面を具し之を一括して知事に提出すべし

前項の規定に依る申請は本則及他の法令に依り之を爲したるものと看做す

前項の規定は届出に付之を準用す

第四條 書類提出の手續中記載事項又は圖面に變更を生じたるときは直に届出づべし

人に關する變更の場合には連署を命ずることあるべし

第五條 法、令、規則又は本則に依る申請及届出は其の申請

人又は届出人にして未成年者又は禁治産者なるときは其の法定代理人、準禁治産者なるときは其の保佐人、妻なるときは夫の連署を要す

第六條 建築主法適用區域外に居住する者なるときは建築工事管理人を定めしむることあるべし

第七條 申請又は届出の事項に付必要と認むるときは土地所有者又は建築物所有者若しくは占有者の承諾書を添附せしむることあるべし

第八條 幅員六尺以上九尺未満の道路に在りては道路の中心線より各四尺五寸後退したる線を以て建築線とす但し必要と認むるときは別に建築線を指定することあるべし

第九條 左の各號の一に該當する土地に於て必要と認むるときは建築線を指定することあるべし

一、道路開設なき一團のもの

二、建築物焼失せる一團のもの

三、建築物を除却せる一團のもの

第十條 建築線を指定、變更、廢止したるときは之を告示す但し申請に基き指定したるものに付ては申請者に對する通知を以て告示に代ふることあるべし

第十一條 建築線の指定を受けむとする者は申請書に左の事項を具し圖面を添付して知事に提出すべし

一、申請者の氏名住所(法人に在りては其の名稱事務所所在地代表者の氏名及住所)

二、關係土地の地名番號

三、申請の理由

四、申請に係る建築線の位置及建築線間の距離

第十二條 前條の申請者にして關係土地所有者に非ざるときは其の土地所有者及使用權者の氏名住所を記載し其の連署又は承諾書を添附すべし連署又は承諾を得ること能はざるときは其の旨記載すべし

第十三條 建築線の變更を請は

土木建築—道路改良工事

むとする者は建築線指定年月日記載番號を附記し第十條に準じ申請すべし
第十四條 規則第四條但書に依り前面突出の許可を受けむとする者は左の事項を具し圖面を添附して知事に提出すべし
一、建築主氏名及住所(法人に在りては其の名稱事務所所在地代表者の氏名及住所)

一、建築主氏名及住所(法人に在りては其の名稱事務所所在地代表者の氏名住所)
二、建築物の位置
三、建築物の種類
第十七條 規則第四百三十三條第一條第三號に該當する建築物左の通り指定す
一、建築面積五十坪以上の平家建
二、建築面積三十坪以上の二階建
三、階數三以上の建築物
四、木造に非ざる建築物
五、二軒以上に區劃する建築物
六、法、令、規則又は本則に依り特に認可を受くべき事項ある建築物
七、法第二十六條第二項の道路又は知事の特に指定したる建築線に接する敷地に建築する建築物
八、幅員九尺未満の通路に接する敷地に建築する建築物
第十八條 規則第四百三十三條の認可を受けむとする者は申請書に左の事項を具し摘要書設計書及圖面を添附して知事に提出すべし

書に左の事項を具し摘要書設計書及圖面を添附して知事に提出すべし
一、建築主の氏名及住所(法人に在りては其の名稱事務所所在地代表者の氏名及住所)
二、建築工事管理者あるときは其の氏名住所
三、認可を受けんとする事項には左の事項を記載すべし
一、主要用途
二、敷地々々番號
三、敷地所有者の氏名及住所
四、特に許可を受けんとする事項
五、申請に係る建築物の建築面積
六、建築工事請負人、建築工事設計者、工事監督者あるときは各々其の氏名住所
七、起工期日
八、竣工期日
第十九條 前條第一項の摘要書には左の事項を記載すべし
一、主要用途
二、敷地々々番號
三、敷地所有者の氏名及住所
四、特に許可を受けんとする事項
五、申請に係る建築物の建築面積
六、建築工事請負人、建築工事設計者、工事監督者あるときは各々其の氏名住所
七、起工期日
八、竣工期日
第二十條 第十八條第一項の設計書には左の事項を記載すべし

七二四
一、仕様書に示し難き構造設備
二、鐵筋コンクリート、鐵骨造に在りては其の主要部分の強度計算書
第二十一條 第十八條第一項の圖面は左の種別に依り作製すべし
一、配置圖
二、各階平面圖
三、立面圖
四、構造上緊要なる部の詳細圖
前項第一號乃至第三號の圖面は縮尺百分の一及五分の一の第四號に在りては縮尺二十分の一及五分の一とす
第二十二條 規則第四百三十三條の認可を爲したるときは建築認可證を交付す
第二十三條 規則第四百三十三條に依り認可を受けたる建築工事起工、竣工したるときは知事に届出づべし
第二十四條 前項の届出を受け支障なしと認めたるときは建築物使用認可證を交付す但し

申請者の請求に依り建築物竣工せる部分に付き使用認可證を交付することあるべし
第二十五條 第二十二條に依り建築認可證の交付を受けたる日より三ヶ月以内に起工せざるとき又は竣工期日を経過すること一年にして仍竣工せざるときは建築認可證は其の効力を失ふものとす、但し期間内に延期の手續を爲したる場合は此の限に在らず
第二十六條 規則第四百八條に依る臨検者は附録第一號様式の臨検票を携帯するものとす
第二十七條 建築工事に關する申請又は届出書類又は圖面の副本及認可證は常に建築場に備へ置き當該官吏員の要求あるときは之を呈示すべし
建築主は道路より踏易き箇所建築認可又は届出年月日及建築主氏名住所を明記したる木札の類を掲出すべし(木札の大きさは幅八寸以上長さ一尺五寸以上)

第二十八條 左の各號の一に該當するときは規則第四百三十三條の認可を取消し工事の中止を命じ又は其の建築物の除却改修其の他必要なる措置を命ずることあるべし
一、認可の書類圖面と相違したる工事を爲したるとき
二、申請書又は届書に不實の記載を爲したるとき
三、建築主三ヶ月以上所在不明なるとき
四、其の他法、令、規則又は本則に違反したるとき
五、保安上危険と認むるとき
六、衛生上有害と認むるとき
附則
本則は昭和五年五月一日より施行す

青森市の都市計畫
青森市の著しい膨脹からその都市計畫は昭和二年秋から實際問題化してゐたが、昭和四年六月十三日を以て愈々都市計畫法により實施されることとなり、それぞれ委員を選定した。
委員 青森縣知事平井三男、青森市長中野浩、青森縣内務部長福島繁三、警察部長足立達夫、仙臺逓信局長香西俊雄、仙臺鐵道局長伊藤勘助、内務技師坂本丹治、青森營林局長丸山佐四郎、第八師團參謀長高田美明、青森商工會議所會頭渡邊佐助、青森縣會議員梅村大、同加賀秀雄青森市會議員和田喜太郎、同石館喜久造、同千葉傳藏、同竹内千代吉
幹事 地方事務官眞崎長年、地方技師榊井照藏、青森市助役田中幸一郎
右の委員は四年十二月二十七日を以て内閣へ内申中であるが、一方青森市では市としての大體希望案を作製し、委員會の設立と共に之を委員會に附する段取りとなつてゐる。市の希望案大要は、瀧内村の一部、大野全村、筒井全村、濱館村一部、青森市三區域となし善知鳥神社を中心として四哩の圓を劃き(處によつては五哩の地點もあり)之に對して道路を布き適當に區劃して交通の便を圖り、衛生保安其

他の設備を施して都市計畫法第一條の目的に準據せんとするもので、事業の大要は
道路費百五十萬圓、區劃整理費二百萬圓、下水道費九十萬圓、港灣負擔金六十萬圓、計五百萬圓
之を二十ヶ年繼續事業とせば充分遂行の見込を有するものとされてゐる。然し之らは單に青森市の希望案大要であつて何れ委員會に於て具體的に講究を遂げ、それを中央委員會等に具申しその決定を内閣に具申して内閣が告示し事業に着手することになるのである。聽て委員會の決定により技術者並擔當者を決定し左記の都市計畫區域調査資料を作製することになつてゐるが、この調査資料作製のみならず二ヶ年を要する豫定である。
豫定區域圖▽人口増加圖表
▽市町村別人口増加法▽市町村別人口密度圖▽人口密度増加圖表▽時間帶圖▽交通機關配置圖▽河川運河港灣配置圖
▽上水下水道配置圖▽風向圖

土木建築—青森市の都市計畫

及風速圖▽工場統計表▽死亡
率統計表▽建物用途別現況圖
▽公園其他配置圖▽國府縣稅
及市町村稅

練兵場の分譲

歩兵第五聯隊は舊練兵場が狹隘
な關係から弘前市に移轉説さへ
傳へたので、青森市は市外駒込
に三十七萬坪の新練兵場を購求
して舊練兵場と交換した。市は
舊練兵場を利用すると共に新練
兵場敷地購入費に充當せんため
青森市管理理想的住宅地の建設を
計畫し舊練兵場を分割譲渡する
ことになった。新住宅には、八
間道路二線、七間道路一線、六
間道路三線、五間道路二線、四
間道路二線、三間道路一線を基
盤目に貫通し、西北の角に廣大
なる浪打小學校を建設した。右
道路及小學校敷地を除いた土地
二萬六千六百九十八坪三勺を三
百八十八筆に分ち昭和三年六月
四日から分讓を開始したが此の
見積金額四十一萬四千七百圓で
ある。

青森縣土木請負業組合

役員氏名

▽組合長 成田文吉▽副組合長 齋藤半兵衛▽幹事長 天內重一▽會計係 太田哲三▽幹事 中村隆吉 成田亥次郎、三橋安太郎、田中忠五郎、櫻田佐兵衛、山内與三郎、久保藤一郎、柏崎市太郎▽評議員 木村貴三郎、張山淺吉、長尾武城、花田政次郎、須藤岩太郎、工藤勝雄、齋藤源六、藤田重助、野呂芳藏、山内樵助、飯田廿五郎、河野金右衛門、青村源次郎、佐藤宇左衛門、江渡英夫、石田平十郎

組合員氏名

▽東郡 蟹田村 張山淺吉、横内村 對馬巖、蟹田村 中村隆吉、油川町 天內重一、新城村 坂本慶作、東嶽村 木村貴三郎
▽青森市、太田哲三郎、成田文吉
▽北郡 嘉瀬村 花田政次郎、五所川原町 尾崎市太郎、齋藤半兵衛、木村長吉、喜良市村大橋

運次郎、榮村葛西輔之助、飯詰村 其田磯吉、其田萬吉、北畠文喜、金木町津島市五郎、白川常吉、三好村長尾武城、六郷村 成田亥次郎、七和村 雨森作太郎、内湯村 佐々木兼次郎
▽下北郡 大畑村 井上八郎治、川内町 河野金右衛門、大湊町 山内與三郎
▽上北郡 野邊地町 飯田廿五郎、七戸町 石田平十郎、山本七五郎、駒ヶ峰 倉太、藤坂村 江渡英夫、百石町 越後與一郎、下田村 柏崎市太郎、天間林村 澤田榮八
▽西郡 越水村 大澤仁助、坂本榮造、十三村 浦田熊吉、館岡村 野呂善造、舞戶村 工藤勝男、松田惣作、出精村 福島泰二、赤石村 今勘太郎、深浦村 小林友三郎、水元村 秋庭德壽、稻垣村 佐藤長壽、車力村 佐々木四五六、館岡村 木村太次郎、三橋安太郎、木造町 三國精一、赤石村 清野信之助、鯉ヶ澤町 須藤岩太郎、柴田村 須藤淺吉、杉森鐵太郎

▽中郡 堀越村 一戸淺吉、新和村 花田岩之助、藤代村 小山内卯作、裾野村 工藤金一、高杉村 藤田重助、堀越村 小堀竹四郎、和徳村 齋藤源六、齋藤茂、清藤勇吉、岩木村 三上宇三郎、藤代村 三浦磯吉
▽弘前市、田中忠五郎、成田常三郎、古川周次郎、三上專九郎
▽南郡 藤崎町 一戸育次郎、大杉村 野呂芳藏、石川町 工藤才吉、工藤四郎兵衛、浪岡村 山内樵助、山内堅藏、淺瀬石村 櫻田佐兵衛
▽三戸郡 北川村 石塚輔美、上郷村 穂積虎吉、館村 沼館與惣治、戸來村 高橋克衛、北川村 中村榮太郎、倉石村 久保藤一郎、館村 柳村松之助、三戸町 寺本尚仙、斗川村 佐藤宇左衛門、五戸町 北源吉、市川村 木村定吉
▽八戸市、地代所新藏、大久保萬之助、近藤元太郎、青村源次郎

交通通信

國道路線名及び里數 (昭和五年三月末現在)

路線名	重要なる縣内經過地	道路延長	橋梁延長	計
四號路線	三戸郡留崎村、三戸町、平良崎村、淺田村、五戸町、上北郡東郡小湊村、青森市	二九・〇一・五	〇・三・〇二	二九・三・一七
五號路線	南郡碓ヶ關村、弘前市、(和徳)南郡藤崎町、浪岡村、大杉村、東郡新城村、瀧内村、青森市	一七・二六・九	〇・〇九・四二	一八・〇・〇
計		四六・二七・三	〇・四・四三	四六・七・一七
縣道路線名並に里數	(昭和五年三月末現在)			
路線名並に區間	里數			
青森、八戸線(三戸郡淺田村、八戸間)	里數 四〇・九・四六			
青森、田名部線(野邊地、田名部間)	里數 一四・〇・〇〇			
交通通信——國道路線名及び里數——縣道路線名並に里數				

交通通信——縣道路線名並に里數——市町村道路の延長及里數

古間木停車場岡三澤線	〇・三九・〇〇	葎田、五所川原線	三・六・五五	鳴澤停車場南浮田線	〇・〇・五〇	板柳停車場、太田線	〇・二・〇〇
百石、三本木線	五・〇・四〇	七和、鶴田停車場線	一・三・〇〇	鶴ヶ澤停車場、道佛線	〇・〇・五〇	八幡、金木線	一・九・〇〇
島守、八戸線	二・三・三三	梅ヶ澤、板柳線	〇・三・三三	階上停車場、荒川線	〇・八・〇〇	鶴泊停車場、胡桃館線	〇・三・三三
市川、五戸線	三・三・三三	館岡、板柳線	二・〇・〇〇	青森停車場、荒川線	一・〇・〇〇	鶴泊停車場、葛蒲川線	〇・九・〇〇
上市川、尻内停車場線	一・七・〇〇	館岡、金木線	二・三・三三	再賀、木造線	一・三・三三	四和、下田停車場線	三・七・〇〇
尻内停車場、田面木線	〇・六・九〇	越木、木造線	一・三・三三	吹上、黒石線	二・六・二五	合計	四四里三町三間
八戸、輕米線	四・三・五五	豐川、五所川原線	二・五・〇三	大鰐、藏館線	三・〇・三三		
劍吉停車場、輕米線	三・一・四六	金木、十三線	一・九・三三	梅田、藤崎線	〇・五・九〇		
市の澤、高橋線	三・〇・四六	森田、板柳線	一・二・三三	乙供停車場、平沼線	三・〇・三三		
羽井内、五戸線	八・八・三三	水元、五所川原線	一・四・〇〇	弘前、猿賀線	〇・八・〇〇		
戸來、三戸停車場線	四・〇・〇〇	弘前、久遠寺線	一・〇・〇〇	岩木、鶴ヶ澤線	五・三・〇〇		
八戸、久慈線	四・三・〇〇	賀田、板柳線	二・三・〇〇	小泊、十三線	〇・五・〇〇		
倉石、劍吉停車場線	三・三・八〇	弘前、高照線	〇・八・五九	法量、七戸線	三・七・三三		
狩場澤停車場、折戸線	〇・〇・〇〇	浪岡、黒石線	二・一・六〇	陸奥横濱停車場泊港線	三・二・〇〇		
野内停車場野内線	〇・〇・〇〇	黒石、藤崎線	一・七・二二	葛川、大鰐線	三・八・二四		
筒井、浪岡線	六・三・〇〇	大鰐、藤崎線	三・〇・五五				
青森、休屋線	一・〇・四七	柏木町、弘前線	一・一・〇五				
蟹田、三厩線	六・三・〇〇	石川停車場石川線	〇・〇・〇〇				
小泊、三厩線	五・五・五〇	黒石、猿賀線	〇・〇・三三				
黒石、七和線	三・八・〇〇	浪岡停車場野澤線	〇・〇・三三				
五所川原、七和線	一・六・三〇	相馬、弘前線	一・三・三三				
藤崎、七和線	三・七・五二	新里、弘前停車場線	一・〇・四二				
七和、飯詰線	一・三・〇〇	常盤停車場、徳下線	〇・二・一六				
飯詰、喜良市	二・〇・八二	常盤停車場、榑線	〇・五・三三				
喜良市、金木線	〇・〇・〇〇	木造停車場線	〇・五・一〇				
板柳、七和線	一・五・三六	森田停車場森田線	〇・〇・三三				
飯詰、五所川原	一・〇・三二						
停車場線	一・〇・三二						

市町村道路の延長及里數 (昭和四年末)

青森市	八・〇・九三	計	八・〇・七三
弘前市	三・〇・七六	市道	一・〇・七三
東津輕郡	二・〇・七五	町村道	一・〇・〇〇
西津輕郡	九・〇・九〇	計	二・〇・七三
中津輕郡	三・九・三三		
南津輕郡	三・三・六〇		
北津輕郡	三・六・二五		

七二八
 板柳停車場、太田線 〇・二・〇〇
 八幡、金木線 一・九・〇〇
 鶴泊停車場、胡桃館線 〇・三・三三
 鶴泊停車場、葛蒲川線 〇・九・〇〇
 四和、下田停車場線 三・七・〇〇
 合計 四四里三町三間
 (註) 認定路線延長より短きものあるは他の路線を差引いたからである、例へば鶴ヶ澤、板柳線の三三町、三二間は認定路線延長は五里三五町三二間なるも、青森鶴ヶ澤線、弘前鶴ヶ澤線、弘前木造線の一部を差引いたものである。

縣内各驛乗降人員及收入 (一日平均)

上北郡	乗客	降客	收入	昭和三年度	昭和四年度
下北郡	乗客	降客	收入	昭和三年度	昭和四年度
三戸郡	乗客	降客	收入	昭和三年度	昭和四年度
計	乗客	降客	收入	昭和三年度	昭和四年度
八戸	乗客	降客	收入	昭和三年度	昭和四年度
青森	乗客	降客	收入	昭和三年度	昭和四年度
浦内	乗客	降客	收入	昭和三年度	昭和四年度
浪打	乗客	降客	收入	昭和三年度	昭和四年度
野虫	乗客	降客	收入	昭和三年度	昭和四年度
浅内	乗客	降客	收入	昭和三年度	昭和四年度
小湊	乗客	降客	收入	昭和三年度	昭和四年度
狩場	乗客	降客	收入	昭和三年度	昭和四年度
野地	乗客	降客	收入	昭和三年度	昭和四年度
千曳	乗客	降客	收入	昭和三年度	昭和四年度
乙供	乗客	降客	收入	昭和三年度	昭和四年度
沼崎	乗客	降客	收入	昭和三年度	昭和四年度
古木	乗客	降客	收入	昭和三年度	昭和四年度
下田	乗客	降客	收入	昭和三年度	昭和四年度
尻内	乗客	降客	收入	昭和三年度	昭和四年度
北岩	乗客	降客	收入	昭和三年度	昭和四年度
劍吉	乗客	降客	收入	昭和三年度	昭和四年度
三戸	乗客	降客	收入	昭和三年度	昭和四年度
津輕	乗客	降客	收入	昭和三年度	昭和四年度
陸奥	乗客	降客	收入	昭和三年度	昭和四年度
階上	乗客	降客	收入	昭和三年度	昭和四年度
種差	乗客	降客	收入	昭和三年度	昭和四年度
種上	乗客	降客	收入	昭和三年度	昭和四年度
陸奥	乗客	降客	收入	昭和三年度	昭和四年度
津輕	乗客	降客	收入	昭和三年度	昭和四年度
青森	乗客	降客	收入	昭和三年度	昭和四年度
弘前	乗客	降客	收入	昭和三年度	昭和四年度
東津輕	乗客	降客	收入	昭和三年度	昭和四年度
西津輕	乗客	降客	收入	昭和三年度	昭和四年度
中津輕	乗客	降客	收入	昭和三年度	昭和四年度
南津輕	乗客	降客	收入	昭和三年度	昭和四年度
北津輕	乗客	降客	收入	昭和三年度	昭和四年度

交通通信——縣内各驛乗降人員及收入

交通通信——縣内各驛貨物發著表

驛名	昭和三年度		昭和四年度	
	發送	到着	發送	到着
鶴泊	三三	三三	三六	三六
陸奥鶴田	二二	二二	二二	二二
五所川原	六三	六三	六三	六三
木造	四〇	四一	四〇	四〇
陸奥森田	一八一	一八一	一八一	一八一
鳴ヶ澤	七四	七六	七四	七四
陸中野	二九六	二九七	二九六	二九六
侍濱	一	一	一	一
陸中夏井	一	一	一	一
久慈	一	一	一	一
陸奥赤石	一	一	一	一
合計	一九、三九	一九、〇三	一九、九六	一九、〇八

備考 陸中野、侍濱、陸中夏井、久慈、陸奥赤石の五驛は昭和四年度の施設とす。

縣内各驛貨物發著表 (一日平均)

驛名	昭和三年度		昭和四年度	
	發送	到着	發送	到着
三戸	八七	八八	八七	八七
劍吉	三三	三三	三三	三三
北高	一六	一六	一六	一六
尻内	三〇	三〇	三〇	三〇
下田	二八	二八	二八	二八
古間	八五	八五	八五	八五
沼崎	二四	二四	二四	二四
乙供	一六	一六	一六	一六

驛名	昭和三年度	昭和四年度
弘前	三九、九	三九、九
川部	三三、二	三三、二
北常盤	一三、七	一三、七
浪岡	五三、一	五三、一
大津	九一、一	九一、一
津輕新城	六、一	六、一
黒石	二六、〇	二六、〇
藤崎	四、四	四、四
板柳	五三、二	五三、二
陸奥鶴田	二四、六	二四、六
五所川原	六三、三	六三、三
木造	二六、五	二六、五
陸奥森田	一五、四	一五、四
鳴ヶ澤	一、一	一、一
陸中野	二七、〇	二七、〇
侍濱	一、一	一、一
陸中夏井	一、一	一、一
久慈	一、一	一、一
陸奥赤石	一、一	一、一
合計	三、二	三、二

縣内鐵道料金表

(料金は凡て青森驛を基準とする三等料金とす、二等はその倍額とす)

線名	距離	料金
大湊線	戸0.8	陸奥横濱一、六
川部線	川1.3	田名部一、六
八戸線	一、五	陸奥湊一、五
陸奥赤石線	一、三	陸奥中野二、〇
陸奥赤石線	一、三	陸奥赤石一、七
三本木線	三、一	陸奥赤石一、七
五所川原線	五、七	陸奥赤石一、七
津輕線	七、三	陸奥赤石一、七
弘前線	九、九	陸奥赤石一、七
野邊線	一、一	陸奥赤石一、七
小湊線	一、一	陸奥赤石一、七
野邊線	一、一	陸奥赤石一、七
乙供線	一、一	陸奥赤石一、七
古間線	一、一	陸奥赤石一、七
尻内線	一、一	陸奥赤石一、七
劍吉線	一、一	陸奥赤石一、七

五能鐵道(昭四、一、三六)

五所川原及秋田縣能代を連結

交通通信——縣内鐵道料金表——鐵道電信取扱驛——五能鐵道

交通通信——久慈線——五戸電鐵——津輕鐵道——森林鐵道——仙鐵教習所——自動車

する目的を以て秋田建設事務所の手で能代と五所川原の両方から工を起し、現在開通して居るのは秋田縣は岩館迄、本縣は五所川原餘ヶ澤間開通後續いて昭和四年十一月二十六日赤石迄開通したが、その後經費の關係上本縣の分は一時中止の形勢にあり、秋田縣で遅々として工を進めて居るに過ぎない。豫定線百二十二軒五百四十六米中能代方面は二十五軒百七十四米、五所川原方面は二十八軒二百九十八米だけ開通し、未開通線六十九軒七十四米に比すれば未だ半ばに達せず、加之現在の工事状態不活潑なので全線開通迄には尙ほ多大の年月を要する模様である。

五戸電鐵(昭五、三、二五)

尻内と五戸を連絡する五戸電鐵は大正十四年四月二十七日鐵道省の認可を得、昭和三年八月起工、八月二十二日豊崎村七崎迄開通、十月十日、同村志戸岸驛迄開業し、その後工事が進捗して昭和五年三月二十五日竣工、四月三日全通式を舉行するに至つた。張田、正法寺の兩停留場、七崎、志戸岸の兩驛及び地藏の停留場がある、更に奥羽山脈を貫き十和田湖畔を迂回して宇樽部、休屋、大湯温泉を経て秋田縣毛馬内に延長する第二期計畫があるが、未だ著手の運びに至つて居ない。

森林鐵道(民間貸下)

青森縣内に於ける森林鐵道の總延長間数は五萬六千三百九十九間で其の他に軌道十三萬六千五百三十三間を有して居る、尙ほ參考の爲青森營林局で開鑿した道路を附記すれば歩道二百一萬六千八百七十九間、牛馬道八萬七千七百二十八間、車道三萬九百七十八間に達して居る森林鐵道

仙鐵教習所

仙臺鐵道局教習所は大正九年の創設に係り種々の變遷を経て後現在では専修部のみを置いて居る、専修部には驛員車掌科、電信科、機關手科、機關助手科、檢車手科を置き電信科は定員の半數づゝを二組に分割募集し信號操車科は特設せずその志願者を驛員車掌科に合併して教育する事になつて居る。

自動車

昭和五年四月末現在の本縣の自動車數の状態は次の通りである。

乗合	乗用	貨物	合計
二五	二五	三七	五九

乗合自動車路線並賃金表及びその料金は次の通りである。

津輕鐵道(本年中に全線開通)

久慈線(昭五、三、二七) 八戸市から岩手縣久慈に至る此の線路は大正七年議會の協賛を経て國有鐵道に編入せられ大正九年四月測量に着手、全區間を六工區となし十一月起工したが、大正十三年八月、種市間十

乗合自動車路線並賃金表

青森驛—堤橋	八戸—市內	一〇〇	黒石—尾上	二〇〇
堤橋—八重田	八戸—常盤野	一〇〇	黒石—常盤	三〇〇
堤橋—筒井	八戸—鮫	一〇〇	藤崎—川部	一五〇
青森驛—小濱	八戸—田代	一〇〇	尾崎—弘前	五〇〇
青森—横内	八戸—島守	一〇〇	浪岡—黒石	三〇〇
青森—浅虫	八戸—市ノ澤	一〇〇	浪岡—藏館	三〇〇
浅虫—水族館	八戸—新井田	一〇〇	浪岡—猿賀	六〇〇
青森—小館	八戸—階上	一〇〇	石川—石川驛	一〇〇
青森—新城	八戸—久慈	一〇〇	石川—弘前	一〇〇
青森—油川	三戸驛—三戸町	一〇〇	沖館—唐竹	二〇〇
蟹田—蟹田	三戸町—夏坂	一〇〇	碓ヶ關—湯ノ澤	五〇〇
三厩—板柳	三戸町—田子	一〇〇	深浦—岩崎	二〇〇
青森—下湯	田子—宇樽部	一〇〇	岩崎—岩館	一、五〇
青森—酸湯	三戸町—五戸町	一〇〇	餘ヶ澤驛—大和田	一〇〇
小湊—浅虫	上名久井—劍吉	一〇〇	餘ヶ澤—赤石	一〇〇
小湊—雷電橋	三戸町—上名久井	一〇〇	木造—十三村	二、四〇
小湊—狩場澤	五戸—尻内	一〇〇	木造—豊川	一、〇五
弘前—板柳	五戸—劍吉	一〇〇	沼崎—五所川原	九〇〇
弘前—藤崎	五戸—戸來	一〇〇	五所川原—大釋迦	七〇〇
悪戸—弘前	五戸—八戸	一〇〇	五所川原—金木	八〇〇
悪戸—五所	五戸—市川	一〇〇	金木—小泊	二、三〇
悪戸—如來瀨	五戸—下田	一〇〇	金木—武田	一、〇〇
弘前—百澤	黒石—板留	一〇〇	七戸—沼崎	一、〇〇
	黒石—川部	一〇〇	七戸—三本木	六〇〇
	温湯—板留	一〇〇	七戸—野邊地	一、五〇
	温湯—川部	一〇〇	七戸—千曳	一、〇〇

青森港は明治三十九年勅令を
七三三

交通通信—港灣—定期航路線—灣内航路—移出入景況

以て開港に指定せられ港界は最
初石山の鼻から正西に引いた一
線以内であつたが大正元年に鼻
線岬に變更、港内水面積九百九
十五萬五千坪、防波堤による包
圍面積四萬一千七百坪で港内設
備は三防波堤、四燈臺、二浮燈
臺を始め略々完備して居る。明
治四十年第二種重要港灣に選定
された。輸入品は最初制限があ
つたが大正十一年に撤廢され縣
下殊に青森市木材、工業、漁獲
物加工製造業等の急激な膨脹に
よつて商取引範圍擴大せられ海
外貿易は最初浦鹽に止つたのが
現在は露領沿海州全部、關東州
支那、南洋ボルネオ、英領海峽
殖民地、英吉利、北米合衆國、
獨逸、白耳義、和蘭、希臘、亞
弗利加、墨西哥等歐米各地をも
含むに至り最近一ヶ年間青森港
の吞吐貨物は百五十萬噸内外、
その價格二億圓を突破して居る
而して以上の如き發展は第一期
修築工事に依る現在の青森港築
港設備の規模の小、不利不便を
感ぜしむるので更に總工費一千

定期航路線

灣内外の定期航路線は左の如
く此の外不定期の自由航路頗
る多く南洋ボルネオ島、臺灣、
上海、大連方面にも航路の連絡
がある。

灣内航路

灣内各船航路及寄港地左の如
くである(扱店、代理店、出張
所は青森の分て他航路も之に倣
ふ)

△下北線
就航船 東北丸(一九噸)陸奥
灣丸(一三四噸)八甲田丸(一
四三噸)東北商船株式會社所
有船、小倉回漕店扱毎日一航
海
寄航地 青森起點 脇野澤、宿
野部、川内大湊

△上磯線
就航船 函館市役所命令航路、
南部丸(八七噸)宇鐵漁業組合
所有船、堀谷回漕店扱隔日一
航海
陸奥灣丸(一三四噸)東北丸
(一一九噸)八甲田丸(一四三
噸)東北商船株式會社所有船
小倉回漕店扱隔日一航海
寄航地 青森起點、後湯、蟹田
二ツ家、平館、宇田、奥平部
婁月、今別、三瓶、釜の澤、
宇鐵、板柳、龍飛
△外南部線
就航船 青森縣廳命令航路、第
五八幡丸、第一八幡丸、第二
八幡丸、北洋丸(全部發動機
船)奥戸村奥佐運輸株式會社
所有船、丸共鈴木回漕店扱月
十五航海
寄航地 青森起點、牛瀧、長後
磯谷、矢越、佐井、原田、村
木、奥戸、大間、蛇浦、易國
間、下風呂
△浦鹽航路
就航船 逕信省命令航路、昌福
丸(三、五六二噸)東裕丸(一、

八五〇噸)川崎汽船株式會社
所有船、磯野回漕店扱年二十
航海
寄航地 小樽起點、浦鹽、七尾
館 伏木、新潟、船川、青森、函
館
△樺太航路
就航船 逕信省命令航路、千歳
丸(一、六七〇噸)營口丸(一、
八五〇噸)近海郵船株式會社
所有船、同會社青森出張所扱
月六航海
寄航地 函館起點、青森、小樽
大泊、眞岡、本斗
就航路樺太廳命令航路、明大
丸(三、六五〇噸)能代丸(三、
五五〇噸)川崎汽船株式會社
所有船、磯野回漕店扱年十二
航海(四月—十二月)
寄航地 大阪起點、神戸、芝浦
横濱、青森、函館、小樽、大
泊、榮濱、元泊、東知取、敷
香
△移出入景況
移出 移入
昭和三三年 二、三三三 六、三三三

昭和四年 九、三四〇 六、四五〇

函館航路

就航船 鐵道省連絡船 翔鳳丸
(三四六〇噸)津輕丸(三四八
四噸)松前丸(三四二九噸)飛
鷹丸(三四五九噸)第一青函丸
(二二二六噸)各船共平均一日
三航海
東星丸(一四一噸)函星丸(一
五五噸)新星丸(九九噸)大星
丸(二二一噸)昭星丸(一三〇
噸)室蘭經由函館行)函青汽
船株式會社所有船、丸共鈴木
回漕店扱毎日一航海、但し昭
星丸のみ一週間一航海
青函連絡の貨物數量左の通り
上り(北海道より)

下り(北海道へ)

米 三年度 四年度
甘薯果物類 三、九三二 四、六一五
味噌醬油 五、〇七三 五、一〇九
味噌醬油 一、二七三 一、五〇八
製 品 六、六九 八、〇四
其 他 三、三四四 三、二四
計 四、一三〇 四、三三四
△備考 數字は盈車輛數を示し
車輛積載噸數は平均上り十噸
下り八噸の標準とす。
室蘭航路
北海道長萬部輪西線の影響を
被り乗降客、貨物扱共に左表の
如く漸減を示して居る。

Table with columns for cargo types (馬鈴薯, 雜穀, 鮮魚, 鹽魚, 肥料, 其他) and years (三年度, 四年度). Values represent tonnage.

Table with columns for passenger types (青森乗船, 青森上陸, 貨物扱) and years (三年度, 四年度). Values represent passenger counts.

交通通信—灣内航路

就航船 逕信省命令航路 四月
より十月迄三國丸(九八五噸)

豐原丸(八〇五噸)十一月より
三月迄宮島丸(一五三四噸)伏
木丸(一三三二噸)北日本汽船
株式會社所有船、同社青森出
張所扱毎日一航海
幸丸(二八〇噸)三菱鐵業
株式會社所有船、磯野回漕店
扱月十五航海
伏木航路
就航船 第一常盤丸(八九三噸)
第二常盤丸(八八五噸)甲辰丸
(七〇八噸)藤山汽船株式會社
所有船、磯野回漕店扱月六航
海
寄航地 小樽起點、青森、函館
新潟、伏木
小樽航路
就航船 北海道廳命令航路、東
照丸(六〇〇噸)樺太丸(四五
〇噸)藤山汽船株式會社所有
船、磯野回漕店扱月五航海
寄航地 小樽起點、古平、余別
神惠内、岩内、壽都、瀬棚、
奥尻、久遠、熊石、江差、函
館、青森
釧路航路

就航船 第二萬洋丸(二〇〇噸)
東海運輸合資會社所有船、青
森運輸株式會社扱月六航海
寄航地 函館起點、青森、釧路
厚岸、霧多布
北海道廳命令航路東郷丸
(三〇三噸)東海丸(三〇一噸)
金森商船株式會社所有船、堀
谷回漕店扱月五航海
寄航地 函館起點、青森、小越
庶野、猿留、廣尾、大津、釧
路
日高航路
就航船 北海道廳命令航路東山
丸(三一八噸)東春丸(二六七
噸)東龍丸(一九七噸)金森商
船株式會社所有船、堀谷回漕店
扱月五航海
振洋丸(一五三噸)平隠丸
(一九九噸)三好商會汽船部所
有堀谷回漕店扱月三航海
寄航地 函館起點、三石、鬼舞
後邊戸、浦河、様似、幌泉、
青森
網走千島航路
就航船 大隅丸(一二八四噸)小
樽丸(一四六四噸)近海郵船株
七三五

交通通信——青森、弘前、八戸三局通信收入

五所川原	三本木	尾駱	土手町	七三八
小泊	奥入瀬	青森市	和徳	
相内	大深内	弘前市	濱ノ町	
上北郡	一ノ坂	弘前市	富田	
野邊地	藤坂	弘前市	弘前驛前	
百石	乙供	弘前市	駒越	
古間木	甲地	弘前市	八戸市	
泊田	横濱	弘前市	八戸市	
三澤	天間林	弘前市	八戸市	
下田	犬落瀬	弘前市	八戸市	
平沼	七戸	弘前市	八戸市	
沼崎	十和田湖	弘前市	八戸市	

青森、弘前、八戸、三局通信收入

種別	昭和三年度		昭和四年度	
	青森	弘前	青森	弘前
切手収入	六四三、三三九	二九、〇四四	六四三、三三九	二九、〇四四
郵便収入	一四六、三五〇	三七、五五五	一四六、三五〇	三七、五五五
電信収入	二、〇七三	一、五九八	二、〇七三	一、五九八
電話収入	三、〇四二	二、七四〇	三、〇四二	二、七四〇
其他収入	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
臨時部	三六、八九〇	一、六七二	三六、八九〇	一、六七二
印紙収入	五五、四三〇	一、六三三	五五、四三〇	一、六三三
合計	一、〇六三、七九〇	四七、一八二	一、〇六三、七九〇	四七、一八二

縣下主要局成績

(電話は市外發信通話時數を示す)

局名	昭和二年				昭和三年				昭和四年			
	電信	電話	爲替	小包	電信	電話	爲替	小包	電信	電話	爲替	小包
油川	發四、八四九	振出口	二、七三三	引受	二、五五七	五、五九六	二、九〇八	三、四四四	二、八六七	四、五〇八	二、八二〇	二、八九六
着六、九四五	拂渡	三、三一一	配達	三、五九九	七、五一九	二、九〇八	三、三三四	三、五五五	三、五七一	六、三三〇	三、四八〇	四、一四七
小湊	四、四七三	振出口	三、四〇八	引受	二、五五七	五、五九六	二、九〇八	三、四四四	二、八六七	四、五〇八	二、八二〇	二、八九六
七、四九二	拂渡	三、三一一	配達	三、五九九	七、五一九	二、九〇八	三、三三四	三、五五五	三、五七一	六、三三〇	三、四八〇	四、一四七
木造	八、〇五〇	振出口	六、八〇七	引受	五、〇二四	八、九〇二	三、九〇九	六、八〇七	五、〇二四	八、九〇二	三、九〇九	五、〇二四
八、九五九	拂渡	三、三一一	配達	三、五九九	七、五一九	二、九〇八	三、三三四	三、五五五	三、五七一	六、三三〇	三、四八〇	四、一四七
黑石	二九、七四三	振出口	一〇、〇〇四	引受	七、六三二	二七、九八四	六、一〇一	二五、四三九	九、三三二	二五、五三〇	七、三三二	二八、五三〇
三〇、九八八	拂渡	八、〇一一	配達	八、八八八	二七、〇八一	六、一〇一	二五、四三九	九、三三二	二五、五三〇	七、三三二	二八、五三〇	二九、七四三
藤崎	一三、四二四	振出口	二、七三三	引受	一、六七五	一三、七六八	一、六三三	一、六三三	一、六三三	一、六三三	一、六三三	一、六三三
一五、六六八	拂渡	二、八二一	配達	二、八二一	二、八二一	二、八二一	二、八二一	二、八二一	二、八二一	二、八二一	二、八二一	二、八二一
石川	三、一五四	振出口	一、九七八	引受	八七七	二、四五三	五五一	三五五、九九二	七一	四、〇七一	六六二	未調査
五、二四一	拂渡	二、〇〇〇	配達	三、四三三	三、四三三	三、四三三	三、四三三	三、四三三	三、四三三	三、四三三	三、四三三	三、四三三
大鰐	二、五三三	振出口	五、二五四	引受	三、九一六	二、四五三	三、四三三	三、四三三	三、四三三	三、四三三	三、四三三	三、四三三
一五、一八七	拂渡	二、〇〇〇	配達	八、六三三	二、九一六	二、四五三	三、四三三	三、四三三	三、四三三	三、四三三	三、四三三	三、四三三
交通通信——縣下主要局成績	三〇、一六八	振出口	五、二五四	引受	三、九一六	二、四五三	三、四三三	三、四三三	三、四三三	三、四三三	三、四三三	三、四三三
	一五、五三三	拂渡	二、〇〇〇	配達	八、六三三	二、九一六	二、四五三	三、四三三	三、四三三	三、四三三	三、四三三	三、四三三
	一九五、五三三	振出口	五、二五四	引受	三、九一六	二、四五三	三、四三三	三、四三三	三、四三三	三、四三三	三、四三三	三、四三三
	七三九	拂渡	二、〇〇〇	配達	八、六三三	二、九一六	二、四五三	三、四三三	三、四三三	三、四三三	三、四三三	三、四三三

交通通信——縣下主要局成績

五所川	二、三六九	金三三三、七三六、九三	九、九九七	一八、八四八	三、四二一	八、五五〇	一七、九二二	三、五三三	八、〇一四
原	一九、八四四	金二七、九七一、二八	一九、八五八	一八、五七四	一八、八八〇	四九、一八二	一七、八九二	一八、九七五	一八、六二九
金木	五、三九四	金二〇、二四四、一三	四、〇一三	四、九八六	一七、五八四	一五、七六二	五、二四一	一六、九〇五	四、一七一
野邊地	一〇、一六四	金二、二七五	二、二七五	六、〇五六	五、七、三五五	二、四七二	六、三三三	二、四〇六	一、〇四四
三本木	二、三三八(市内外)	八、五二四	五、九〇六	八、六三三	二、五七四	一、四六五	二、五七四	一、四六五	二、五七四
田名部	一四、七五	一〇、一九一	七、七三二	一一、五七九	一〇、五九九	七、七七七	一〇、七七八	九、九七九	八、〇〇五
大湊	六、四四六	金三〇、一四三、〇〇	四、六七七	五、一〇八	二、四九二	五、〇六六	四、九八二	三、九八	九、七八一
三戸	一四、〇六八	金一九九、三〇五、二八	六、七四二	一一、五七	一九、四八二	七、二二	九、四九	一六、六八一	六、四〇九
田子	未取扱	三、三三九	一、三五八	未取扱	四、五七三	一、七三一	未調	查	二、八八四

縣下電話組合

東郡(小湊) 昭和三年五月一日開通、加入者二、町村電話に付組合なし(淺虫)大正十年十二月二十六日創立、組合員數百三名、組合長米田千代吉(辭表提出中)副組合長鎌田彦三郎、幹事平田義造、成田藤太郎、木村庄左衛門、蝦名伊右衛門、宮本久三郎

西郡(木造) 大正十年十月十六日創立、組合員數百六名、組合長葛西麟平、副組合長松木逸郎、理事加福熊吉、市田和兵衛、川島忠吉、高井平次郎、田附証吉

南郡(藤崎) 明治四十四年十一月二十六日創立、加入者四十七名、組合なし(尾上)大正十五年二月一日創立、組合員數四十一名、組合長西谷嘉三郎、理事西谷理三郎、正井理一郎、田邊文次郎、西谷壽朗、幹事岩淵豐太郎、横原忠助(浪岡)昭和二年一月二十三日創立、組合員四十五名、

北郡(金木) 大正十四年三月二十一日創立、組合員數五十一名、組合長津島忠次郎、理事伊藤豐吉、大橋豐吉、蝦名元太郎(鶴田)昭和三年七月二十八日創立、組合員三十四名、組合長澁谷文男、理事齋藤了三、玉井吉太郎、太田彦兵衛、山田松三郎、高島多作當麻源三、顧問赤城作太郎、

五所川原 (五所川原) 明治四十四年十一月六日開通、加入者百七十四名、組合なし。

上北郡(百石) 昭和五年三月一日開通、役場電話二個のみにして組合なし。(七戸)大正九年十二月十五日創立、組合員百三十二名、組合長藤島鶴、理事中原秀太郎、中野吉太郎、戸館常助、田中平治郎、松島大景(三本木)大正十年八月十日創立、組合員百二十九名、組合長原田鐵治、理事菅原福次郎、和島貞藏、益川東太郎、井關友彦、土屋寛

下北郡(大畑) 大正十五年二月十一日創立、組合員四十三名、組合長濱田與一郎、評議員佐藤佐五郎、立花兼松、木村熊吉、菊池察玄、蛇穴源吉(田名部)大正元年十二月二十六日創立、組合員六十三名、組合長二本柳常五郎、副組合長岸本庄太郎、理事遠藤雪、山本半治、飯田六次郎、濱中庄三郎(川内)昭和二年八月三十日創立、組合員三十八名

八戸市(鮫) 明治四十四年十月一日創立、組合員四十一名、組合長荒井八十八、理事石田多吉、西野兵五郎(八戸)明治四十二年五月二十六日開通大正九年十月一日普通電話に變更、加入者六百二十一名

遞信講習所 仙臺遞信講習所青森支所は大正十年五月に通信生養成所から支所になつたもので青森市浪打に於て卒業した者は管内各郵便局へ通信事務員として月給二十五圓程度で奉職の道がある。實務に就く事一ヶ年以上にして中學校三年修了程度の學科試験及技術試験に合格すれば、仙臺遞

交通通信——縣下電話組合——遞信講習所

信講習所高等科へ入學する事が出来る。

△入學資格 男子は滿十四歳以上十八歳迄、女子は滿十四歳以上にして卒業後雇用する局長の推薦ある者に限る(但し現在は寄宿設備の關係上仙臺に入學せしめる事となつて居る)

△入學試験人物考査、心理検査、學科試験に分れ此の三つに合格したる者に對してのみ體格検査を行ふ

△卒業(三年) △科目、算術、講義、作文

△募集人員 年により異なるが平均四十名内外

△入學後の資格 給費生には日額六十錢の手當を支給し卒業後の義務年限一ヶ年とす

△教科目 修身、英語、數學、算術、代數、國語、地理、事業衛生、體操、通信術、業務法規、電機取扱心得

傳書鳩

東北鳩協會 東北鳩協會は大正十三年十一月中江貞市氏等の奔走で設立以來會則に基き各種の事業を行ひ普及宣傳に努め、今日の盛況を呈してゐるが、同會では毎年の行事として春秋二回に互ひ、傳書鳩競翔會を開催して來た。

海峽橫斷競翔大會 昭和四年東北鳩協會主催東奥日報社後援の北鳩協會より津輕海峽橫斷競翔大會を行ひ、各方面から人氣を呼んだ參加鳩數は三十五羽でその結果、北郡板柳町安田爲藏氏所有山善一號は僅か六十三分で歸合し、その分速一千九百二十米の驚異的記録を作つたが他は全部當日歸合したもので無く不成績に終つた。

八戸青森間飛翔大會 東北鳩協會主催第五回飛翔大會は五年六月二十二日八戸市三八城公園に於て行はれ吉田八幡署長、泉新太郎、峯本社八戸支局記者の諸氏の立合の下に午前六時五十五

七四二

分速一、三一五 五所川原加賀 谷秀太郎、△一、一六〇 蟹田營林署

第三回 (昭和三年十月二十八日)

分速二、〇一〇 武田小野平次郎、△一、六六五 武田中江貞市、△一、五二八 板柳安田爲藏、△一、三五〇 金木津島英治、△一、二五一 五所川原加賀谷秀太郎、△一、〇七七 青森佐藤勇藏、△一、〇四五 弘前、關源藏、△一、〇四二 喜良市營林署

東北鳩協會役員氏名

顧問八木勇、津島英治、小沼潔、鳴海三郎、太田寅太郎、會長中江貞市、常任幹事關源藏、柿崎勇治、幹事安田爲藏、津島英治、中西恭一郎、佐藤勇藏

分速一、〇九七 金木、津島英治、△一、〇六二 弘前、關源藏、△一、〇三〇 弘前、葛西邦助

第二回(昭和二年十月二日) 分速一、〇九〇 蟹田營林署、△一、〇四七 弘前、關源藏、△一、〇〇〇 五所川原加賀 谷秀太郎、東奥日報社主催 (昭和三年九月十六日)

青森中西鳩會 中西五七號 分速八五〇 軒(備考)八〇〇 軒以下略

競翔記録 昭和五年三月末迄の競翔會記録左の通り。

第一回 (大正十五年十一月二日) 分速一、〇九七 金木、津島英治、△一、〇六二 弘前、關源藏、△一、〇三〇 弘前、葛西邦助

婦人

化粧

皮膚科醫のお話 寒氣の酷しい青森縣の婦人方にとつて、その化粧上、最も注意すべき事柄と、皮膚を害した場合の簡易な治療法について、青森縣立病院皮膚科泌尿器科醫長代理藤井末太郎氏から伺つたお話は次の通りです。

寒地に於ける平素の皮膚手入れ法 寒地に於ては皮膚に分泌せられた汗水又は外部から附着した水分が、寒風に遇つて蒸發する際皮脂が乾燥するために皮膚は荒れ易い。之を防ぐには平素入浴又は水使用後は乾いた「タオル」で皮膚より水分を完全に拭ひ去り、皮膚を直接寒風にふれしめない様にし、皮脂に乏しい人は勿論、多い人でも石鹼を過用して皮脂の缺乏を起さない

婦人——化粧

様に注意し、尙「クリーム」純良な「ワセリン」「ベルツ水」等を常用するのがよい。鮫肌の人を割合多く、かゝる人は加里石鹼を用ひ、ニプロセントの水楊酸ワセリンを毎日一回入浴後塗布するとよい。此他寒冷期に多い「しもやけ」「ひび」「あかぎれ」に就ての注意は次ぎにお話しする。

脂質の皮膚手入れ法 俗に「あぶらぎる」皮膚で肥胖、婦人生殖器障、消化器障に伴ふことがあるから、かゝる際は其方面の治療をうける必要がある。努めて「アルコール」飲料、膏膩、辛、鹽の食料をさけること。化粧料は汗脂を吸収して水分の蒸發を促す効ある粉末料を多く用ひる様にし「クリーム」類はあまり多く用ひぬがよい。浴湯に硫黃劑湯花等を少量に入

れて浴するとよい。

貧血質の人の皮膚手入れ法 前者と同様全身療法に留意し「アルゼンフェラト」ゼ「ヨード」フ「エラト」ゼ 肝油其他の強壯劑を内用する。鹽湯糠浴を行ふ。皮膚「マツサージ」を毎日行ふことは皮下組織を増加し皮膚細胞の内外に組織液の滲潤を盛ならしめる度に或程度まで皮膚に光澤と「ふくらみ」を與へ得るものであるから瘦せた人、皮膚にたるみのある人は毎日入浴後良質の「クリーム」を選んで顔面部手甲等に塗り其上より掌を以て數分間適度の壓力で摩擦することを勵行する。

そばかす(雀斑)の豫防と療法 大抵五六歳より始り思春期に向ひ漸次増加するが、稀に三十歳を越えて始めて著明となるものもある。皮膚細胞内の色素が限局して異常に増加したもので日光殊に其中の紫外線を色素の増殖を促す力ある故發生の虞ある人(直接若くは隔世に遺傳し又家族に數人出来ることの間

面皰(にきび)の豫防と療法 全身状態に注意し胃腸障(胃擴張、胃酸過多、消化不良、常習便秘)婦人生殖器障に伴つて起ること多く殊に常習便秘は最も屢見する故之等のある際は治療をうくべく、一般にアルコール性飲料、辛辣なもの、脂肪に富むもの、不消化物はさければならぬ。局所的豫防法としては顔を清潔に保ち石鹼、化粧料は皮膚刺戟の傾向なきものを選び發生の際は毎日一二回「クンメルフェルド」氏液の塗布と水銀石英燈の照射が最もよい。

汗疹(あせも)の豫防と簡易療法